

# 市民生活意識調査（調査結果概要）

## 1 調査目的

男女共同参画に関する市民の意識や家庭生活や職場の実情などを把握し、「第3次たかまつ男女共同参画プラン（仮称）」策定の基礎データとするとともに、今後の男女共同参画施策推進の参考資料とする。

## 2 調査内容

- (1) 家庭生活・子育て・介護について
- (2) 地域活動への参加・学校教育について
- (3) 結婚・出産について
- (4) 就労について
- (5) ワーク・ライフ・バランスについて
- (6) 男女平等意識について
- (7) 男女間における暴力について
- (8) 男女共同参画社会に関する行政への要望について（ご意見・ご要望）

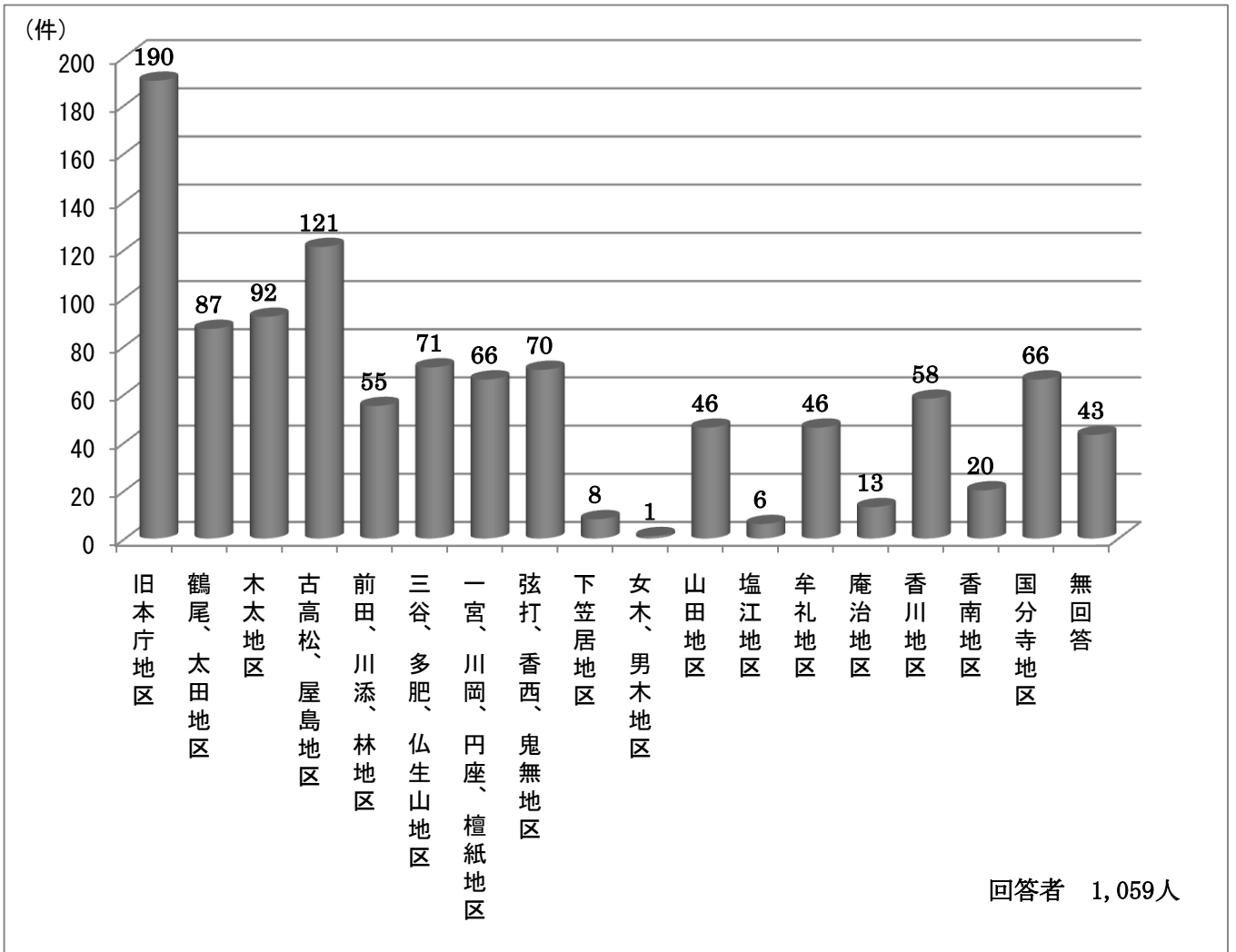
## 3 調査設計

- (1) 調査期間 平成22年8月12日～8月25日
- (2) 調査対象 20歳以上の男女市民3,000人（無作為抽出）
- (3) 調査方法 アンケート方式、郵送法

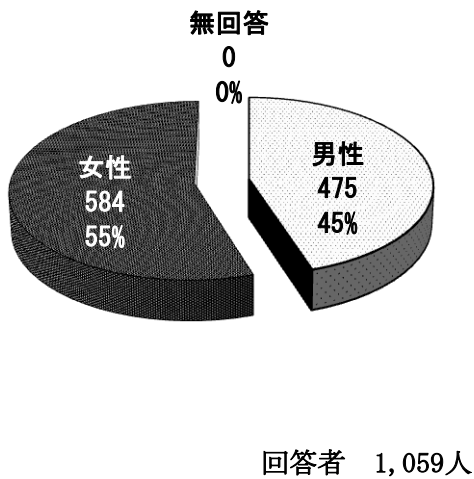
## 4 回収結果

- (1) 回収数 1,059人
- (2) 回収率 35.3%

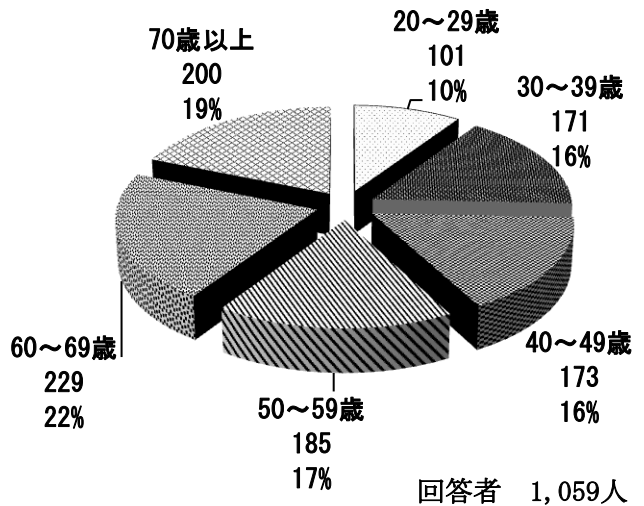
F1 住居地区（あなたがお住まいの住居地区を数字でお答えください）



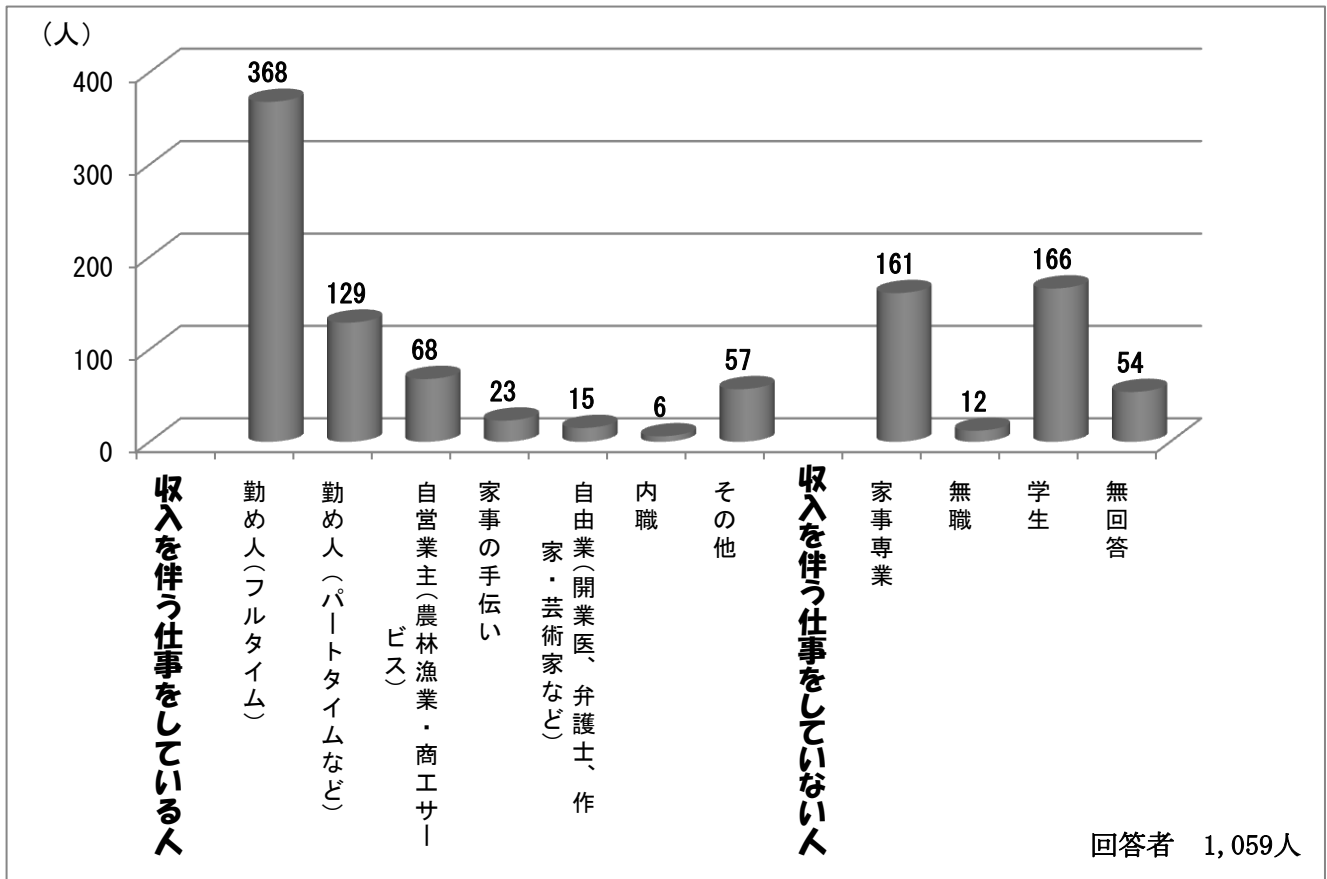
F2 性別



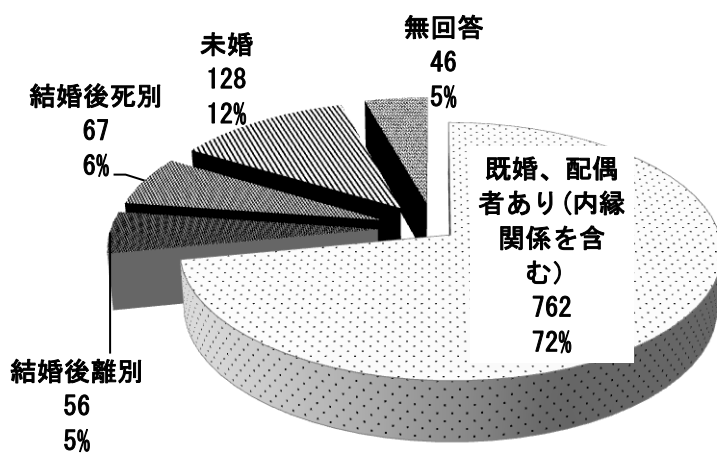
F3 年齢



F 4 主な仕事（収入を伴う仕事をしている人・収入を伴う仕事をしていない人）

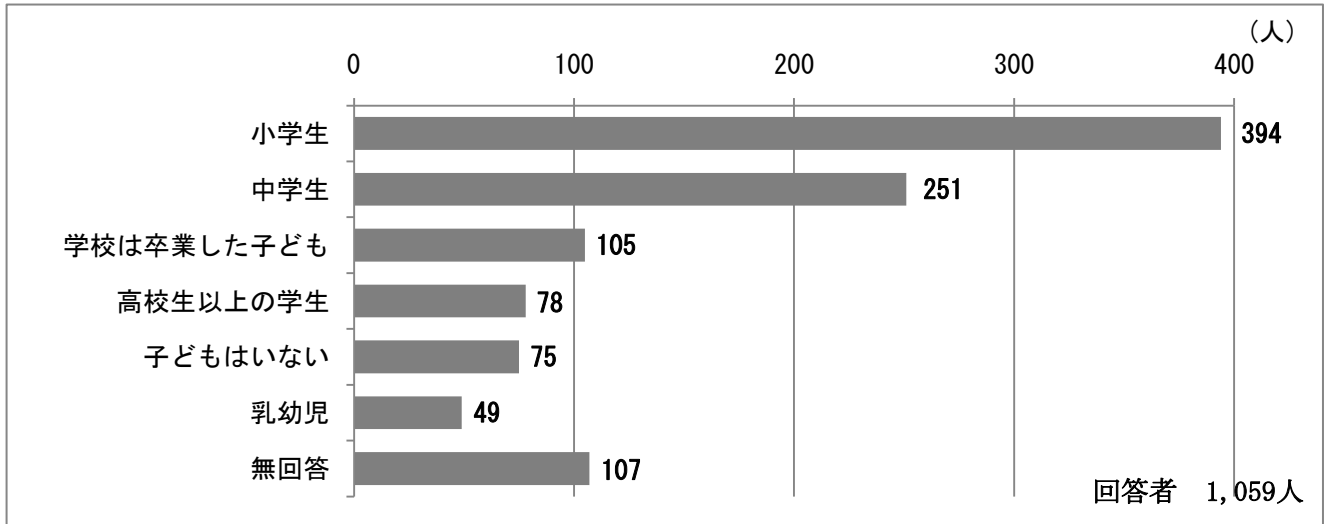


F 5 結婚

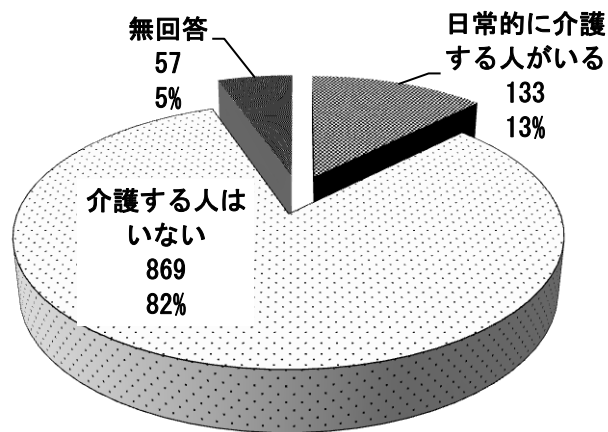


回答者 1,059人

## F 6 子ども

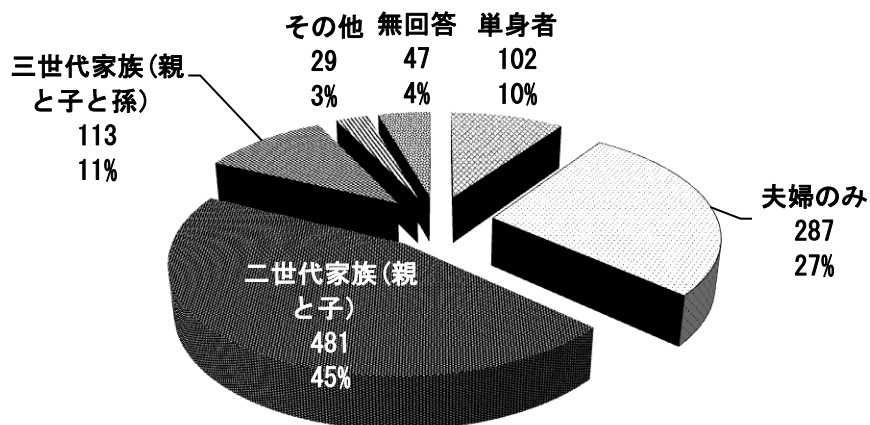


## F 7 介護



回答者 1,059人

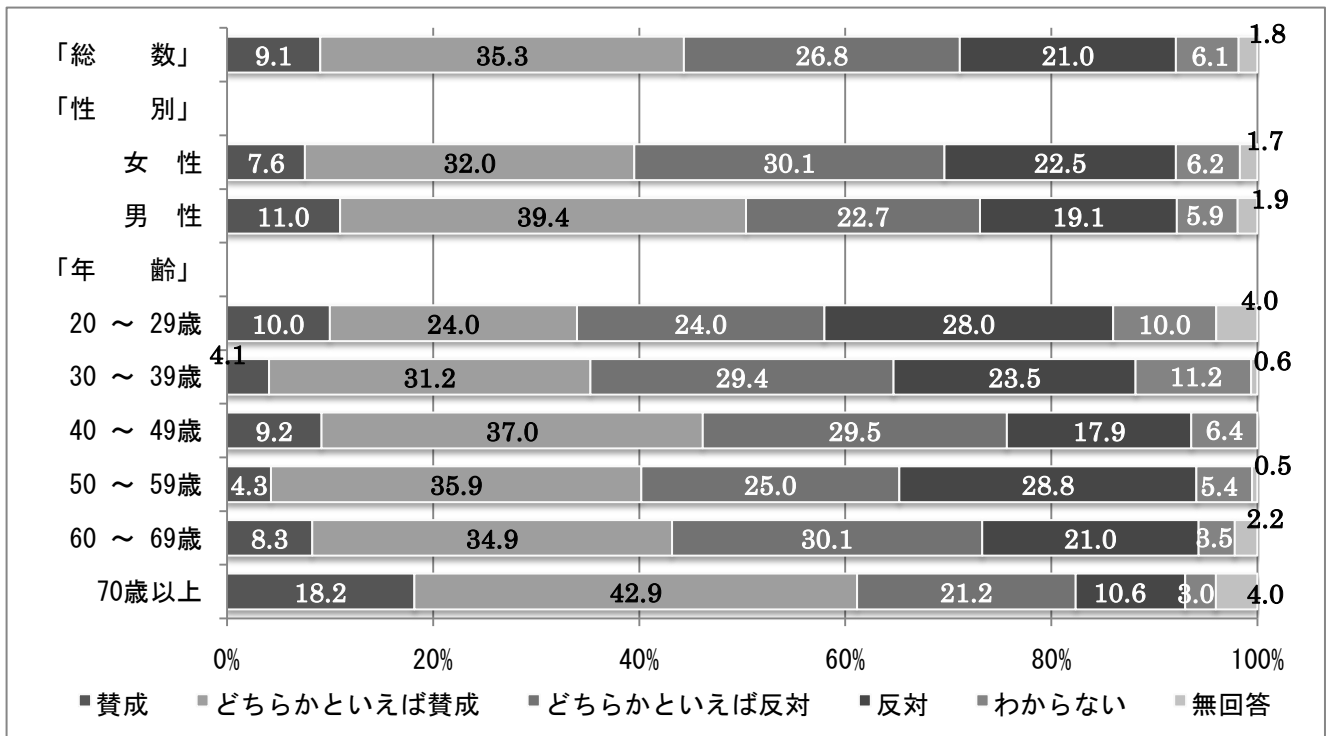
## F 8 家族形態



回答者 1,059人

## 家庭生活・子育て・介護について

問1 「男は仕事、女は家庭」といった考え方がありますが、このことについて、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか。当てはまるものを1つ選んでください。

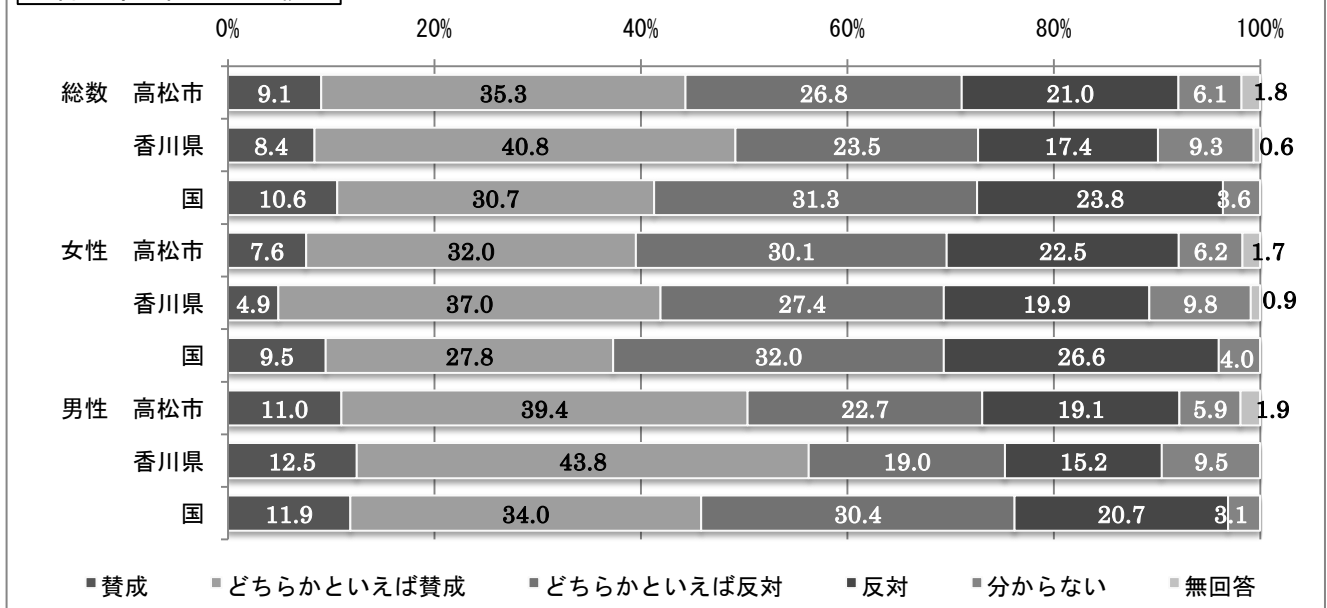


### 【全体】

「男は仕事、女は家庭」といった考え方に、賛成は9.1%であり、どちらかといえば賛成(35.3%)を加えると、全体で44.4%を占める。一方、反対は、21%であり、どちらかといえば反対(26.8%)を加えると、全体で47.8%となることから、反対側がやや多いものの、賛成側と反対側は拮抗していることが分かる。

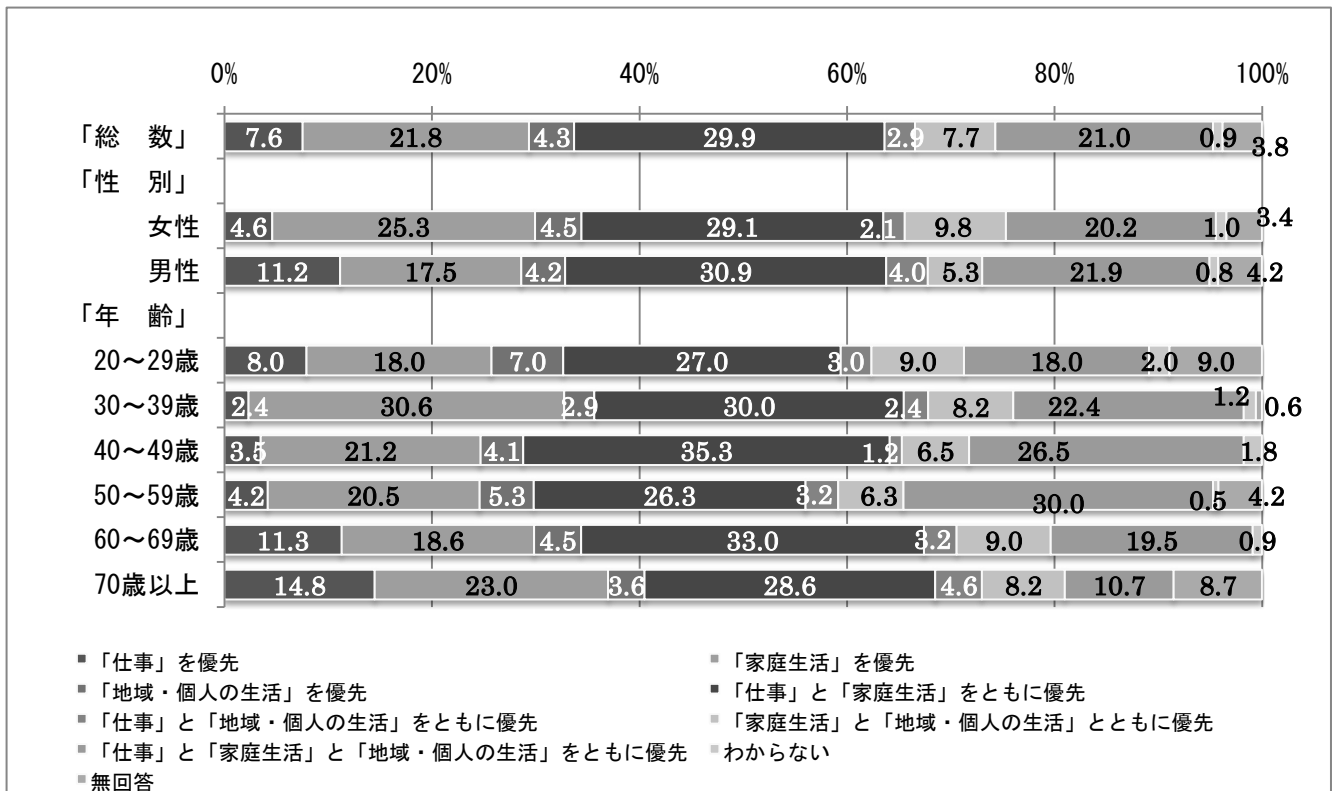
また、性別ごとでは、男性の50.4%が賛成側、41.8%が反対側であり、女性の52.6%が反対側、39.6%が賛成側となっている。さらに、年齢別では、20～69歳までは、反対側の人が多いものの、70歳以上の高齢者では、賛成側の人が多い。

### 香川県・国との比較

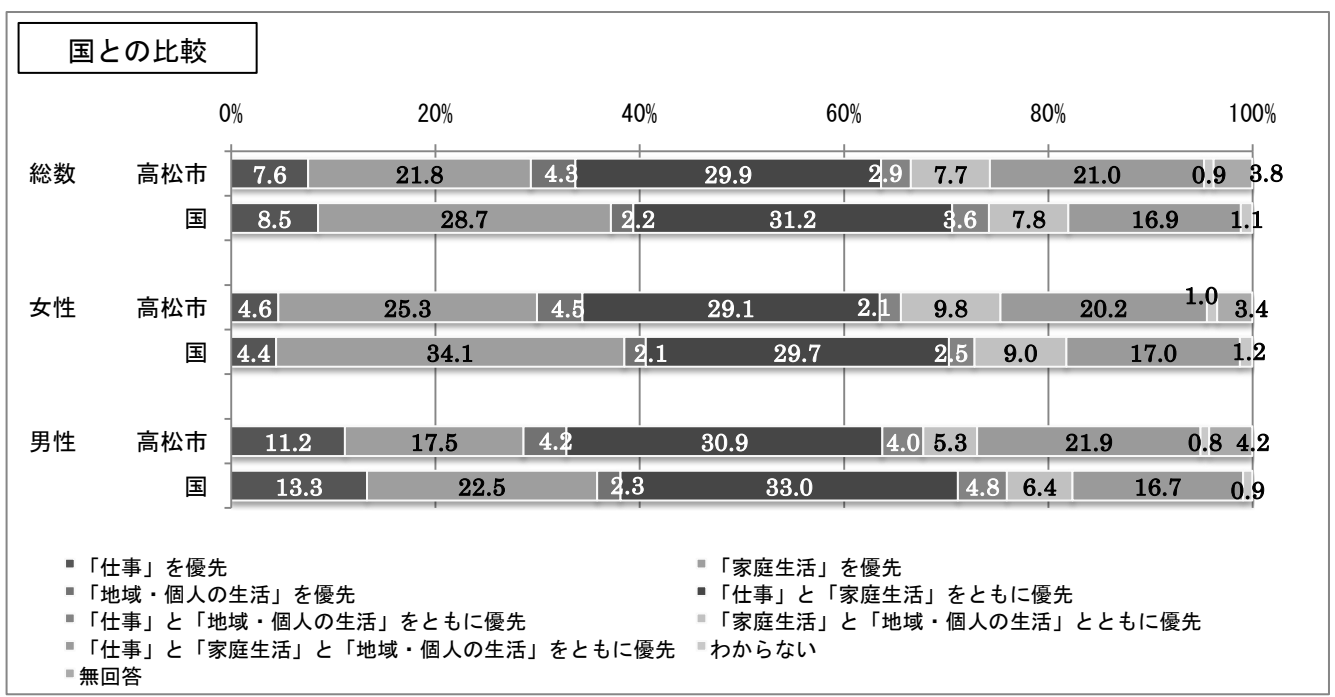


問2 あなたの「希望に最も近いもの」と、「現実（現状）に最も近いもの」はどれですか？  
それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。

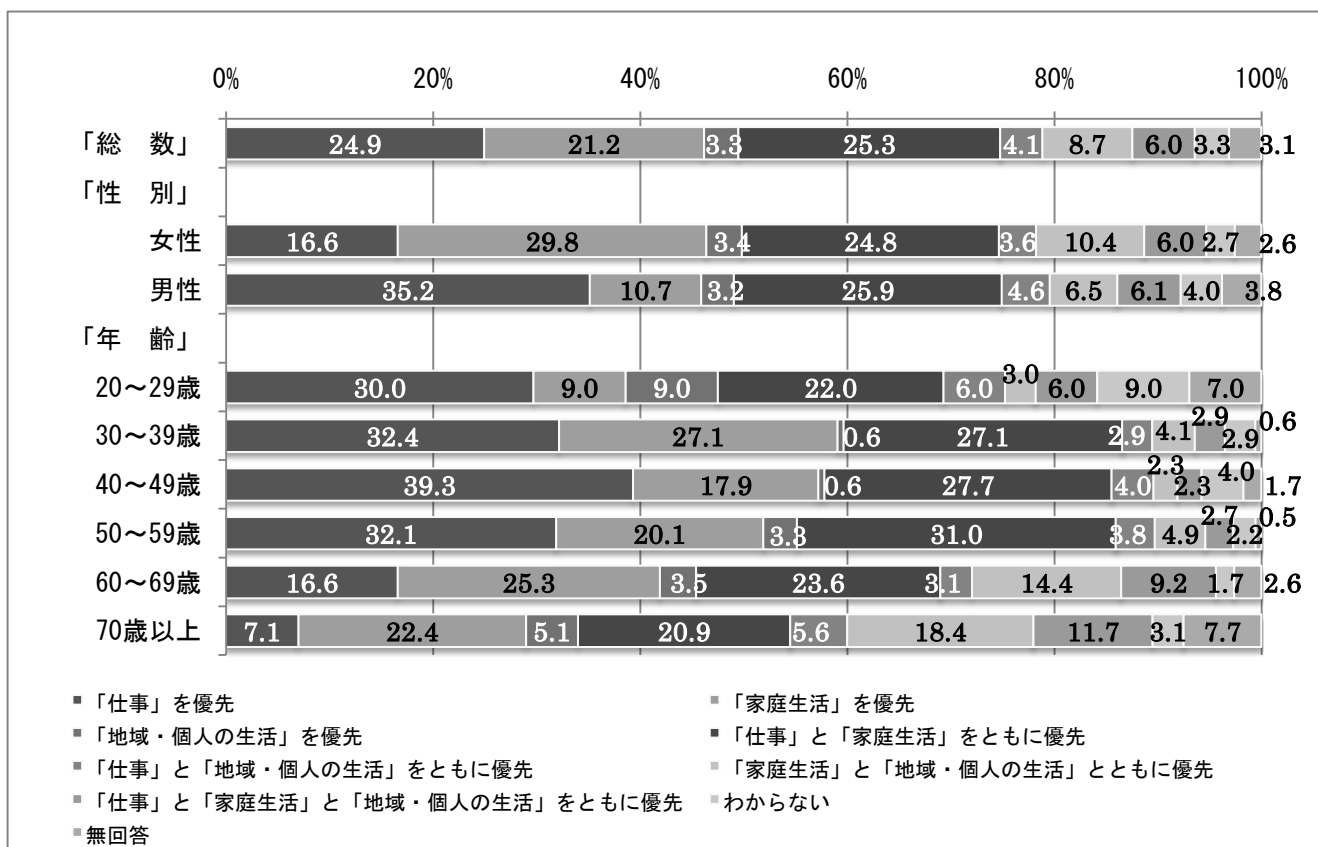
(1) あなたの希望に最も近いもの（優先したい）



**【全体】**  
希望に最も近いもののうち、回答が多かったのは、仕事と家庭生活をともに優先（29.9%）と、家庭生活を優先（21.8%）と、仕事と家庭生活と地域・個人の生活（21%）であり、全体で72.7%を占める。  
また、仕事を優先させたい人は、女性（4.6%）よりも男性（11.2%）が約2倍多く、20～29歳までの若者と60歳以上の高齢者に多いことが分かる。



(2) あなたの現実に最も近いもの（優先している）

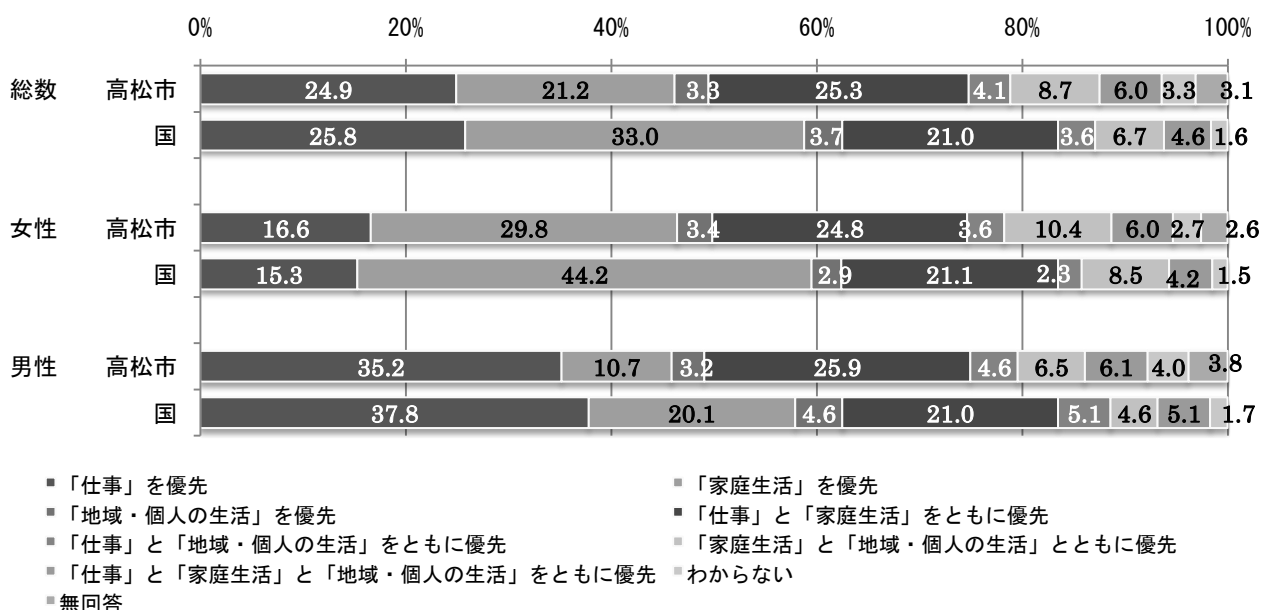


【全体】

現実に最も近いもののうち、回答が多かったのは、仕事と家庭生活をともに優先（25.3%）と、仕事を優先（24.9%）と、家庭生活を優先（21.2%）である。希望と現実とで最も違いがあったのは、仕事を優先していると回答した人であり、その差は17.3%もあった。

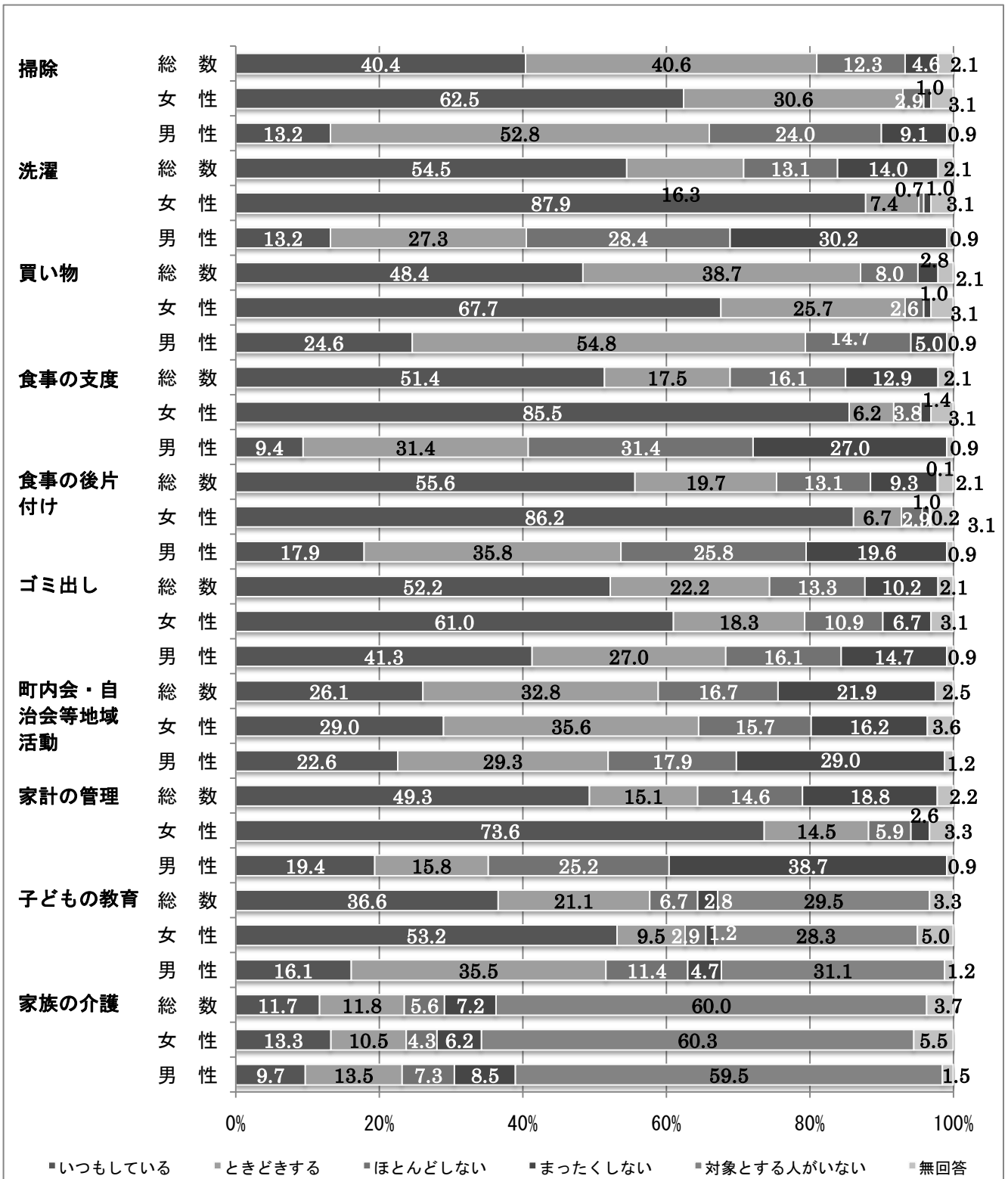
また、仕事を優先している人は、女性（16.6%）よりも男性（35.2%）が約2倍多く、特に働き盛りの40～49歳の年齢階層では全体の4割近くを占めている。

国との比較



〔 ご結婚されている方（内縁を含む）のみにお伺いします。その他の方は、問4へお進みください。〕

問3 あなたは、家庭において、次の家事等をどの程度行っていますか。それぞれについて当てはまる数字を1つ選んでください。



【全体】

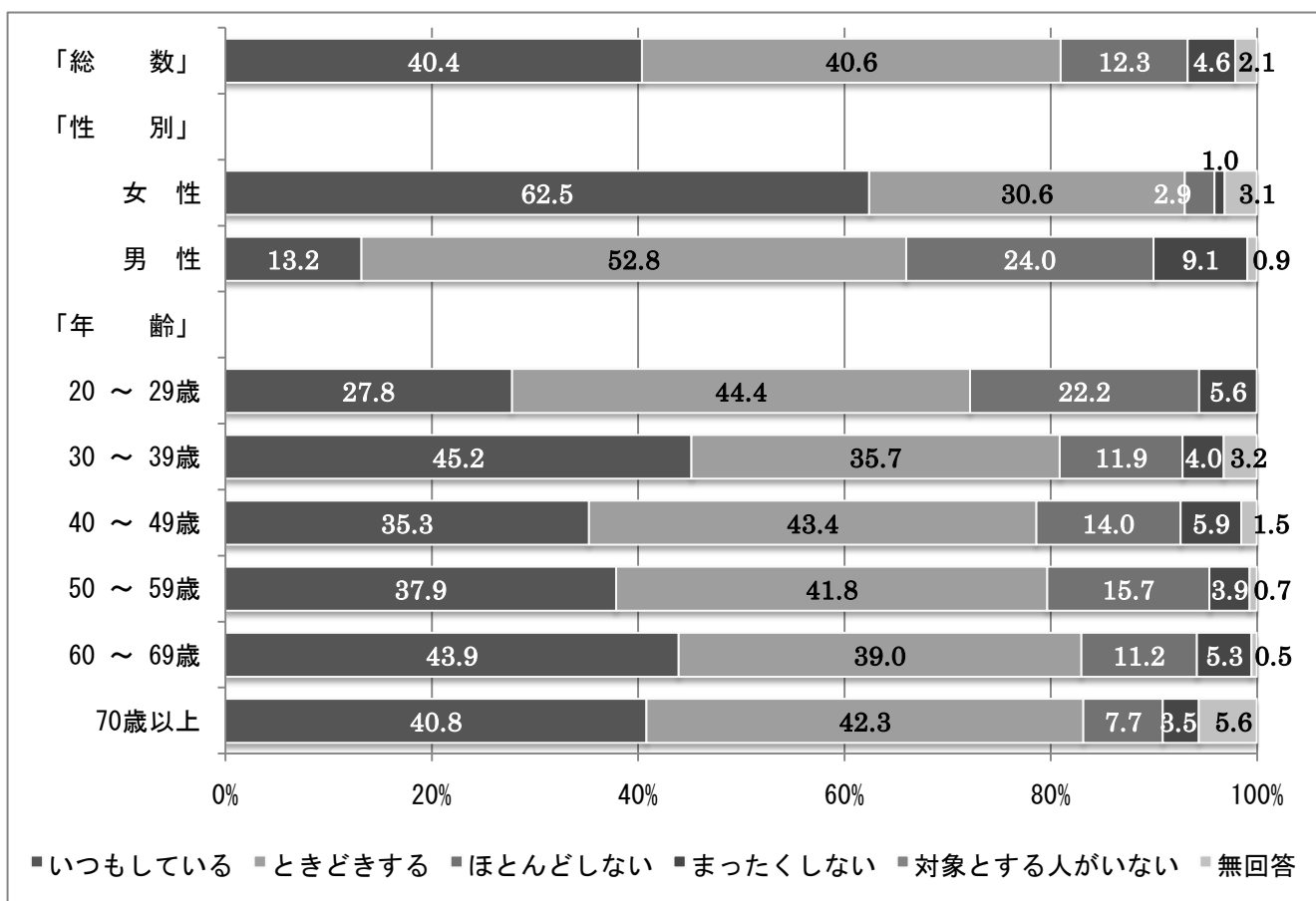
家事等に関して、「洗濯」、「食事の支度」、「食事の後片付け」では、女性の割合が80%を超えており、女性の家事等への負担割合が高いことが分かる。

また、前回調査と比較して、男性の割合がやや増加しているのは、「買い物」、「子どもの教育」、「家族の介護」である。

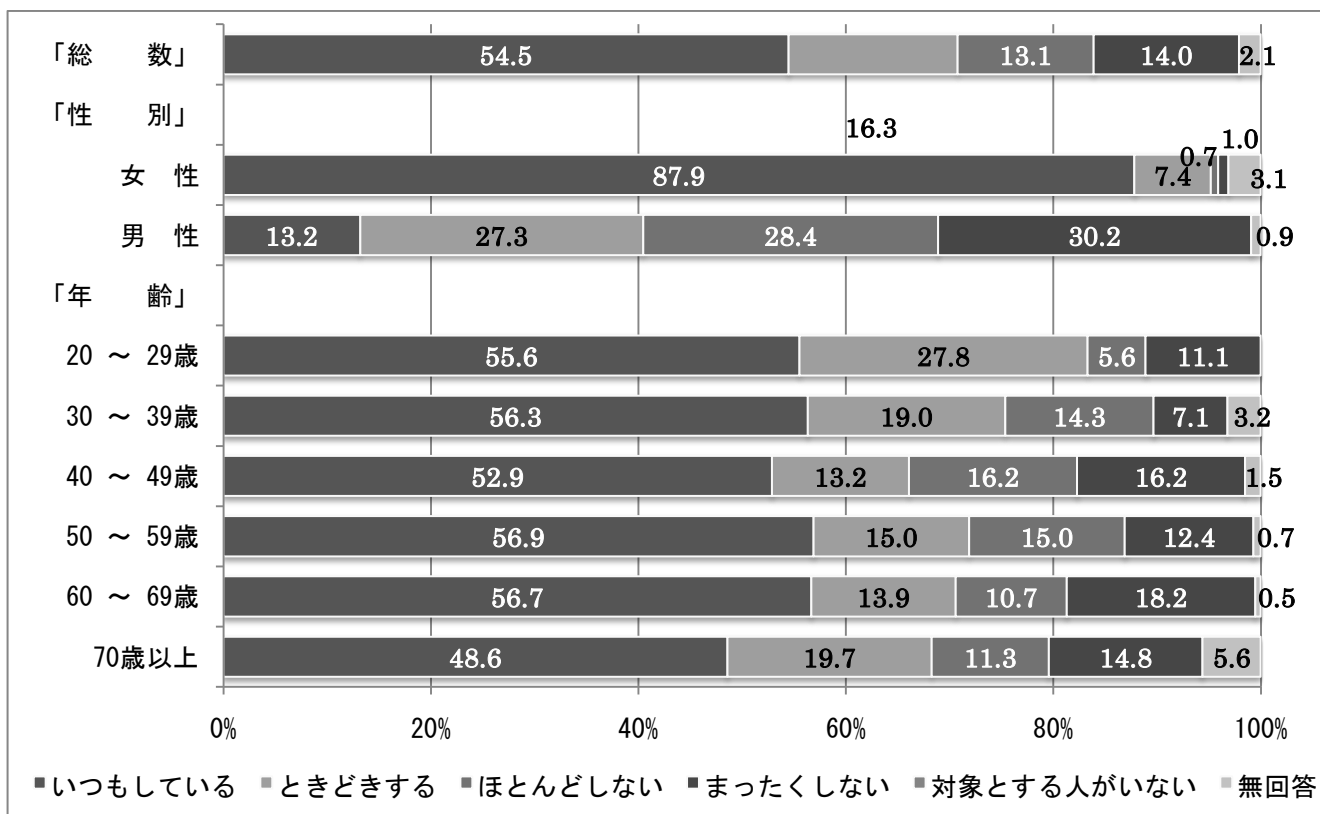
このような結果を踏まえて、固定的性別役割分担意識にとらわれることなく、男性の家事等への参加を促すような取組をさらに推進していく必要がある。



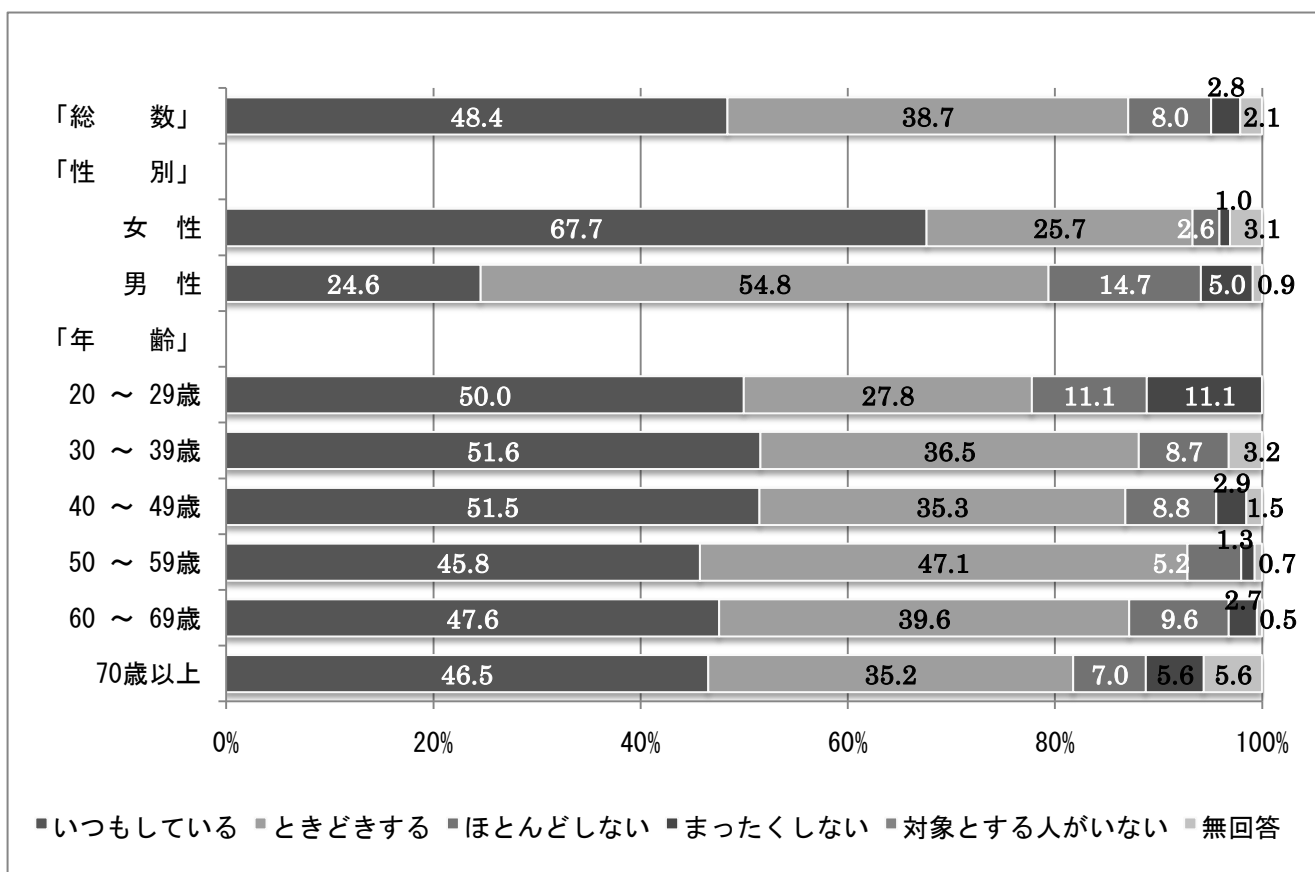
(1) 掃除



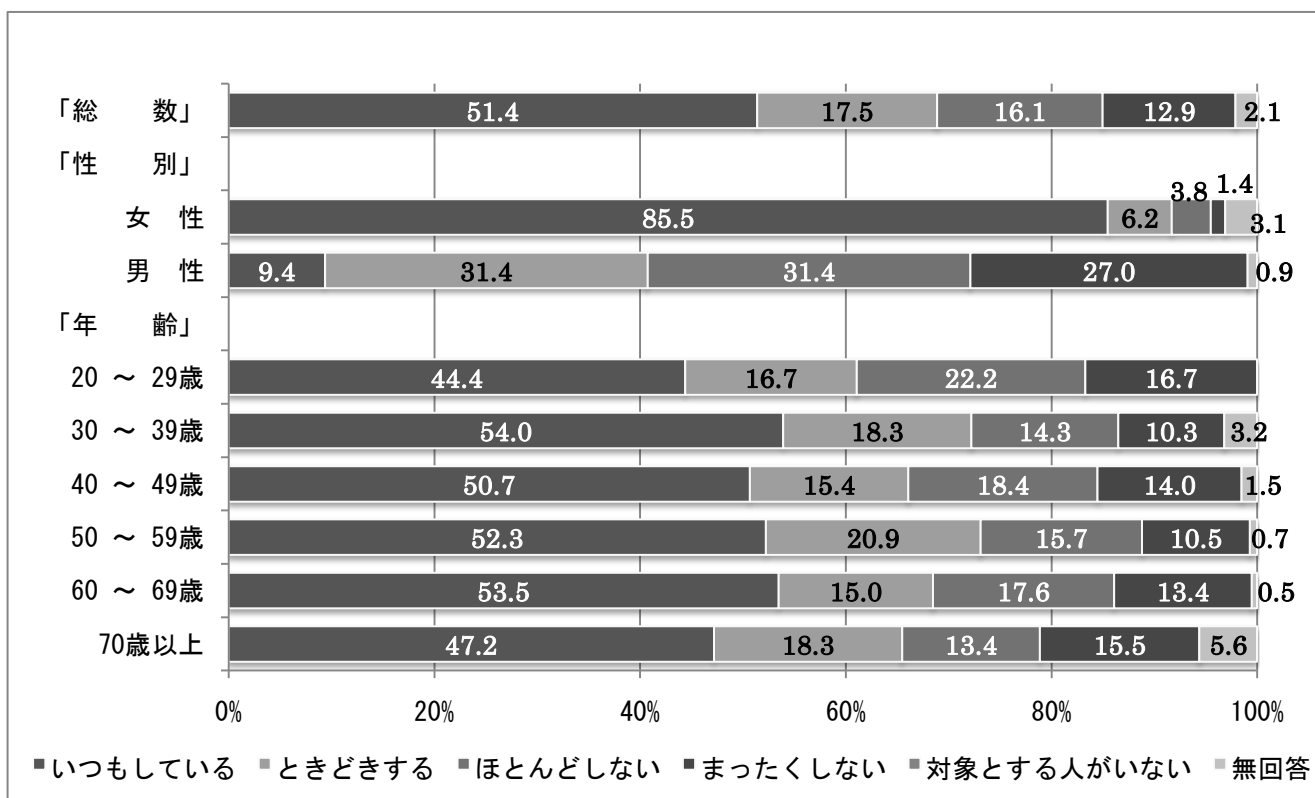
(2) 洗濯



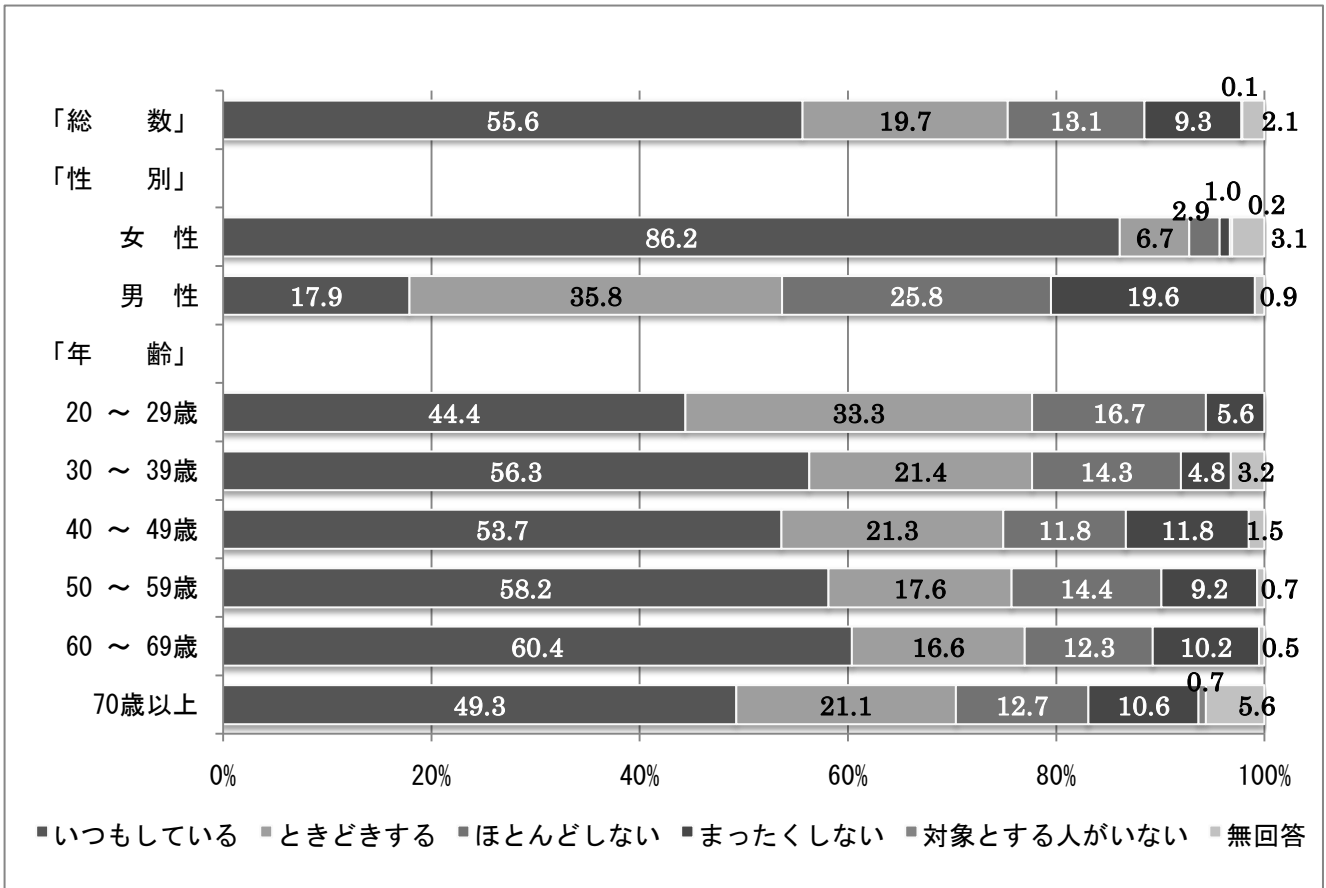
### (3) 買い物（日用品）



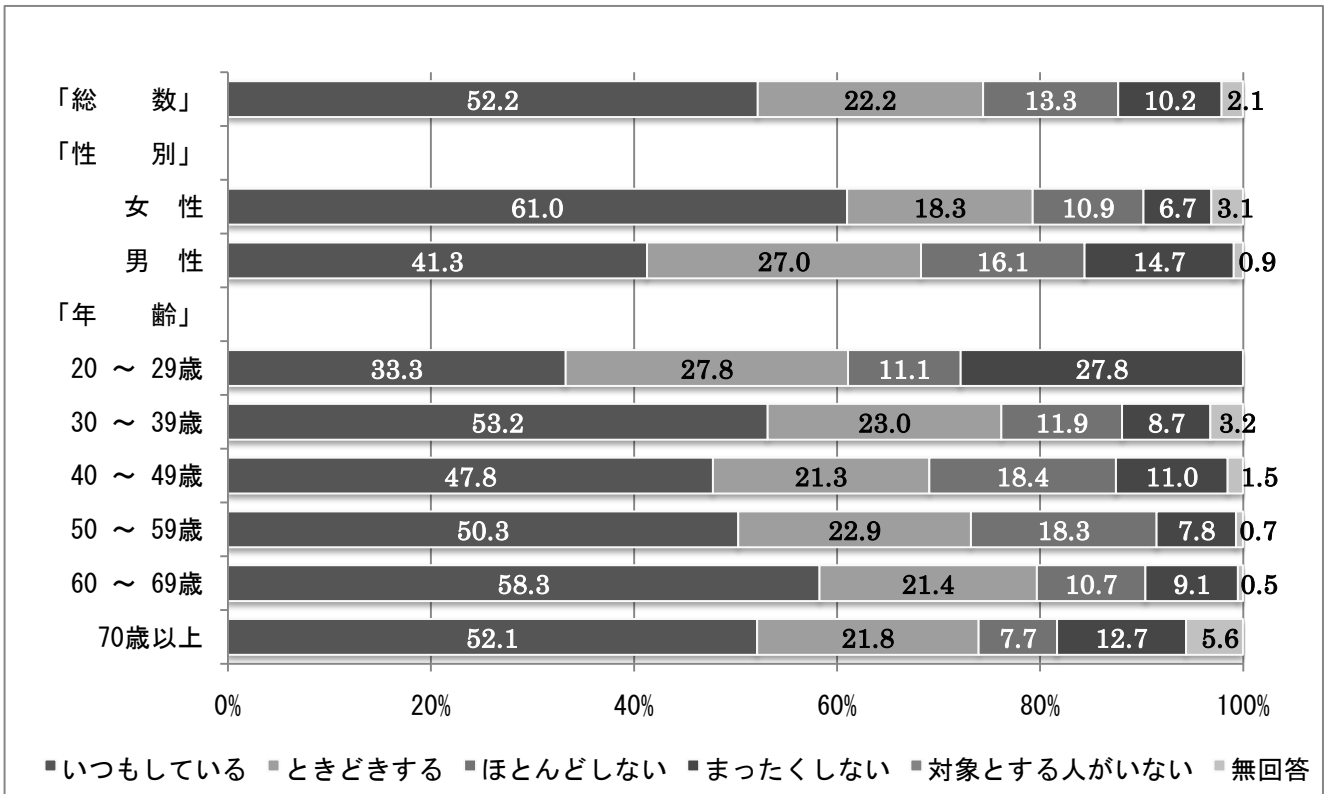
### (4) 食事の支度



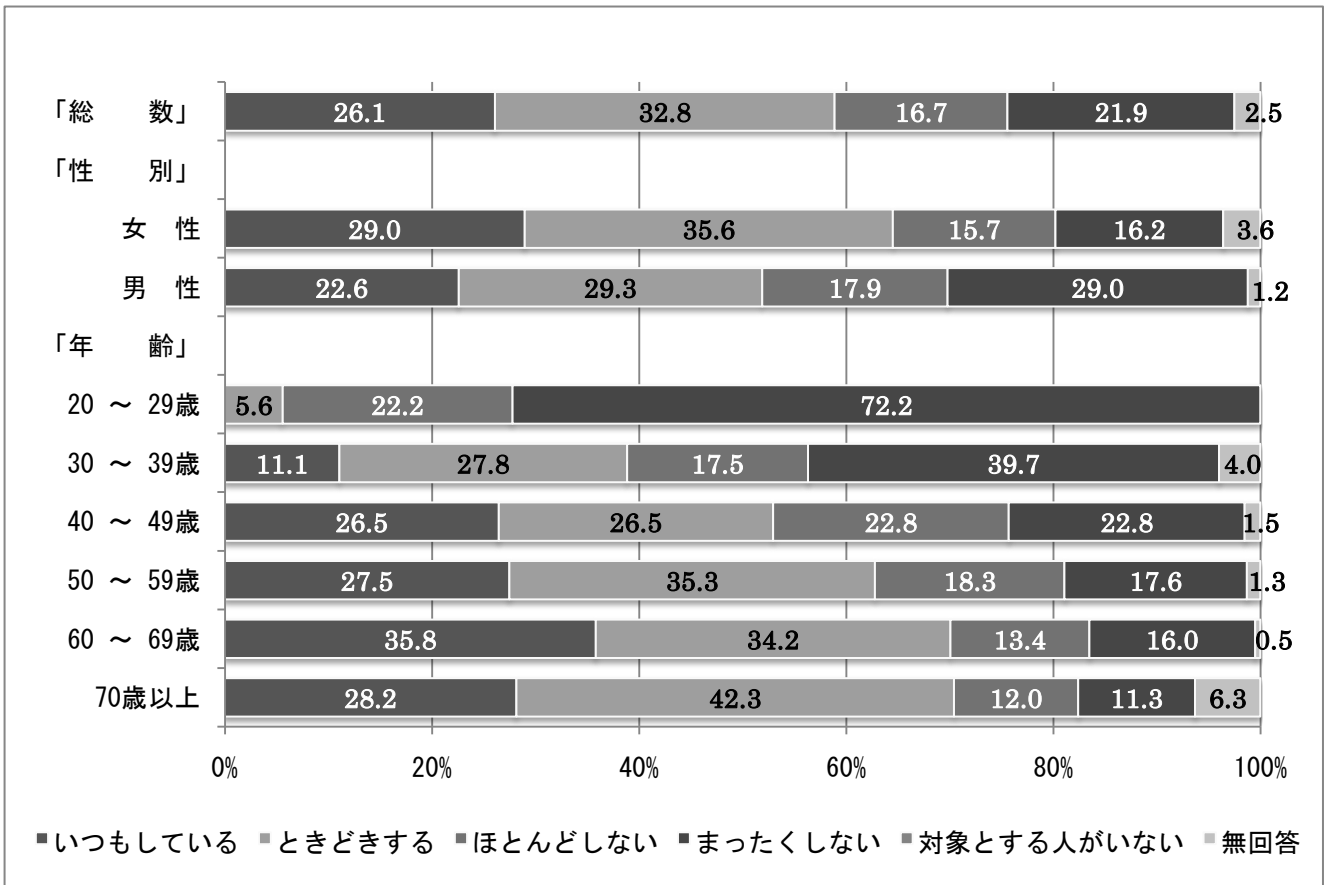
(5) 食事の後かたづけ



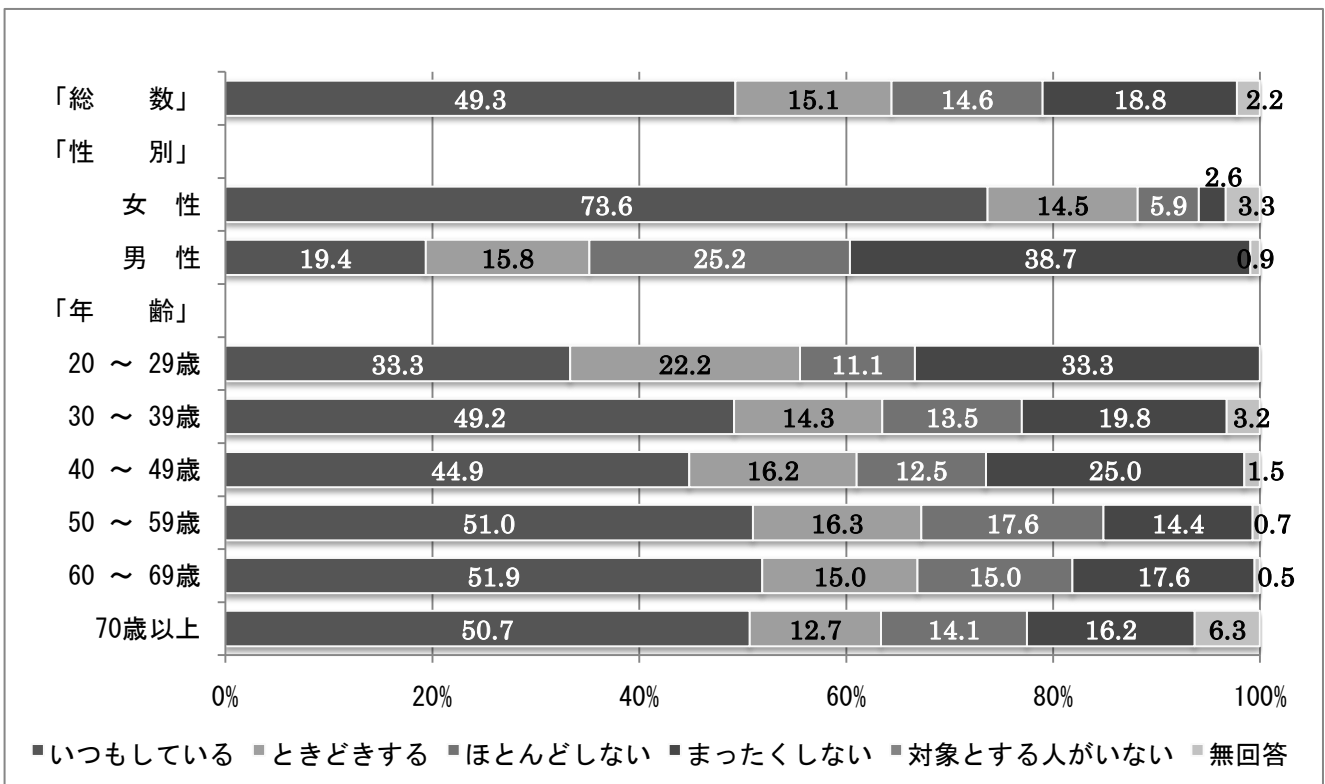
(6) ゴミ出し



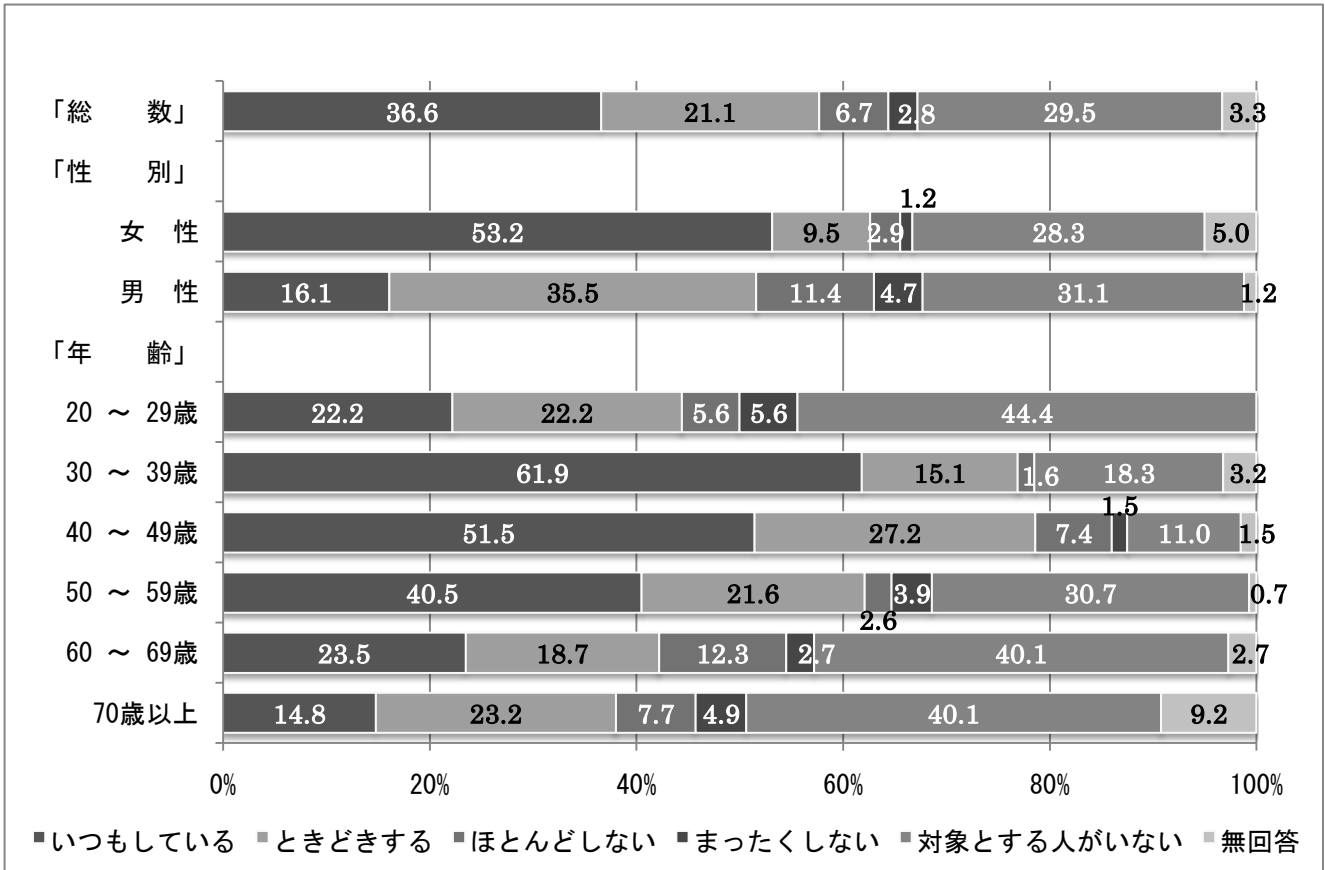
(7) 町内会・自治会等地域活動



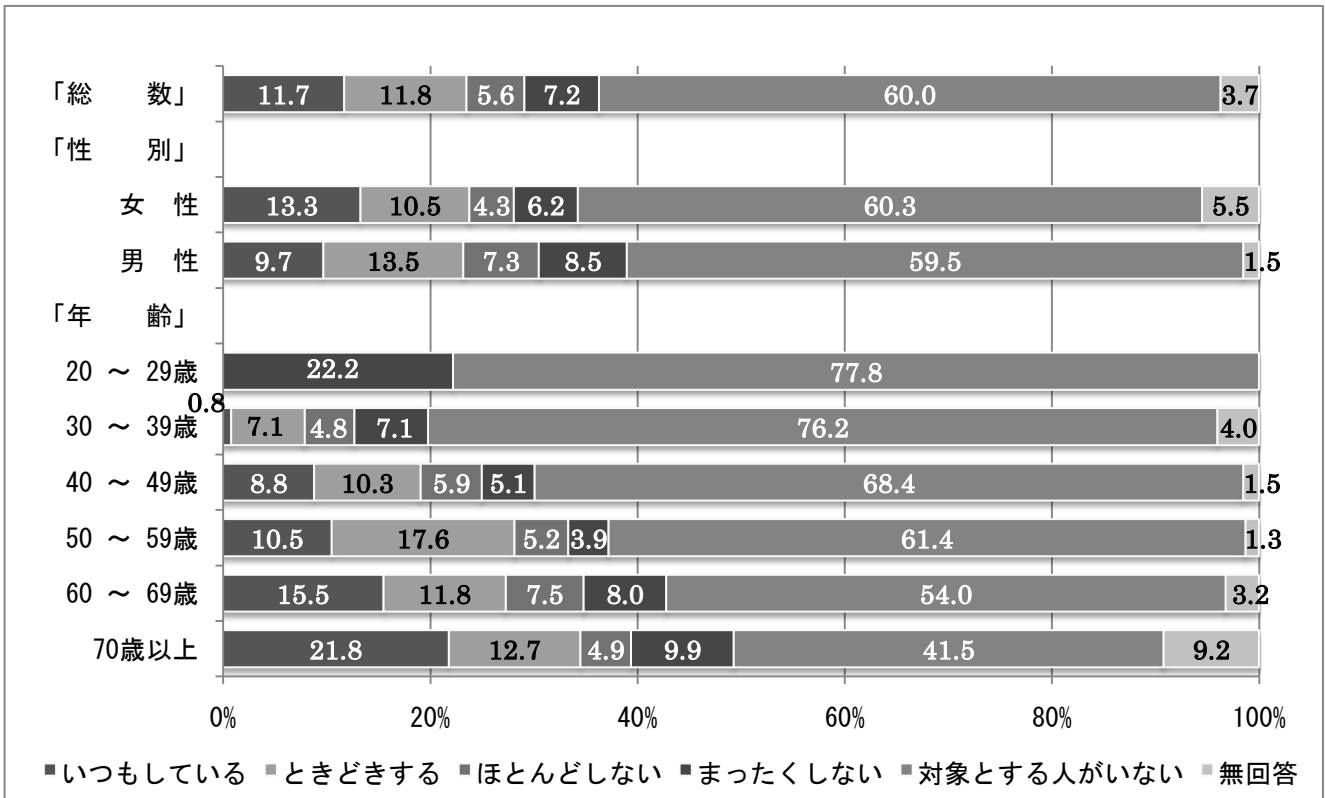
(8) 家計の管理



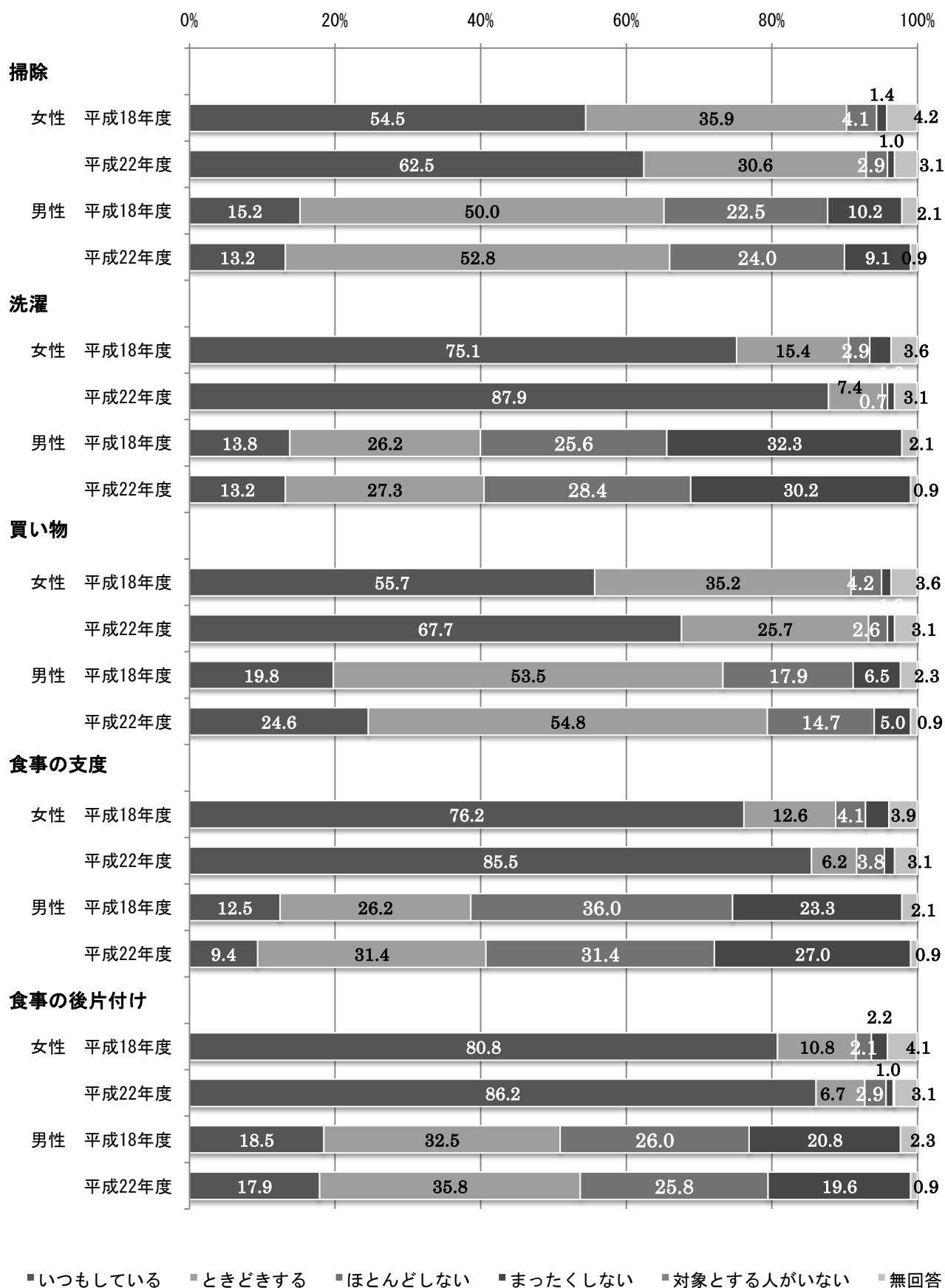
(9) 子どもの世話・しつけ・教育



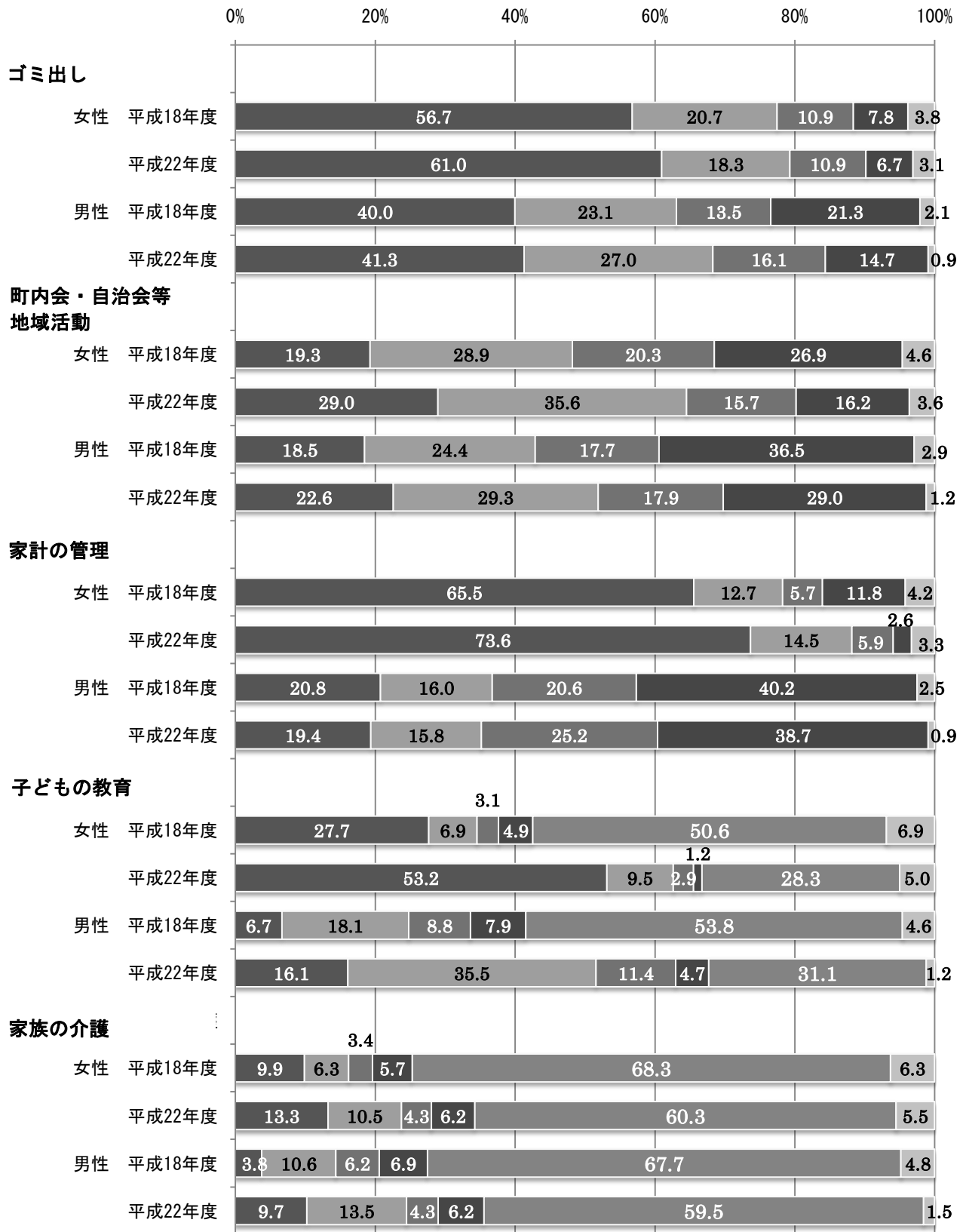
(10) 家族の介護



前回調査（平成18年度）との比較

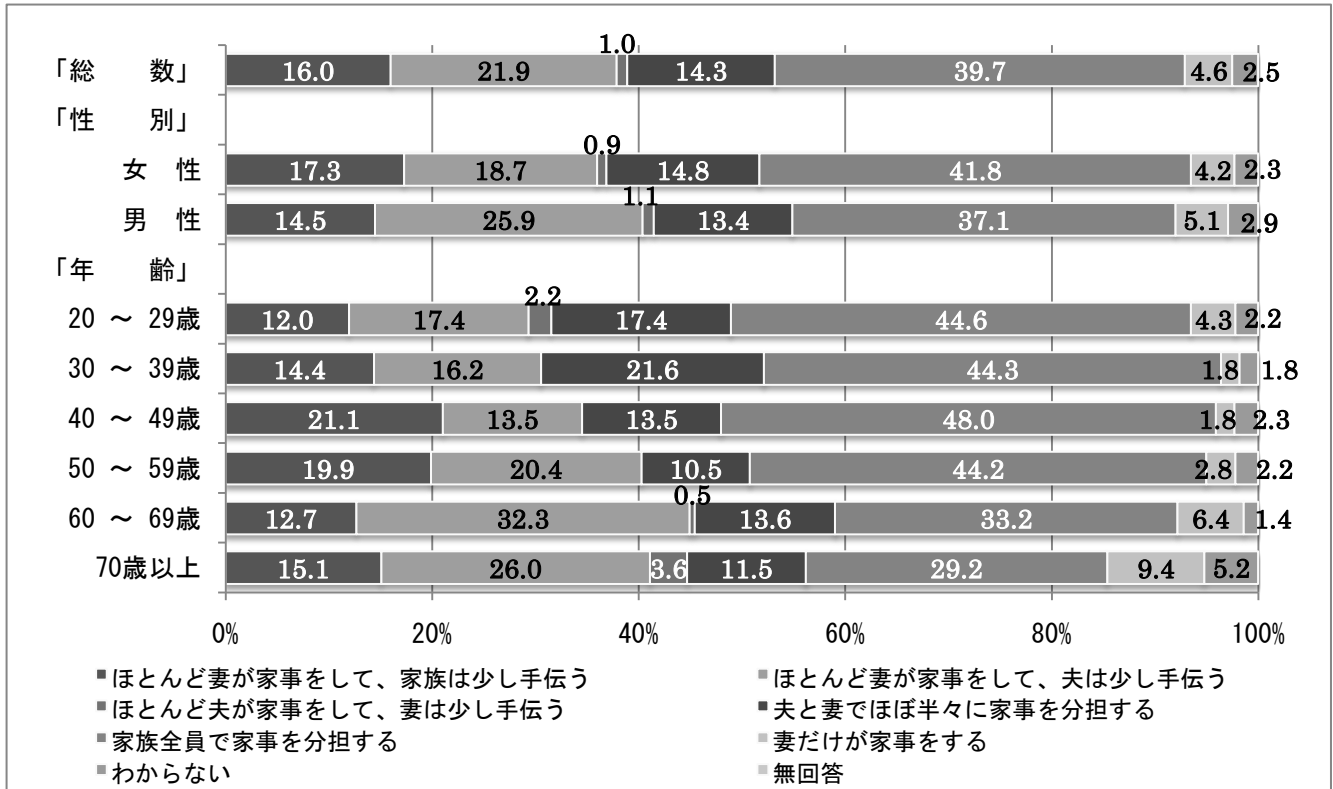


前回調査（平成18年度）との比較

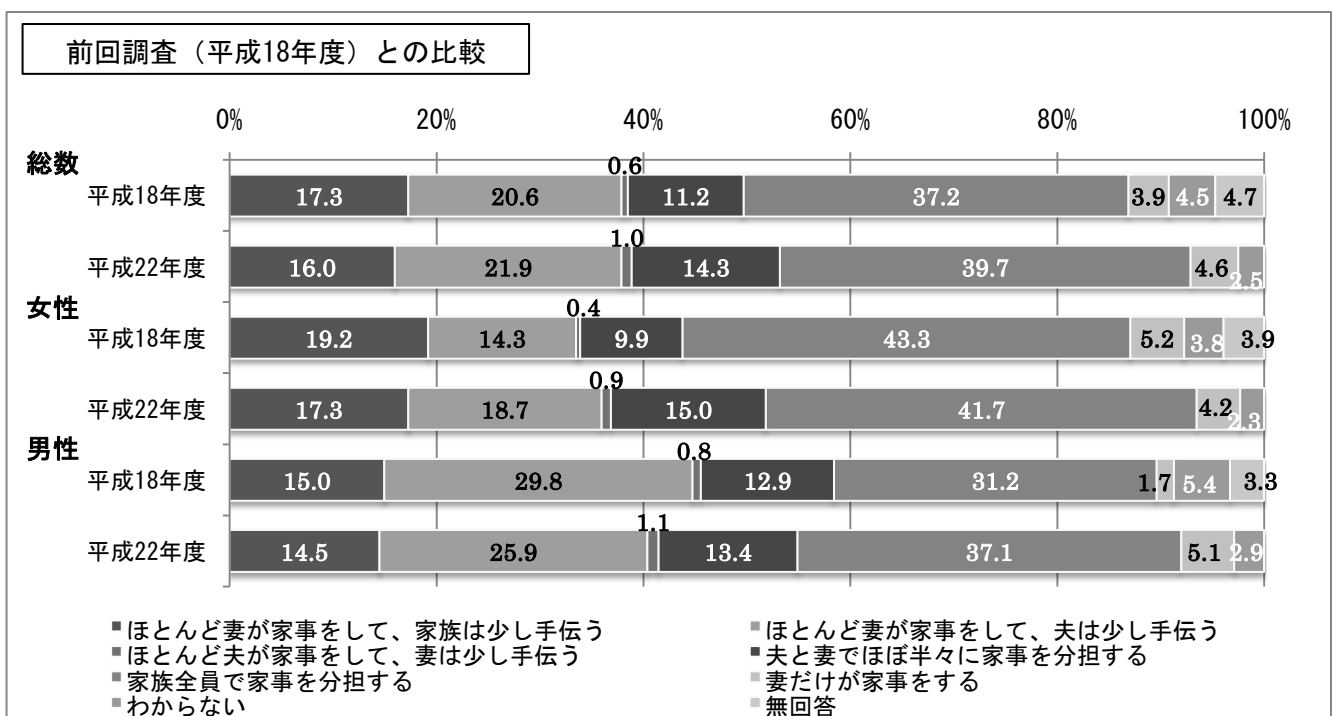


■いつもしている ■ときどきする ■ほとんどしない ■まったくしない ■対象とする人がいない ■無回答

問4 あなたは、家事(育児・介護を含む)について、どのように分担すべきだと思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。

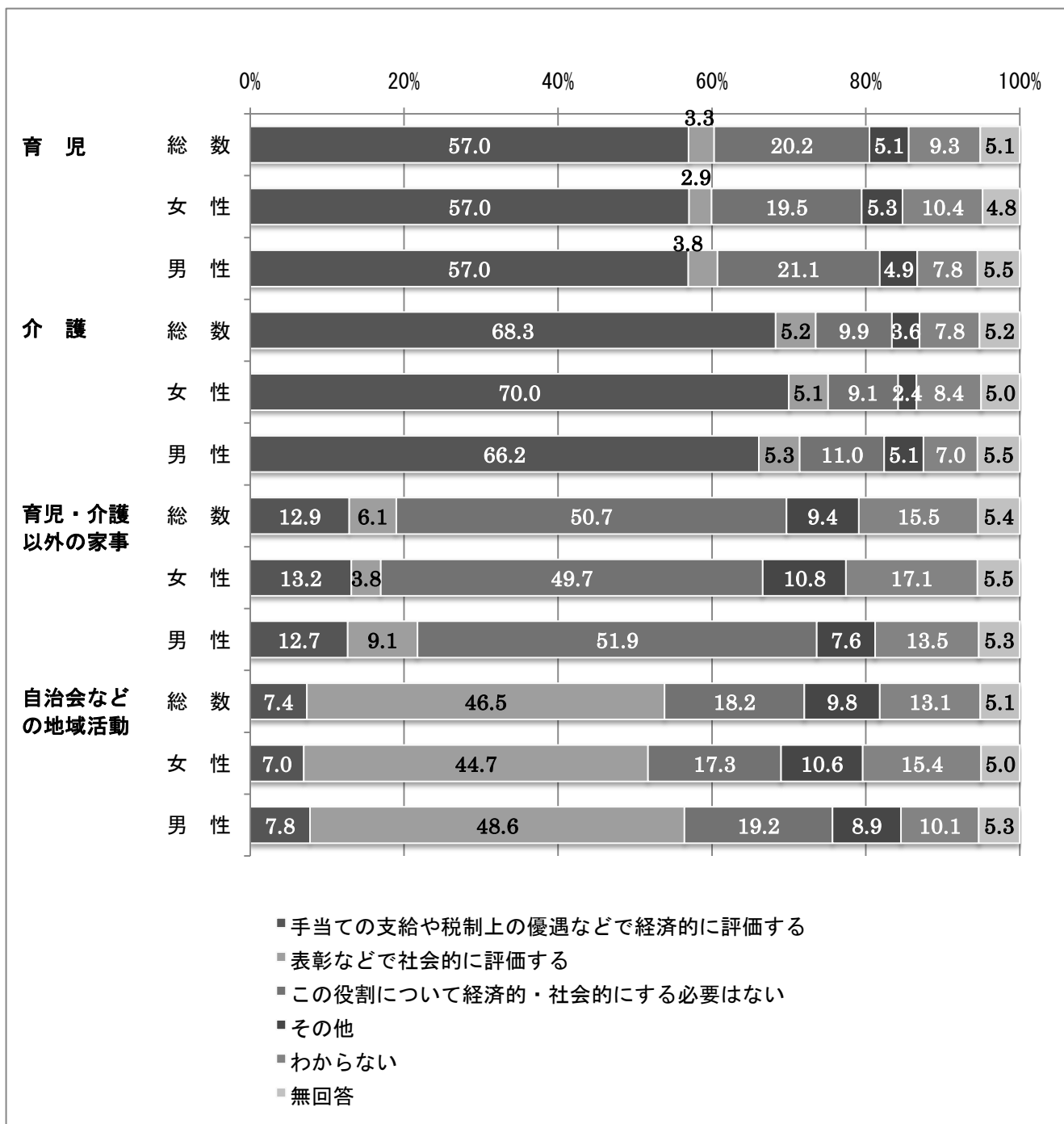


【全体】  
 家事の分担のうち、回答が多かったのは、家族全員で家事を分担する（39.7%）と、ほとんど妻が家事をして夫は少し手伝う（21.9%）と、ほとんど妻が家事をして家族は少し手伝う（16%）である。  
 また、前回調査と比較して、「家族全員で家事を分担する」は、2.5%多くなっており、全体の約4割を占めていることから、家族で助け合っていることが分かる。





問5 「育児、介護などの家庭で担われている役割は社会的にも重要であるため、社会全体で評価していこう」という考え方がありますが、あなたは具体的にどのような形で評価することが必要だと思いますか。次のそれぞれについて当てはまる数字を選んでください。

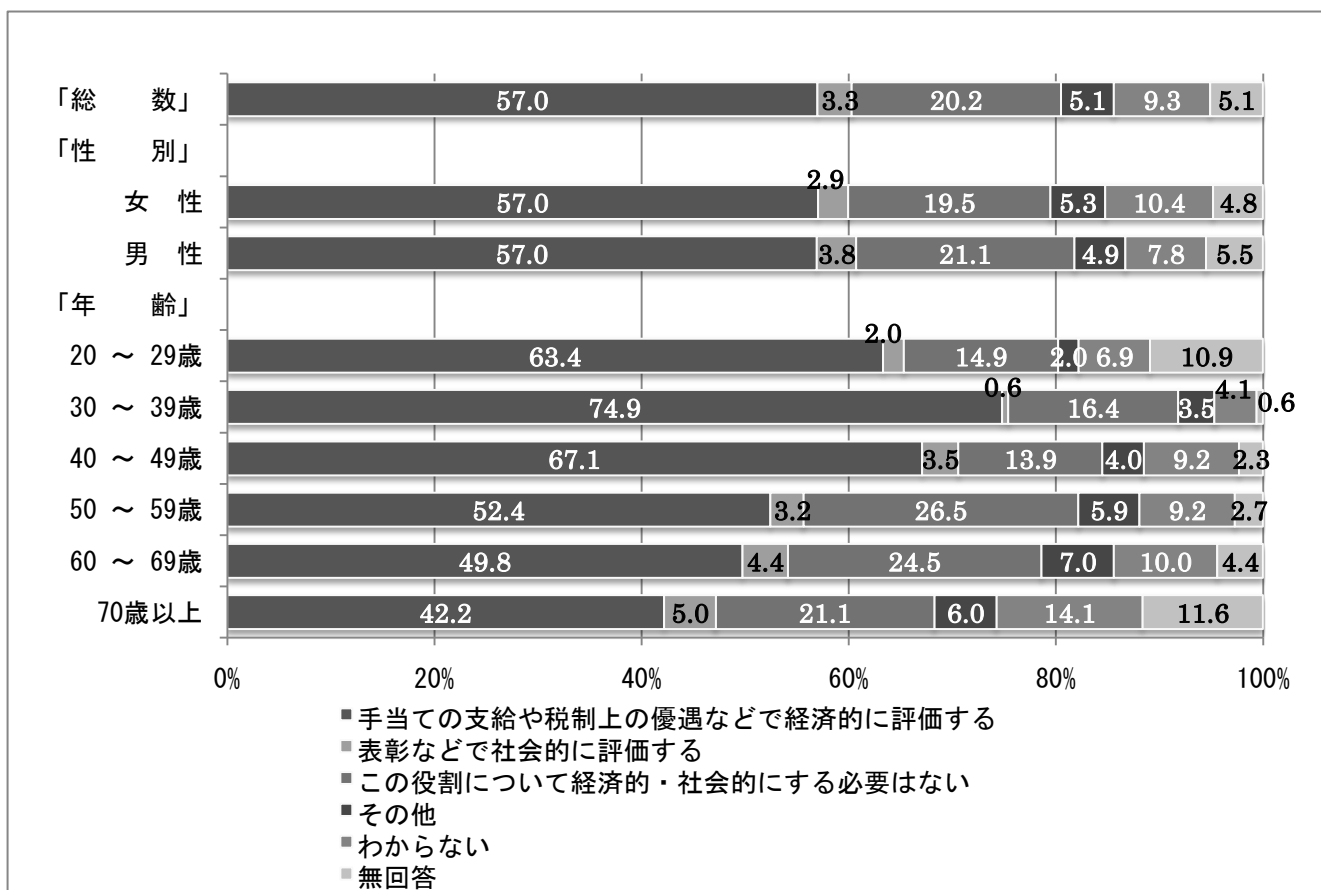


【全体】

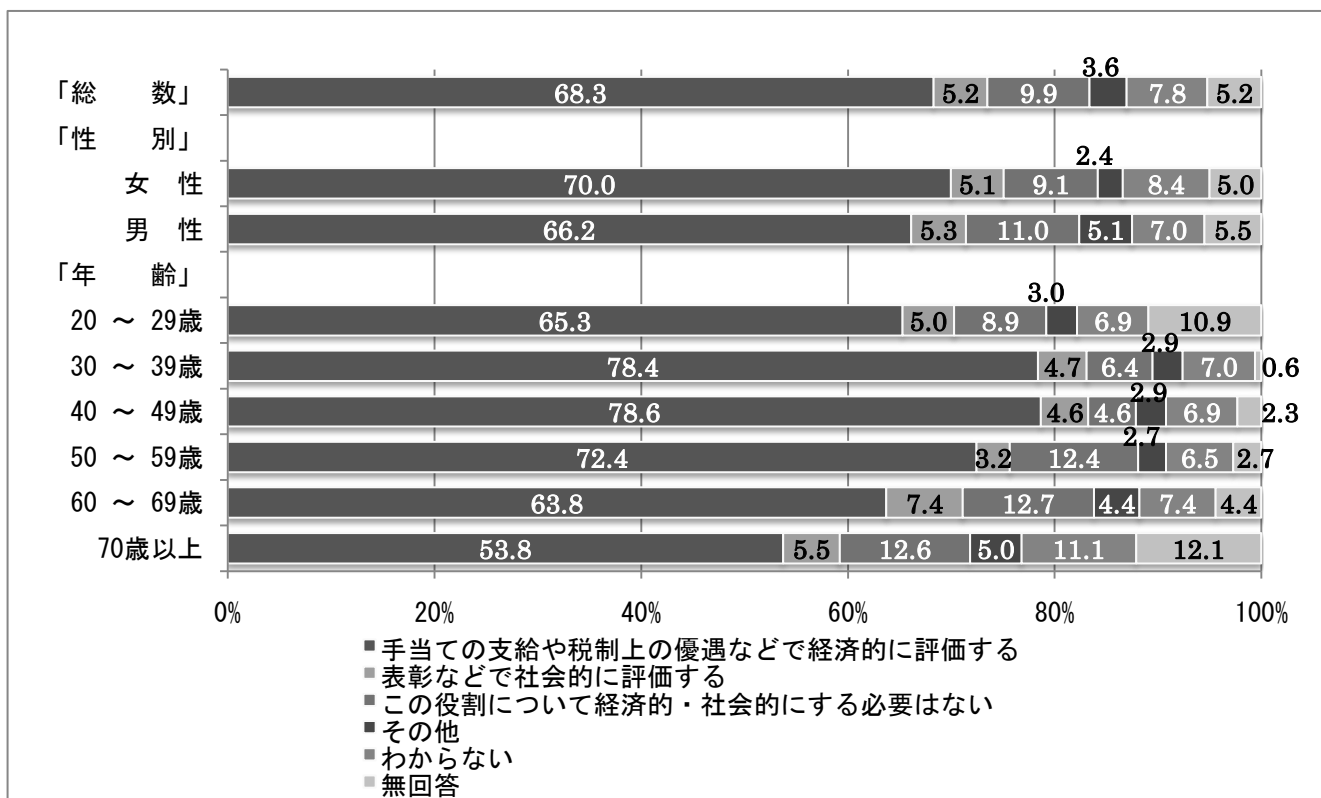
評価すべき事柄のうち、育児と介護に関して、最も回答が多かったのは、手当での支給や税制上の優遇などで経済的に評価する（育児57%）（介護68.3%）である。

また、自治会などの地域活動に関して、最も回答が多かったのは、表彰などで社会的に評価する（46.5%）である。

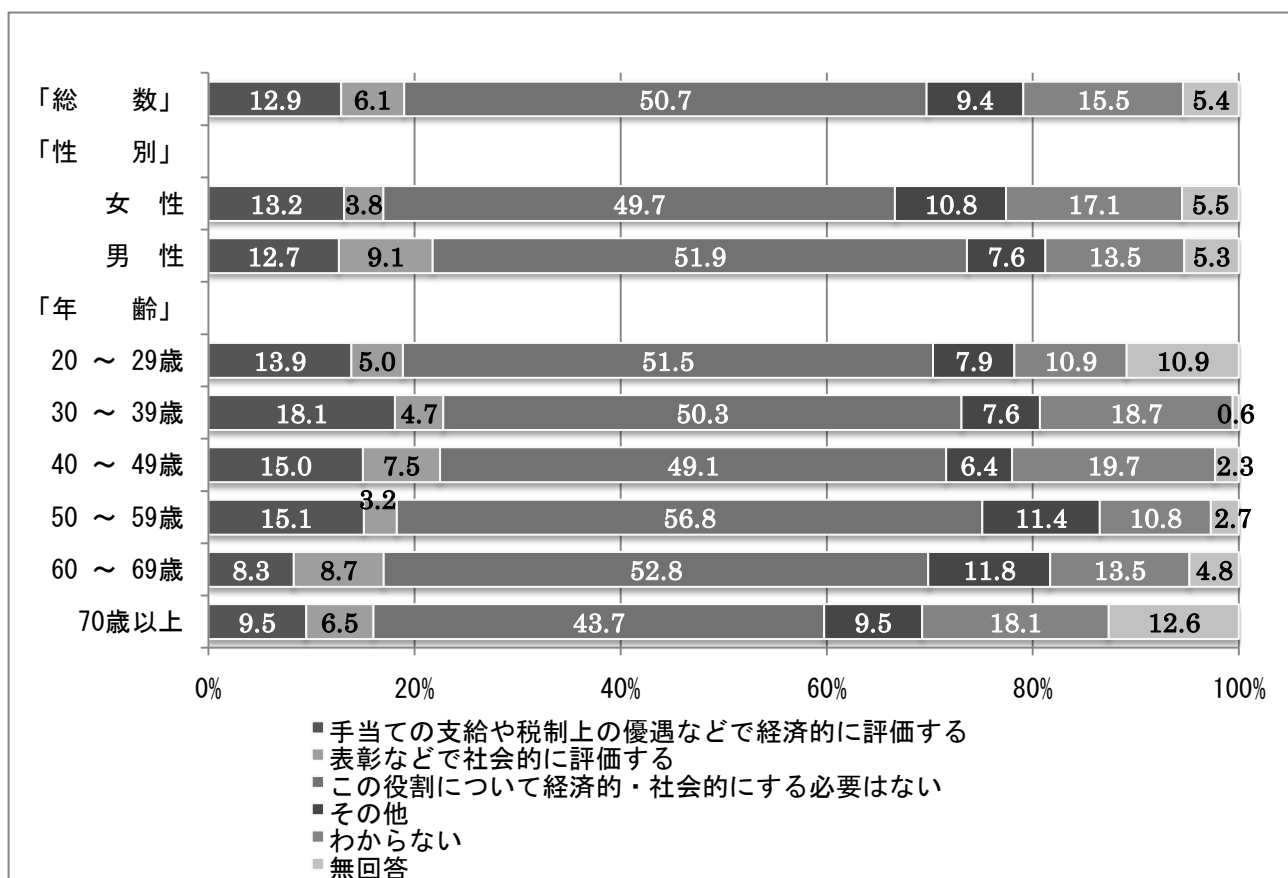
(1) 育児



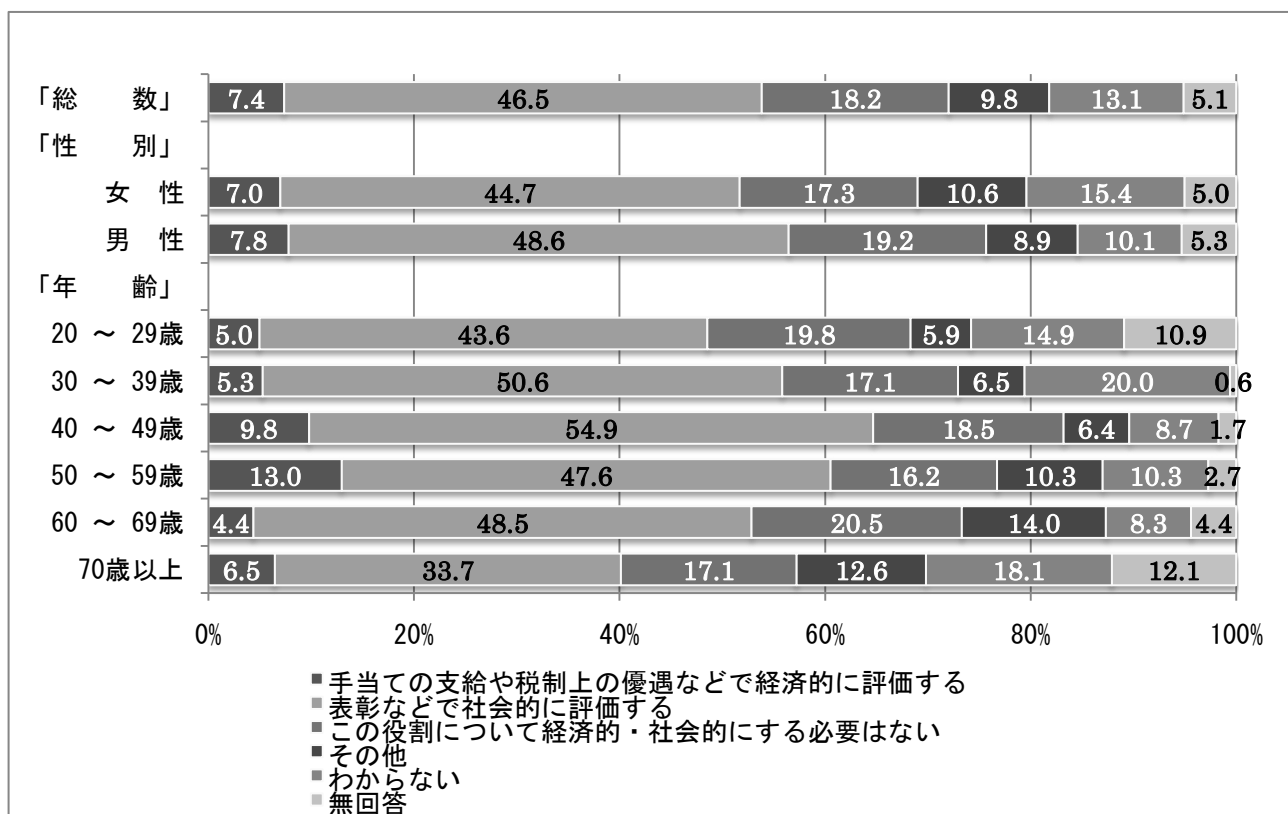
(2) 介護



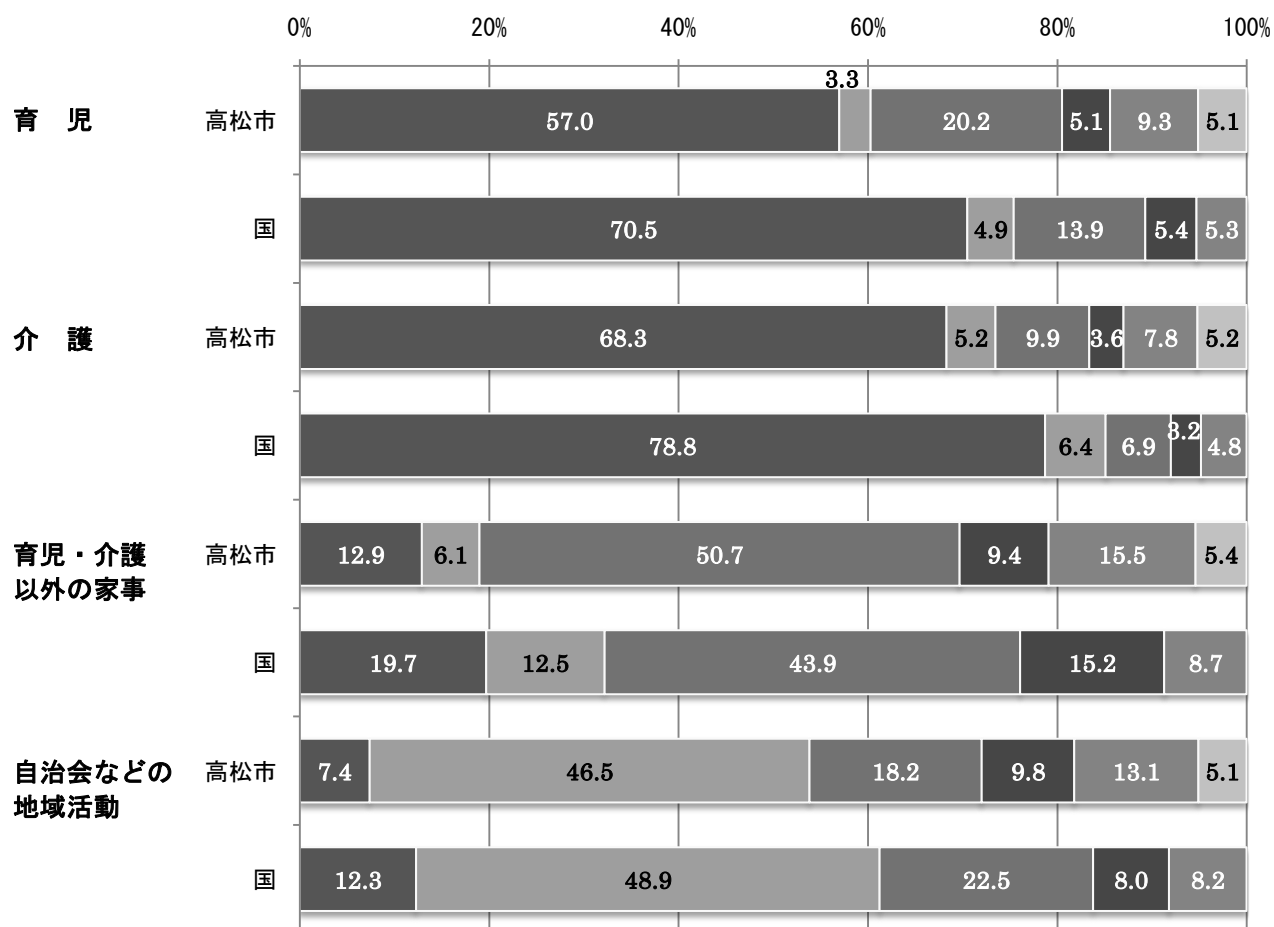
### (3) 育児・介護以外の家事



### (4) 自治会などの地域活動



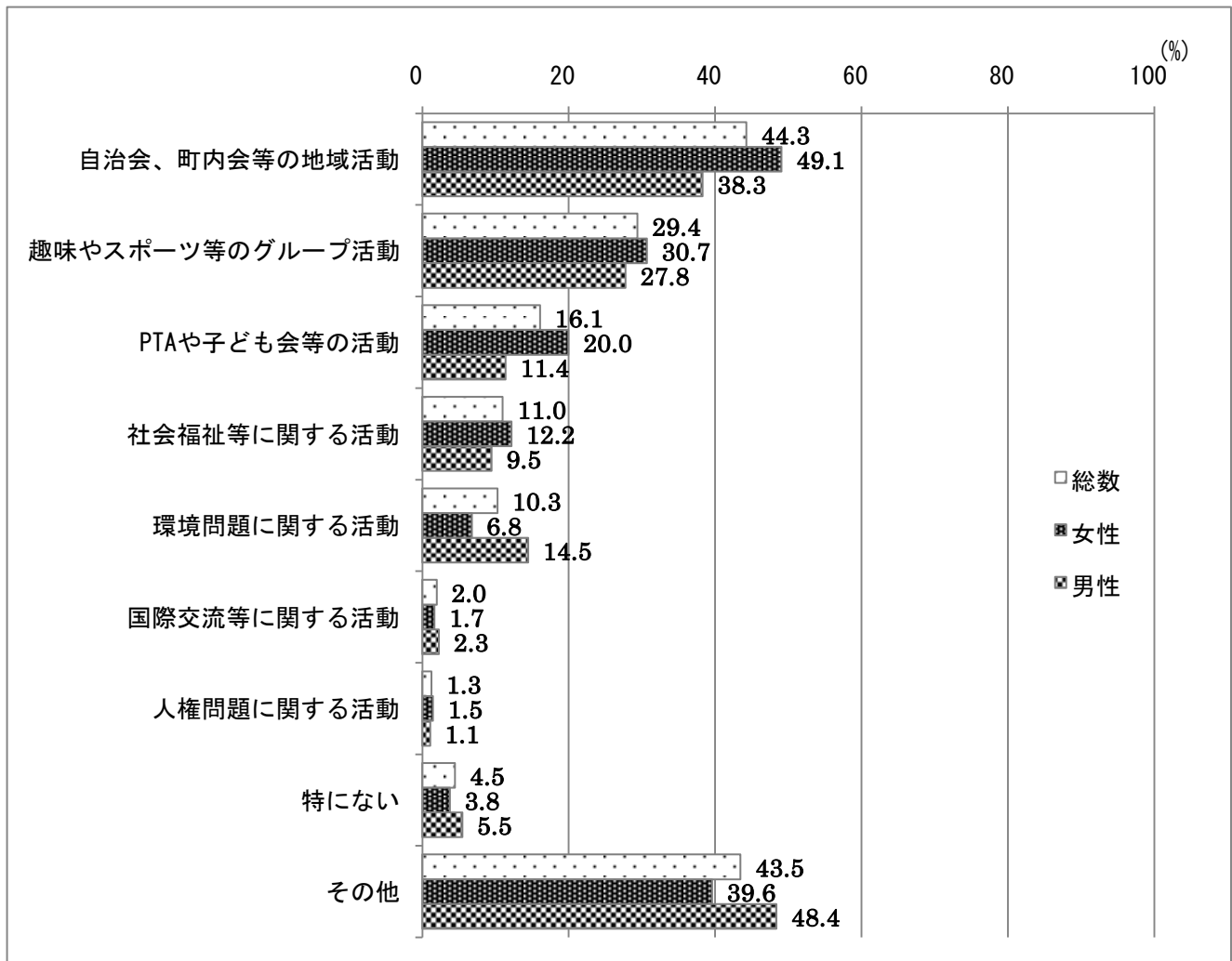
国との比較



- 手当の支給や税制上の優遇などで経済的に評価する
- 表彰などで社会的に評価する
- この役割について経済的・社会的にする必要はない
- その他
- わからない
- 無回答

**地域活動への参加・学校教育について**

問6 あなたは、いまどのような地域活動をしていますか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



○ その他

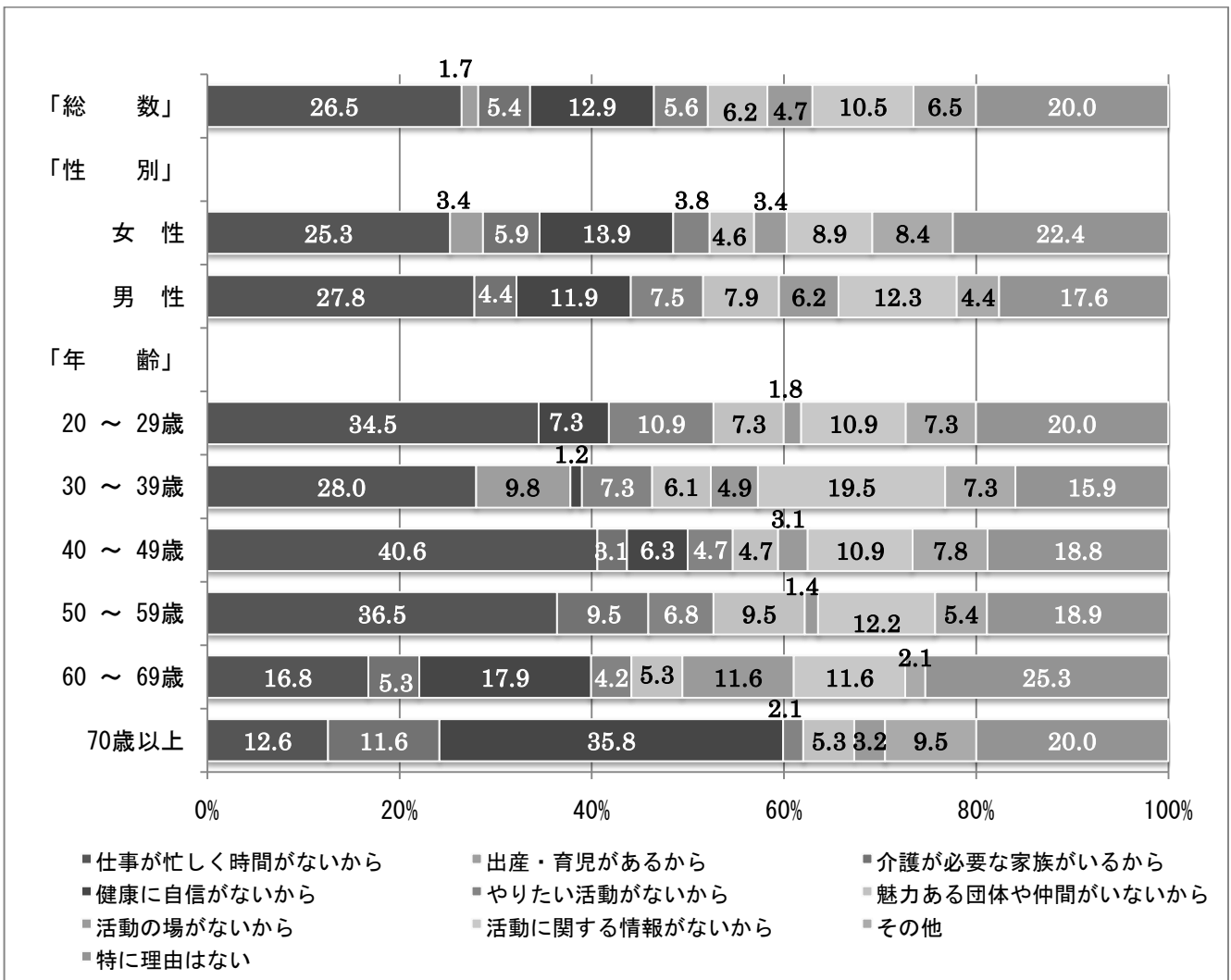
- 1 元気な間は根気強く美化運動に努めている
- 2 自由参加の講演会や勉強会の設営や参加
- 3 河川敷の犬の糞の持ち帰りについて、注意と理解をお願いしている
- 4 犬猫の殺処分の頭数を減らす活動
- 5 会社を通して障害者労働商品の買い付け
- 6 シルバー人材センター登録活動
- 7 子どもの部活動への支援
- 8 個人でゴミを減らすダンボールコンポスト使用でのエコ活動
- 9 管理組合活動（マンション）
- 10 病児への教育活動（キャンプ開催等）

**【全体】**

地域活動の内容のうち、回答が多かったのは、自治会、町内会等の地域活動（44.3%）と、趣味やスポーツ等のグループ活動（29.4%）と、PTAや子ども会等の活動（16.1%）である。  
 一方で、地域活動を行っていない人（4.5%）もいることから、今後は、男女共同参画の観点から、重点取組として、地域活動への積極的な参加を促す取組を推進していく必要がある。

〔 問6で「特にない」を選んだ方のみお答えください。 〕

問7 あなたが、こうした地域活動に参加されていない理由は何ですか。当てはまるものを1つ選んでください。

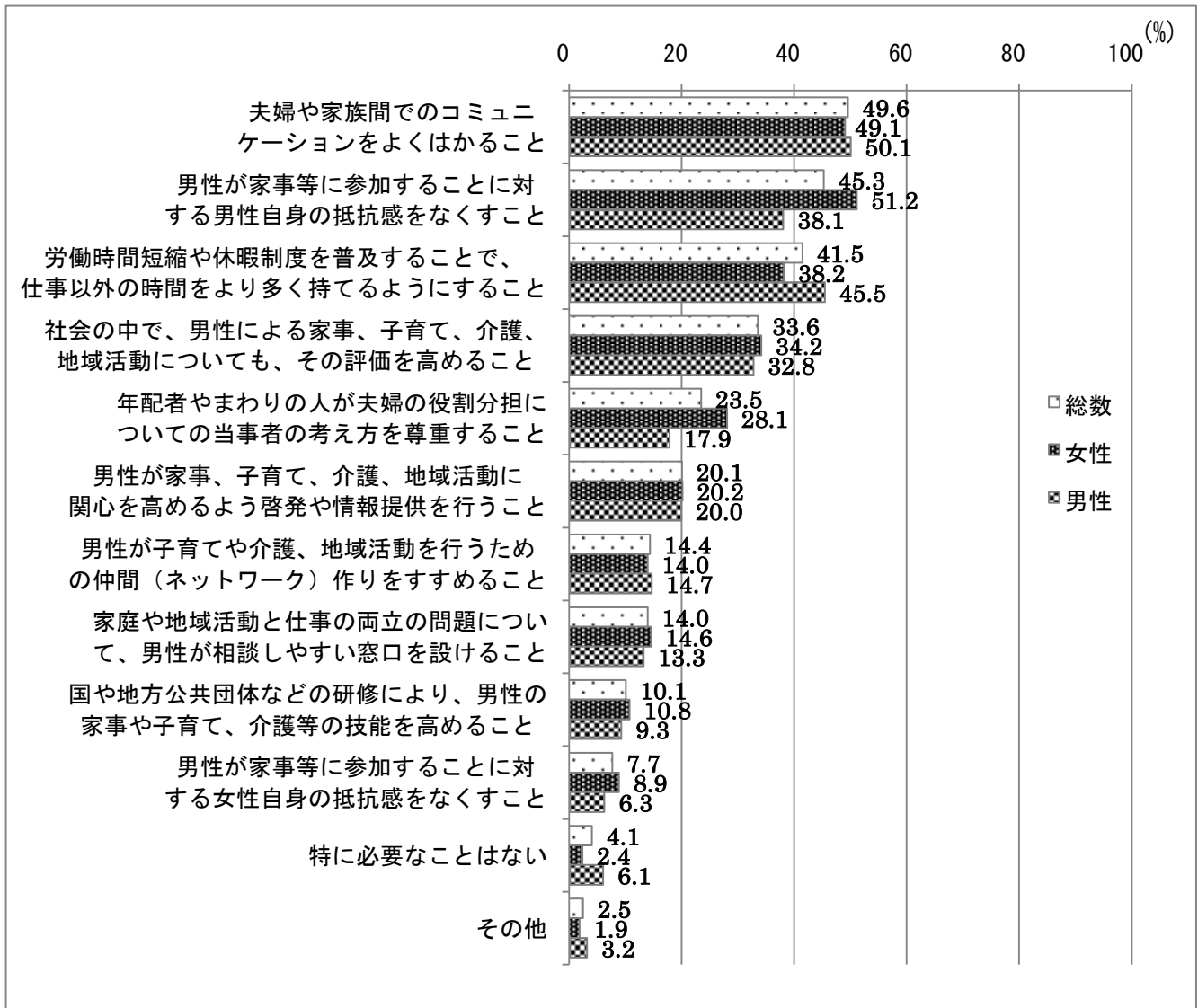


【全体】

不参加の理由のうち、回答が多かったのは、仕事が忙しく時間がない（26.5%）と、健康に自信がない（12.9%）である。

一方で、活動に関する情報がない（10.5%）、魅力ある団体や仲間がない（6.2%）、やりたい活動がない（5.6%）、活動の場がない（4.7%）といった理由もあることから、今後は、男女共同参画の観点から、地域活動への積極的な参加を促す取組を推進していく必要がある。

問8 今後、男性が女性とともに地域活動を始め、家事、子育て、介護に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



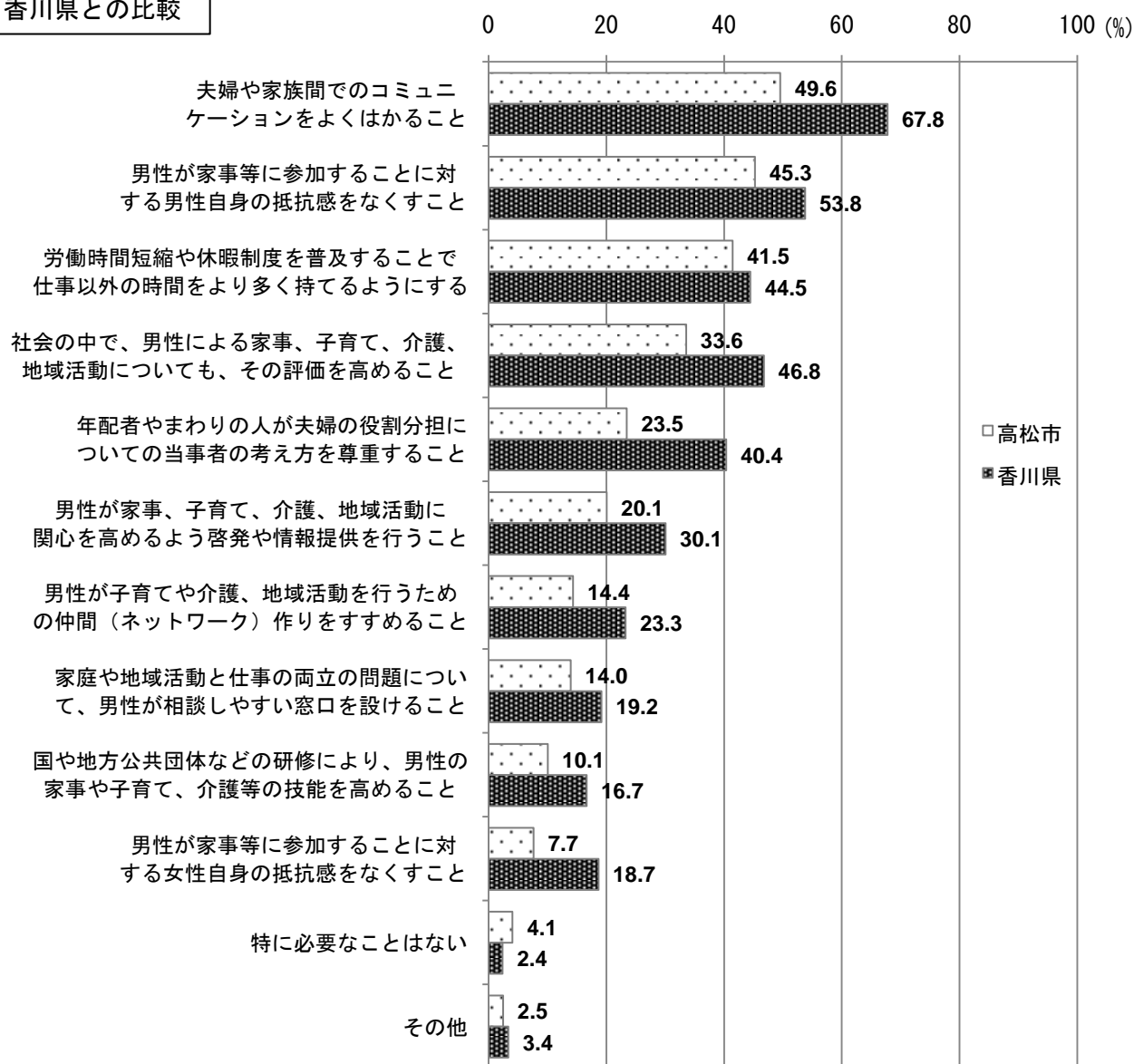
○ その他

- 1 ワークシェアリングで、子どもが小学校卒業までは半日勤務可にする
- 2 相手を思いやる気持ちを持つ
- 3 会社の理解
- 4 企業等には税の引き上げなど、消極的な団体に対してデメリットを設ける
- 5 国・地域を挙げて経済を立て直すこと
- 6 男性と同程度に、女性の収入を向上させる
- 7 女性が仕事をしやすい環境をつくる必要がある
- 8 義務的にでも、始めは無理矢理にでも、男性に家事をさせるべき
- 9 男性と女性の生活・仕事を入れ替えないと変わらない

【全体】

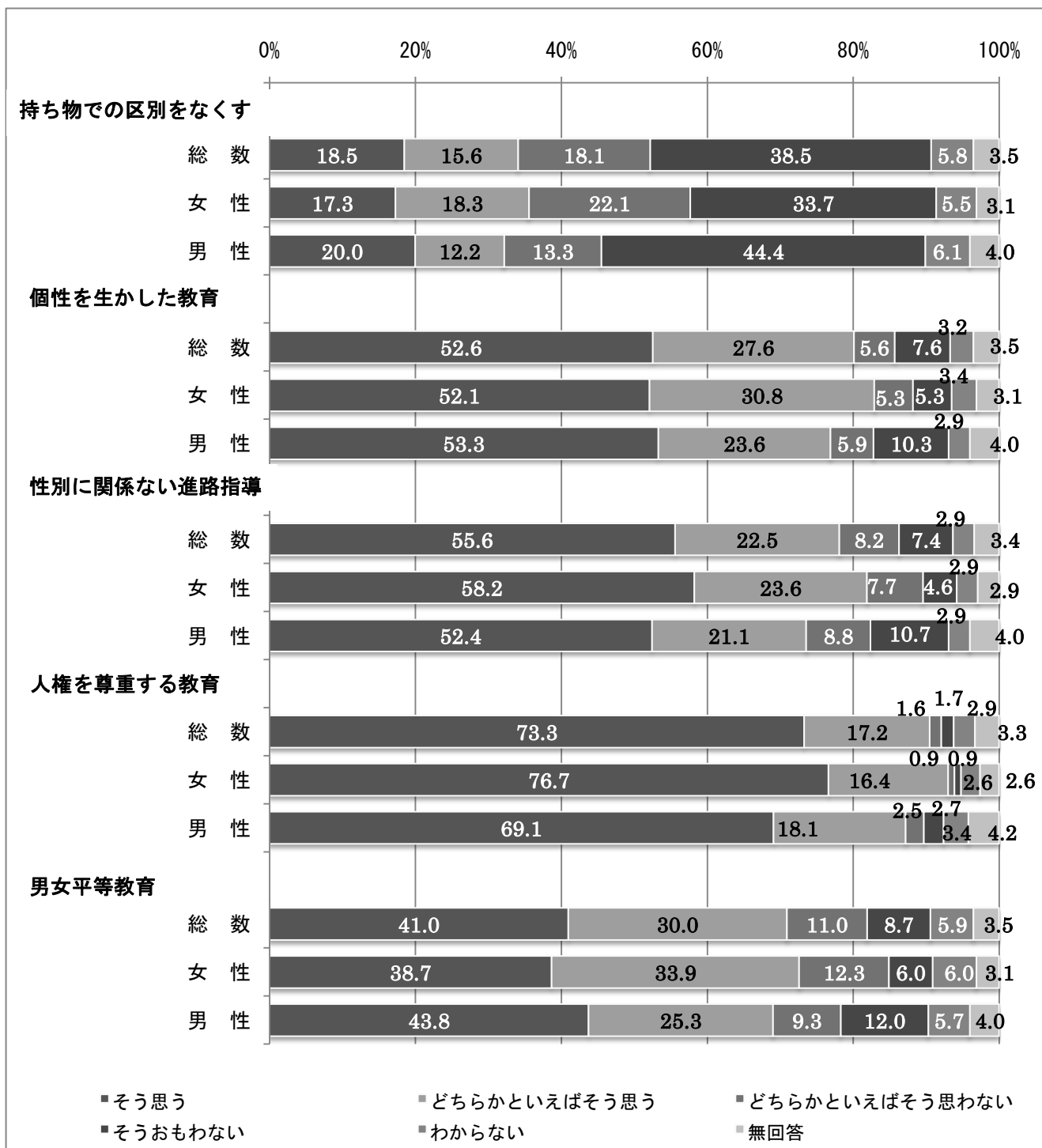
家事等に男性が参加するために必要なことのうち、回答が多かったのは、夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる（49.6%）と、男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす（45.3%）と、労働時間短縮や休暇制度を普及することで仕事以外の時間をより多く持てるようにする（41.5%）であり、今後も、男女共同参画の観点から、男性の意識改革を図る取組を推進していく必要がある。

香川県との比較





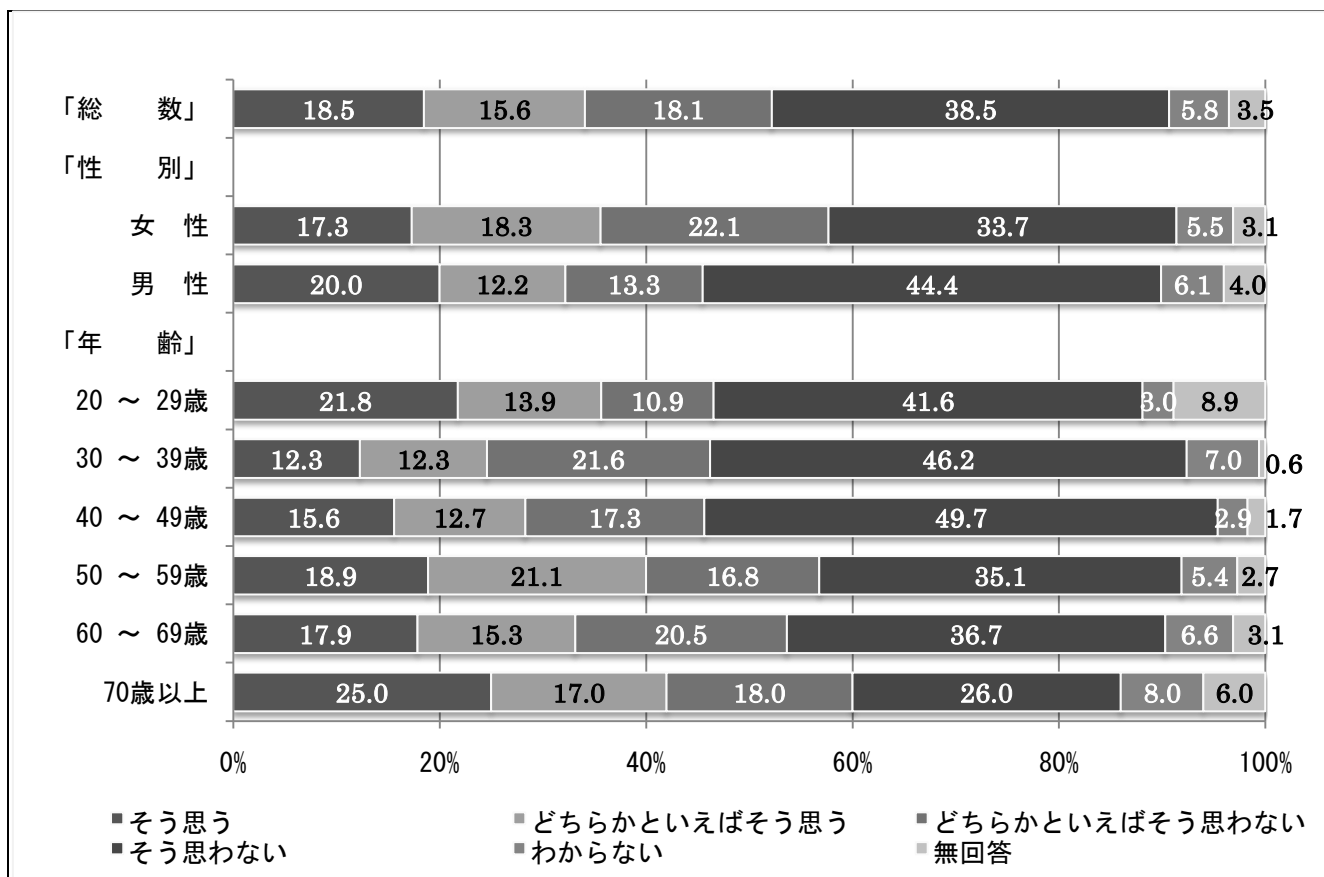
問9 あなたは、学校での教育について、どのように思いますか。次のそれぞれについて当てはまる数字を選んでください。



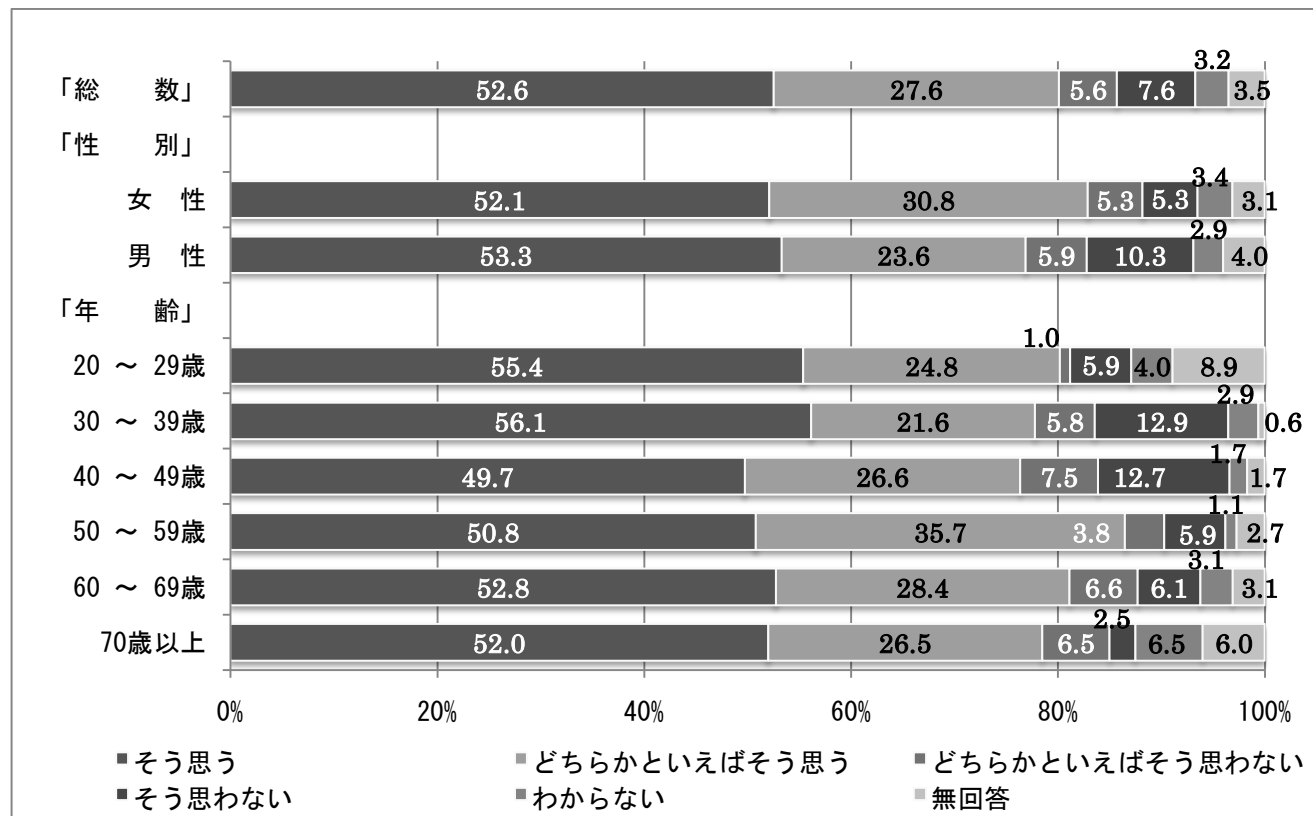
【全体】

学校で行なった方がよい教育のうち、「個性を生かした教育」、「性別に関係ない進路指導」、「人権を尊重する教育」、(78.1%)では、賛成(そう思う、どちらかといえばそう思う)とする割合が多くなっている。

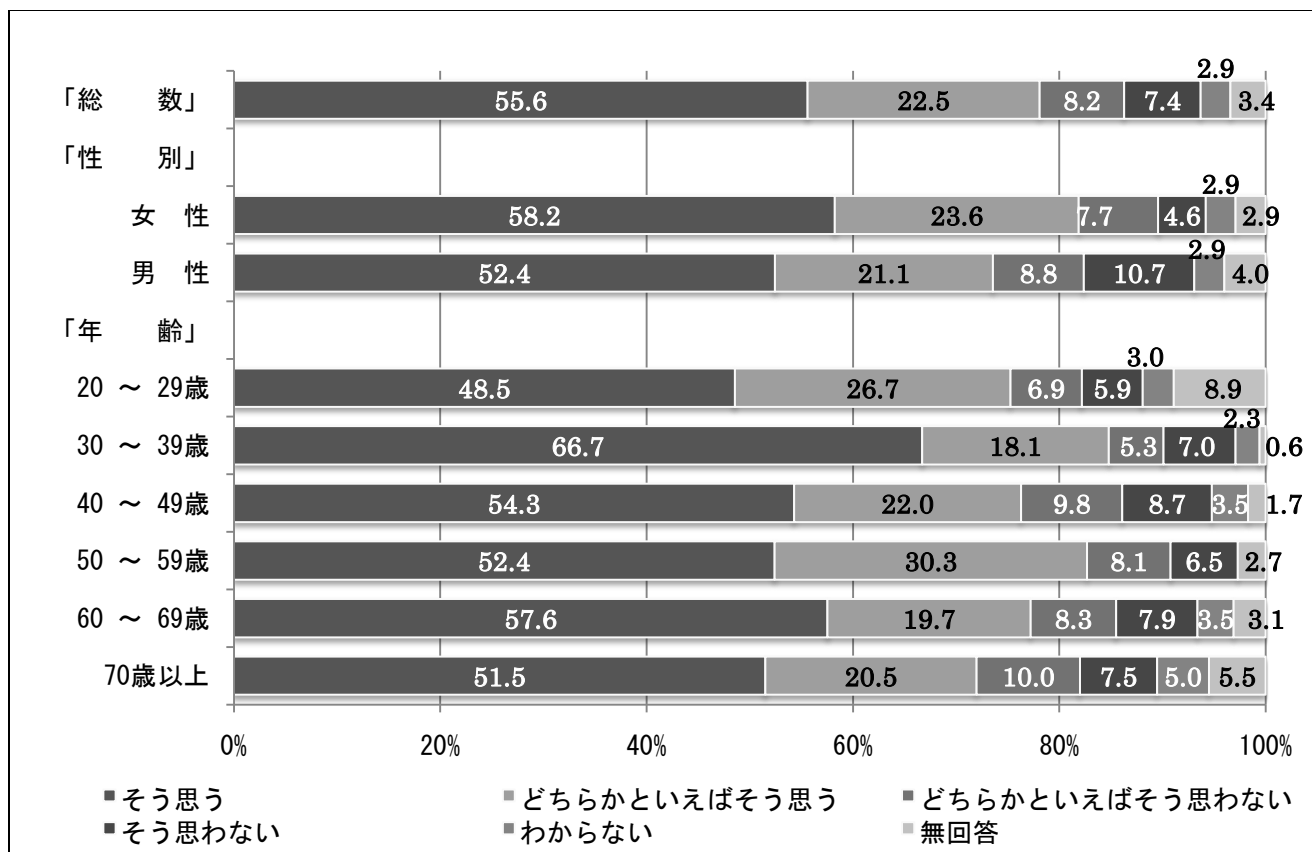
(1) 名簿, 持ち物などでの男女の区別をなくした方がよい



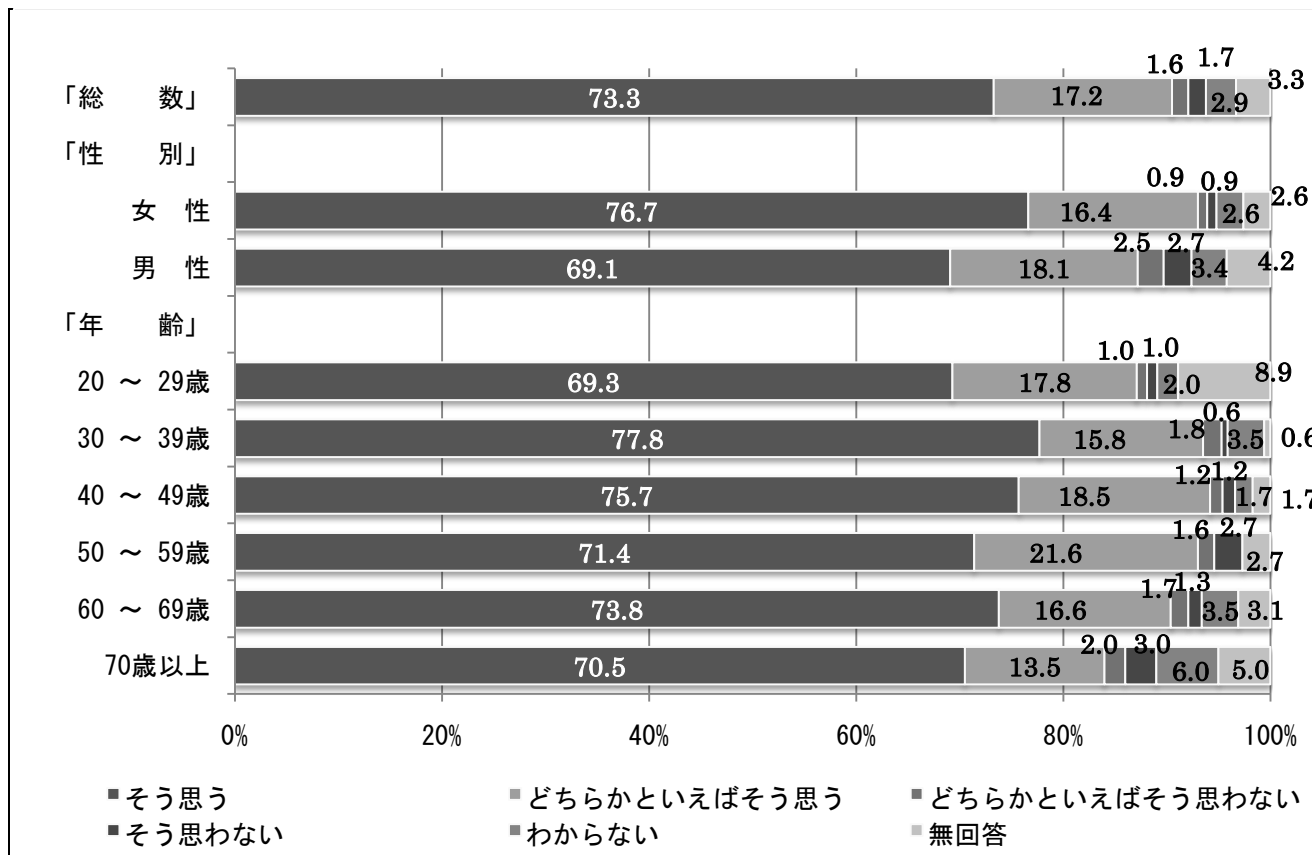
(2) 性別にかかわらず個性を生かした教育が行われるほうがよい



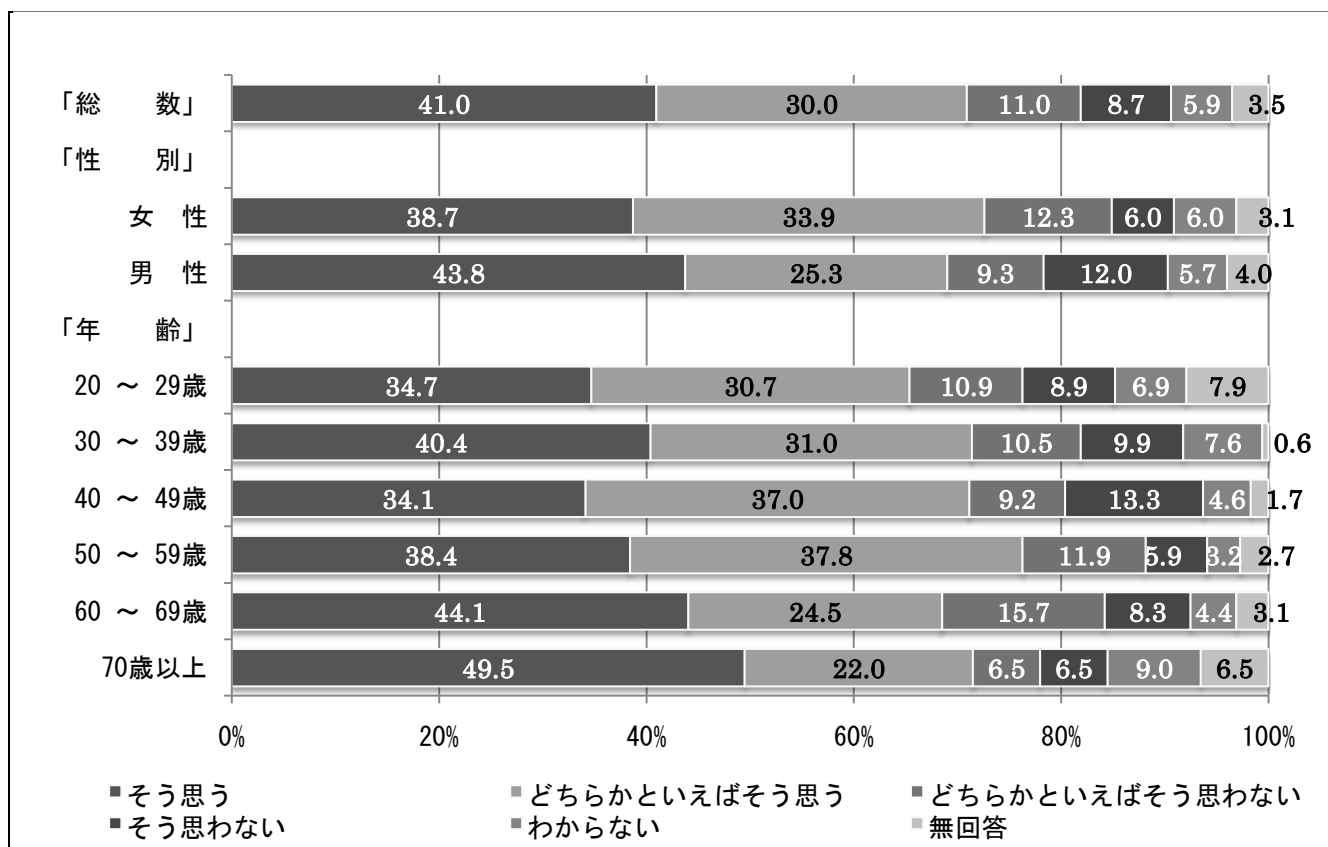
(3) 進路指導などは、性別にかかわらず同じように行われるほうがよい。



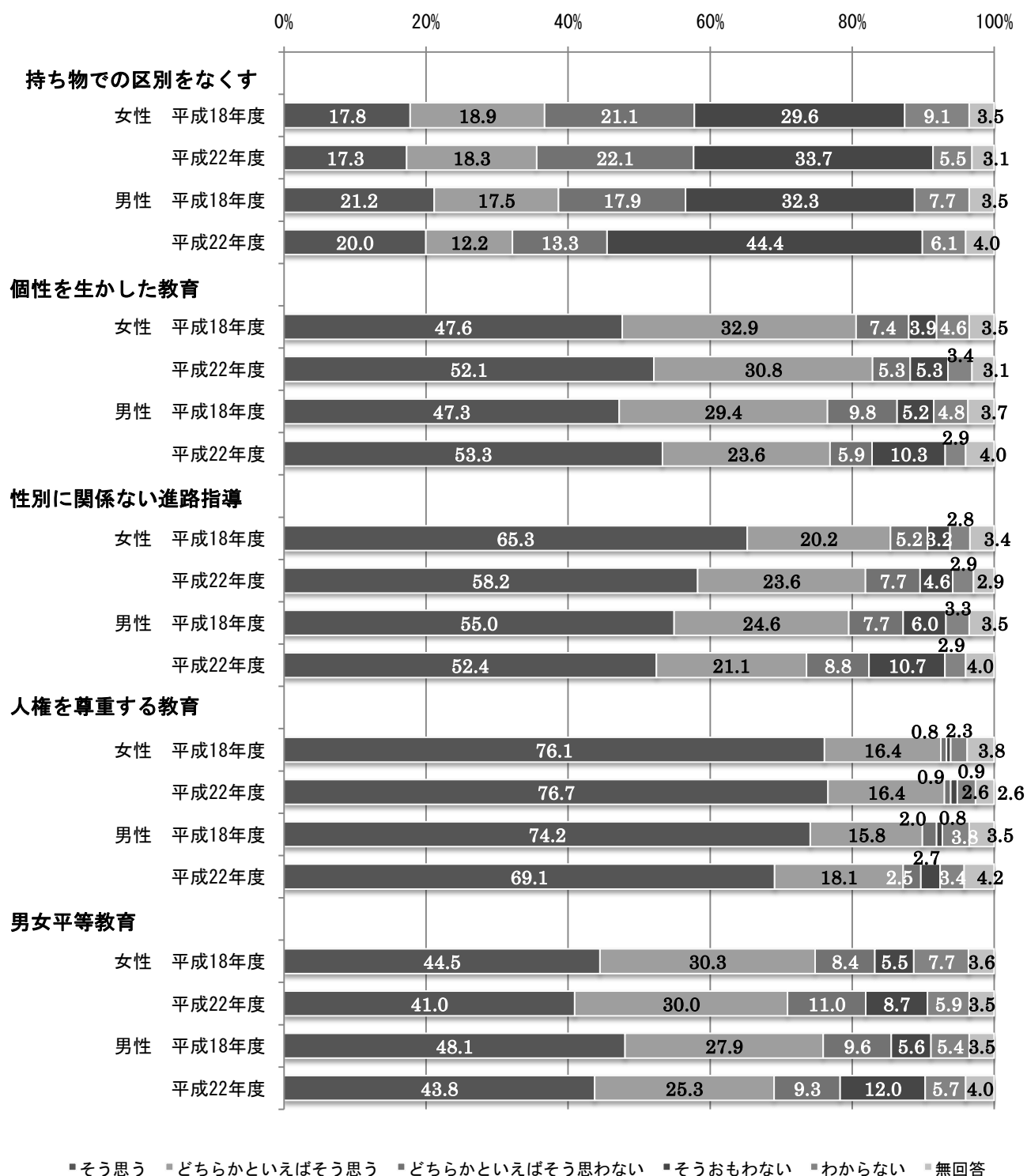
(4) 男女がお互いの人権を尊重する適切な教育が行われるほうがよい



(5) 積極的に男女平等教育を進めた方がよい

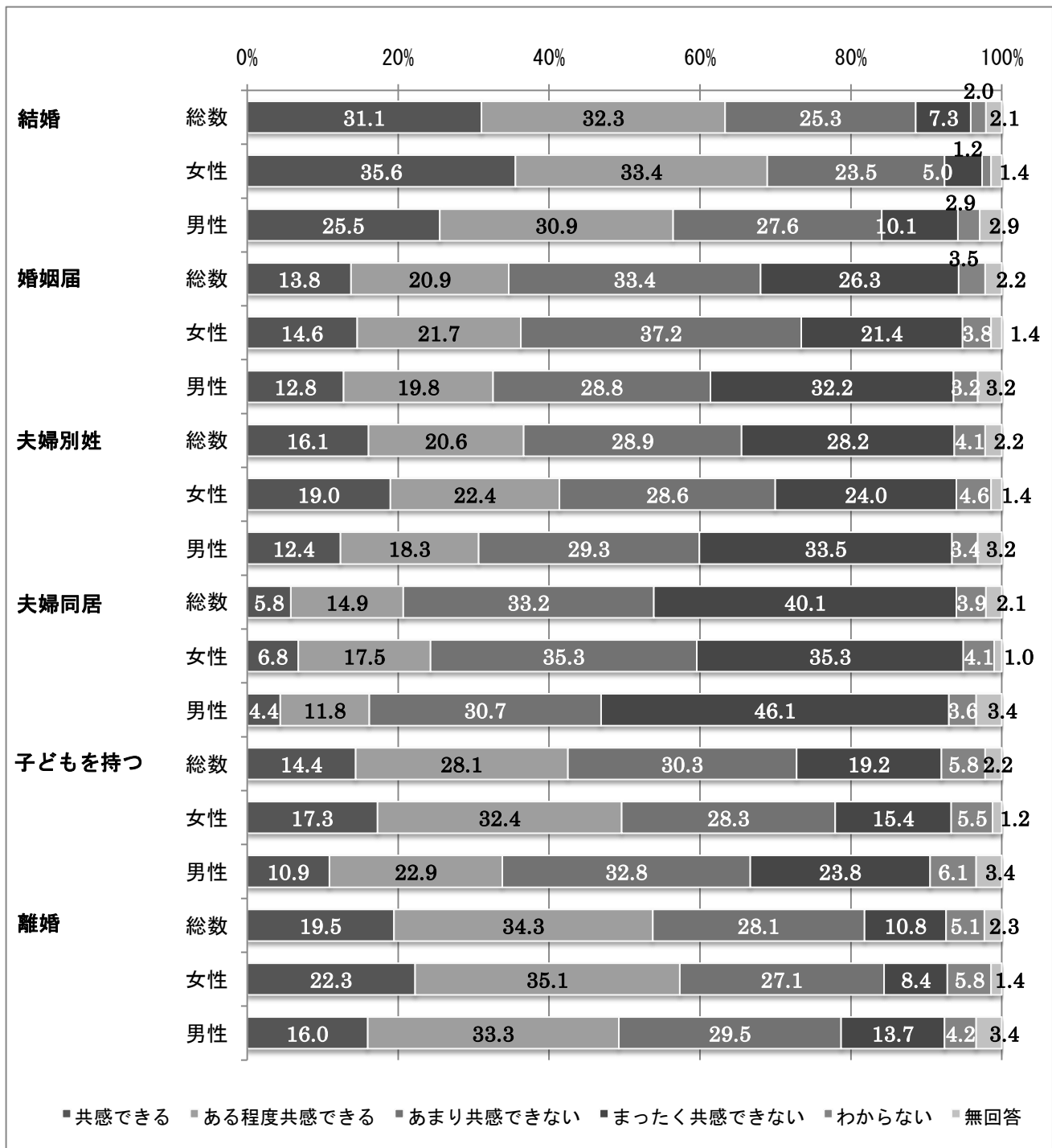


前回調査（平成18年度）との比較



## 結婚・出産について

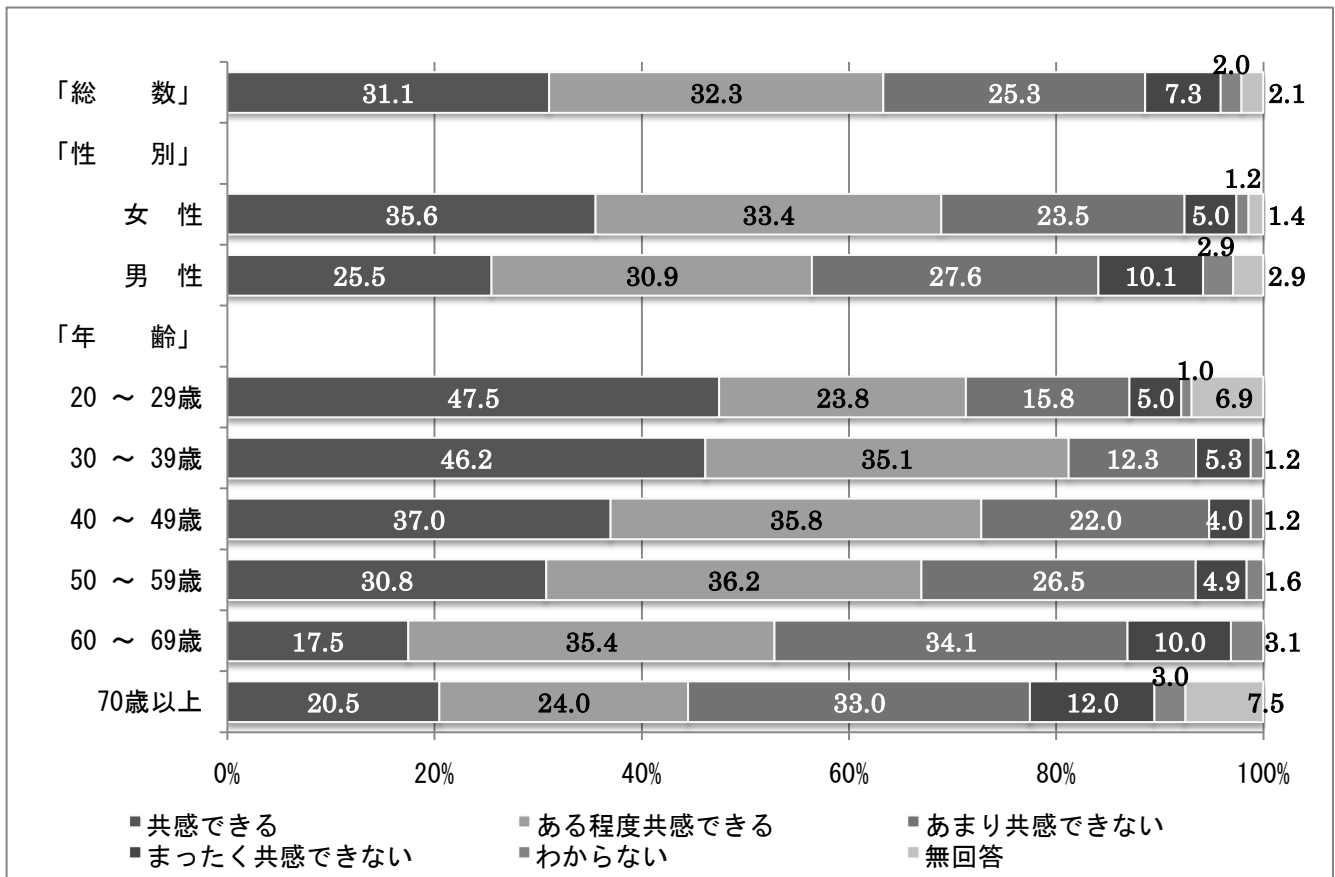
問10 あなたは、結婚について、どのように考えていますか。次のそれぞれについて当てはまる数字を選んでください。



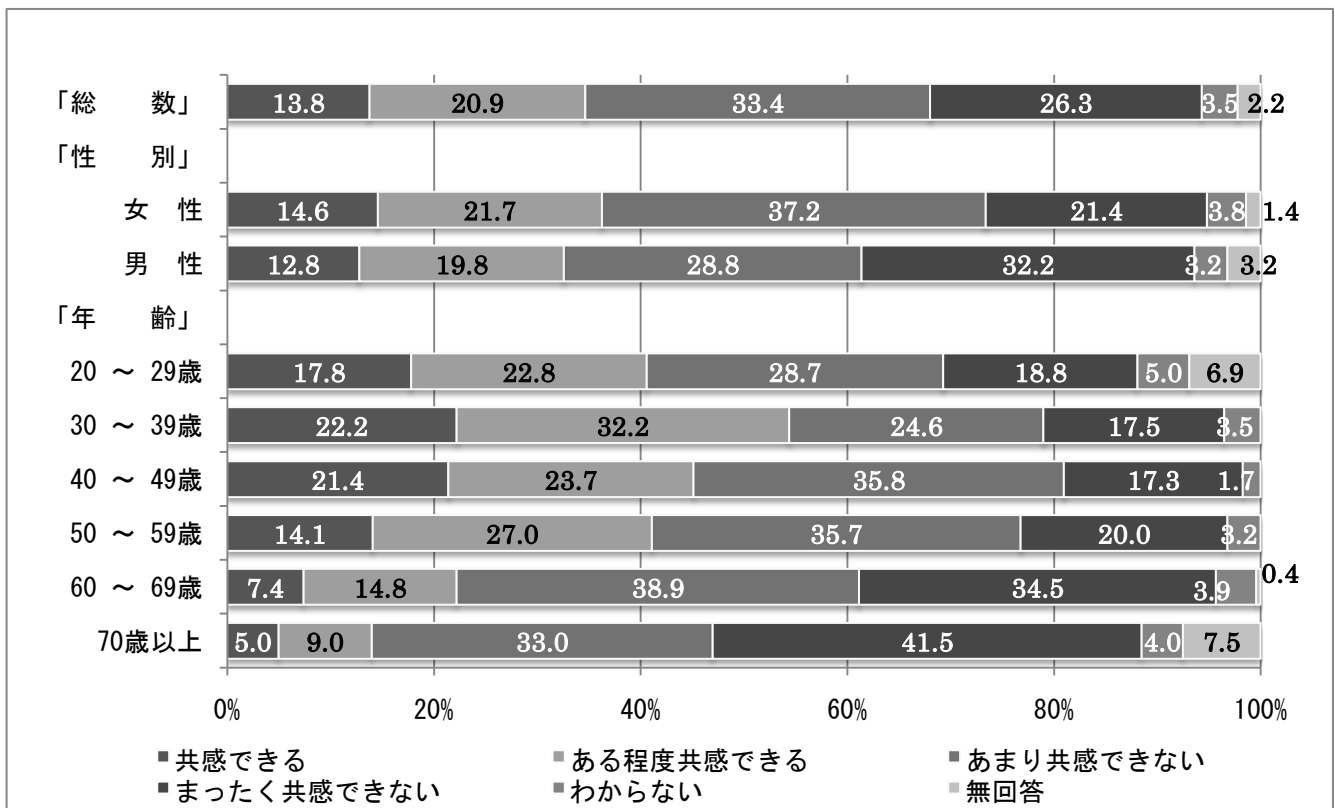
### 【全体】

結婚に関する考え方のうち、賛成（共感できる，ある程度共感できる）の回答が多かったのは、「結婚は個人の自由だから，してもしなくてもよい」（63.4%）と、「結婚生活に満足できないときは離婚してもかまわない」（53.8%）であり，このような考え方が，若者の晩婚化や晩婚化による出産回数の減少及び，離婚の増加や離婚による父子・母子家庭の増加につながっていると考えられる。

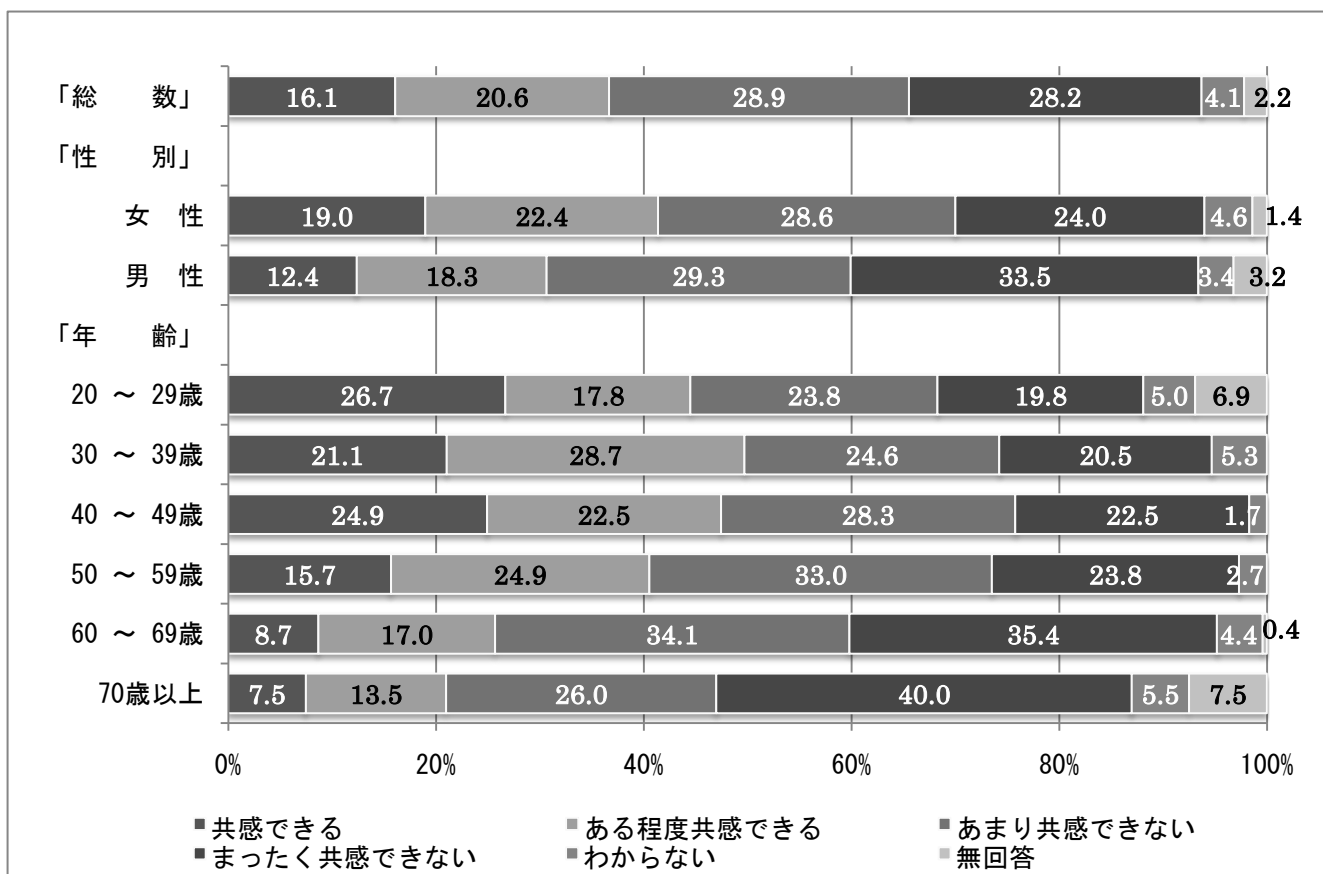
(1) 結婚は個人の自由だから、結婚しても、しなくてもどちらでもよいという考え方



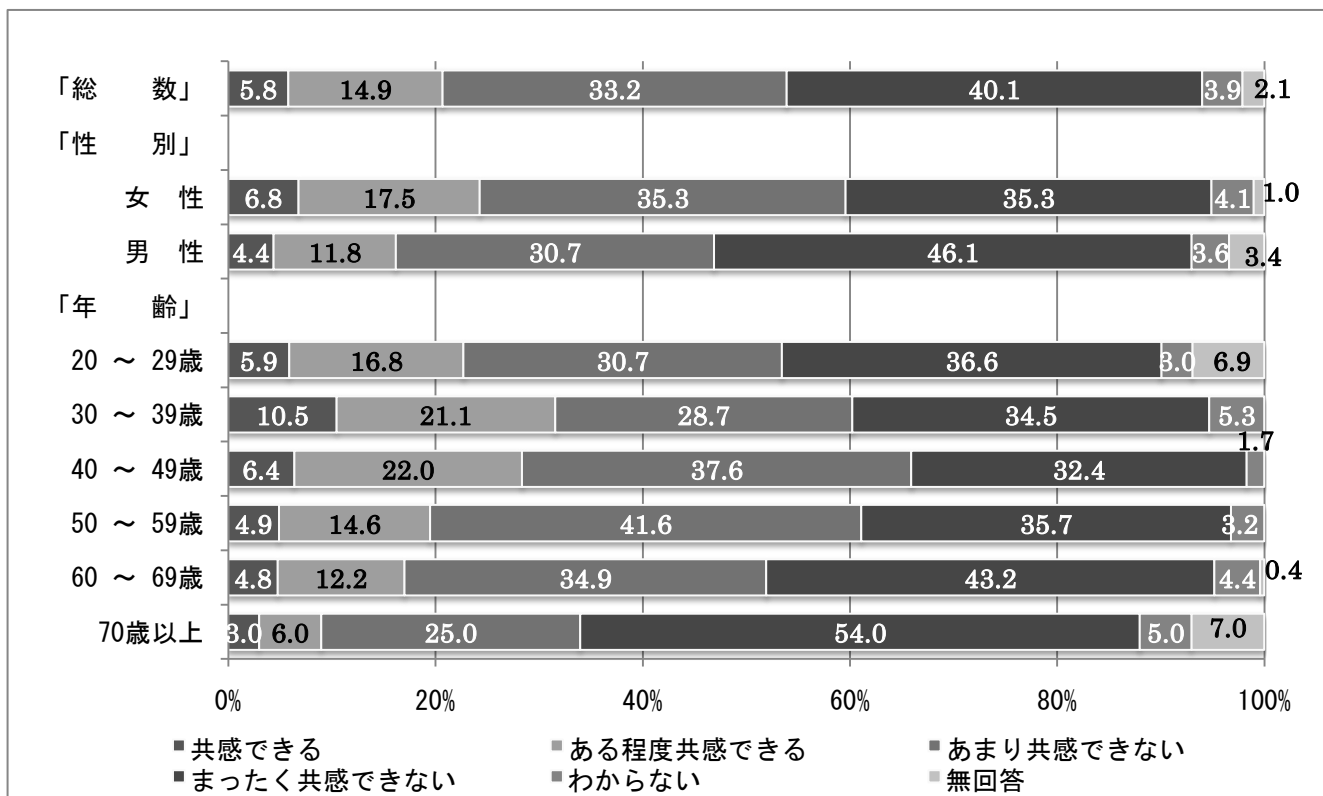
(2) お互いが合意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はないという考え方



(3) 夫婦が別の姓を名乗る結婚が認められても良いという考え方

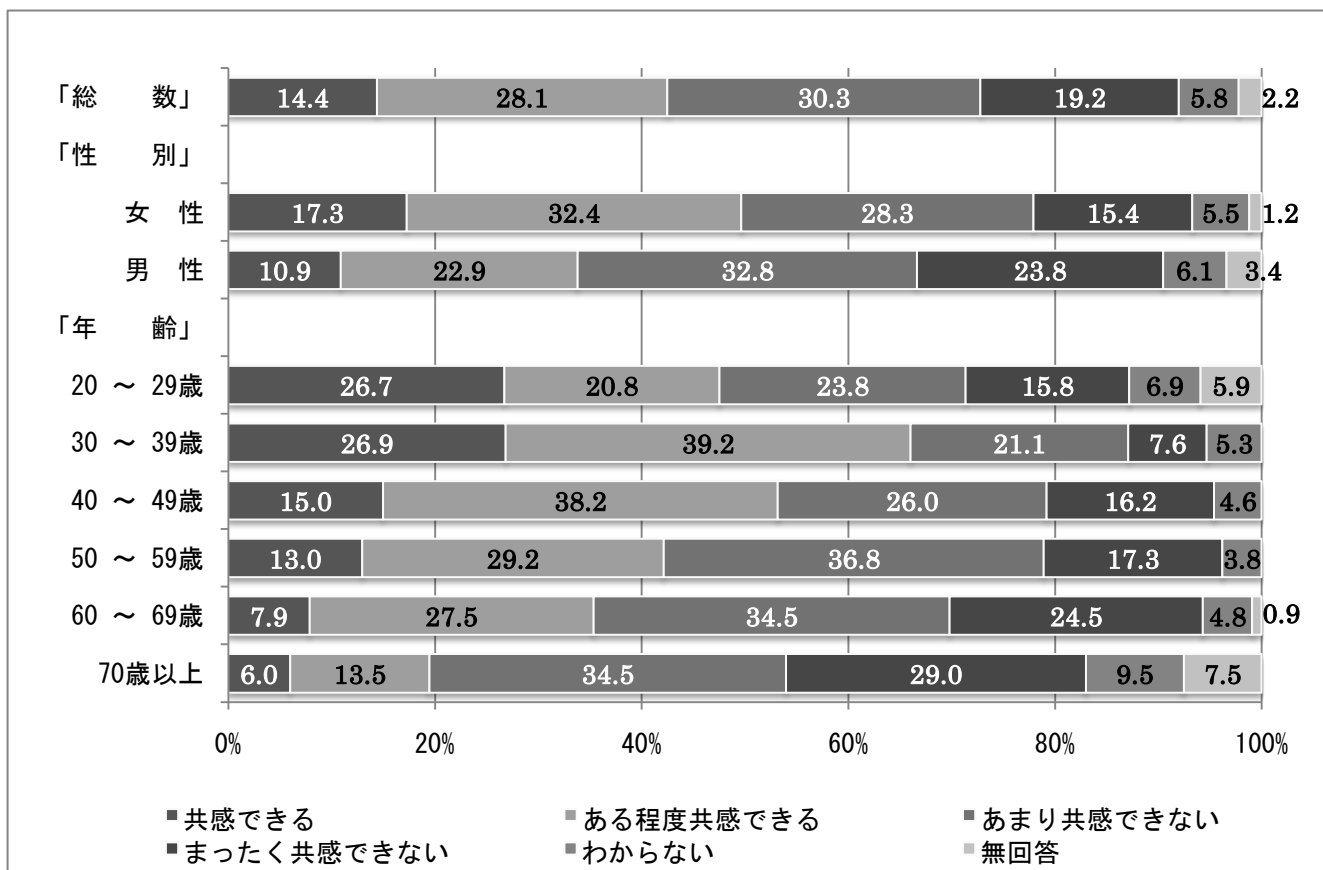


(4) 夫婦は同居しなくてもよいという考え方

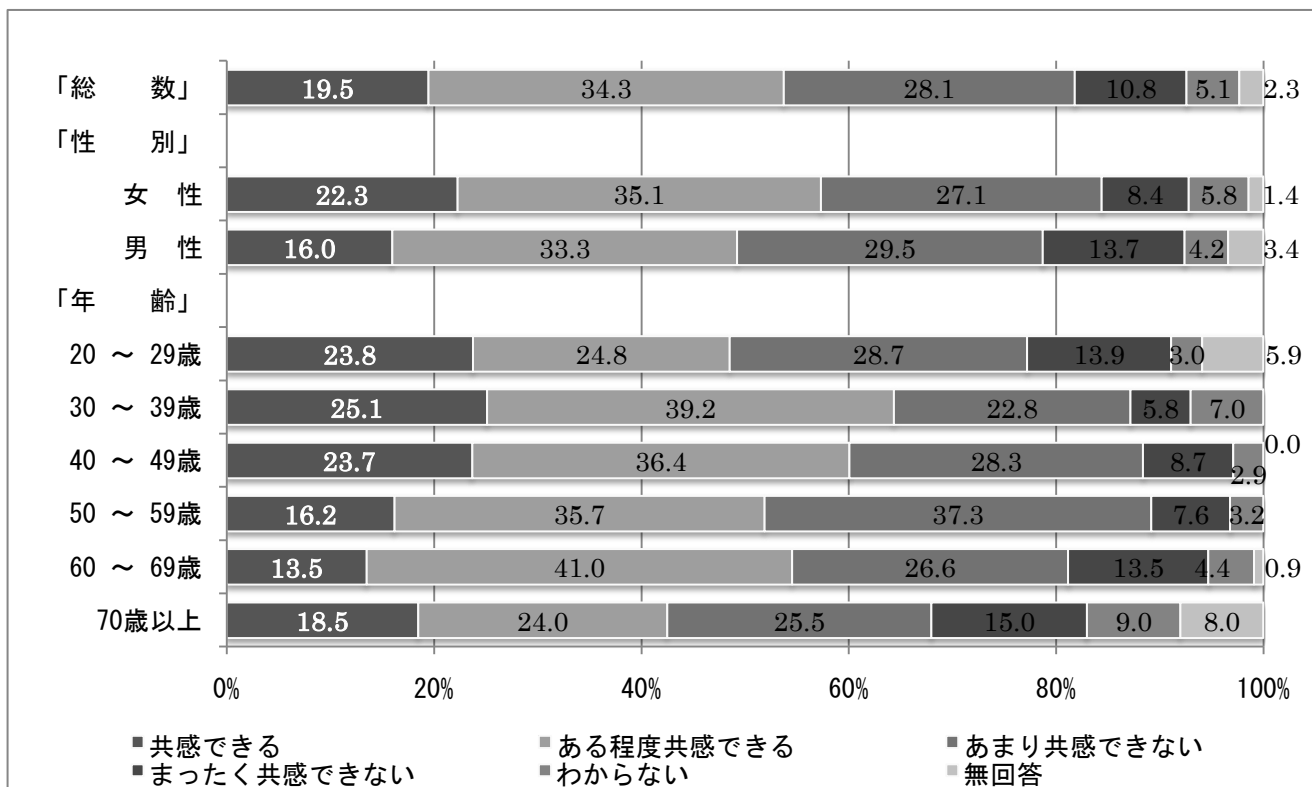




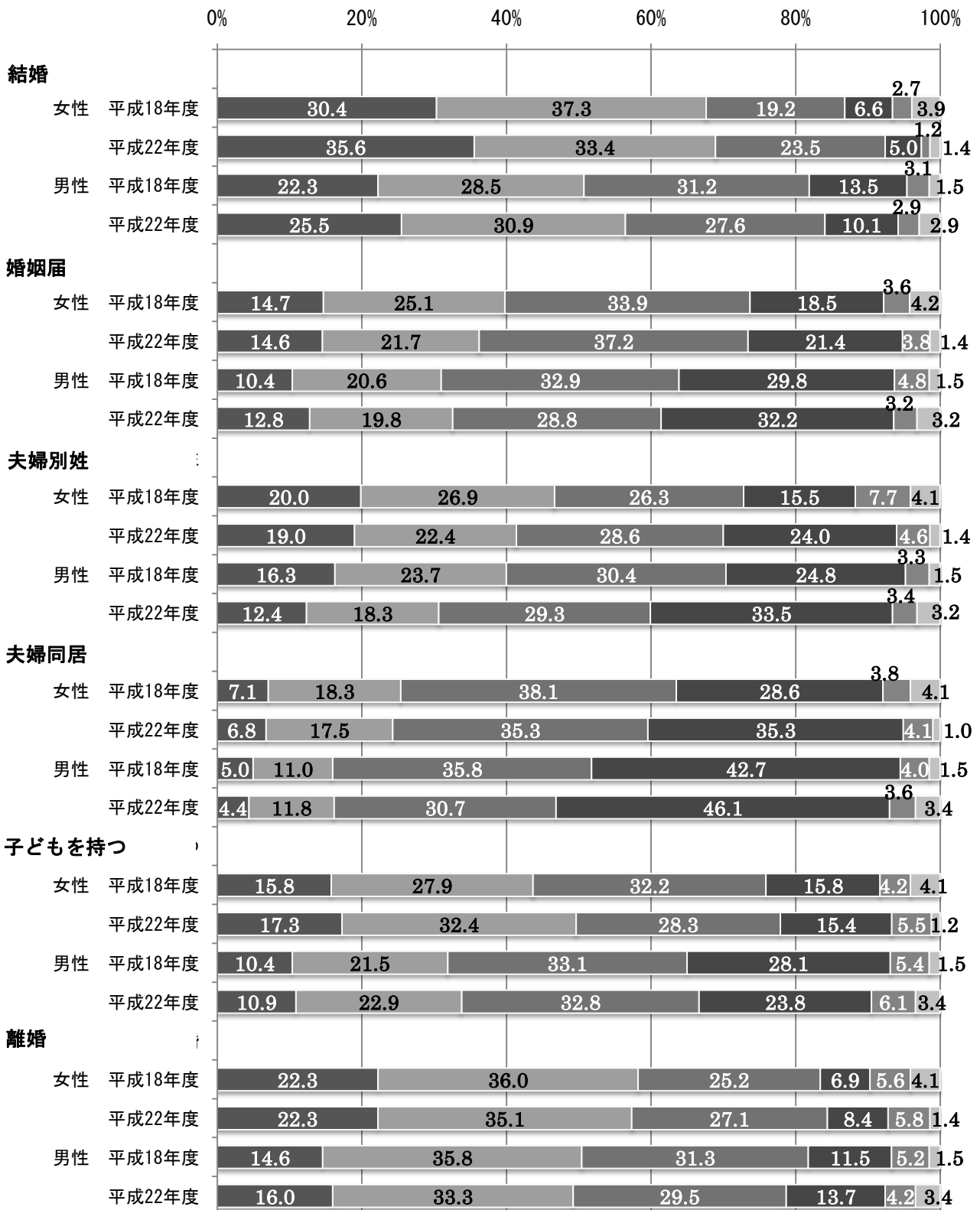
(5) 結婚しても必ず子どもをもつ必要はないという考え方



(6) 結婚生活に満足できないときは離婚してもかまわないという考え方

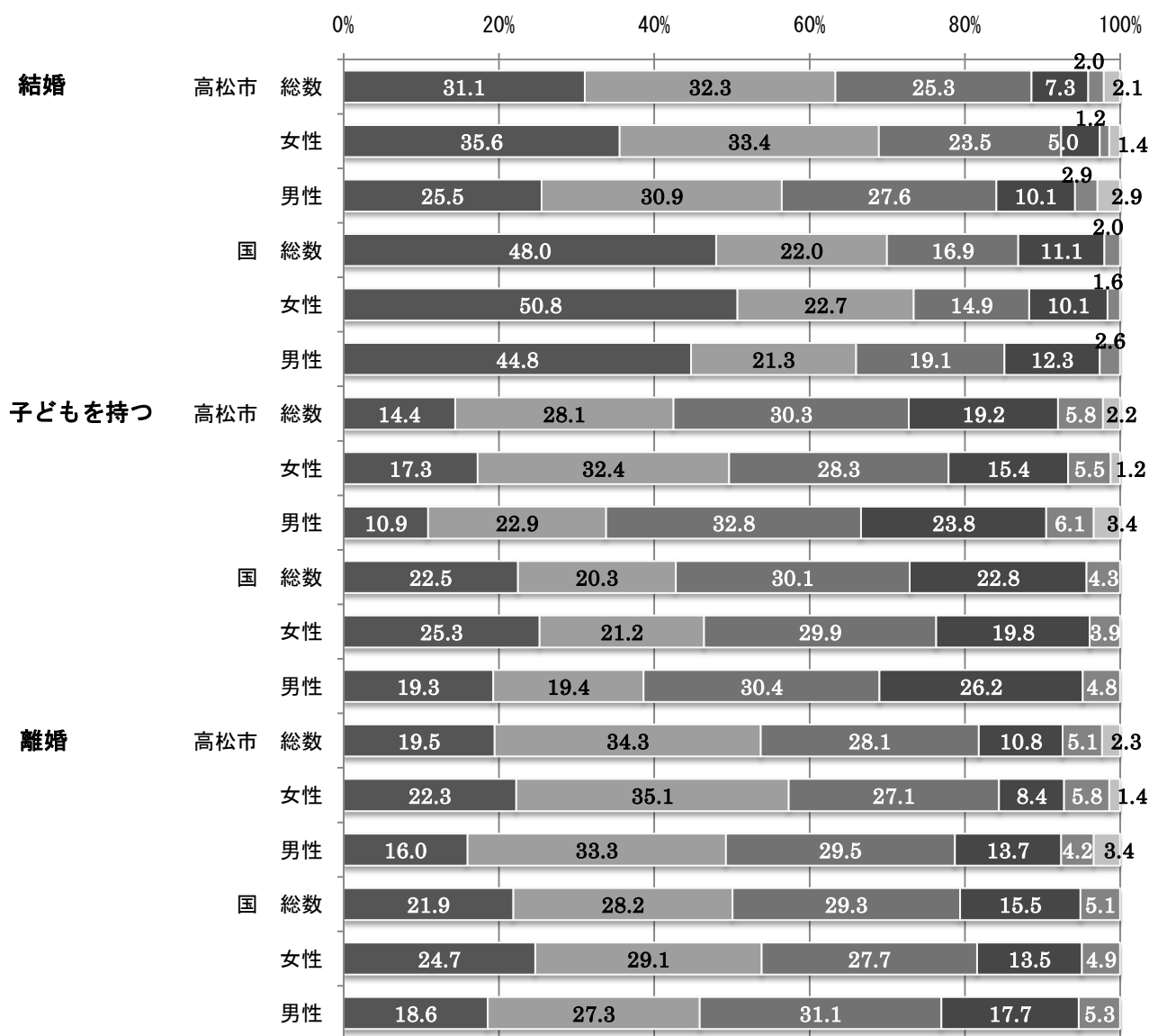


前回調査（平成18年度）との比較



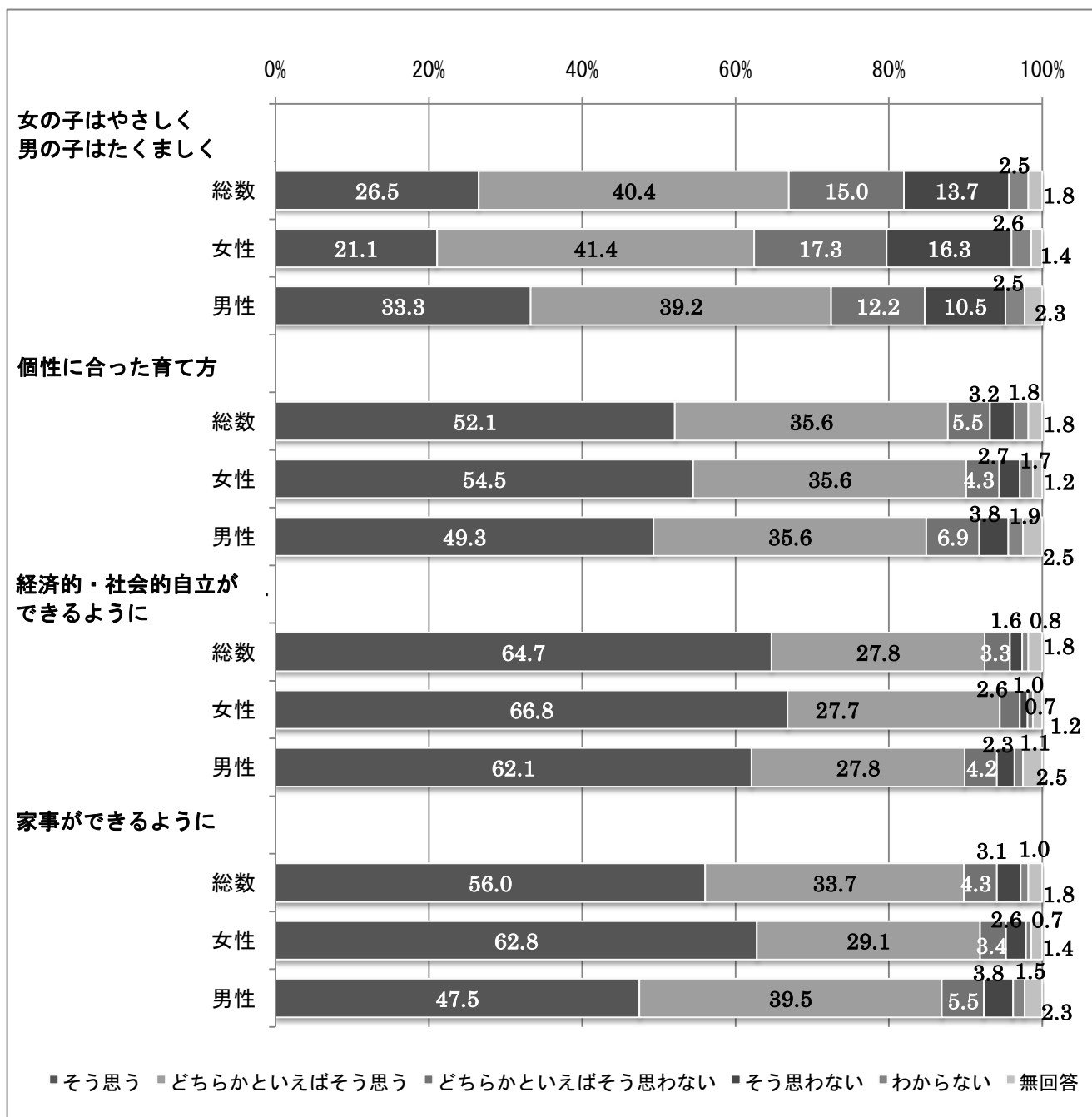
■共感できる ■ある程度共感できる ■あまり共感できない ■まったく共感できない ■わからない ■無回答

国との比較



共感できる
  ある程度共感できる
  あまり共感できない
  まったく共感できない
  わからない
  無回答

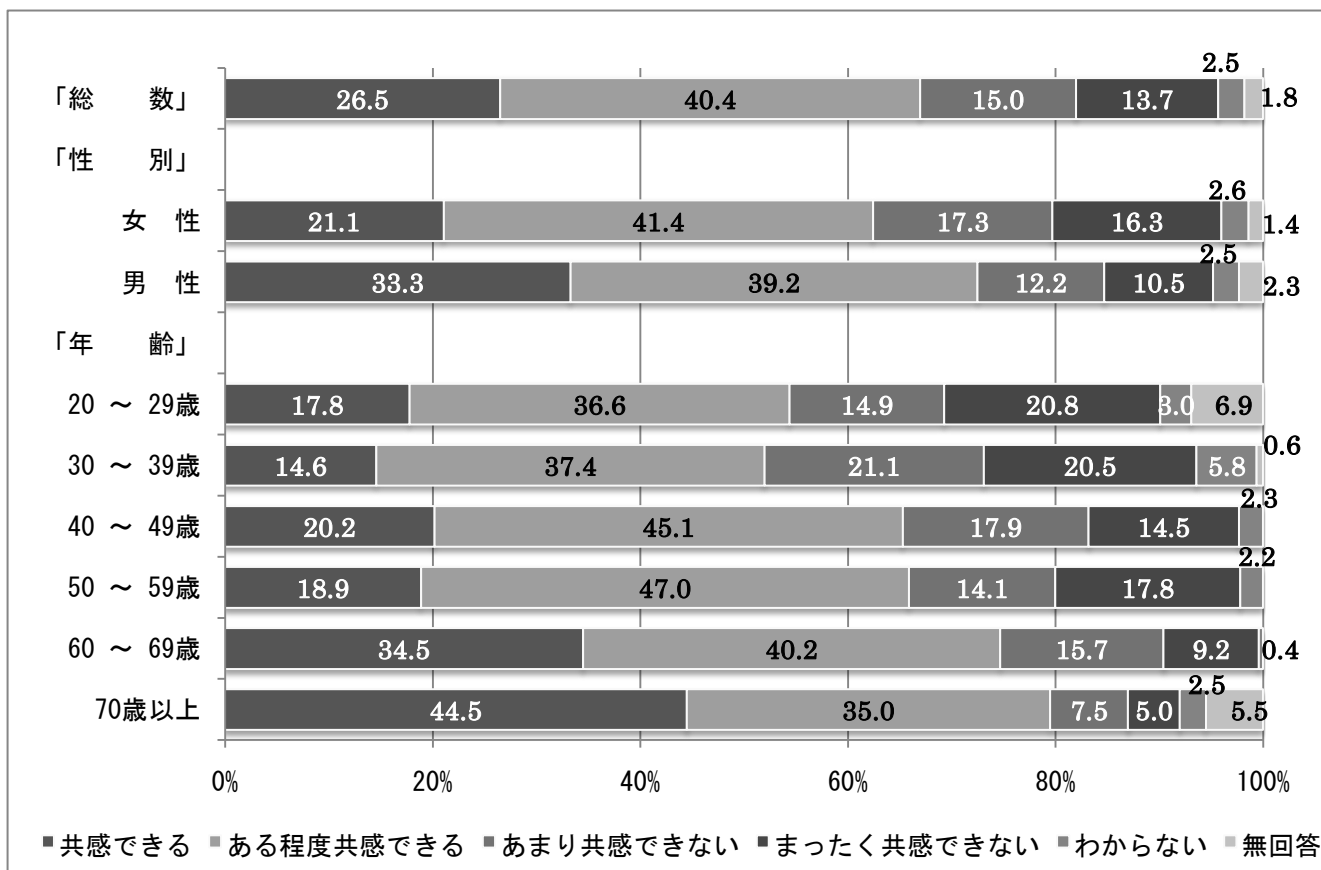
問 11 あなたは、子供の育て方について、どのように考えていますか。次のそれぞれについて当てはまる数字を選んでください。



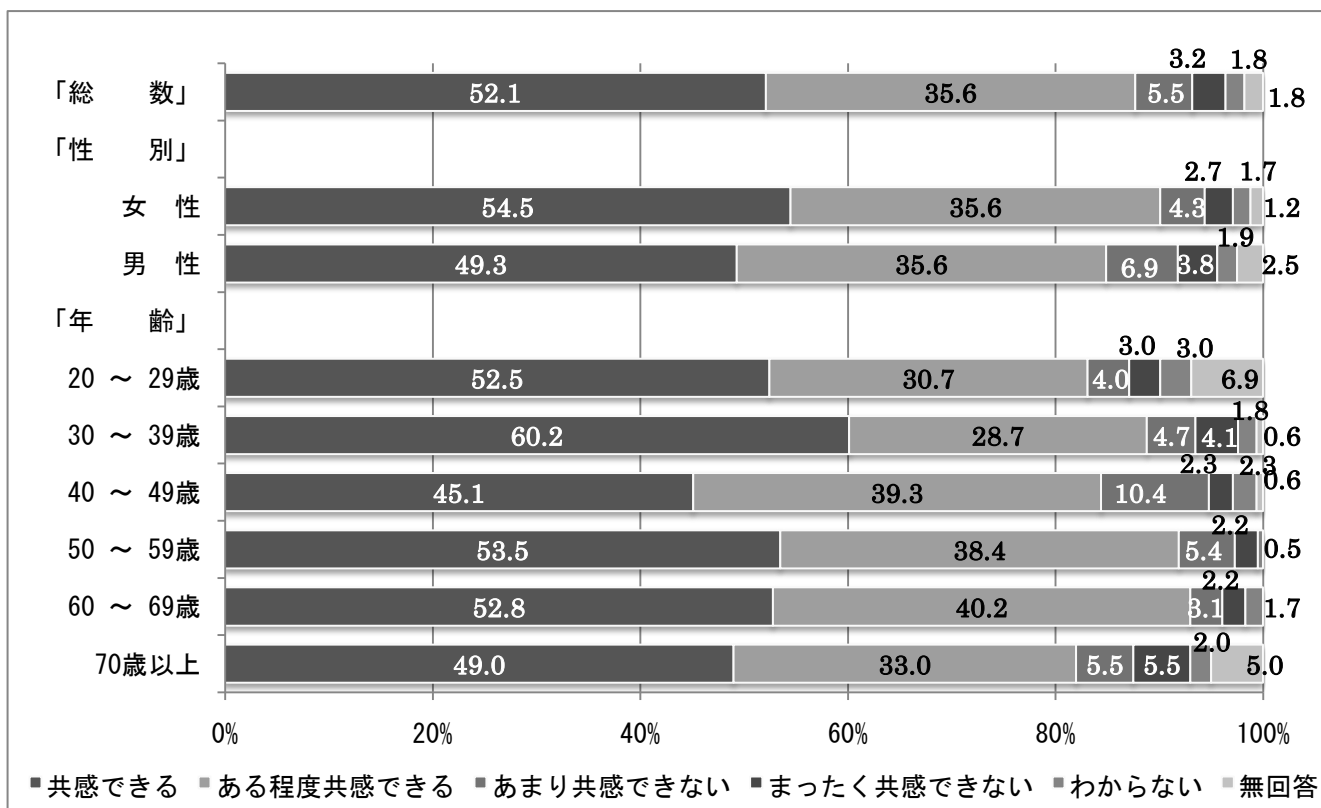
【全体】

子育てに関する考え方のうち、賛成（そう思う、どちらかといえばそう思う）の回答が多かったのは、「経済的・社会的自立ができるように育てる」（92.5%）、「家事ができるように育てる」（89.7%）、「性別にとらわれず個性に合った育て方をする」（87.7%）である。

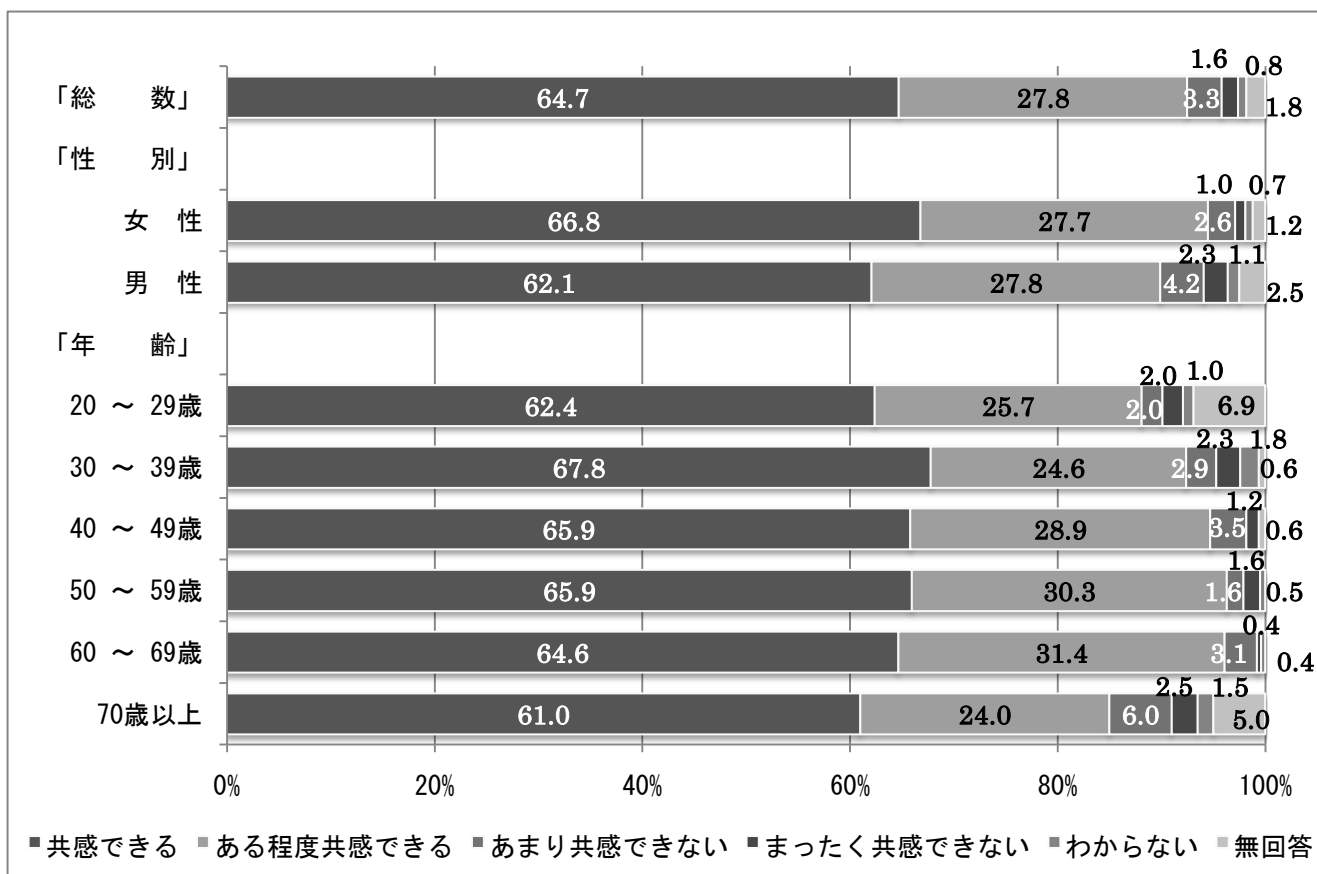
(1) 女の子はやさしい子, 男の子はたくましい子に育てる方がよい



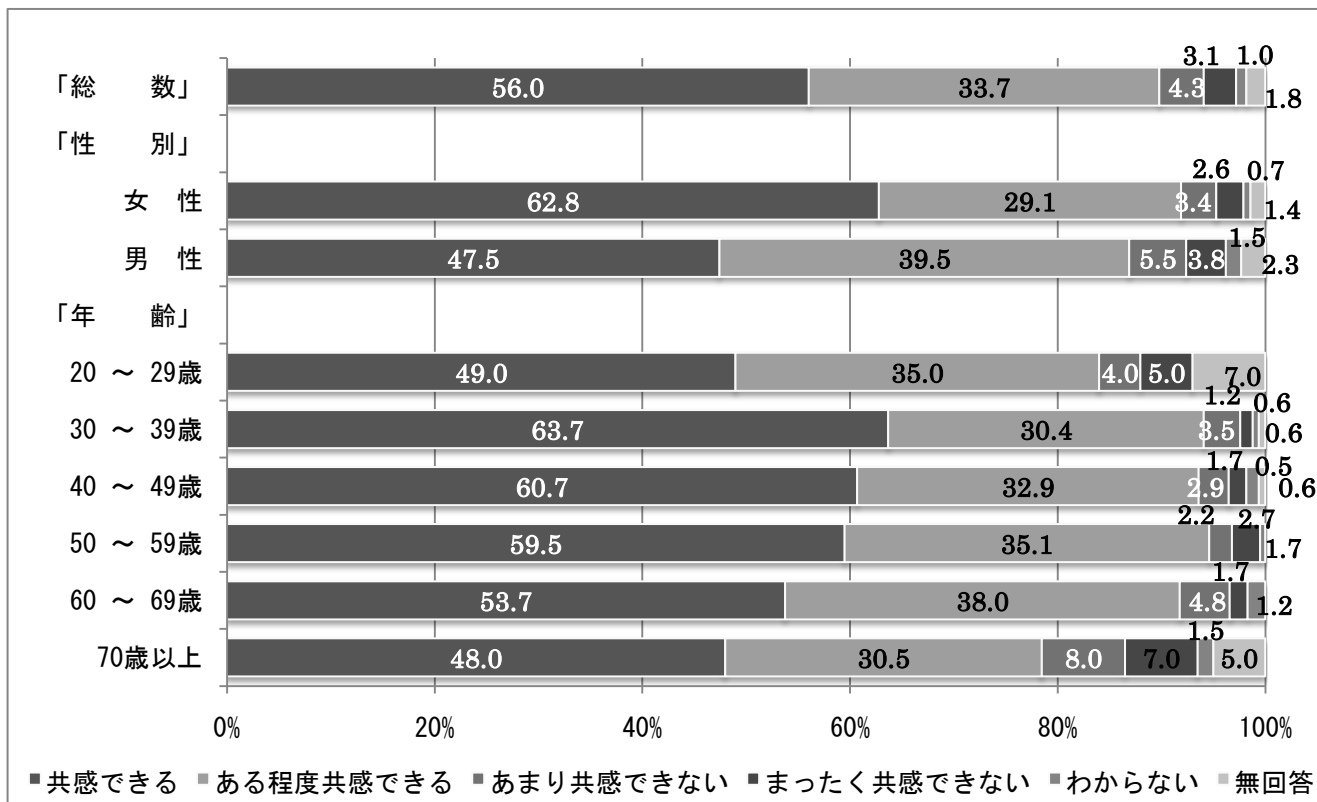
(2) 女の子, 男の子にとらわれず, 個性に合った育て方をした方がよい



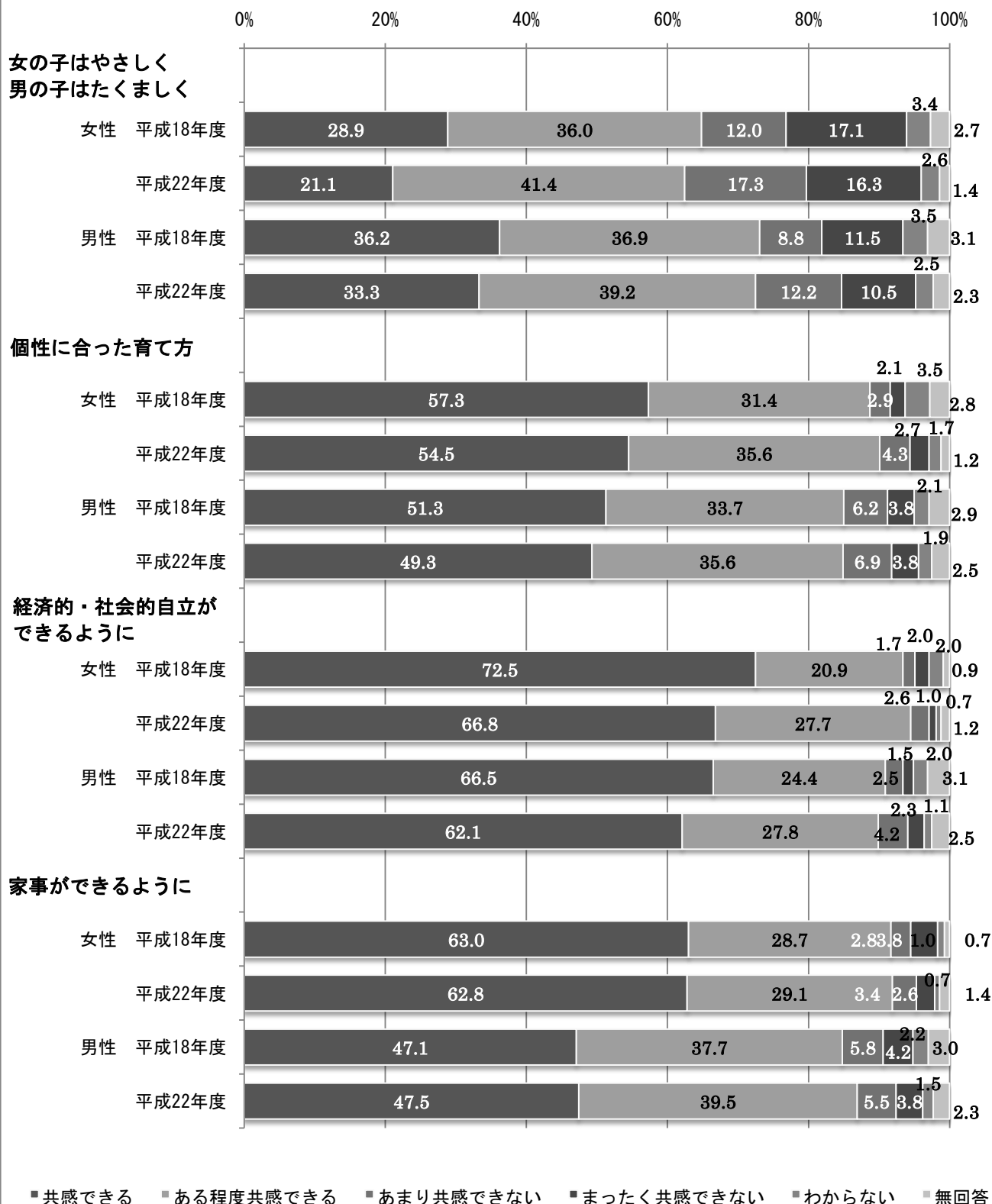
(3) 女の子も男の子も経済的，社会的自立ができるように育てる方がよい



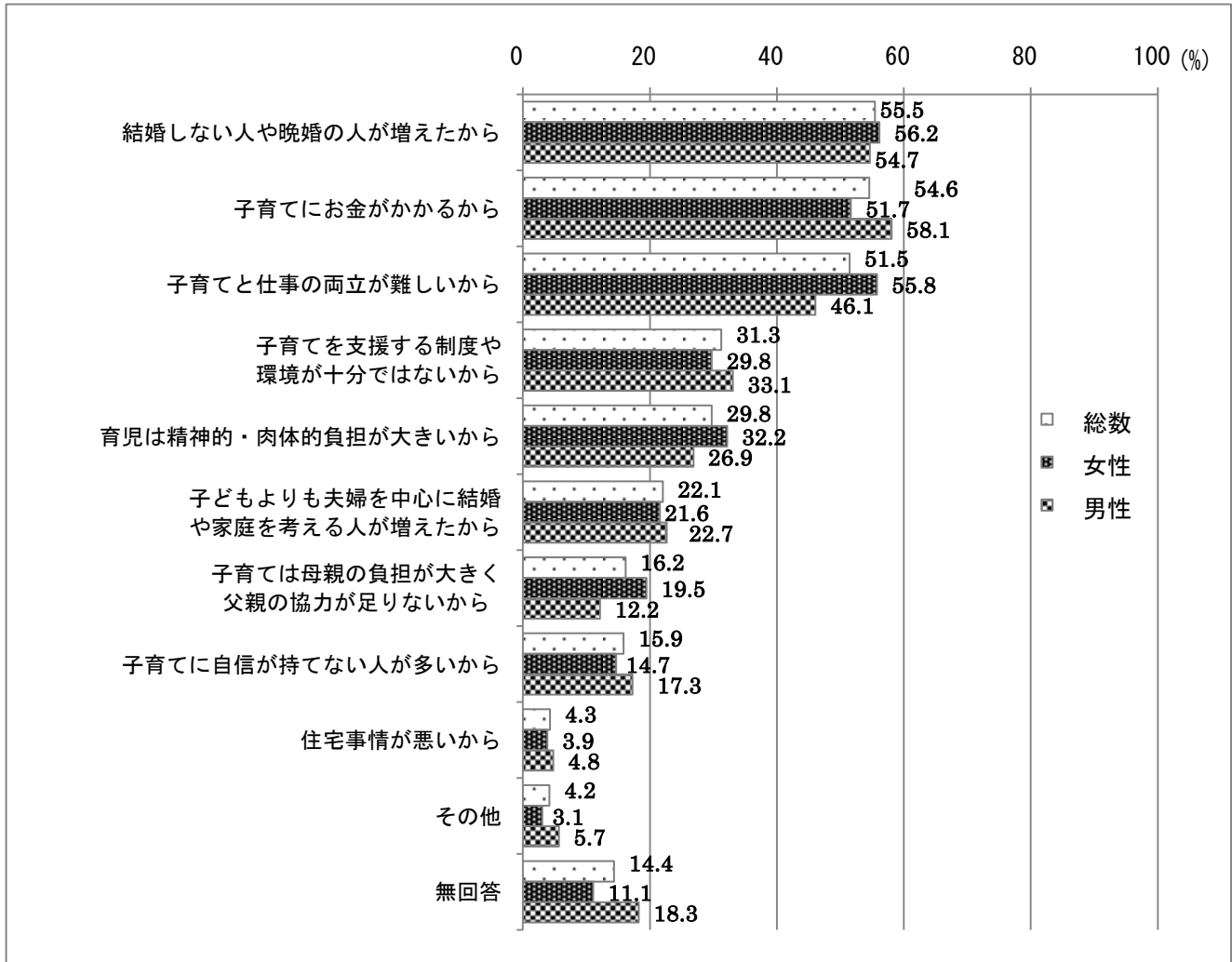
(4) 女の子も男の子も，家事ができるように育てる方がよい



前回調査（平成18年度）との比較



問 12 最近、出生率が少なくなっていますが、あなたは、その理由は何だと思えますか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



○ その他

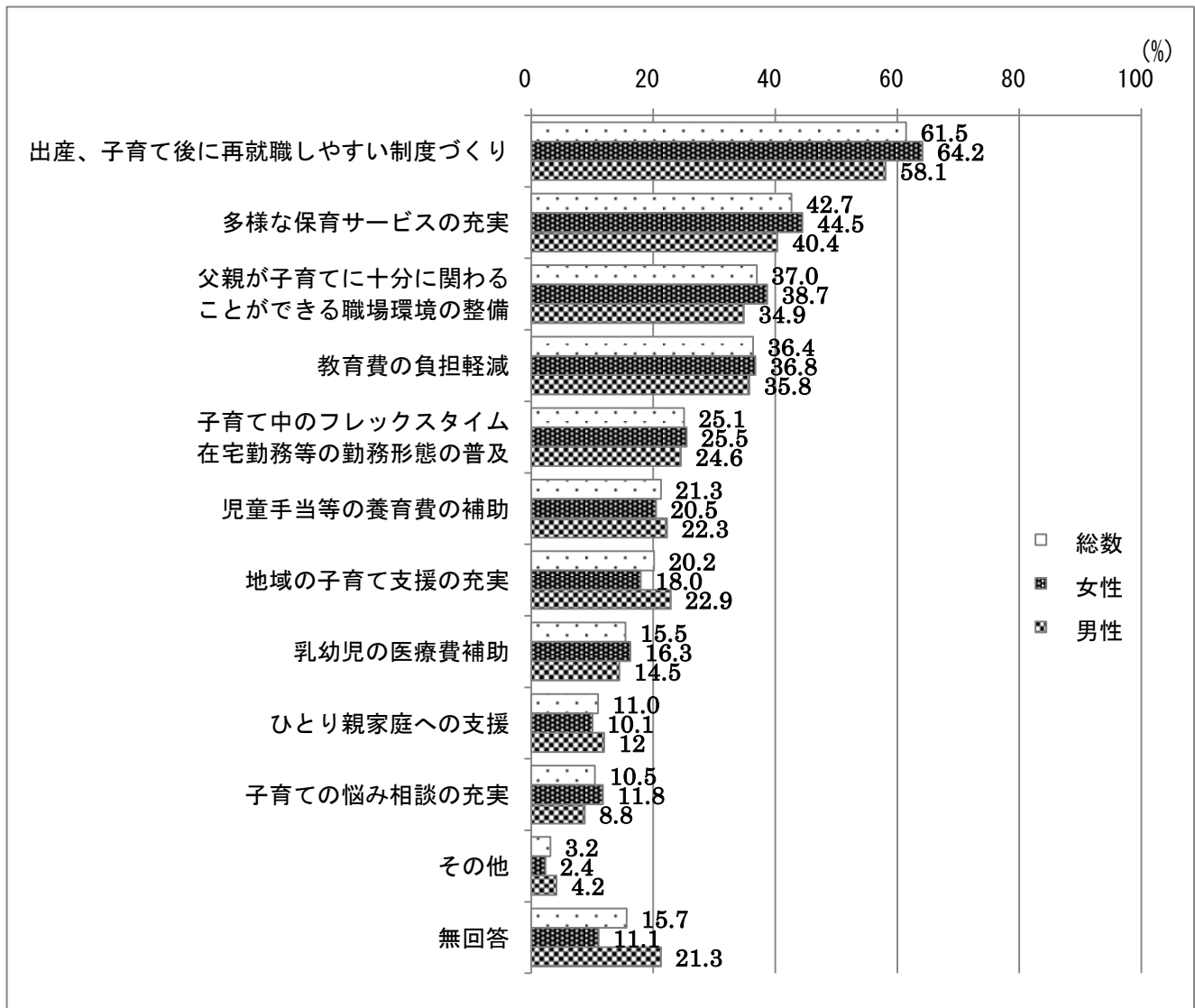
- 1 今の環境に満足しているから
- 2 制度の不十分さにつきる
- 3 昔のように、人は結婚して子どもを産むのが当たり前の世の中ではなく、自分の自由を優先して、人のためではなく自分のために生きる生活をする人が増えたから
- 4 企業等の理解不足、むしろ阻害している（不況等リストラ）
- 5 墮胎はかなりあると思われる。出生率ばかり出すのではなく最近の墮胎を比較すべきである
- 6 マニュアル的な考え方で全体を見て、柔軟な考え方ができないから。
- 7 将来に希望を持ってない
- 8 核家族の現状や祖父母との別居問題
- 9 保育所等不十分
- 10 女性の社会進出、若年層の正規雇用が困難
- 11 成熟した社会では出生数が少なくなりがちである

【全体】

出生率低下の理由のうち、回答が多かったのは、「結婚しない人や晩婚の人が増えた」（55.5%）、「子育てにお金がかかる」（54.6%）、「子育てと仕事の両立が難しい」（51.5%）であることから、少子化対策の観点から、喫緊の課題として、子育てと仕事の両立支援等を進めるため、男女ともに子育て等をしながら働き続けることができる環境を整備していく必要がある。



問 13 あなたは、安心して子どもを生み育てるためには、何が重要だと思いますか。  
特に当てはまるものを3つまで選んでください。



○ その他

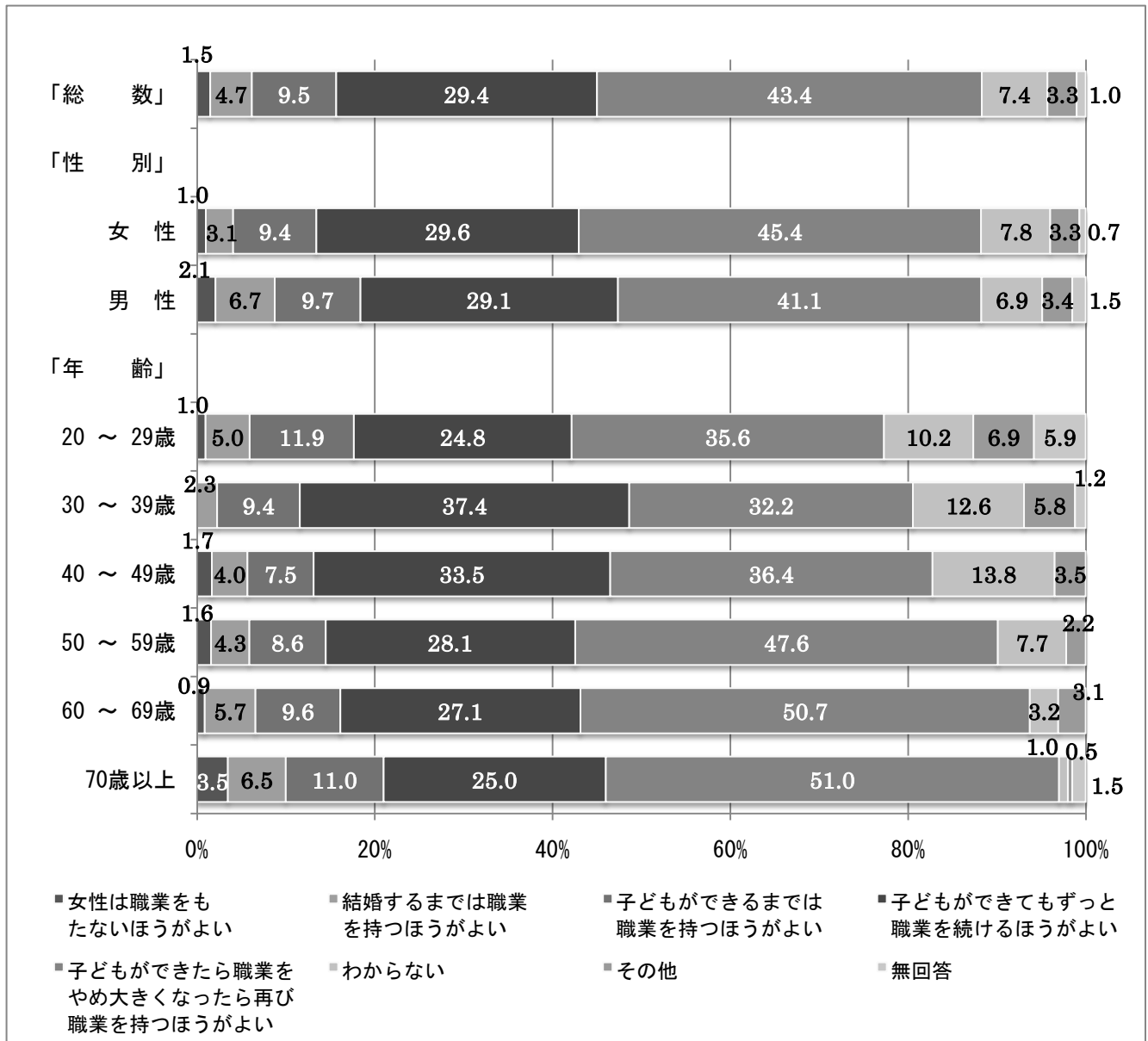
- 1 不妊治療などの費用の軽減や周りの人の理解
- 2 親の十分な健康管理
- 3 親として育てていくための準備，母親への子育て教育
- 4 経済的に安定していること
- 5 生活できる賃金支給や老後の保障
- 6 小学校6年まで医療費を無料にする
- 7 保育料や税金を下げる
- 8 地域社会の治安
- 9 2世帯3世帯の同居
- 10 平等で高度の教育がどの家庭でも受けられ，子どもの未来に希望を持たせられる環境

【全体】

子どもを生み育てるのに必要な事柄のうち、回答が多かったのは、「出産、子育て後に再就職しやすい制度づくり」(61.5%)と、「多様な保育サービスの充実」(42.7%)であることから、今後は、子育て等のために離職した女性の再就職・起業等を支援するほか、多様な保育ニーズに対応するため、延長保育、夜間保育、病児・病後児保育事業等を推進して保育サービス等の充実を図る必要がある。

## 就労について

問 14 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どう思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。



### ○ その他

- 1 女性が職業を持つことはよいことだと思う。ただ、子どもができたらかつてある程度の期間はお休みして子育てに専念し、また、復帰できるといいと思う。
- 2 核家族が増えたことにより仕事を続けたい女性に負担が多くかかるようになったのでは
- 3 本人が働きたければ働けばよい
- 4 子どもが小さいうちは家庭にしやすい仕事（フルタイムではなく勤務時間短縮とか在宅勤務的な仕事）に就き、中学生くらいからフルタイム的な仕事に移行できるとよいと思う
- 5 職業を持ってよいが、子どもや家庭を大事にする気持ちを持って、「私は働いているのよ」とならないようにしてほしい
- 6 資格がないと再就職は厳しいと思う
- 7 子育てに必要な費用は夫婦で協力すべき
- 8 子どもができて辞めなくてよい職場環境を整えてほしい

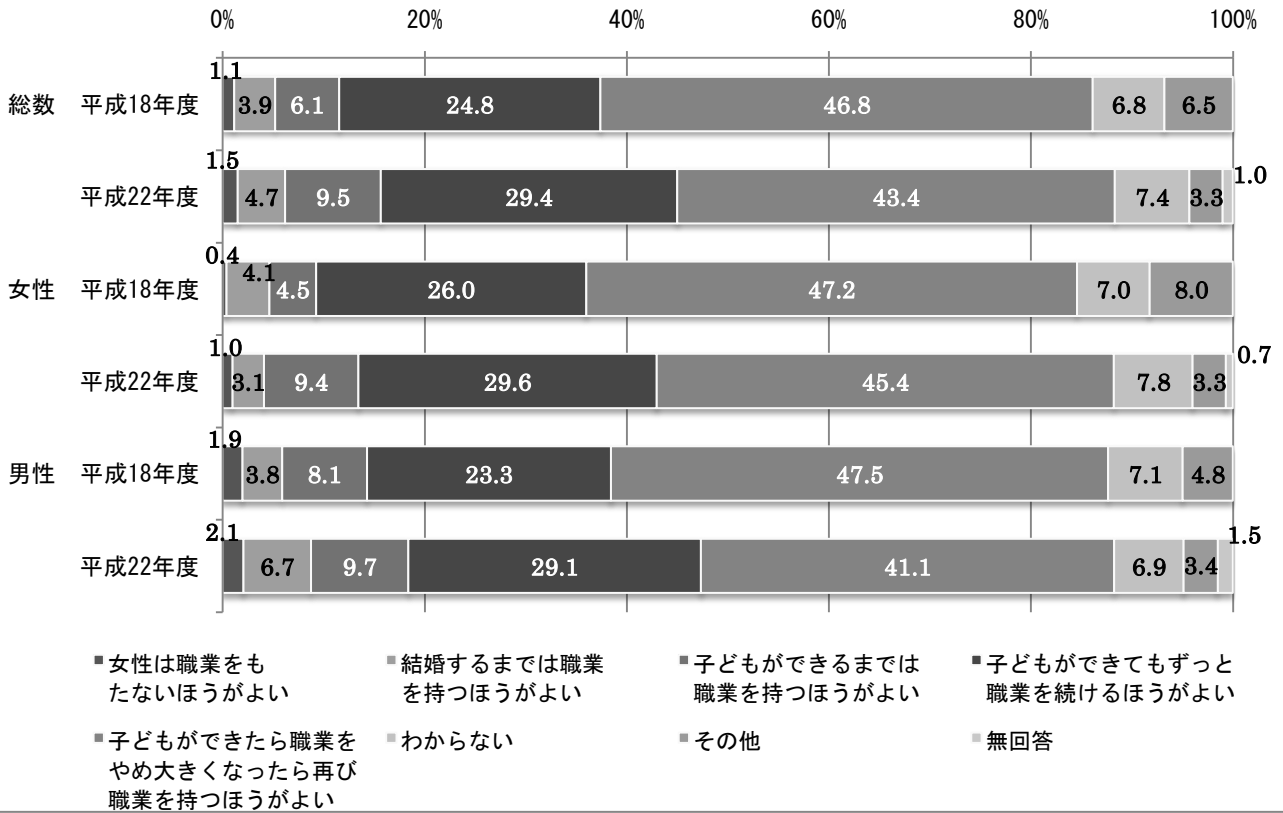
- 9 職業を持ちたい人は、子どもがいるいないにかかわらず、職業を持つことができる社会にするべき
- 10 子どもを見てくれる方がいれば職業を持つほうがいい
- 11 当事者の環境や条件による
- 12 経済的に女性も就労をしなければやっていけないから、仕方なく働いているという実態もある
- 13 女性は職業を持つほうが良い
- 14 いつしたほうがいいかを考えず、やりたい時にやるのがいい
- 15 お互いが納得できる道を選ぶ
- 16 長期育児休暇
- 17 男女の区別なく社会のために働く姿は、結婚・出産に左右されずみせていきたい
- 18 個々の生活事情にあった選択が出来るように、多様な就職再就職の道があれば、就職した方が良い
- 19 職業を持つことに性別は関係ないが、子どもを出産した直後は一定期間子どもが母親を必要とする時間があると思うので、それをサポートできる体制がいると思う  
就労を続けるか否かの選択を本人に与えることのできる体制
- 20 家族みんなでお金を稼ぐという考え方で、必要なときは仕事をする、子育てが必要ならそっちを優先する。柔軟な考え方をすればいいと思う。
- 21 基本的には、女性も生き生きとした人生を選択するために、いきがいのある職業を持ちたい
- 22 女性だからどうか思わない。職業は生活をする上で必要だから家庭で判断すべき
- 23 自分が両立できるという自身があるなら職業を持つほうが良い
- 24 子どもができるまでは職業を持つほうがよいと思うが、その後は必要に応じて続けてもよいと思うし、続けなくてもよいと思う
- 25 個人の健康状況による
- 26 専業主婦でも、職業を持っても個々の希望通りの形態でOK だと思う
- 27 祖父母のいる家族なら職業を続ける方がよい
- 28 社会において男性も女性も大事であり、その中で子育ても皆で協力して、不安なく支障なくできる世の中になってほしい

#### 【全体】

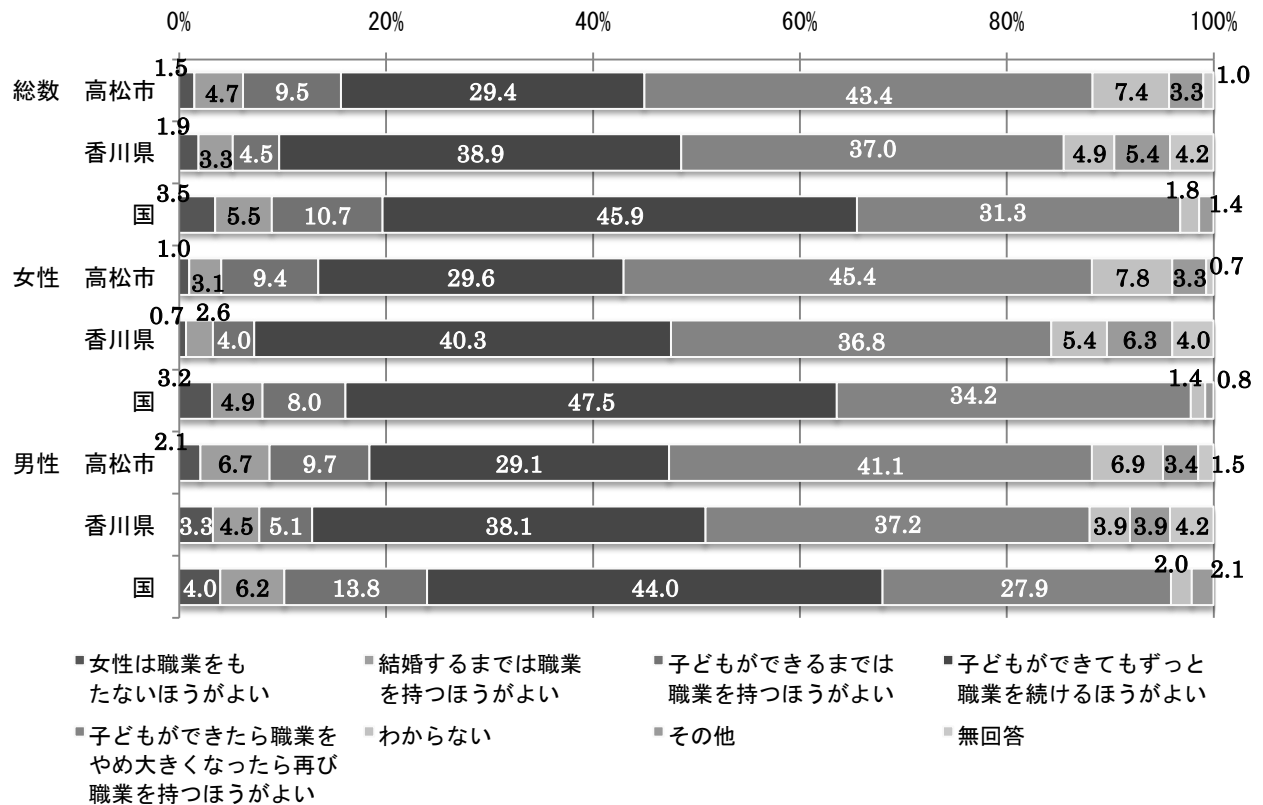
女性が職業を持つことに、賛成（「子どもができて職業を続ける」（29.4%）、「子どもができたなら職業をやめ大きくなったら再び持つ」（43.4%））は、全体の72.8%を占めている。

男性の約3割が「子どもができてずっと職業を続けるほうがよい」と希望しているのにもかかわらず、妻（女性）の負担となっている家事や育児、介護などに十分に関わっていない、希望と現実の乖離が見られる。そのことが子どもを持つことや、妻（女性）の就業維持に対して消極的な状況となっていることがうかがえる。

前回調査（平成18年度）との比較

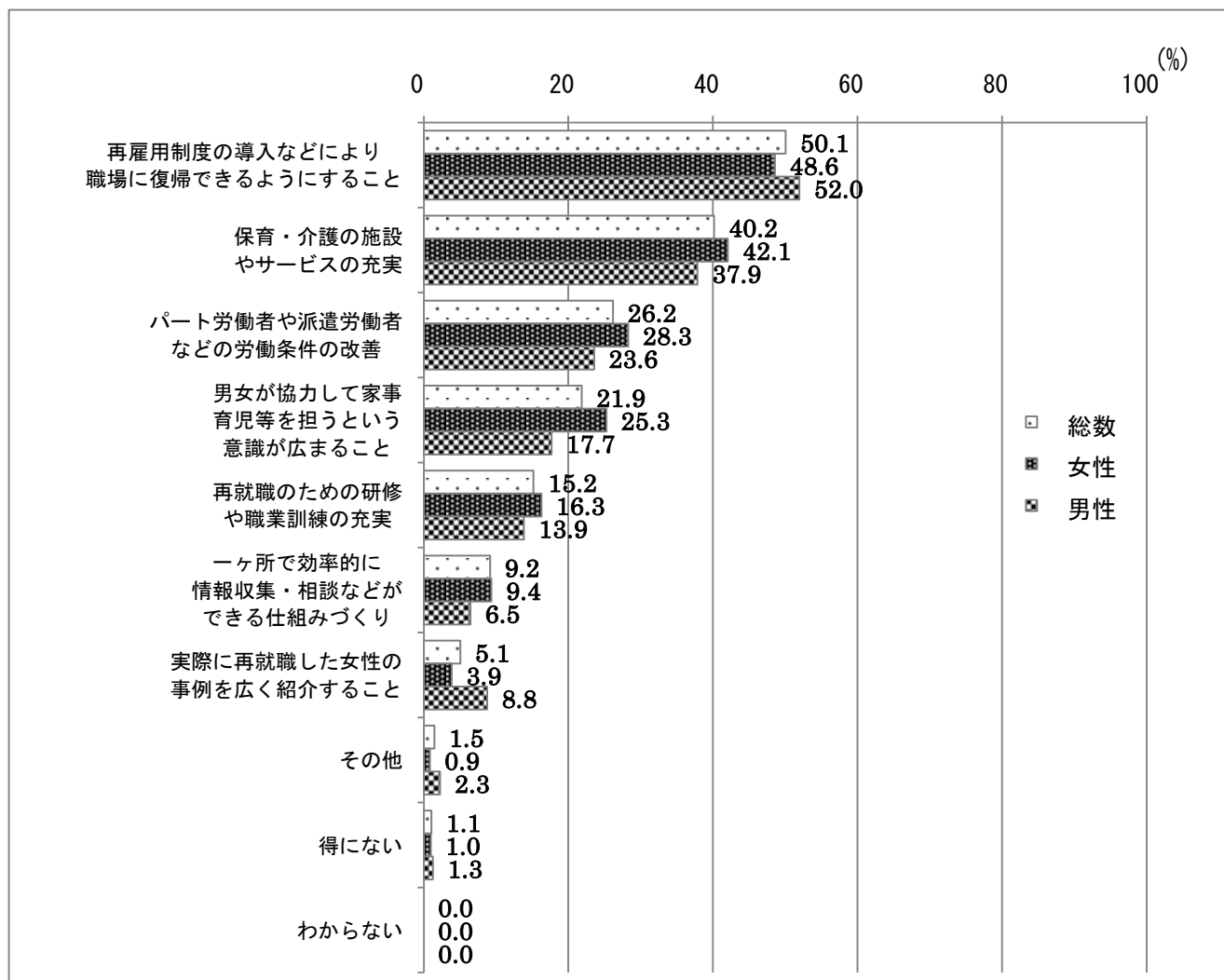


香川県・国との比較



〔 問 14 で「女性は職業を持たない方がよい」以外を選んだ方のみお答えください。 〕

問 15 出産・育児・介護などのため仕事をいったん辞めてから再就職を希望する女性が、再就職しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



○ その他

- 1 再チャレンジできるように手に職をつける等、実用的な資格を取れるチャンスを作ること
- 2 新たな資格取得・再研修のために大学などで短期研修
- 3 保育介護サービスを低料金で受けられること
- 4 一つの職場で続けられること
- 5 社会全体の意識を変えるべき。それは小学校のころからの教育に！
- 6 企業側の意識を政府が指導し、再就職者を率先して雇用する社会に

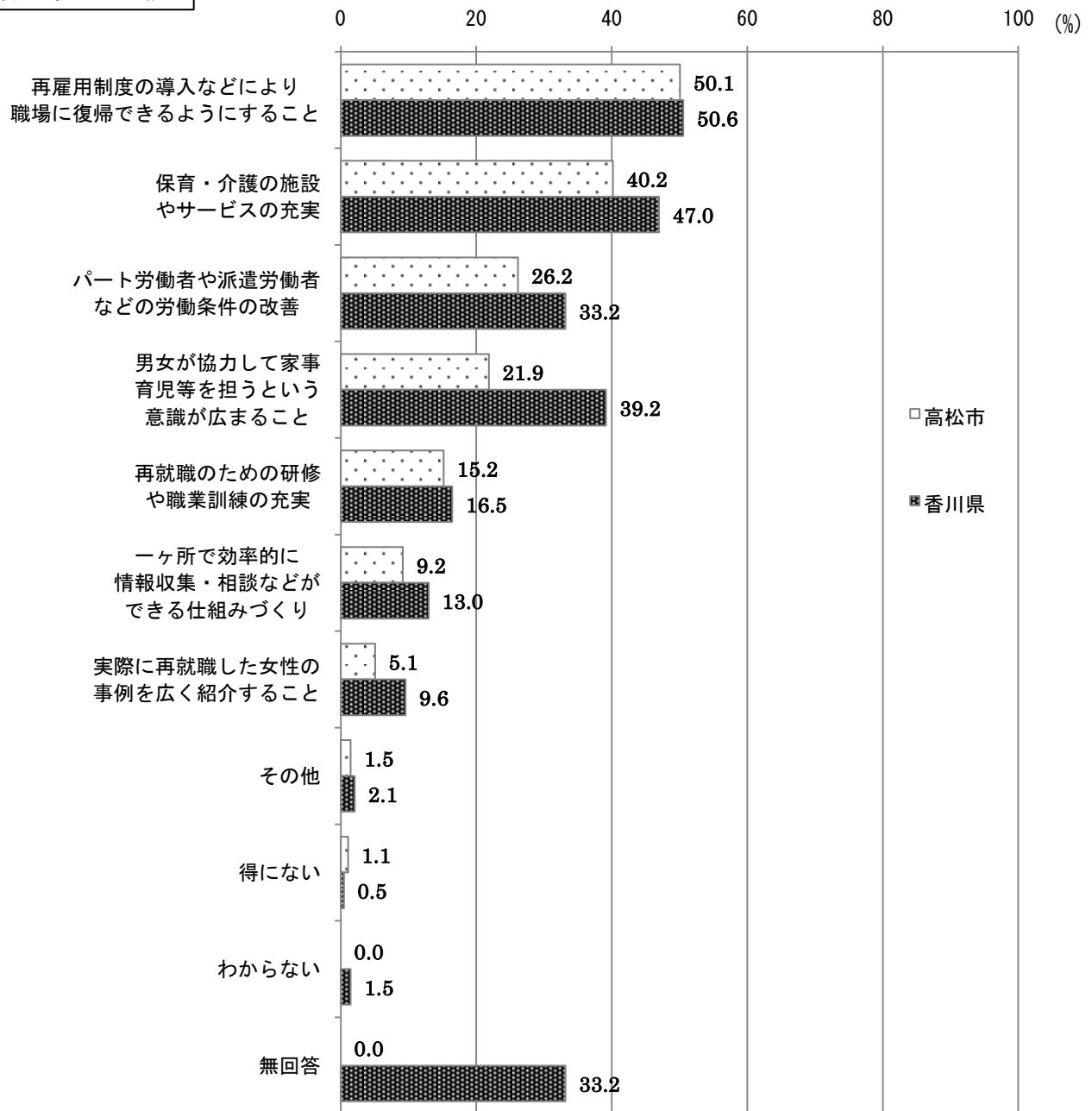
【全体】

女性の再就職支援に関して、回答が多かったのは、「再雇用制度の導入などにより職場に復帰できるようにする」(50・1%)、「保育・介護の施設やサービスの充実」(40・2%)であることから、女性が、結婚・妊娠・出産・育児期に直面する問題だということが分かる。

今後は、男女共同参画の観点から、女性の再就職等を支援するほか、多様な保育ニーズに対応するため、延長保育、夜間保育、病児・病後児保育事業等を推進して保育サービス等の充実を図る必要がある。

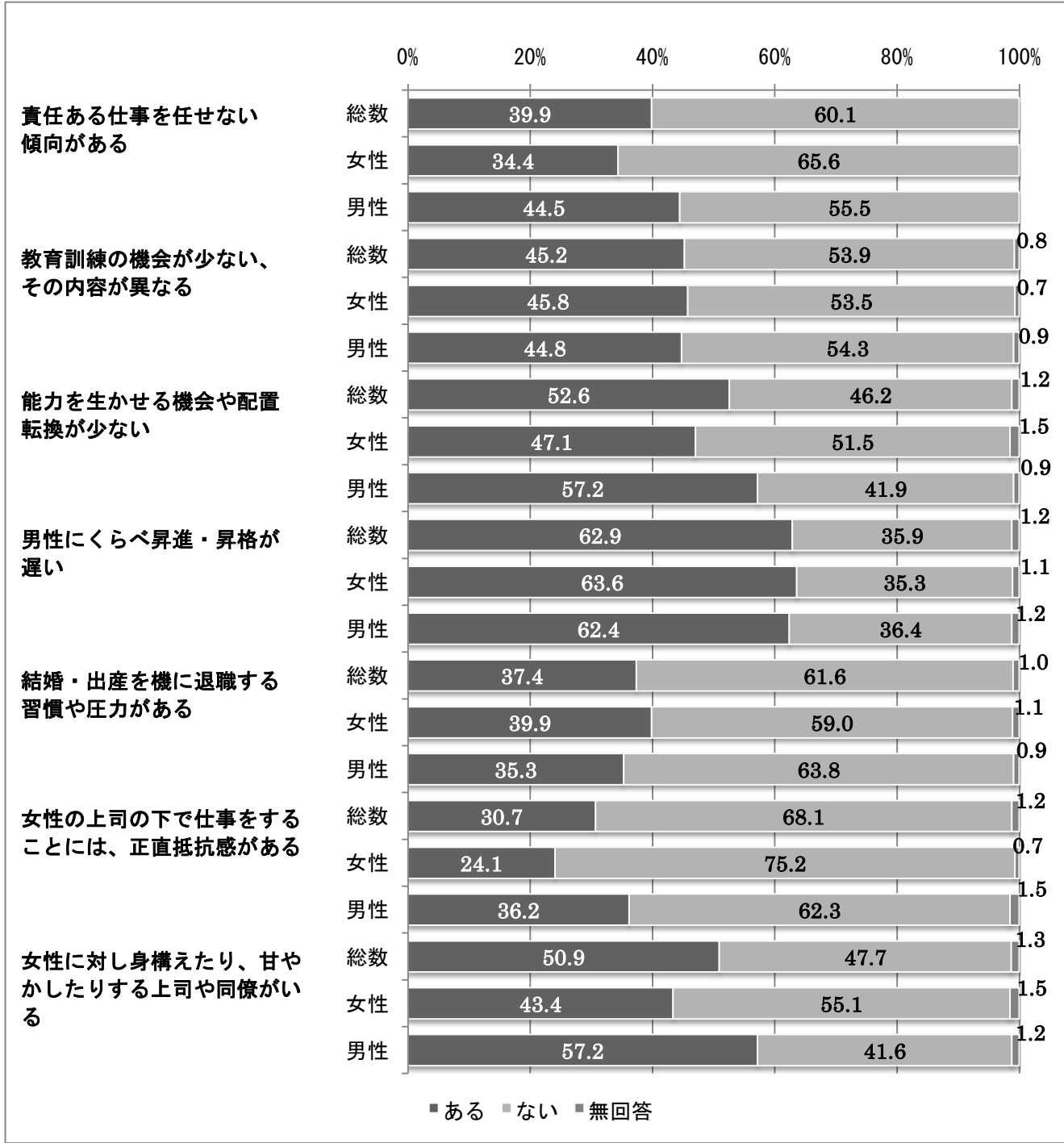
なお、県との比較においても回答が多かったのは、「再雇用制度の導入などにより職場に復帰できるようにする」(50・6%)と保育・介護の施設やサービスの充実(47%)である。

香川県との比較



〔 現在、お勤めの方にお伺いします 〕

問 16 あなたの職場の中で、女性について、次のように感じることはありますか。次のそれぞれについて当てはまる数字を選んでください。



【全体】

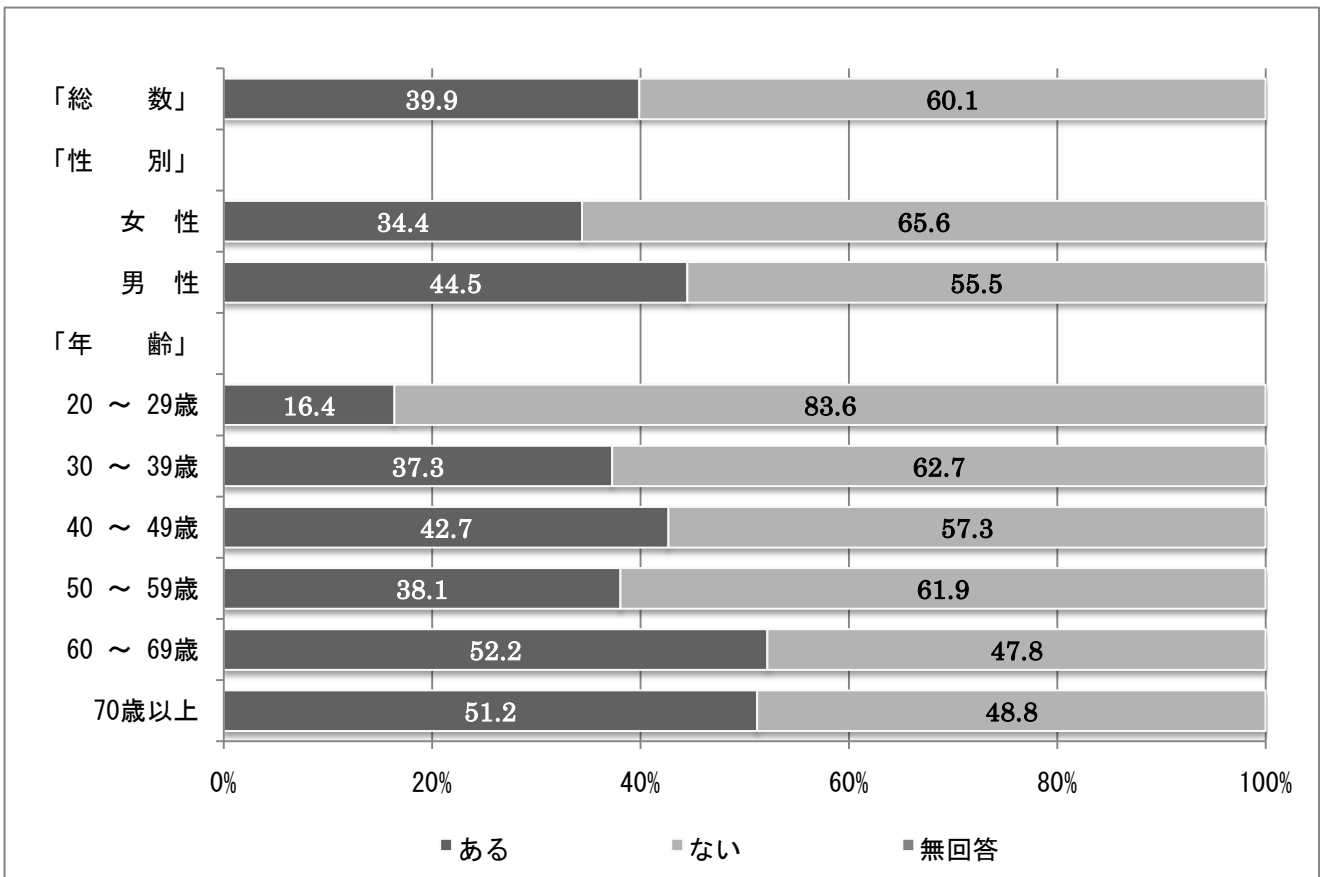
職場の女性に関する事柄のうち、「感じる」と最も回答が多かったのは、「男性に比べ昇進・昇格が遅い」(62.9%)であり、男女別では、女性の63.6%、男性の62.4%が感じていることが分かる。

第2部の事業所実態調査の問29でも、男女の格差をなくすためには「昇格・管理職への登用」が必要とする回答が3番目に多い。

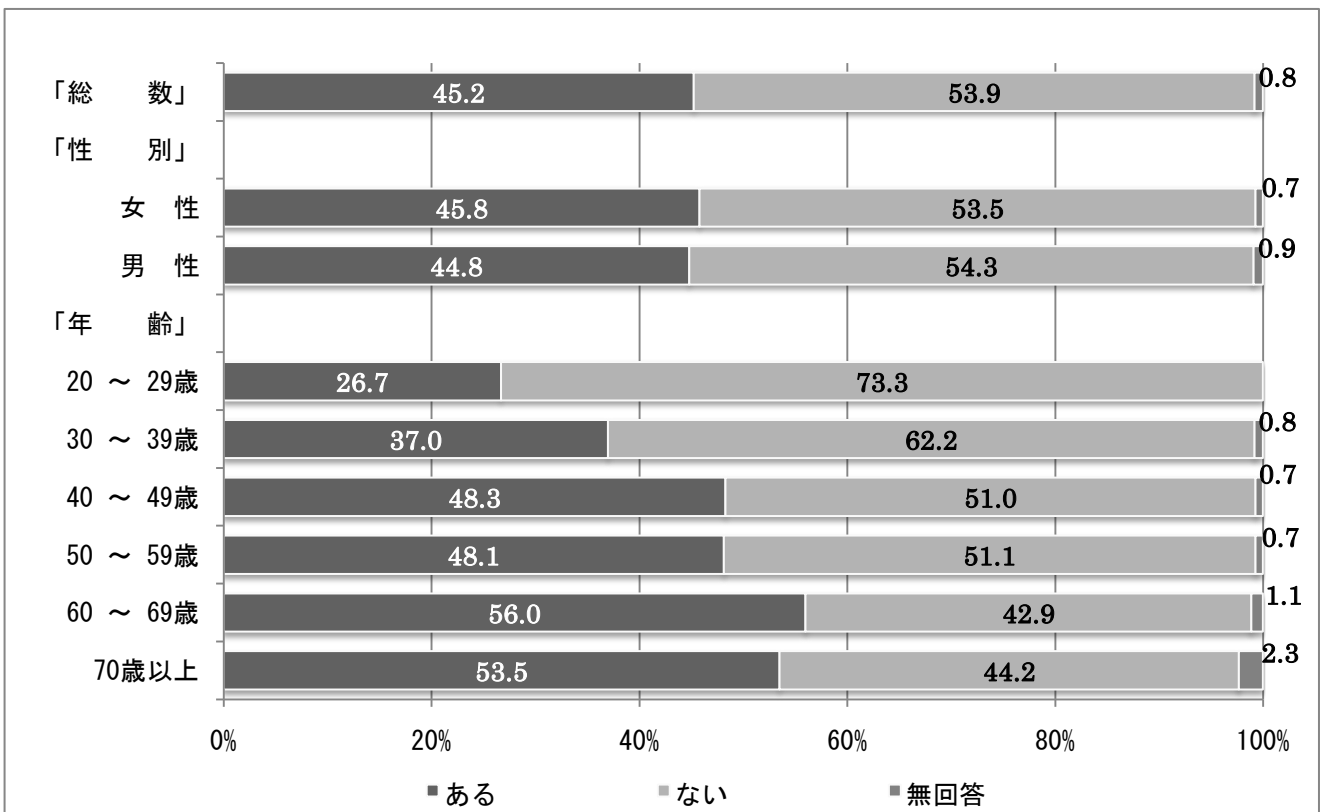
このような結果から、今後も、引き続き女性の管理職登用に関する取組を推進する必要がある。

このほか、「能力を生かせる機会や配置転換が少ない」(感じる52.6%、感じない46.2%)は、それぞれ割合が拮抗していることから、今後も引き続き、女性の能力の活用や職域の拡大等への取組を推進する必要がある。

(1) 責任ある仕事を任せない傾向がある

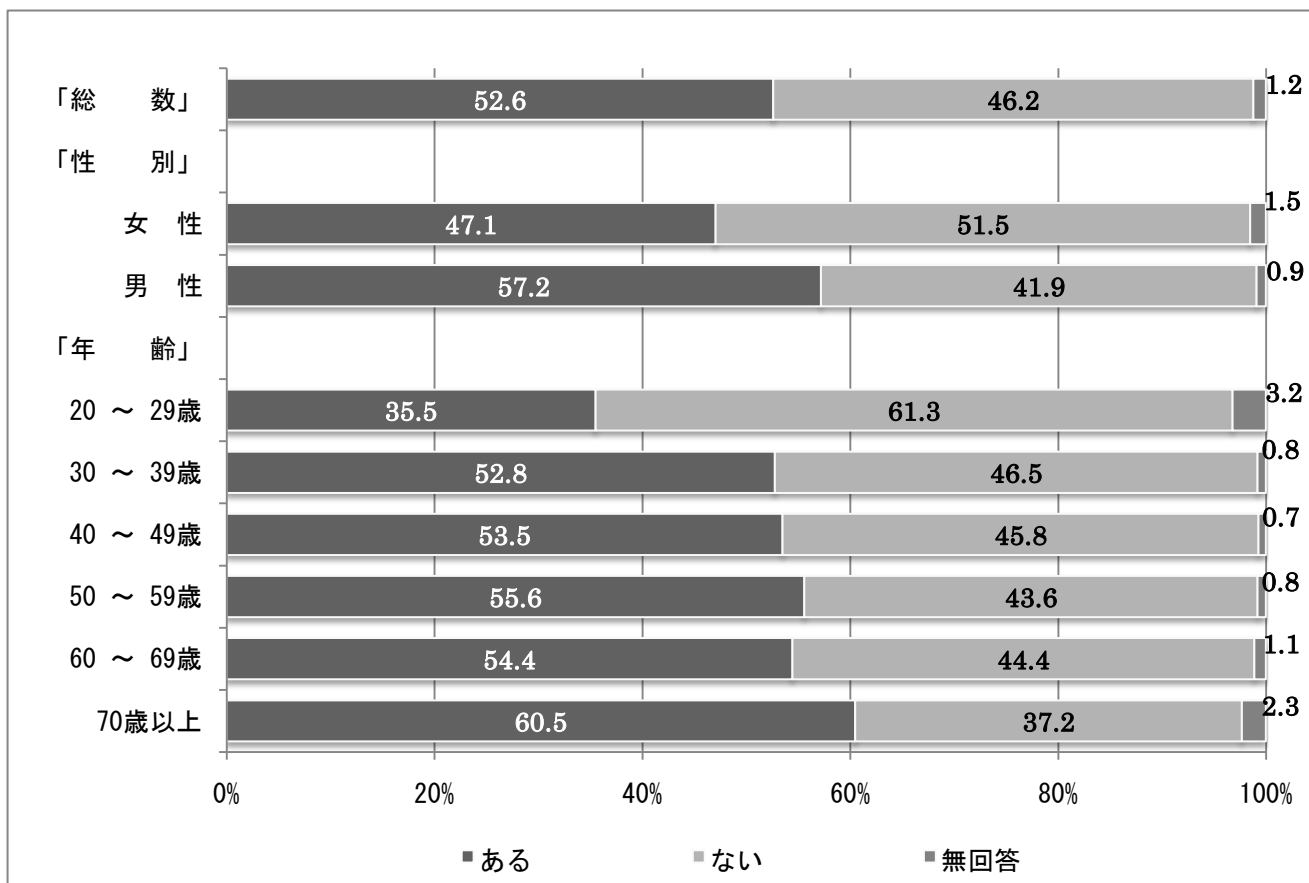


(2) 教育訓練の機会が少ない, その内容が異なる

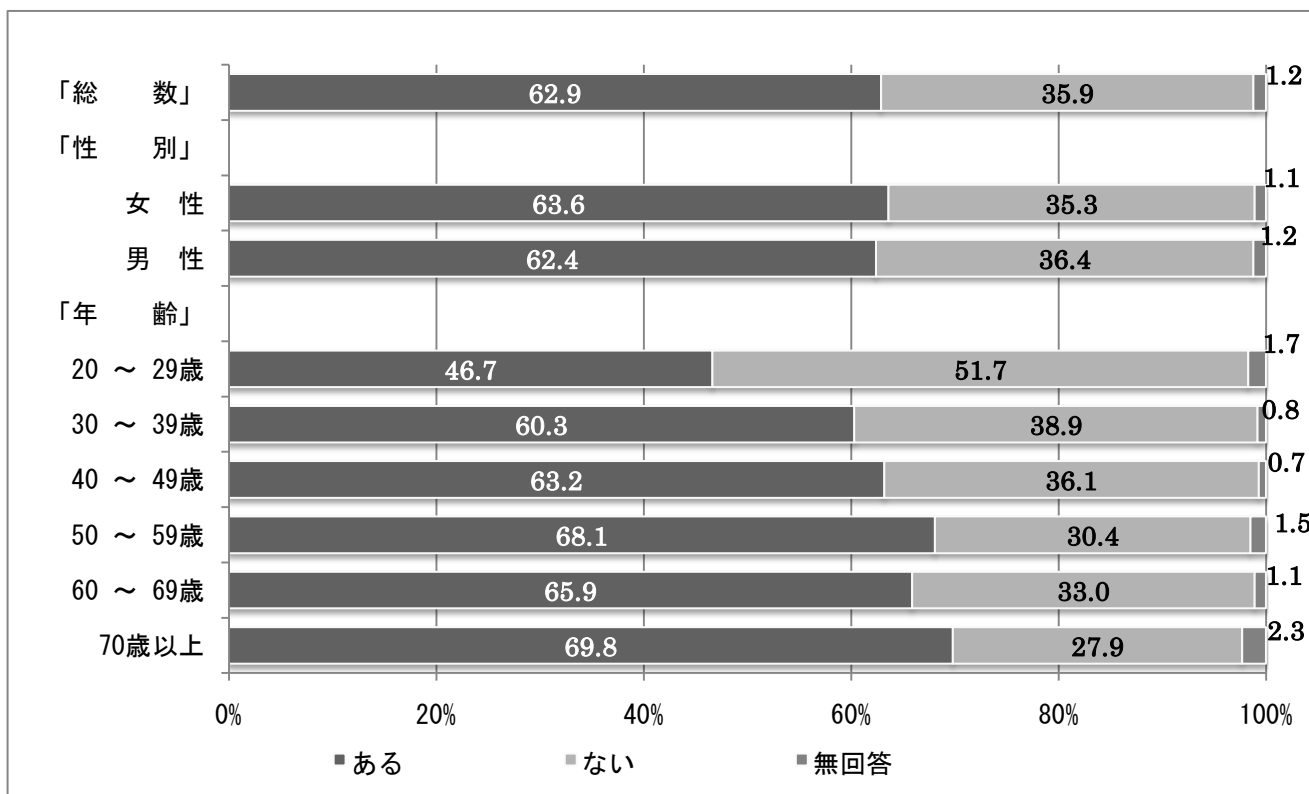




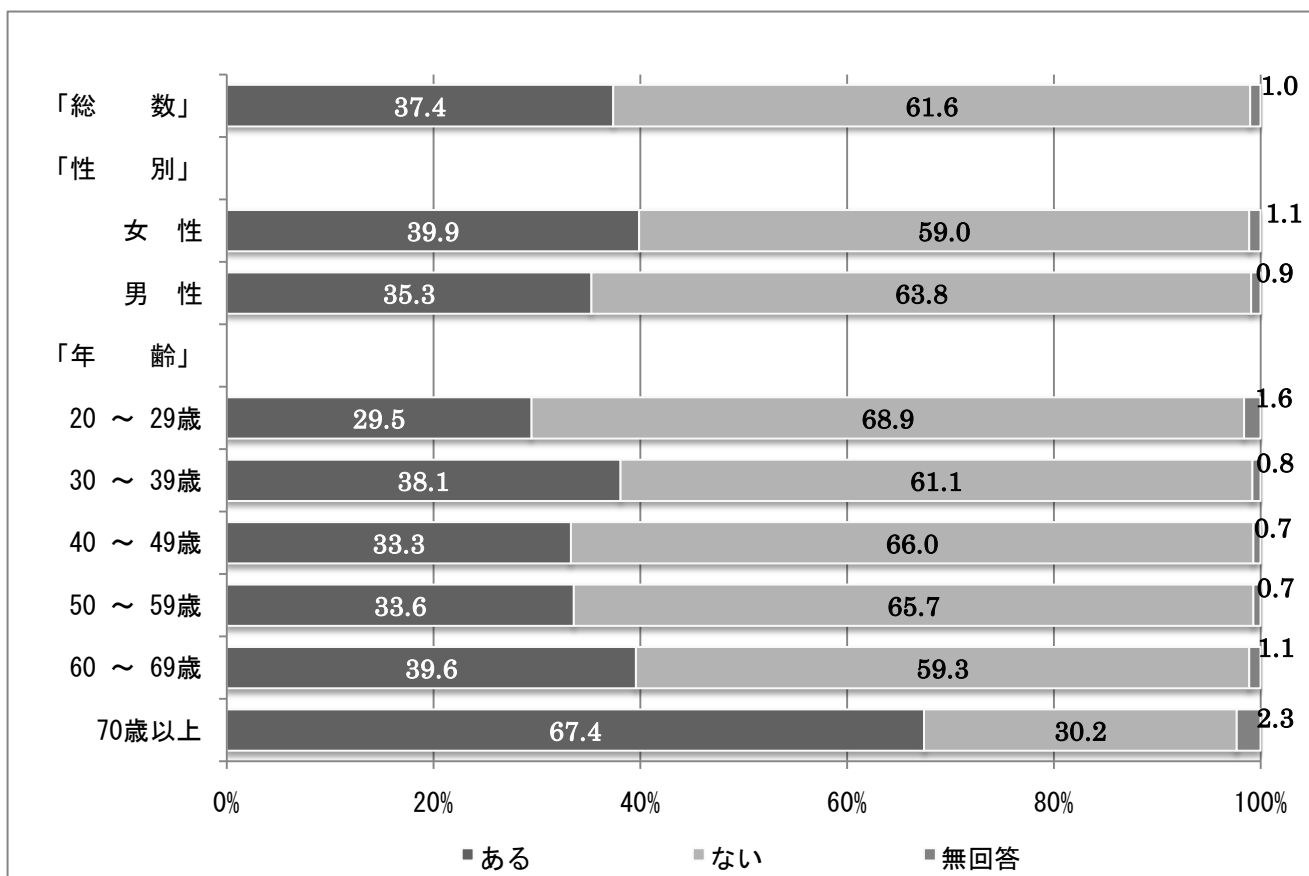
(3) 能力を生かせる機会や配置転換が少ない



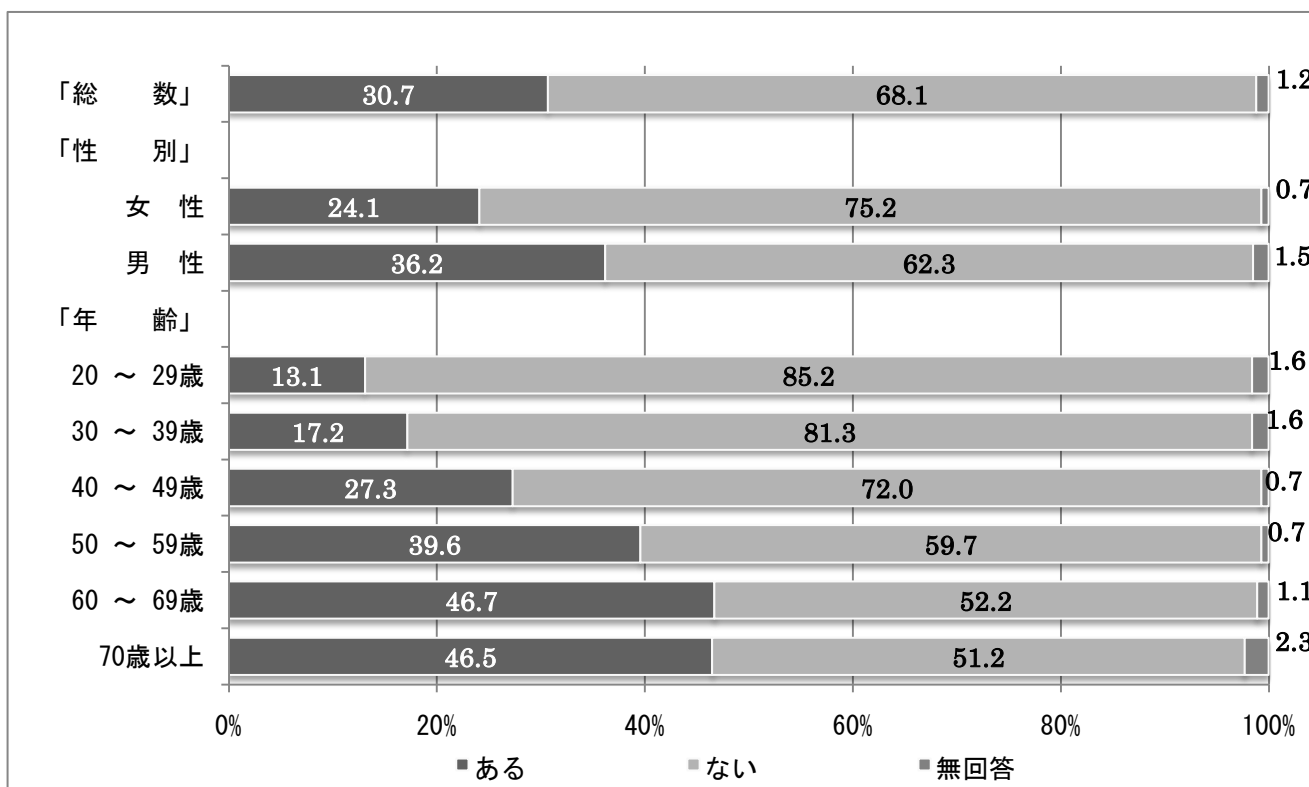
(4) 男性に比べ昇進・昇格が遅い



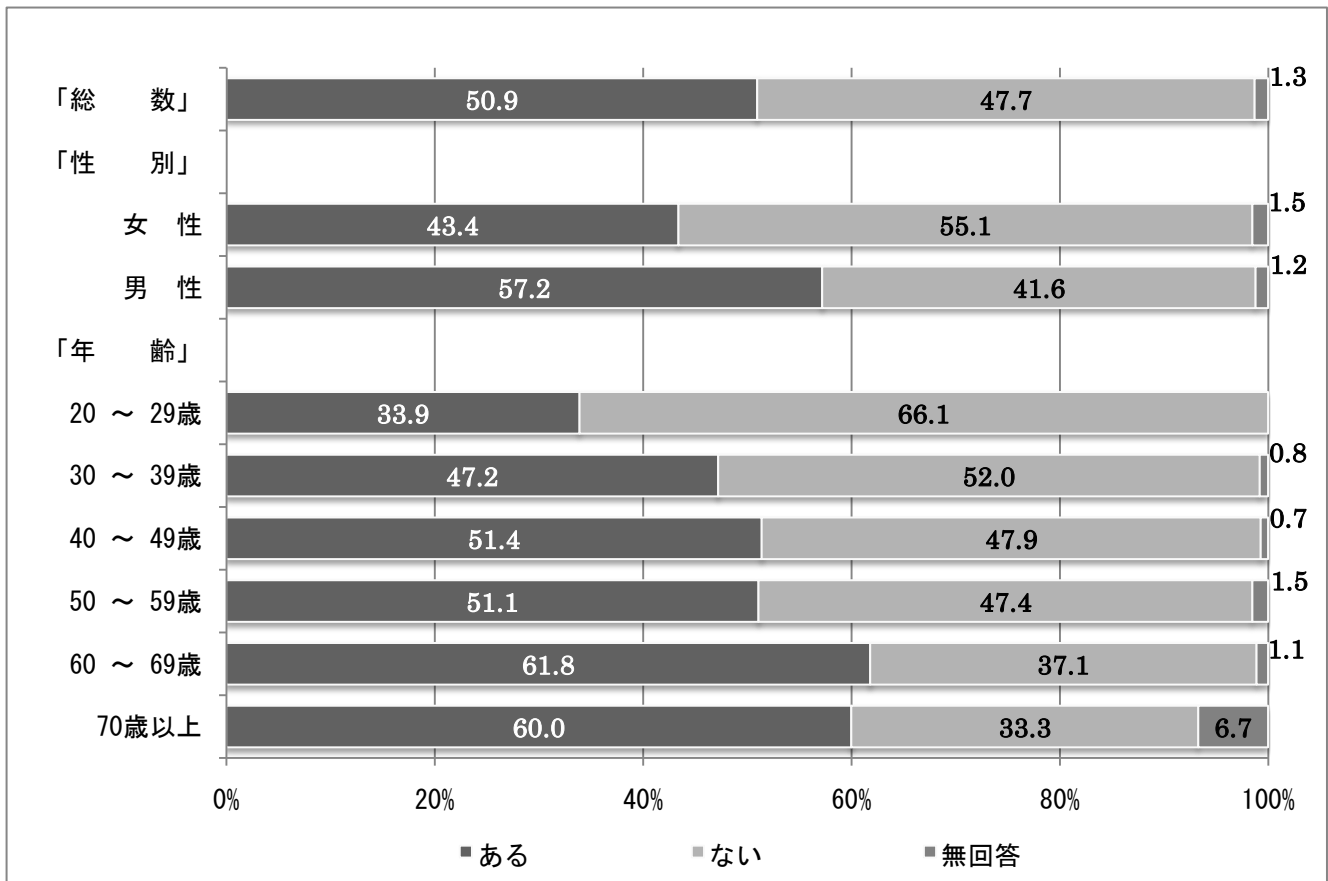
(5) 結婚・出産を機に退職する習慣や圧力がある



(6) 女性の上司の下で仕事をするには、正直抵抗感がある

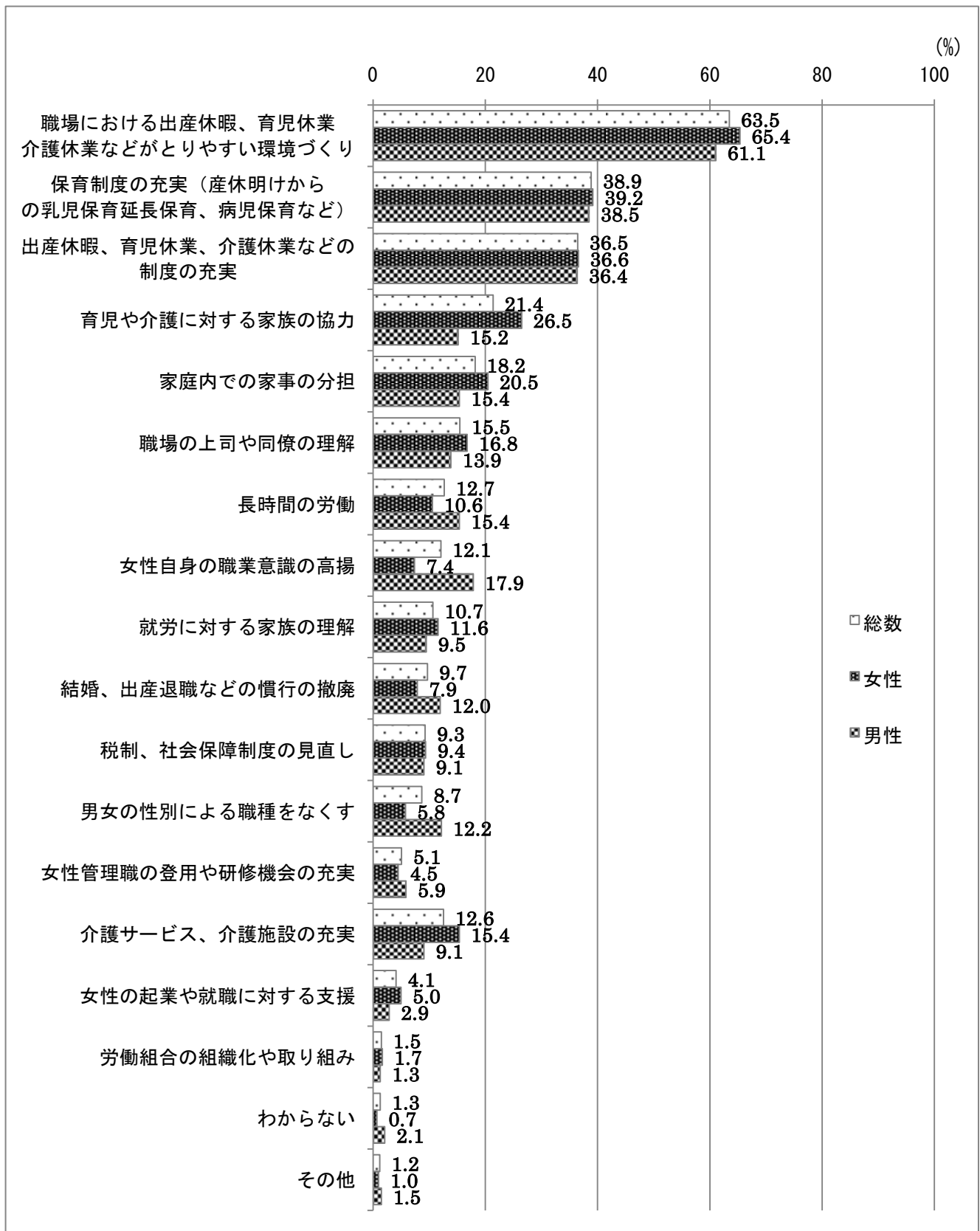


(7) 女性に対し身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる



〔職業を持っている人も持っていない人も全員にお伺いします。〕

問17 女性と男性が平等に仕事を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要と思われるものを3つまで選んでください。



## ○ その他

- 1 労働の評価基準を透明化し、その適用に性別による差異を導入しない  
また、評価者の評価も同様に行うことが欠かせない
- 2 公共の施設による内職紹介や仲介
- 3 能力に男女差があるから、女性が仕事をするより、よりよい子育てに力を入れるべき
- 4 平等にならない。一年休めば職を失う
- 5 公務員だけが恵まれている環境を社会全体へ普及させてほしい。  
公務員の社会状況の感覚欠如（世の中のどれくらいの会社で産休完全に取りれるのか疑問）
- 6 性別で分けるのではなく、「その人は何ができるか」で仕事は決められるべき
- 7 女性と男性が平等に仕事を続けたほうが良いとは思っていませんが、子育てする女性を尊重する世の中になれば良い

### 【全体】

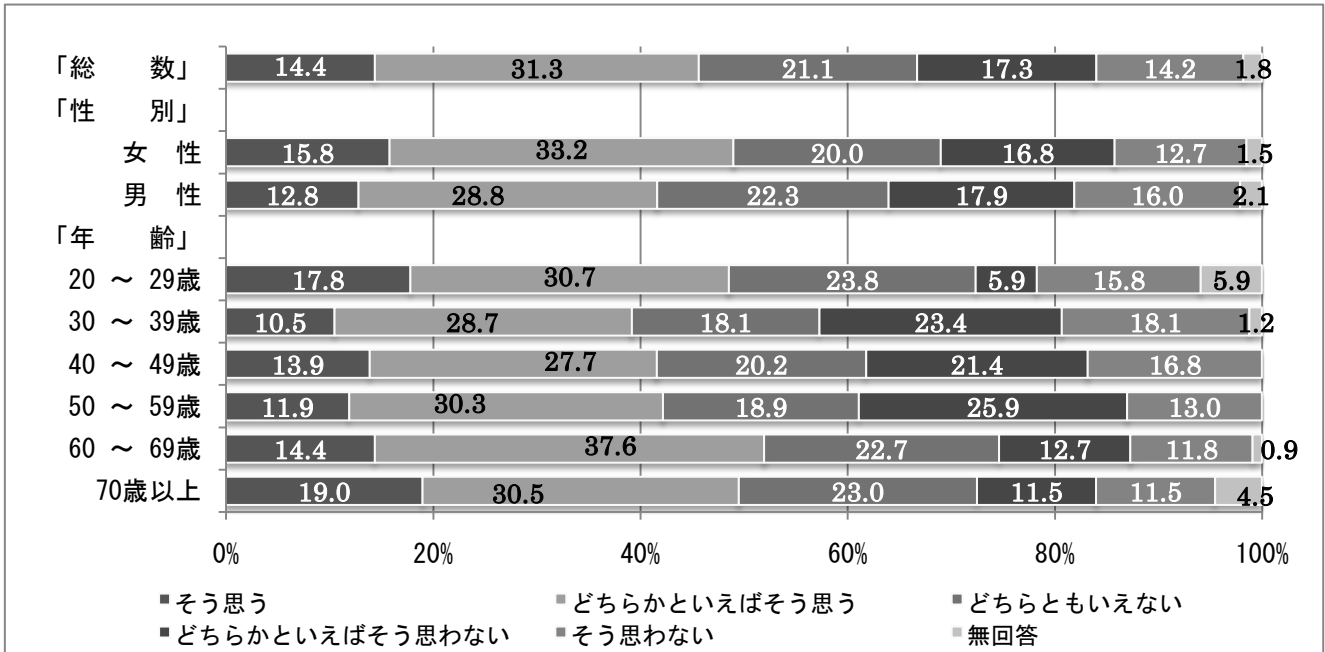
男女が平等に仕事を続けていくために必要なことのうち、回答が多かったのは、「職場における出産休暇、育児休業、介護休業などがとりやすい環境づくり」（63.5%）、「保育制度の充実（産休明けからの乳児保育、延長保育、病児保育など）（38.9%）である。

先の問13でも、安心して子どもを生み育てるために必要なこととして、回答が多かったのは、「出産、子育て後に再就職しやすい制度づくり」（61.5%）、「多様な保育サービスの充実」（42.7%）であり、また、問15の女性が再就職しやすくするために必要なこととして、回答が多かったは、「再雇用制度の導入などにより職場に復帰できるようにする」（50.1%）、「保育・介護の施設やサービスの充実」（40.2%）である。

それぞれの問いに共通して言えることは、女性が出産後も仕事を続けていくためには、多様な保育ニーズに対応した保育サービス等の充実を図る必要があることである。

## ワーク・ライフ・バランスについて

問 18 あなたは、仕事や家庭、地域・社会活動、趣味・娯楽など、自分が希望する時間の使い方ができていると思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。

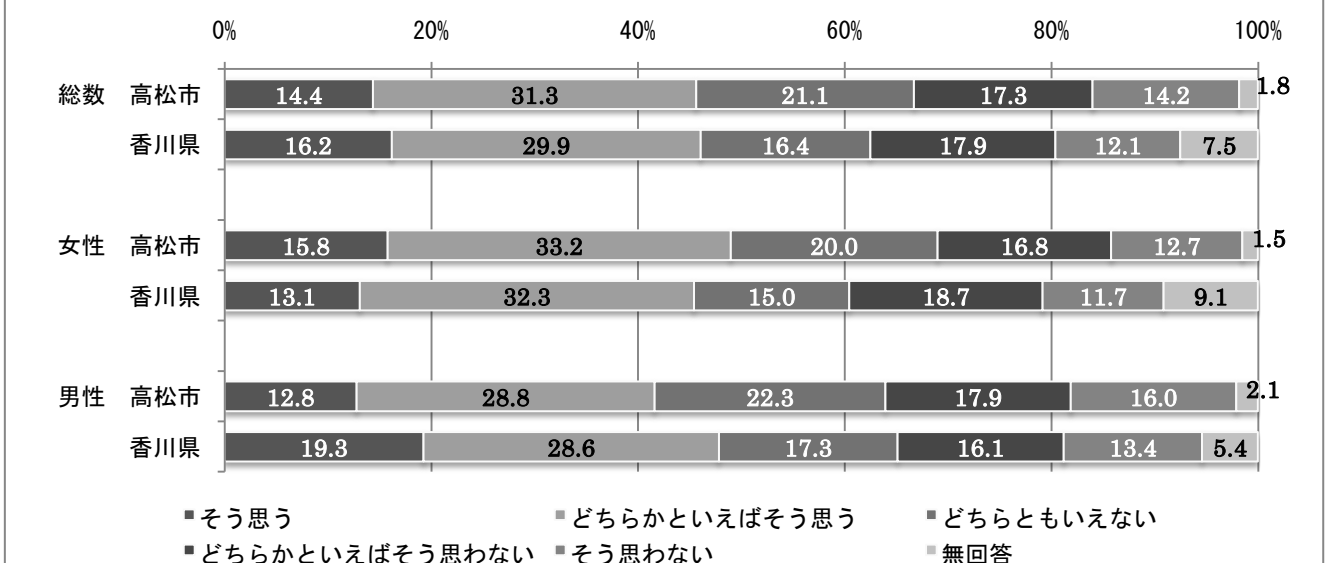


### 【全体】

自分が希望する時間の使い方のうち、「できていると思う」（14.4%）、「どちらかといえばできていると思う」（31.3%）は、全体の45.7%を占めていることから、約半数の人が、自分が希望する仕事や家庭、地域・社会活動などに時間を使っている。また、県との比較においてもほぼ同じ結果となっている。一方、「できていないと思う」（14.2%）、「どちらかといえばできていないと思う」（17.3%）が、全体の31.5%を占めており、今後、重点的にワーク・ライフ・バランスを推進していく必要がある。

第2部の事業所実態調査の間22のワーク・ライフ・バランスでも、回答が多かったのは、「どちらかといえば重視している」（28.1%）、「重視している」（13.6%）であり、全体の41.7%を占めている。また、同調査の間23のワーク・ライフ・バランスの具体的な取組のうち、回答が多かったのは、時間・半日単位での有給休暇の取得（22.8%）と、育児や介護のための短時間勤務制度（15.6%）と、ノー残業デーの設定（14.1%）である。

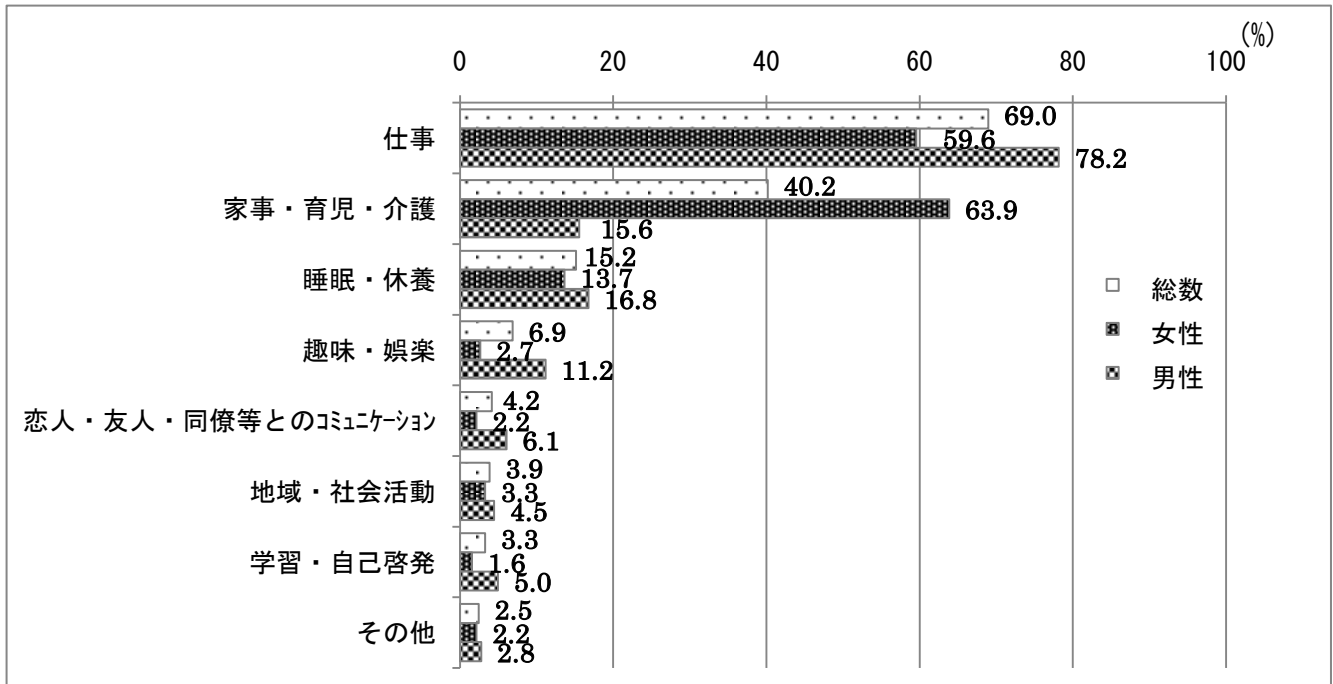
### 香川県との比較



問 18 で「4 どちらかといえばそう思わない」または「5 そう思わない」を選んだ方のみ、  
問 19 と問 20 にお答えください。それ以外の方は問 21 へ

問 19 あなたが、「時間を取りすぎていると思う活動」、「時間が取れていないと思う活動」は、ど  
れですか。それぞれ、特に当てはまるものを 2 つまで 選んでください。

(1) 時間を取りすぎていると思う活動



○ その他

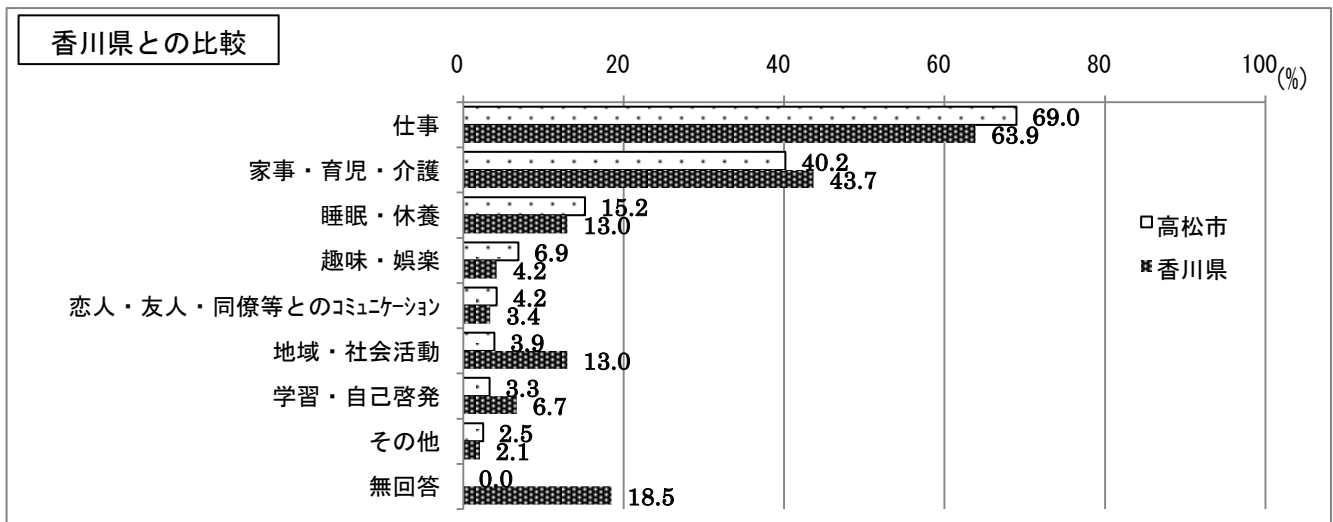
- ・努力と工夫で作出すもの

【全体】

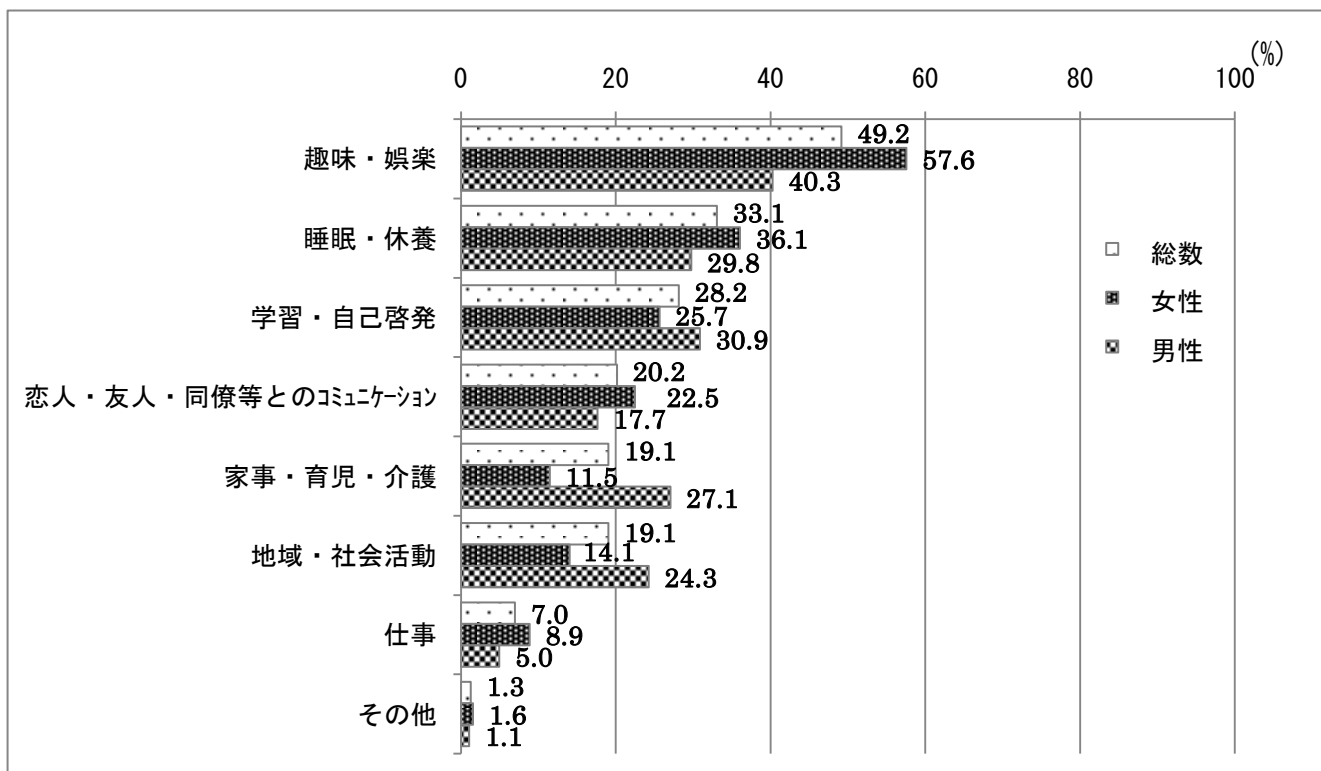
時間を取りすぎていると思う活動のうち、回答が多かったのは、「仕事」(69.0%)「家事・育児・介護」(40.2%)である。特に、仕事に関しては、女性(59.6%)より男性(78.2%)が時間を取りすぎていることが分かる。一方、家事・育児・介護に関しては、男性(15.6%)より女性(63.9%)が4倍多い結果となっている。

ワーク・ライフ・バランスは、「男性は仕事中心、女性は家事・育児中心」という伝統的な性別による役割分担を見直し、より男女が平等で柔軟な社会を実現するための指針となっていることから、今後は、重点取組として、推進していく必要がある。

香川県との比較



(2) 時間が取れていないと思う活動



○ その他

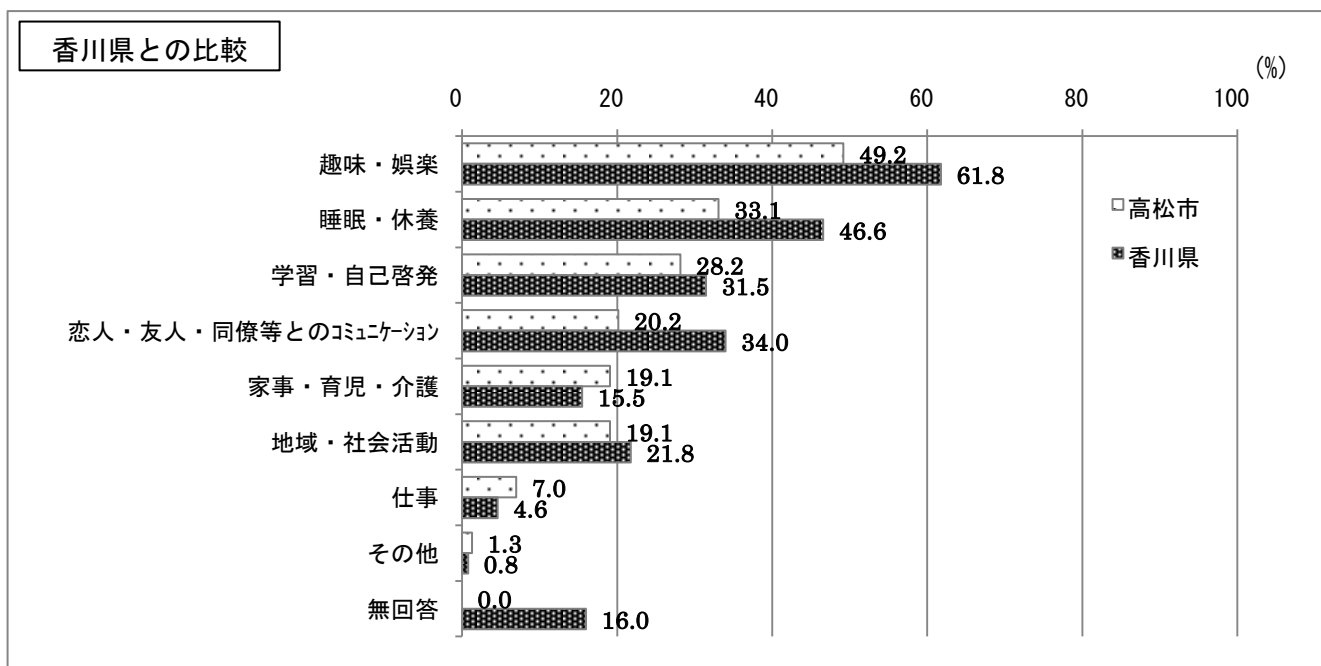
子どもの教育のために使う

【全体】

時間が取れていないと思う活動のうち、回答が多かったのは、「趣味・娯楽」(49.2%)、「睡眠・休養」(33.1%)であり、娯楽・趣味に関しては、男性(40.3%)より女性(57.6%)が、また、睡眠・休養に関しても、男性(29.8%)より女性(36.1%)が時間が取れていないことが分かる。

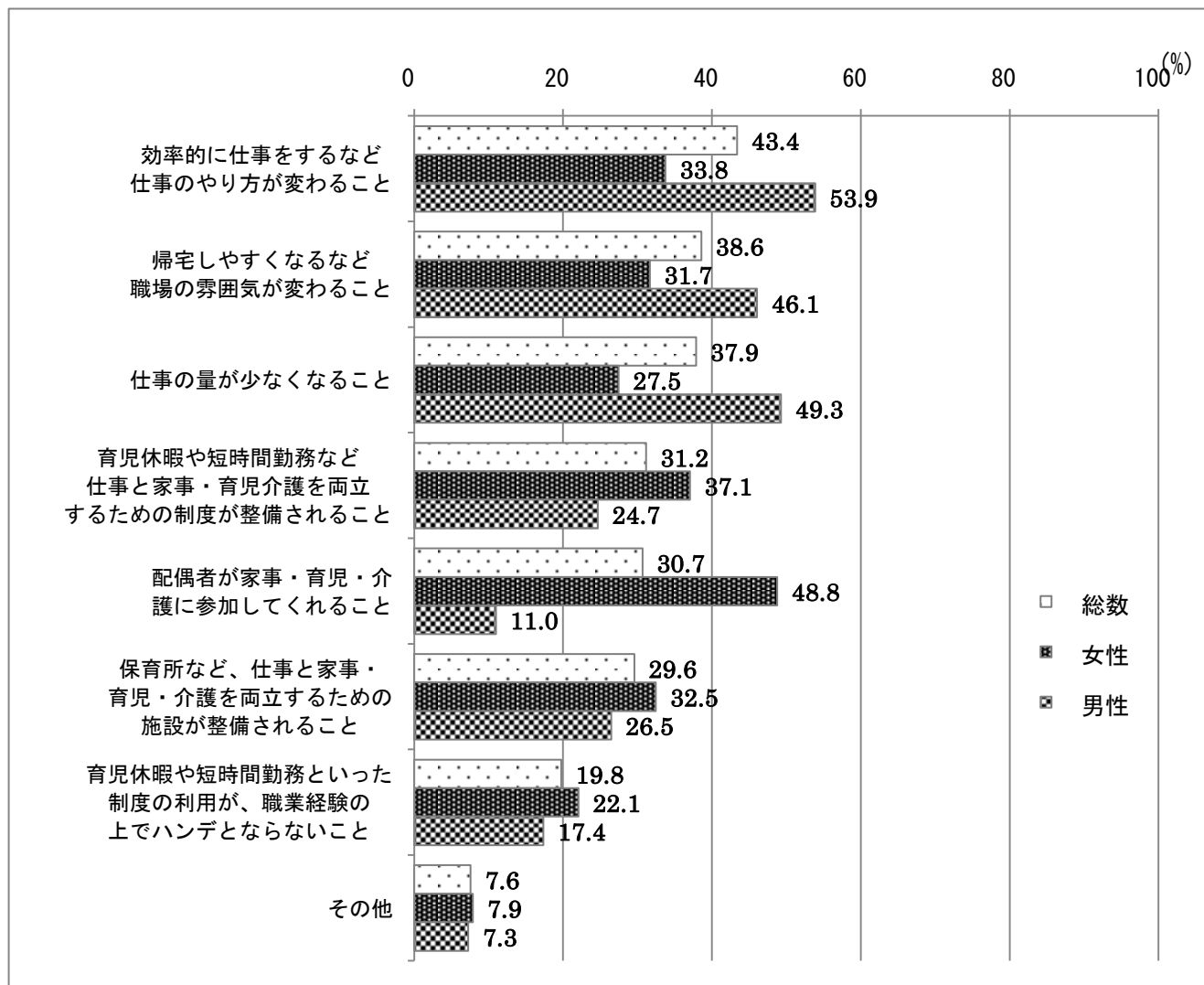
特に、「家事・育児・介護」に関しては、女性(11.5%)より男性(27.1%)が約2.3倍多くなっていることから、男性は家事等に時間が取れていないことが分かる。

香川県との比較





問 20 どのようにすれば、自分が希望する時間のとり方ができると思いますか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



○ その他

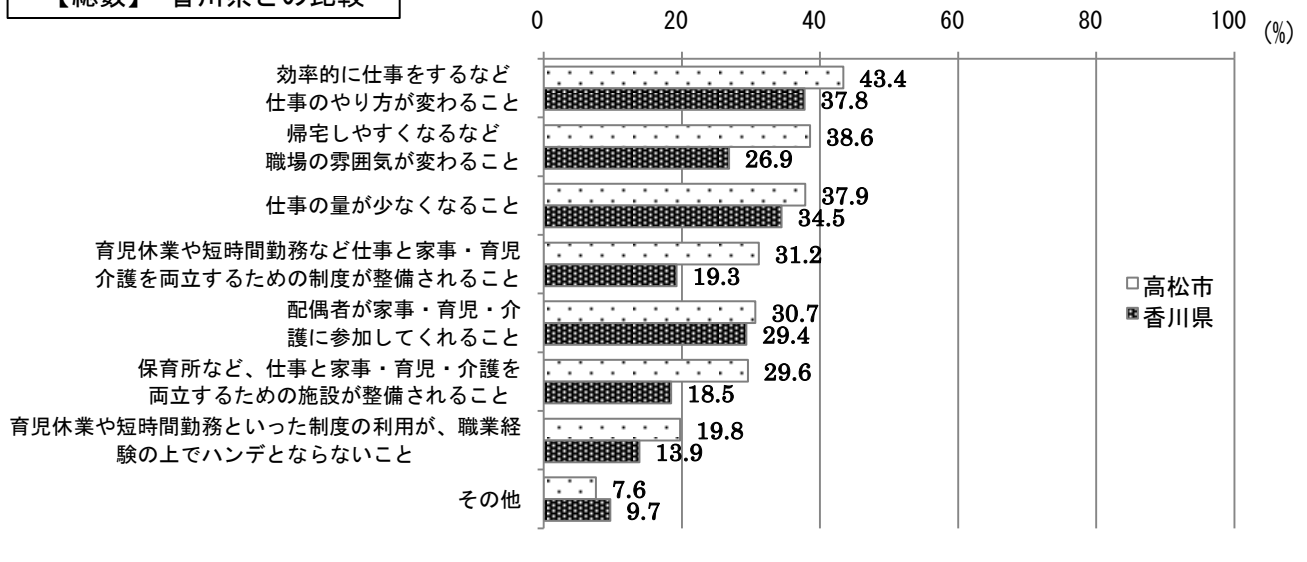
- 1 一人で個人経営をしているため自分の時間がない
- 2 介護対象者がいなくなること
- 3 三世帯家族
- 4 社会全体に「余裕」を持たせて職員数をバランス化させる
- 5 子どもが成長するのを待つ（子どもの世話や家事を任せられる身内が近くにいれば）
- 6 給料の増加
- 7 長期出張が多く、出張先から帰宅できることがままならない  
出張のあり方を変えるまたは会社を退社するしかない
- 8 収入が無いと生活が厳しい（60歳からの年金も少なく体力的に限度がでてきた）
- 9 就業したいが、現状（実家は遠方で子どもが小さい）ではかなわない

【全体】

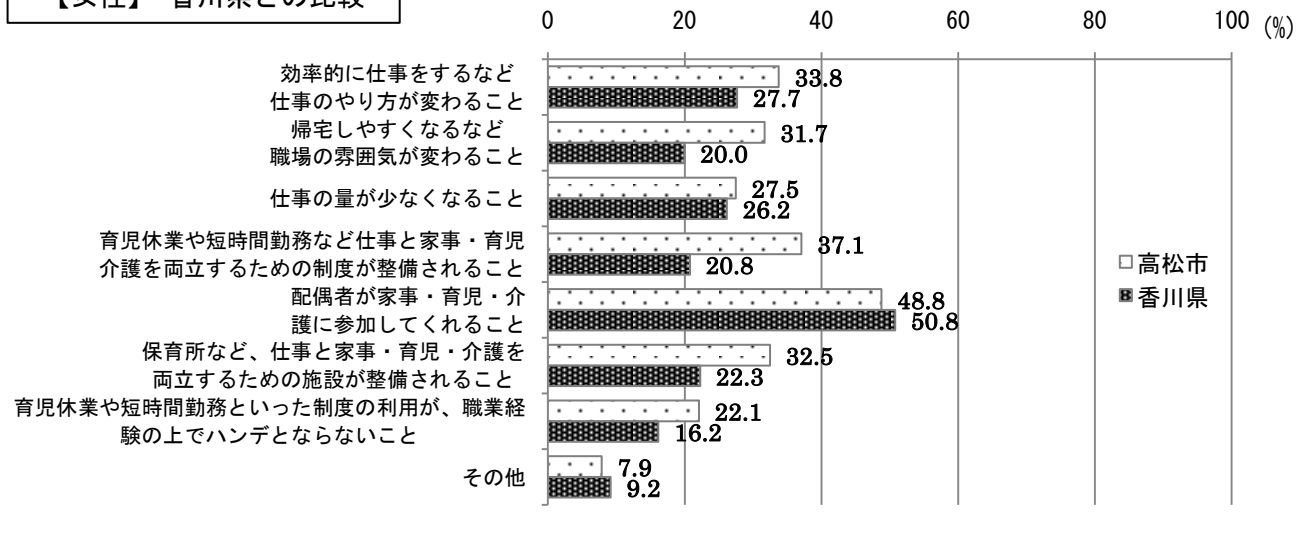
どうすれば自分が希望する時間の取り方ができるかについて、回答が多かったのは、「効率的に仕事をするなど仕事のやり方が変わること」（43.4%）、「帰宅しやすくなるなど職場の雰囲気が変わること」（38.6%）、「仕事の量が少なくなること」（37.9%）である。

今後は、仕事と子育ての両立や男女が共に働きやすい職場を実現するため、労働時間の削減など、子育てや地域活動、介護等との両立支援などに積極的に取り組む企業を増やす必要がある。

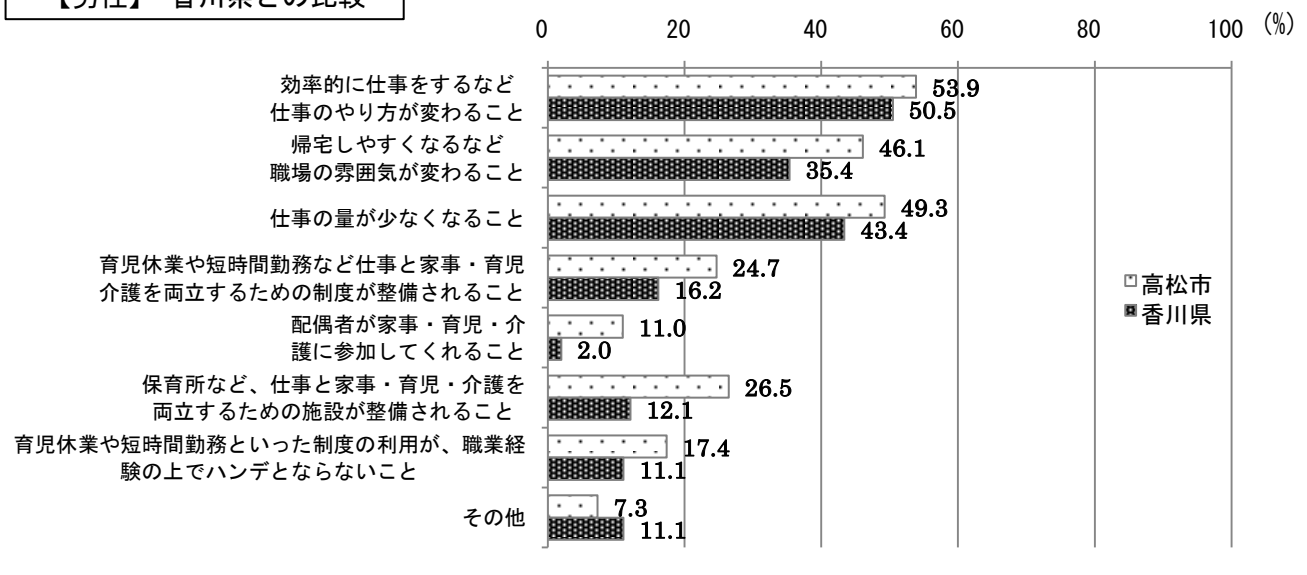
【総数】 香川県との比較



【女性】 香川県との比較

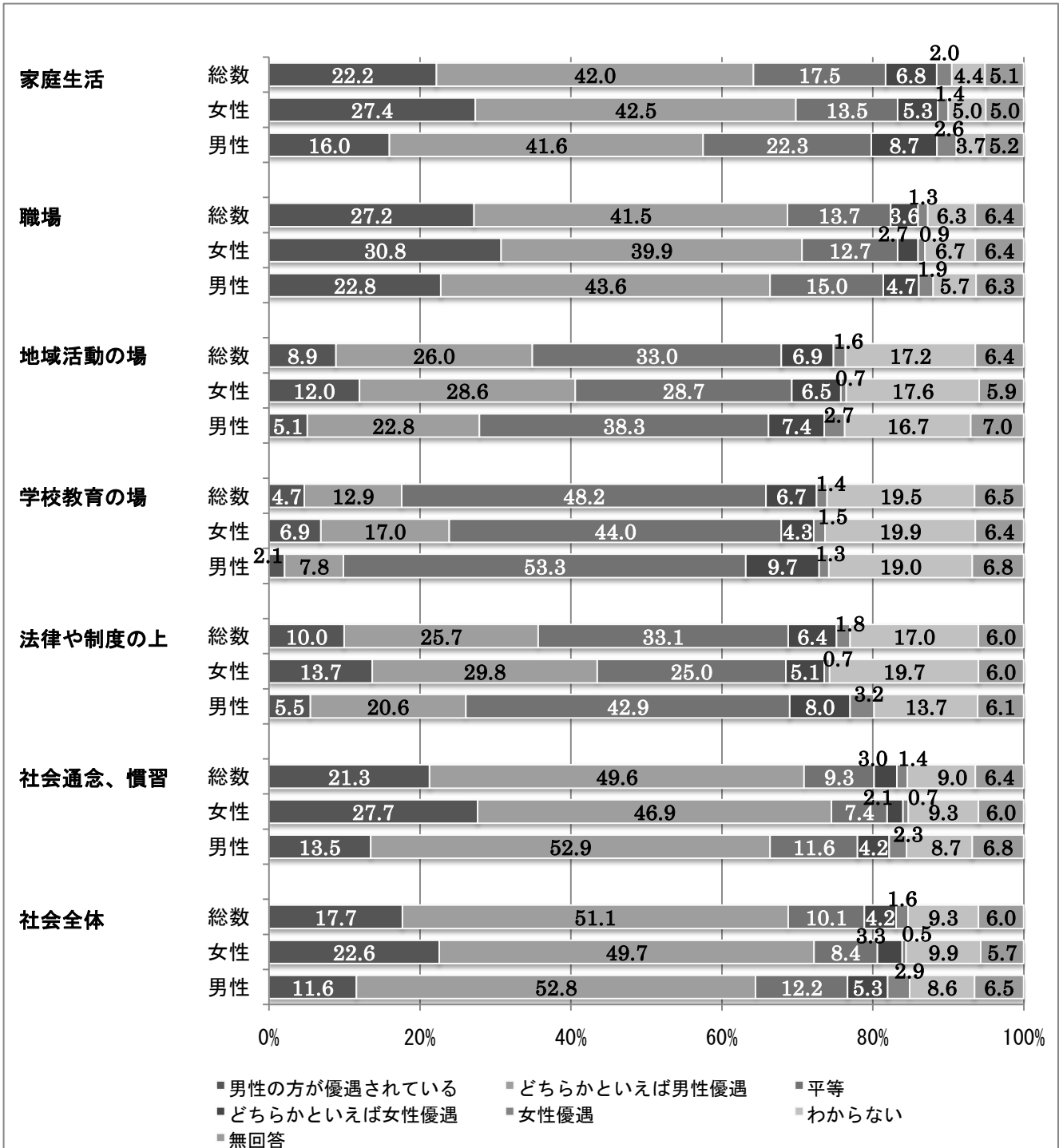


【男性】 香川県との比較



## 男女平等意識について

問 21 あなたは、次にあげる分野での男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて当てはまる数字を選んでください。



### 【全体】

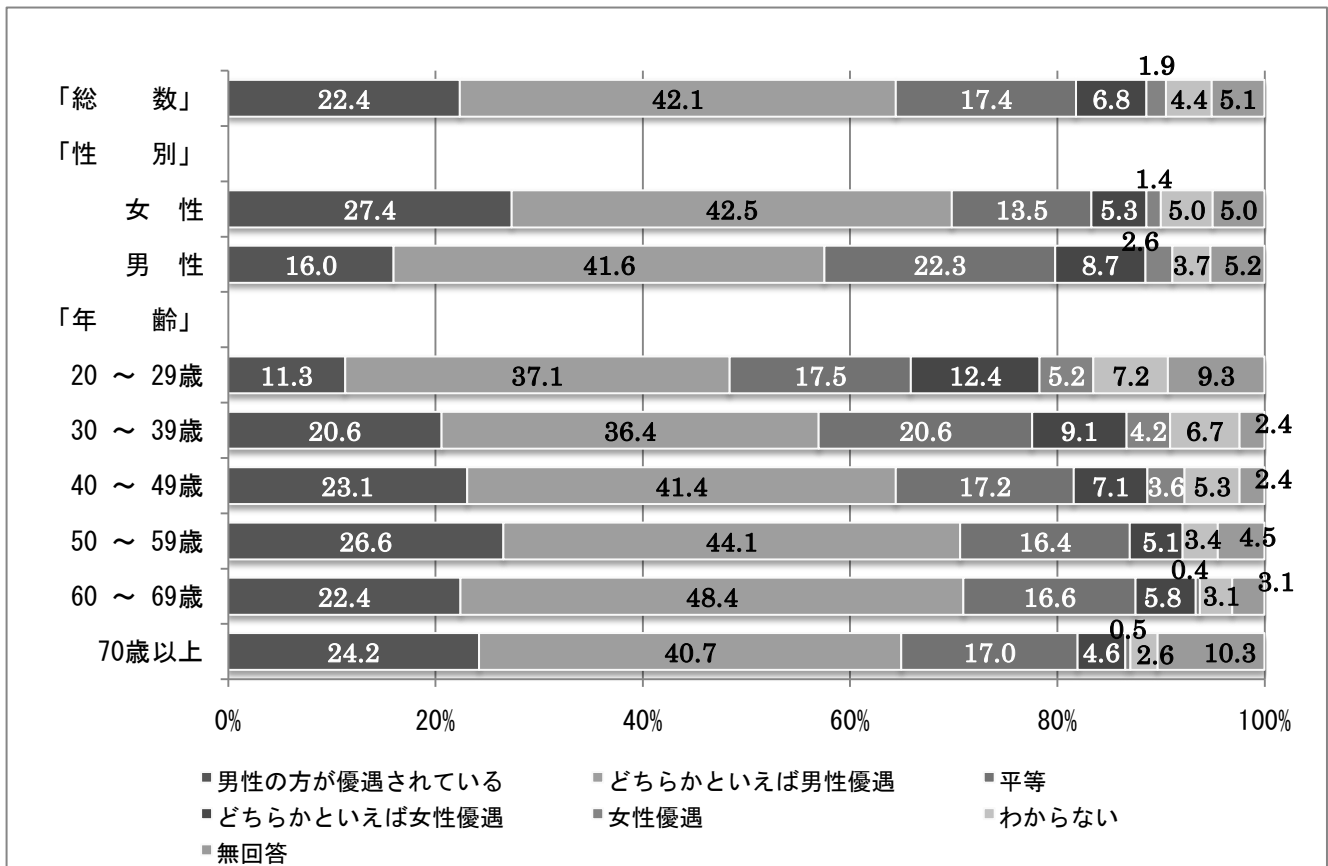
各分野における男女の平等意識に関して、「平等」だと思える人が多かったのは、「学校教育の場」（48.2%）、「法律や制度の上」（33.1%）、「地域活動の場」（33%）である。

前回調査と比較して、男女の平等意識が高まったのは、地域活動の場（前回22.1%）のみであることから、今後も引き続き、男女平等をめざした教育や学習の充実、啓発に努める必要がある。

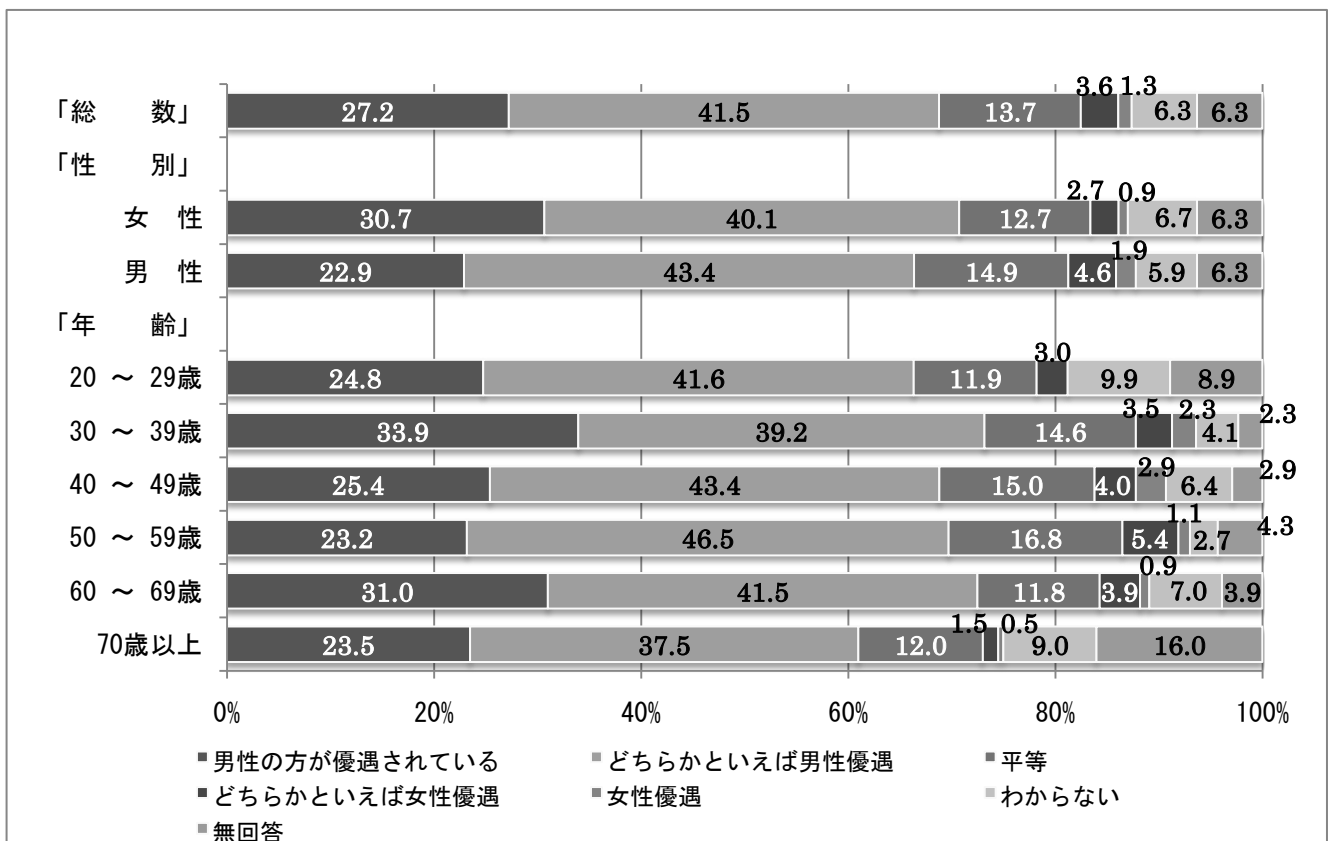
特に、男性優遇（どちらかといえば男性優遇を含む）が多かったのは、「社会通念、習慣」（70.9%）、「社会全体」（68.8%）、「職場」（68.7%）である。

また、先の問題6の「自治会、町内会等の地域活動」でも、男性（38.3%）より女性（49.1%）の方が多く地域活動に参加していることが分かる。

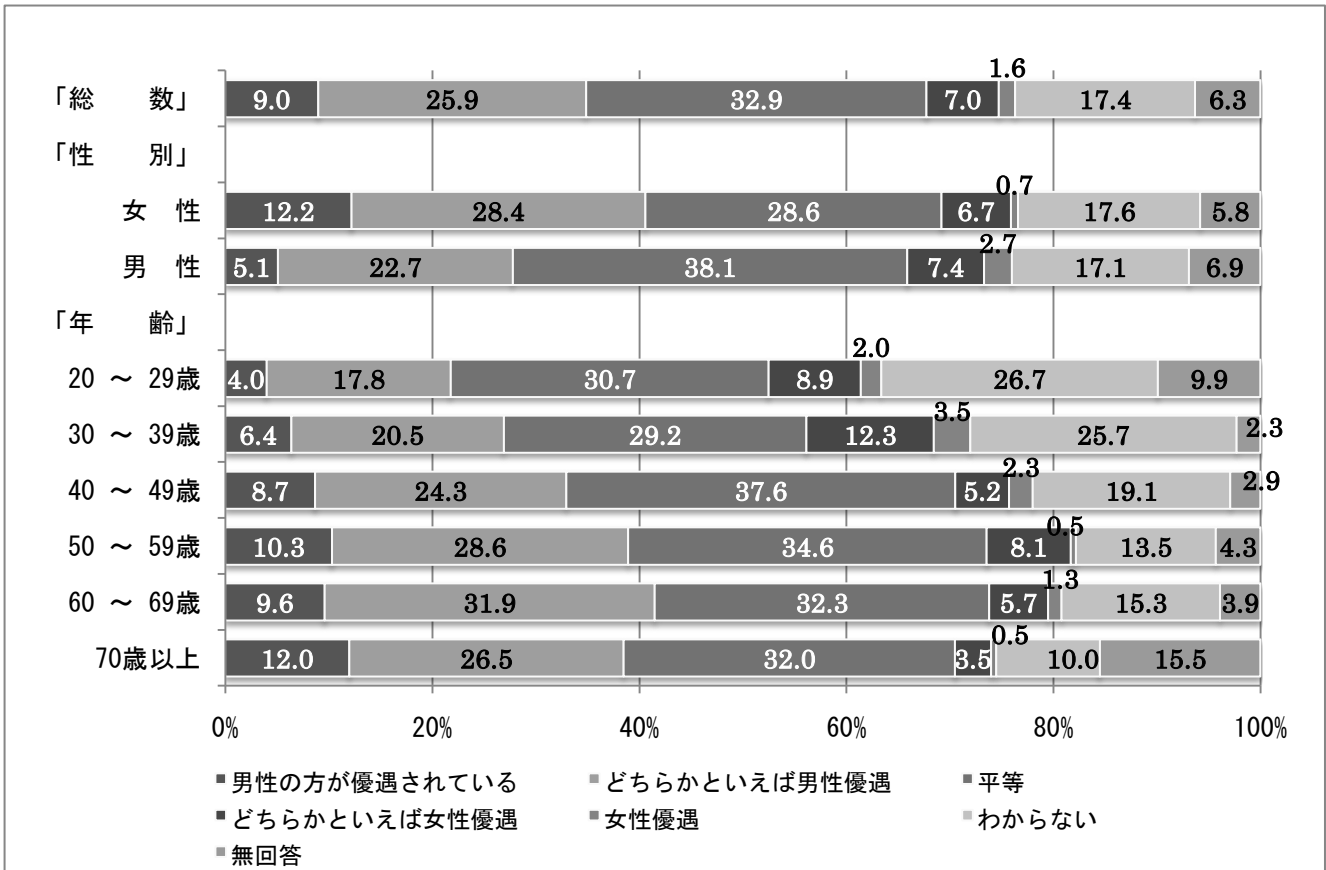
(1) 家庭生活



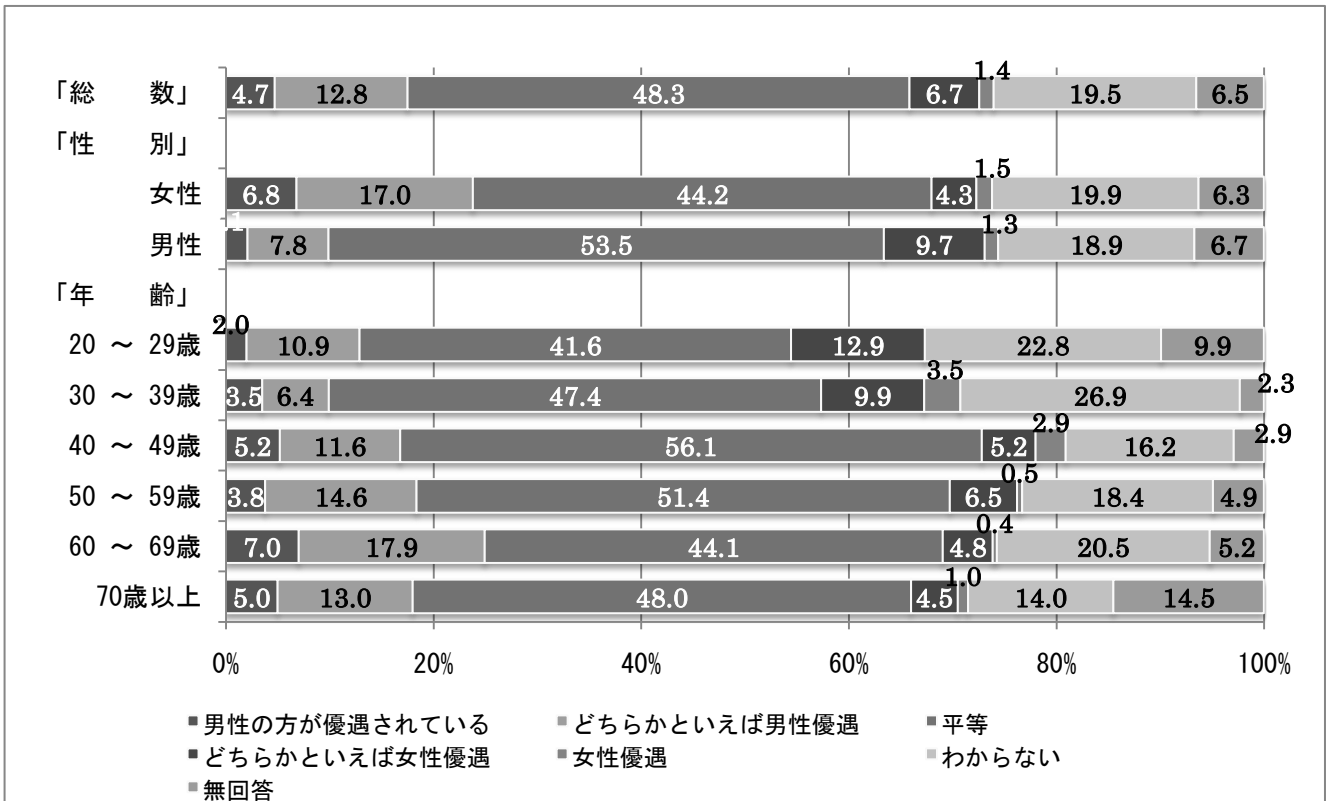
(2) 職場



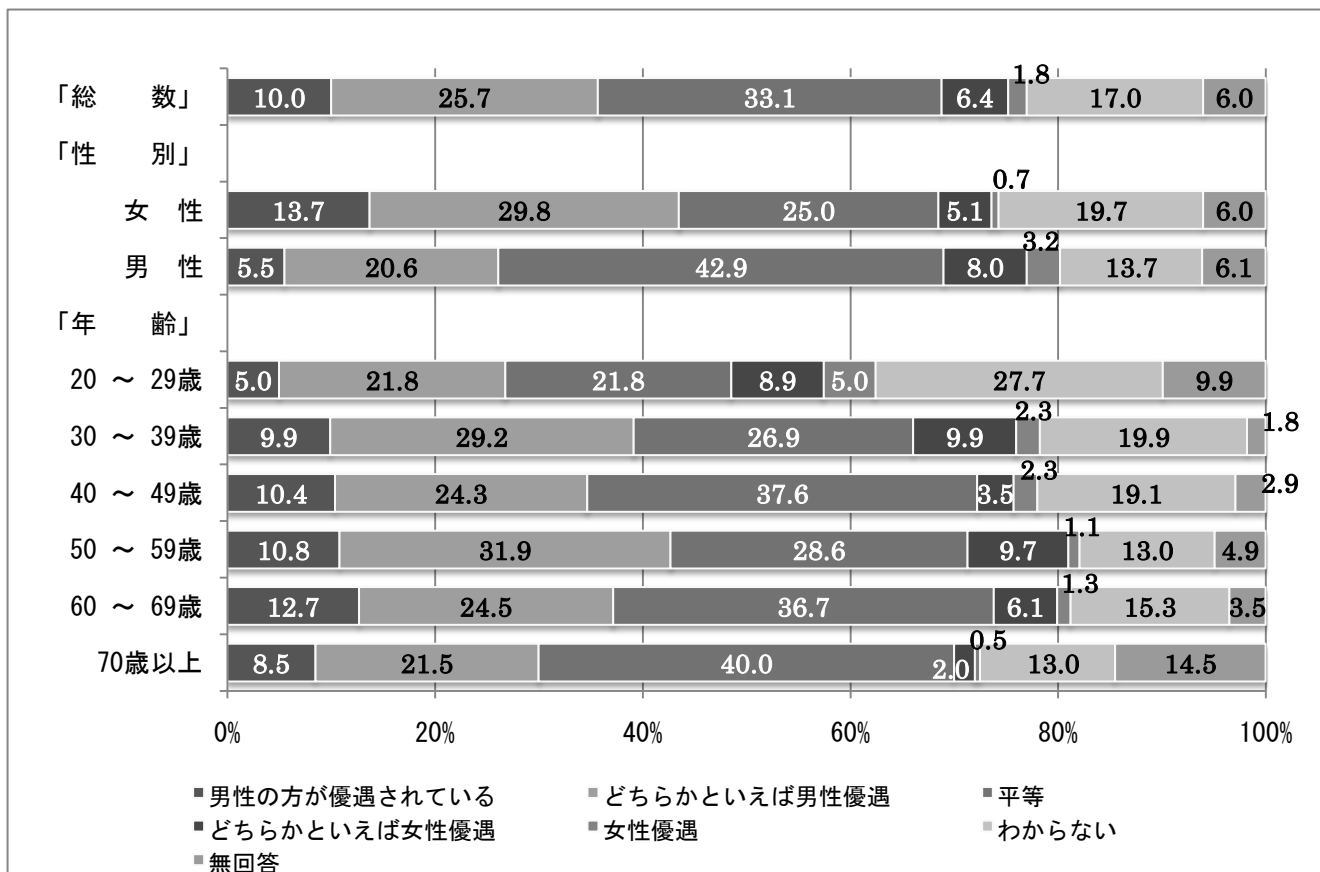
(3) 地域活動の場



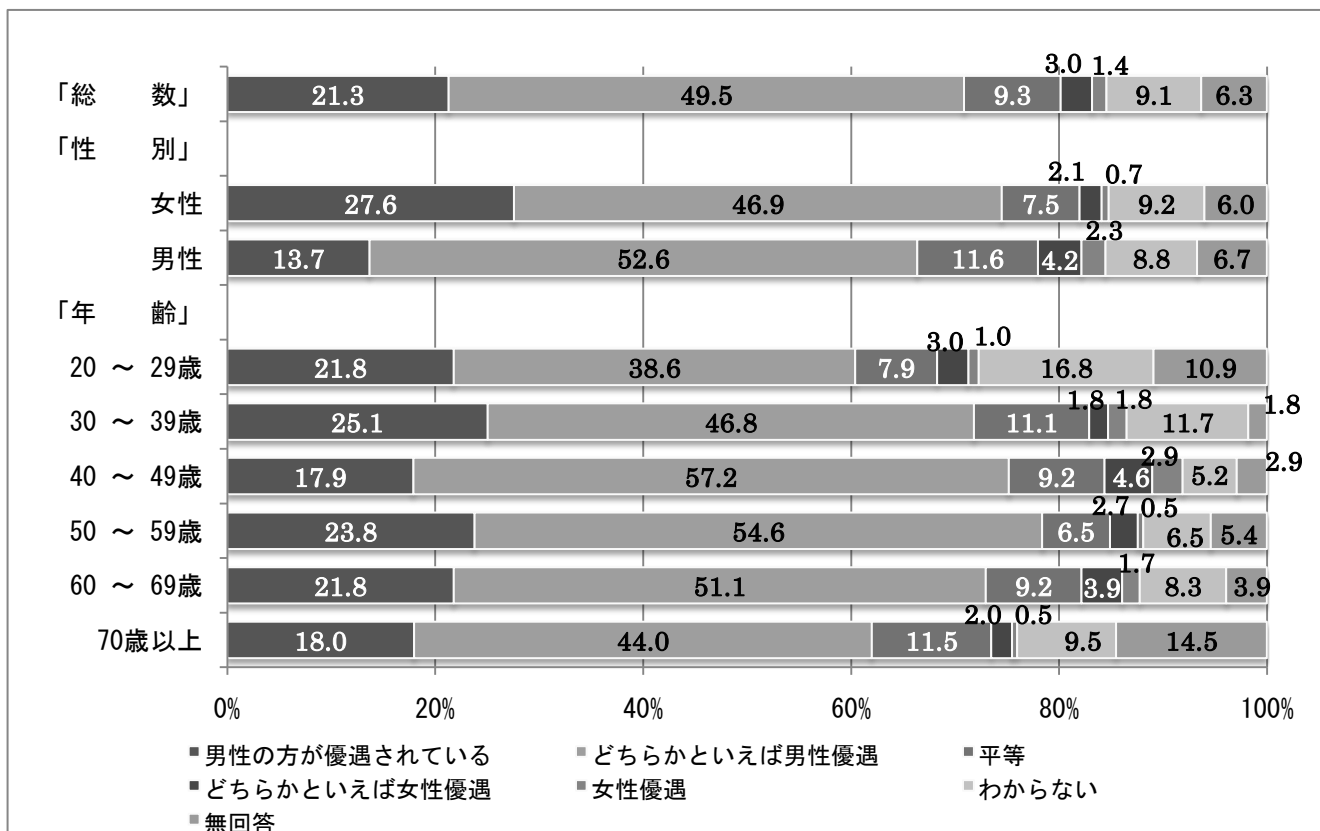
(4) 学校教育の場



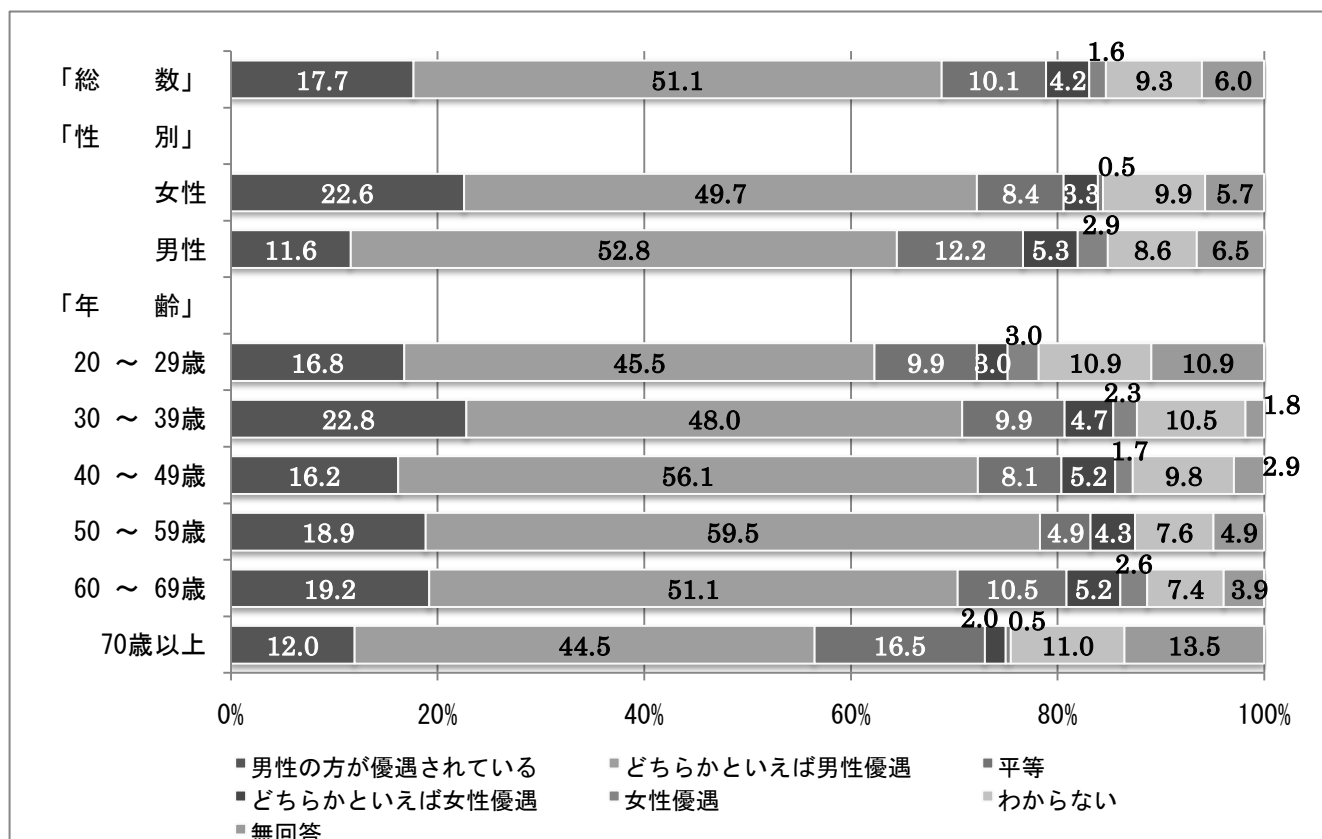
(5) 法律や制度の上



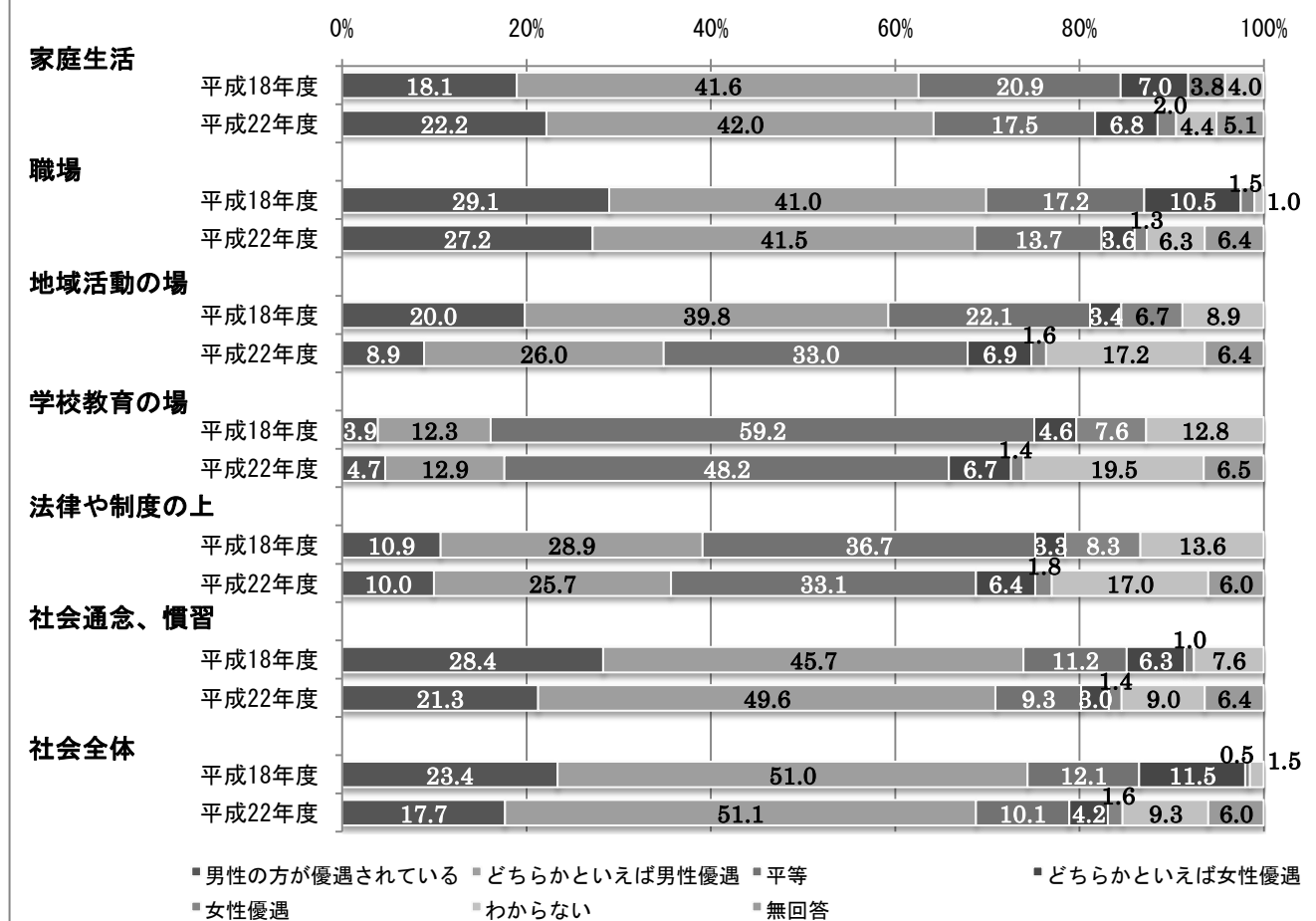
(6) 社会通念、慣習



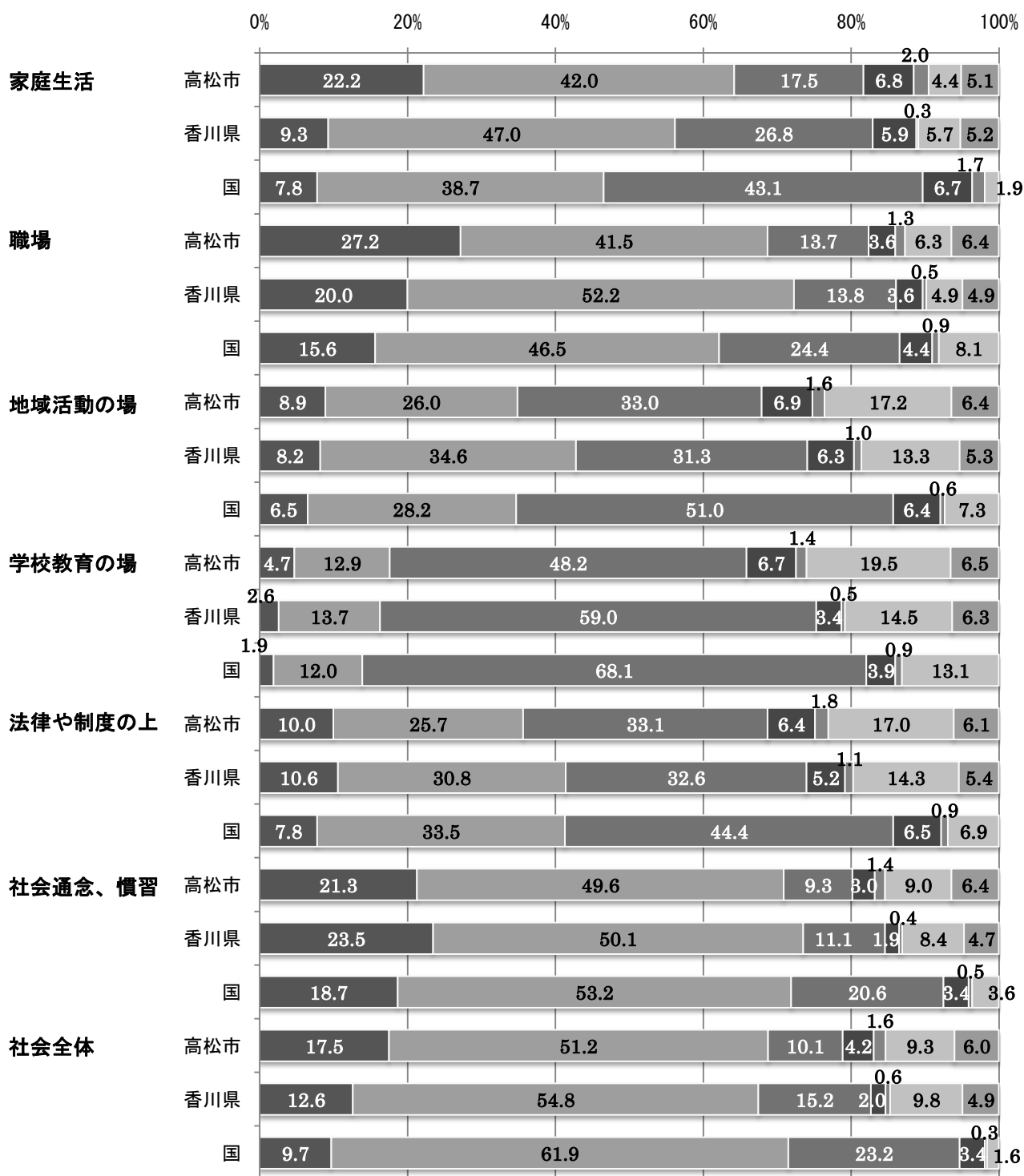
(7) 社会全体



前回調査（平成18年度）との比較



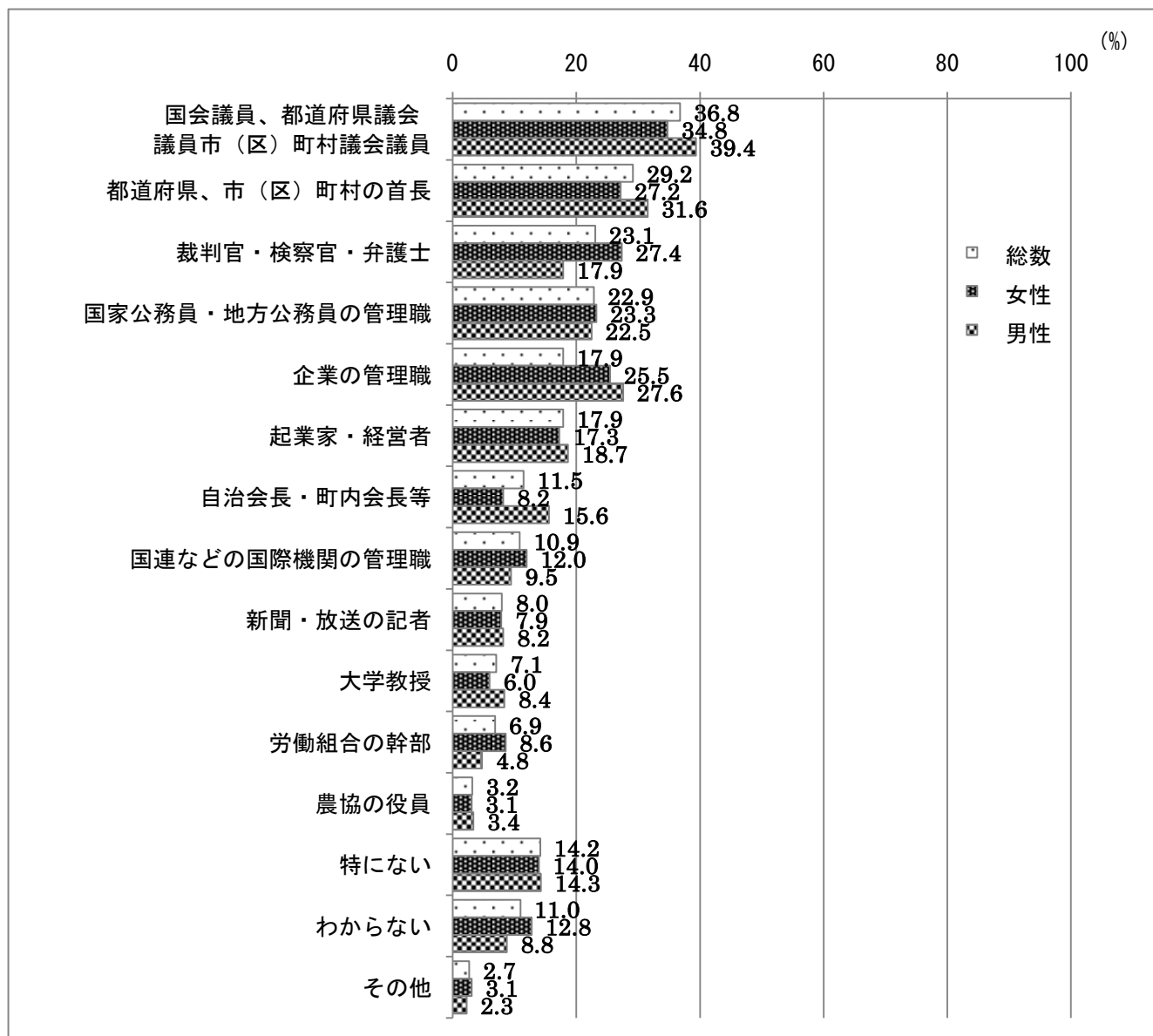
香川県・国との比較



- 男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性優遇
- 平等
- どちらかといえば女性優遇
- 女性優遇
- わからない
- 無回答



問 22 次にあげるような職場や役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



○ その他

- 1 女性が、社会や企業のトップになることで労働環境は改善されると思う
- 2 どの分野でも、能力のある人はすべてにおいて増えればよい
- 3 これらの職業に就こうと目指しているのになりづらいのであれば問題だが、女性を増やすべきだからと優遇するのであれば逆に不平等だと思う
- 4 どんな職業であれ、女性自身が望む職業に男性とわけへだてなく就けるようにすべき
- 5 医師
- 6 総理大臣
- 7 個人差があるので、当てはまらない職業があると思う
- 8 総体的に役職者を男女共に減少するほうがよい
- 9 女性の意識構造からいってあまりトップに立つことに適した人はない
- 10 サービス業、介護、看護師、などの管理者
- 11 もっと増えたほうが良いとは思いますが、あえて増やすべきものではないと思う（実力がある女性が増えれば自ずと増えるのでは）また、実力がある女性の足が引っ張られない社会であってほしい

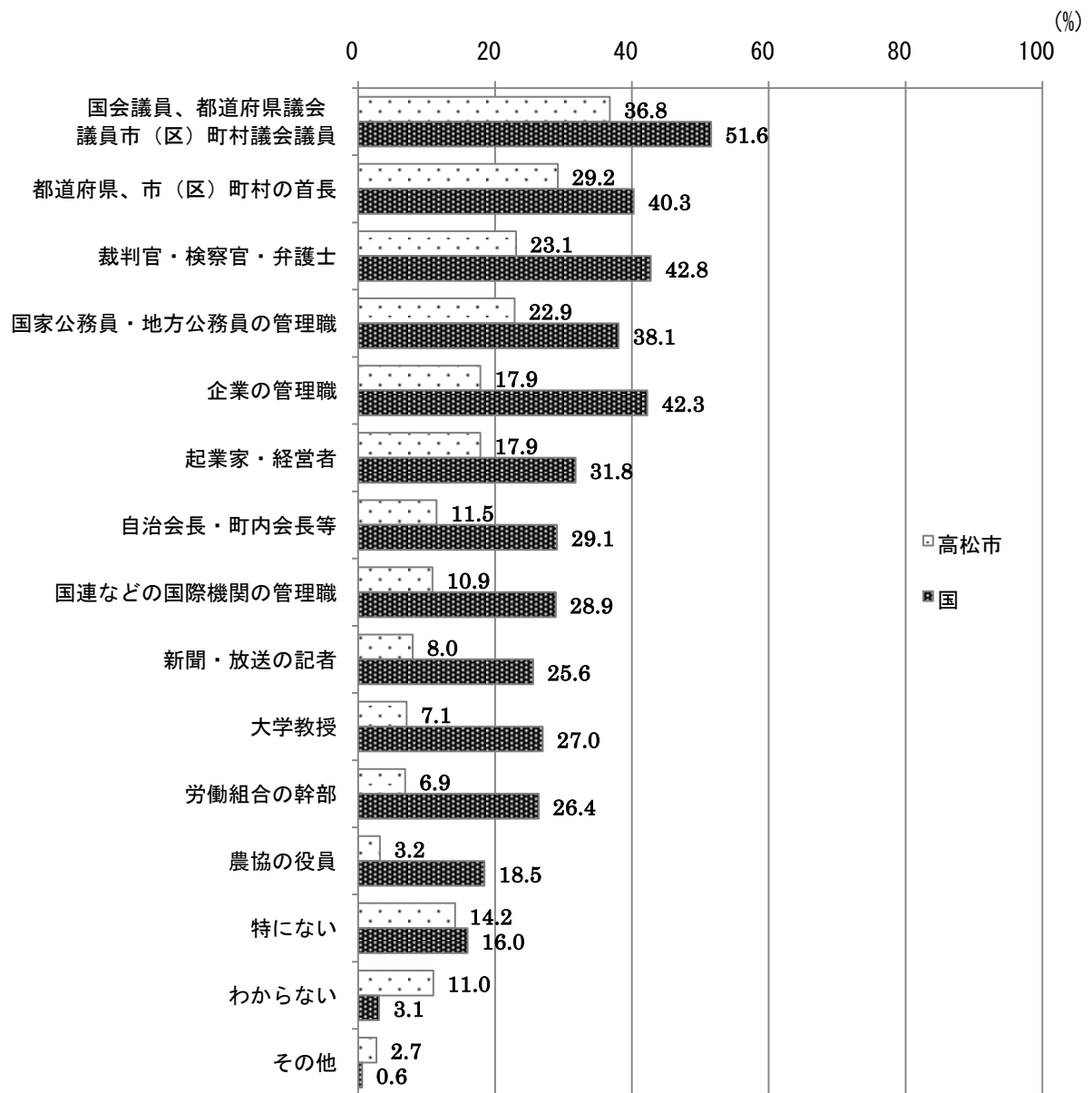
【全体】

女性が増える方がよいと思う職場や役職のうち、回答が多いのは、「国会議員，都道府県議会議員市（区）町村議会議員」（36.8%），「都道府県，市（区）町村の首長」（29.2%），「裁判官・検察官・弁護士」（23.1%），「国家公務員・地方公務員の管理職」（22.9%）である。

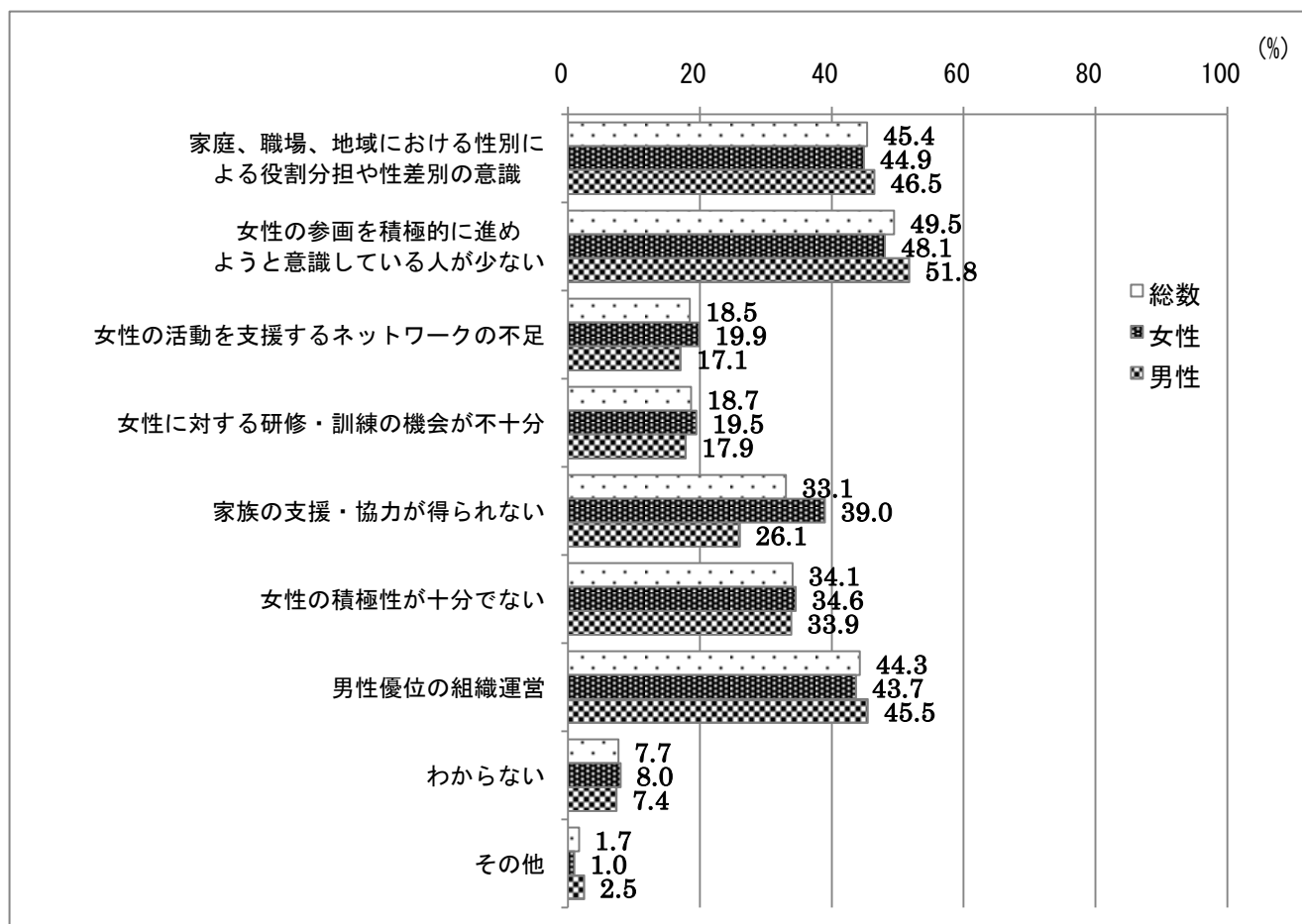
また，第2部の事業所実態調査の問5「管理職の女性の割合」の結果でも，「女性0%」の回答が41.8%と最も多く，全体の4割を超えていることが分かる。

このような結果を踏まえて，今後も引き続き，男女共同参画の観点から，女性の管理職の登用を促すような啓発事業に取り組む必要がある。

国との比較



問 23 政治や行政，地域，職場などにおいて，政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ないといわれていますが，あなたはその理由は何だと思えますか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



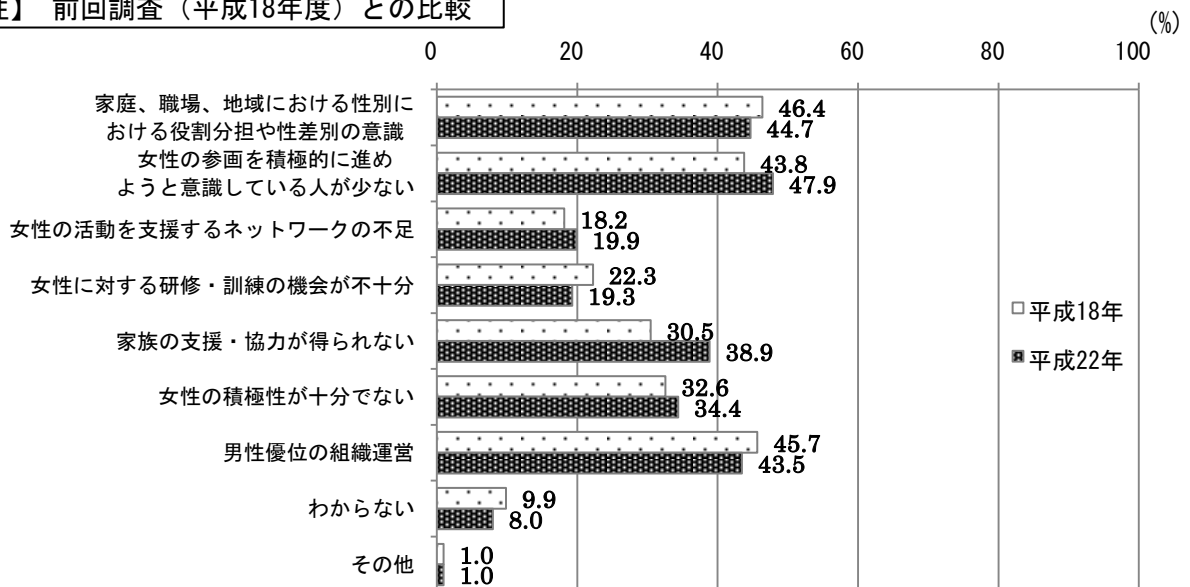
○ その他

- 1 女性の意識が低い
- 2 企画や決定に対する女性の経験能力を，適切かつ正当に評価できる第三者がいない
- 3 男女共に減らすほうが良い
- 4 社会制度や政策の方針に参画が少ないのではなく，女性の社会への進出が少ない（地位や役職等を含めて）
- 5 女性が持つ性格のため
- 6 ワイドショーの見すぎで，自分の意見よりメディアの意見が多くなる傾向にある

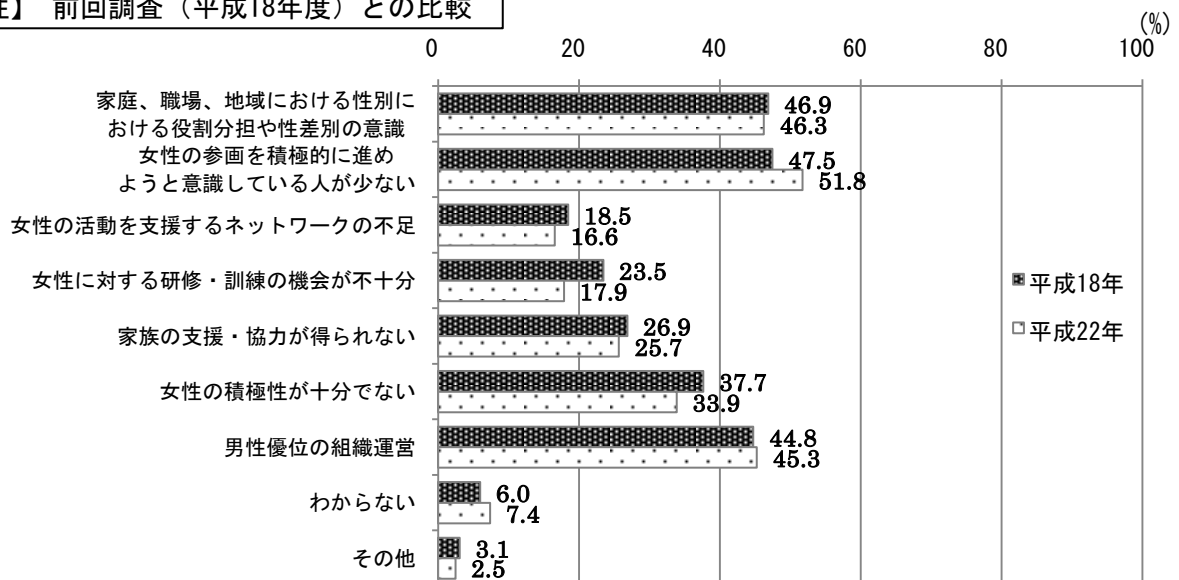
【全体】

女性の参画が少ない理由のうち，回答が多かったのは，「女性の参画を積極的に進めようとして意識している人が少ない」（49.4%），「家庭，職場，地域における性別による役割分担や性差別の意識」（45.2%），「男性優位の組織運営」（44.1%）であることから，女性の参画促進の重要性・必要性についての理解の促進と固定的性別役割分担意識にとらわれることなく，仕事と生活の調和を推進する必要がある。

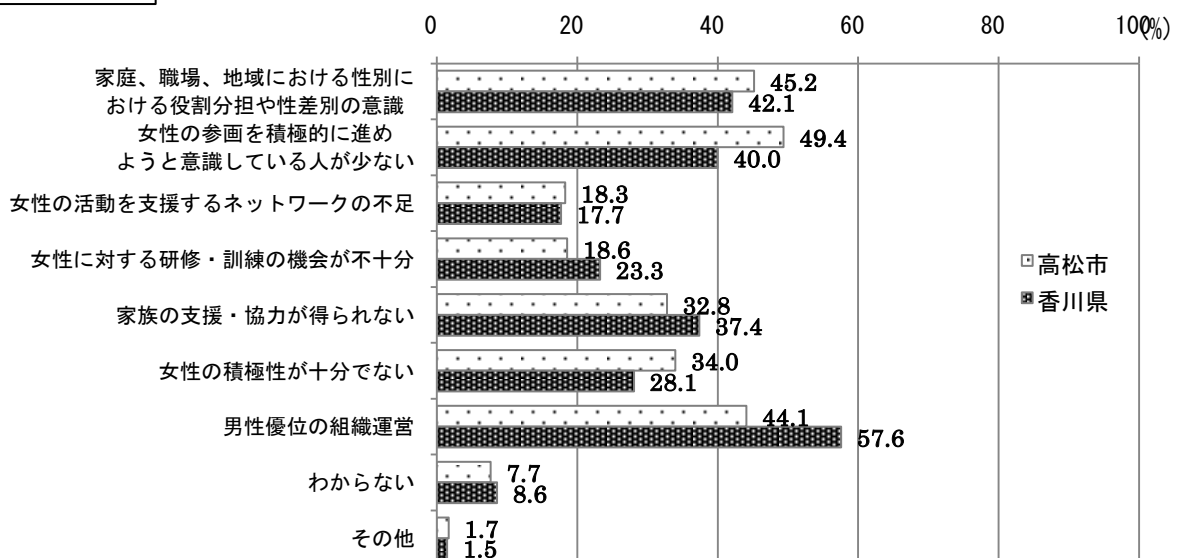
【女性】 前回調査（平成18年度）との比較



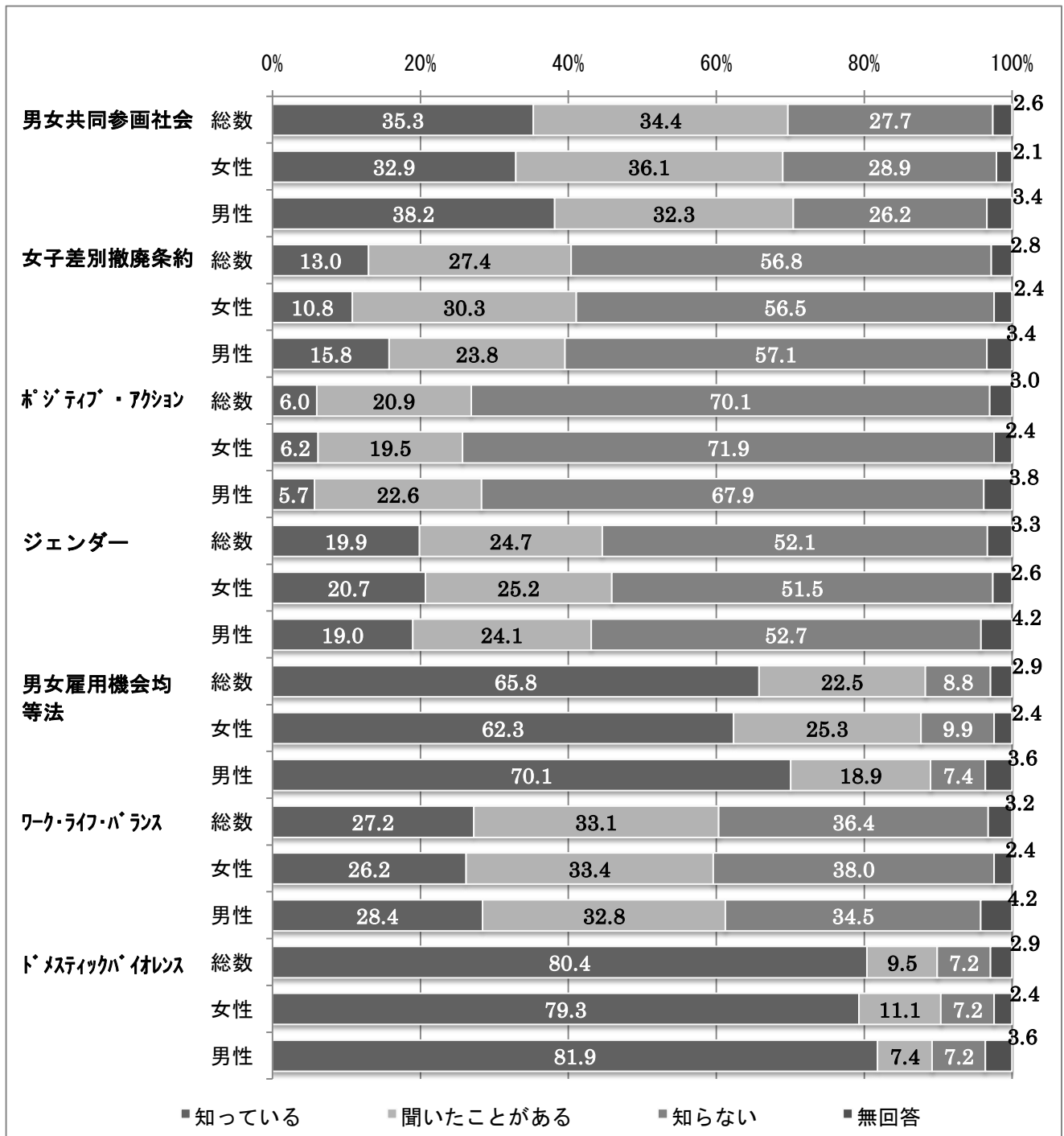
【男性】 前回調査（平成18年度）との比較



香川県との比較



問 24 あなたは、男女平等に関する次のことごとについてご存知ですか。それぞれについて当てはまる数字を選んでください。



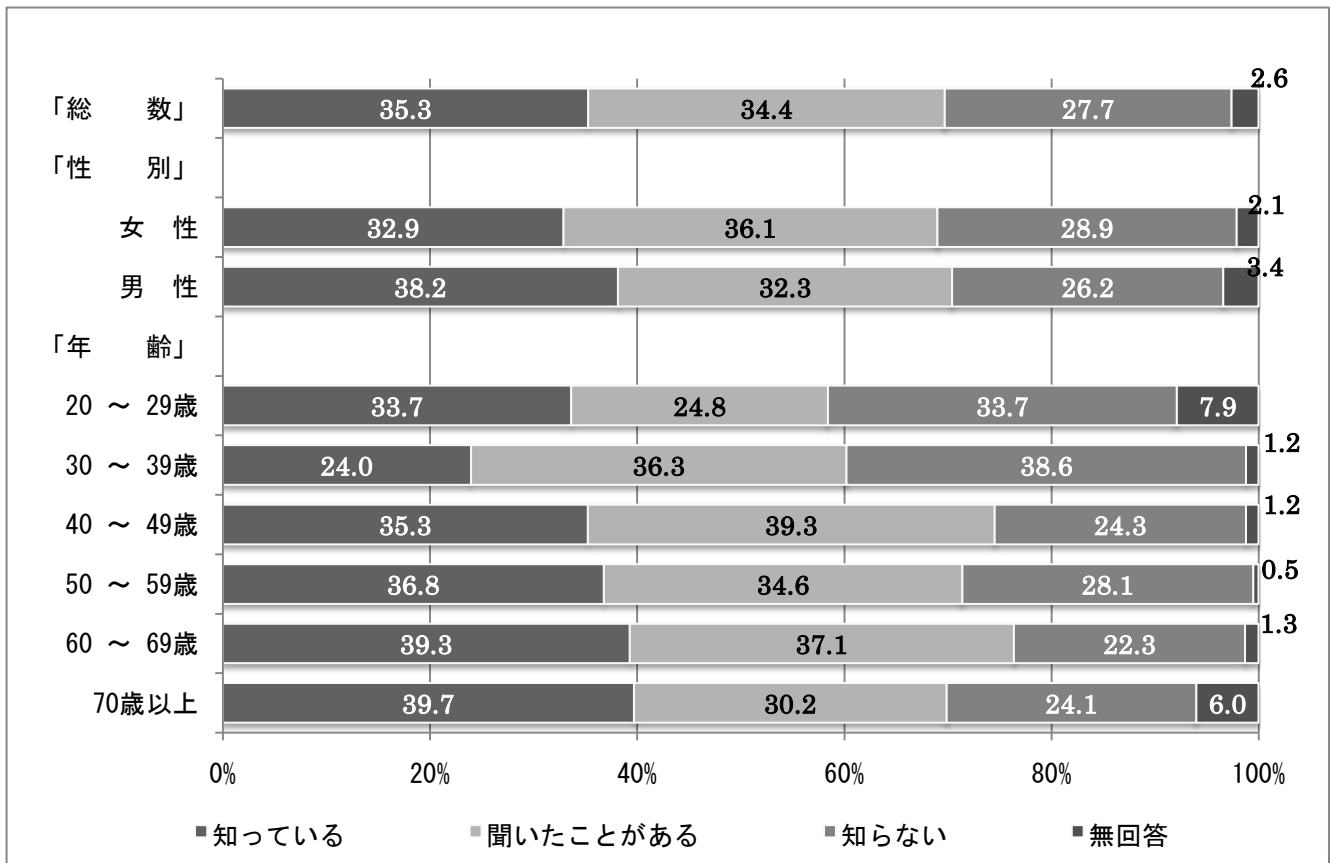
【全体】

男女平等に関する事柄のうち、「知っている」と回答が多かったのは、「ドメスティックバイオレンス」(80.4%)、「男女雇用機会均等法」(65.8%)である。

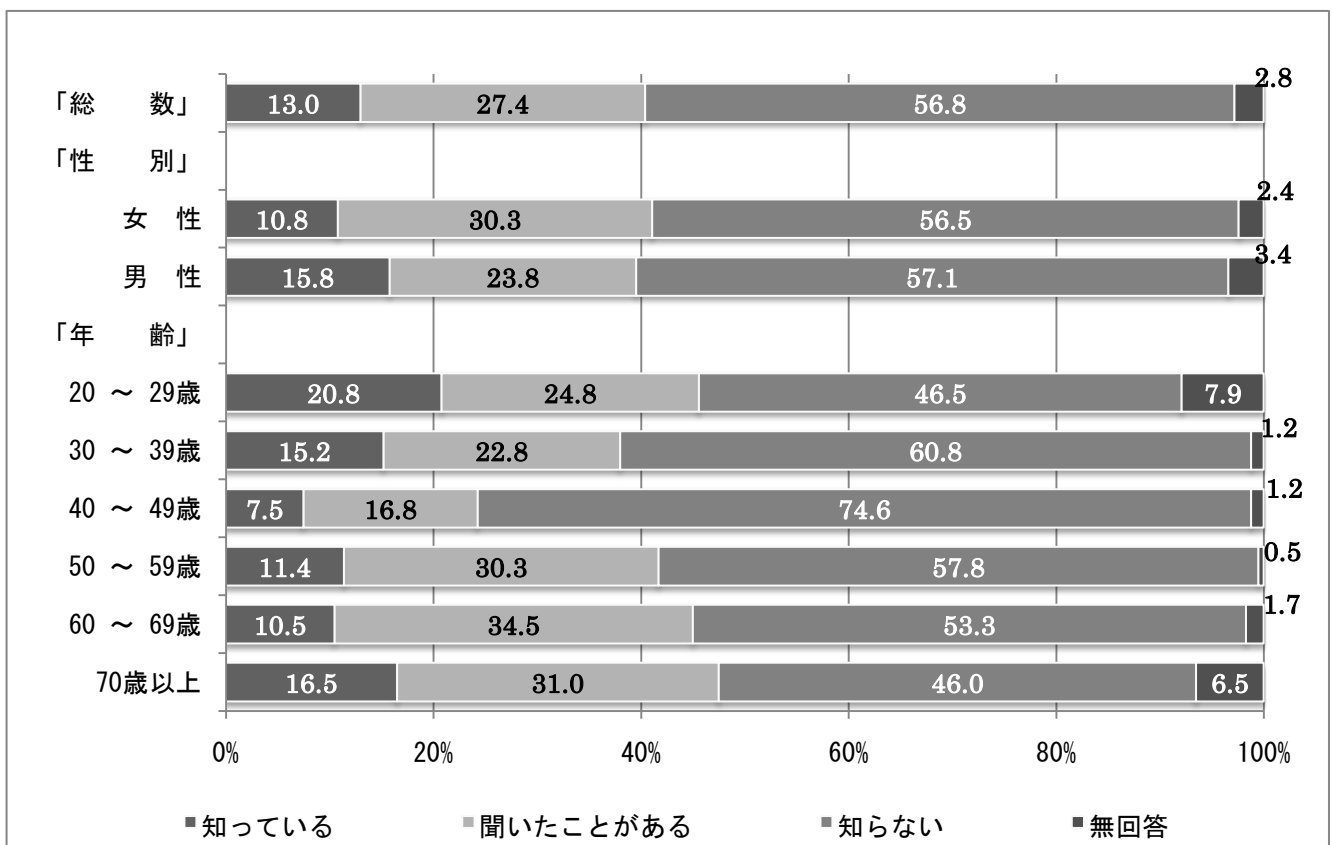
一方、「知らない」と回答が多かったのは、「ポジティブ・アクション」(6%)、「女子差別撤廃条約」(13%)、「ジェンダー」(19.9%)である。

特に、今回調査から新たに追加した「男女共同参画社会」と「ワーク・ライフ・バランス」に関しては、「知っている、聞いたことがある」と回答した人が、前者は69.7%、後者は60.3%であることから、ある程度の認知度はあるものの、言葉の意味を正確に理解した人を増やすため、今後は、認知度をあげる取組を推進する必要がある。

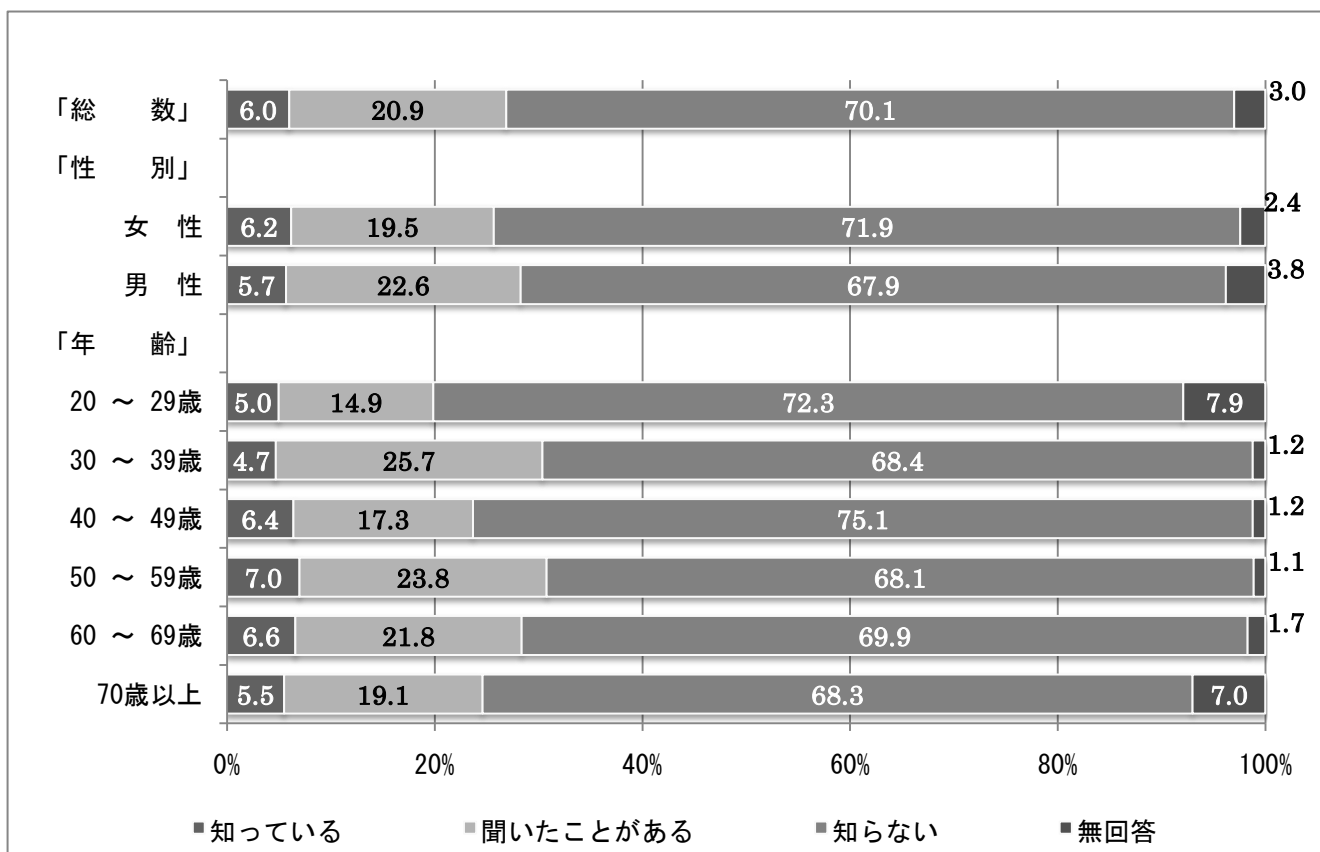
(1) 男女共同参画社会



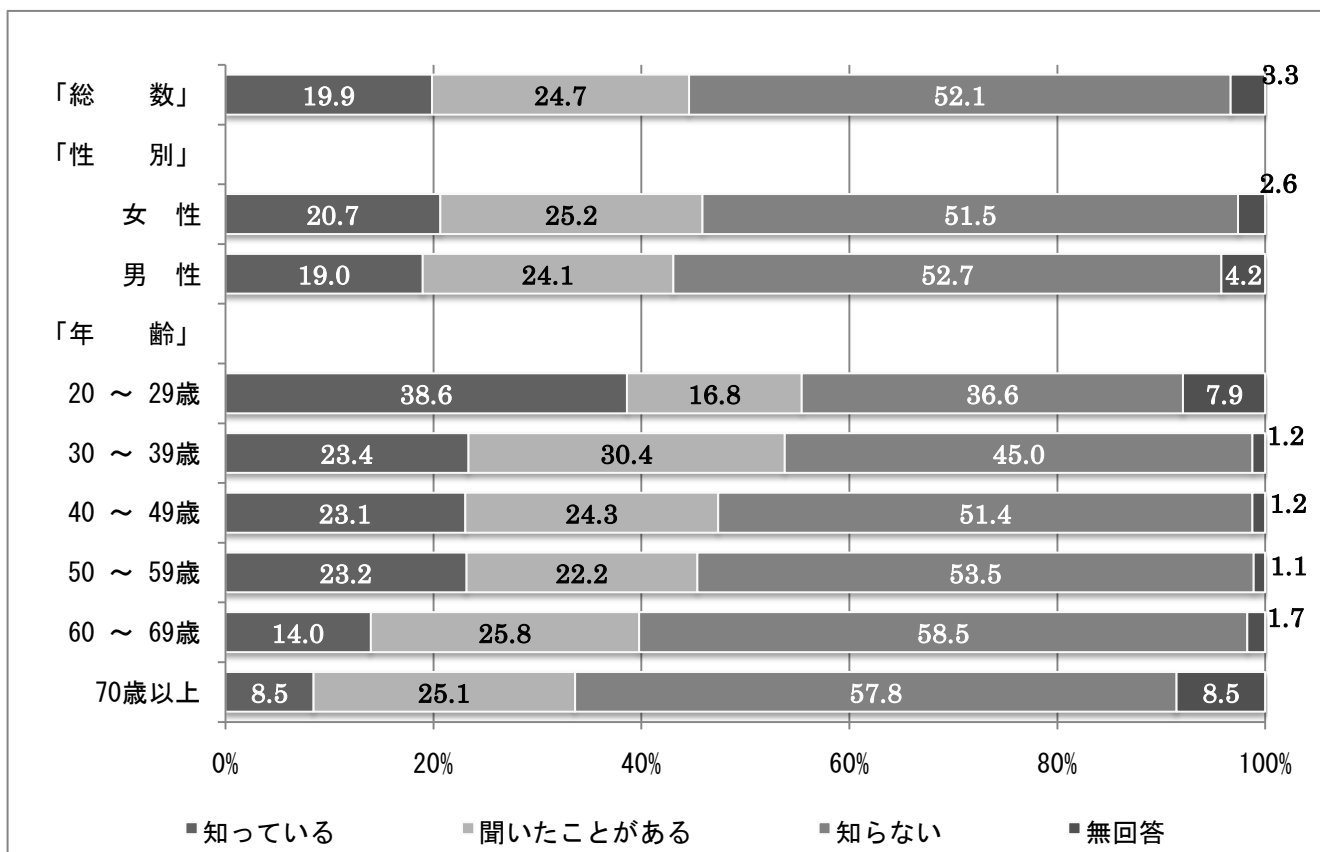
(2) 女子差別撤廃条約



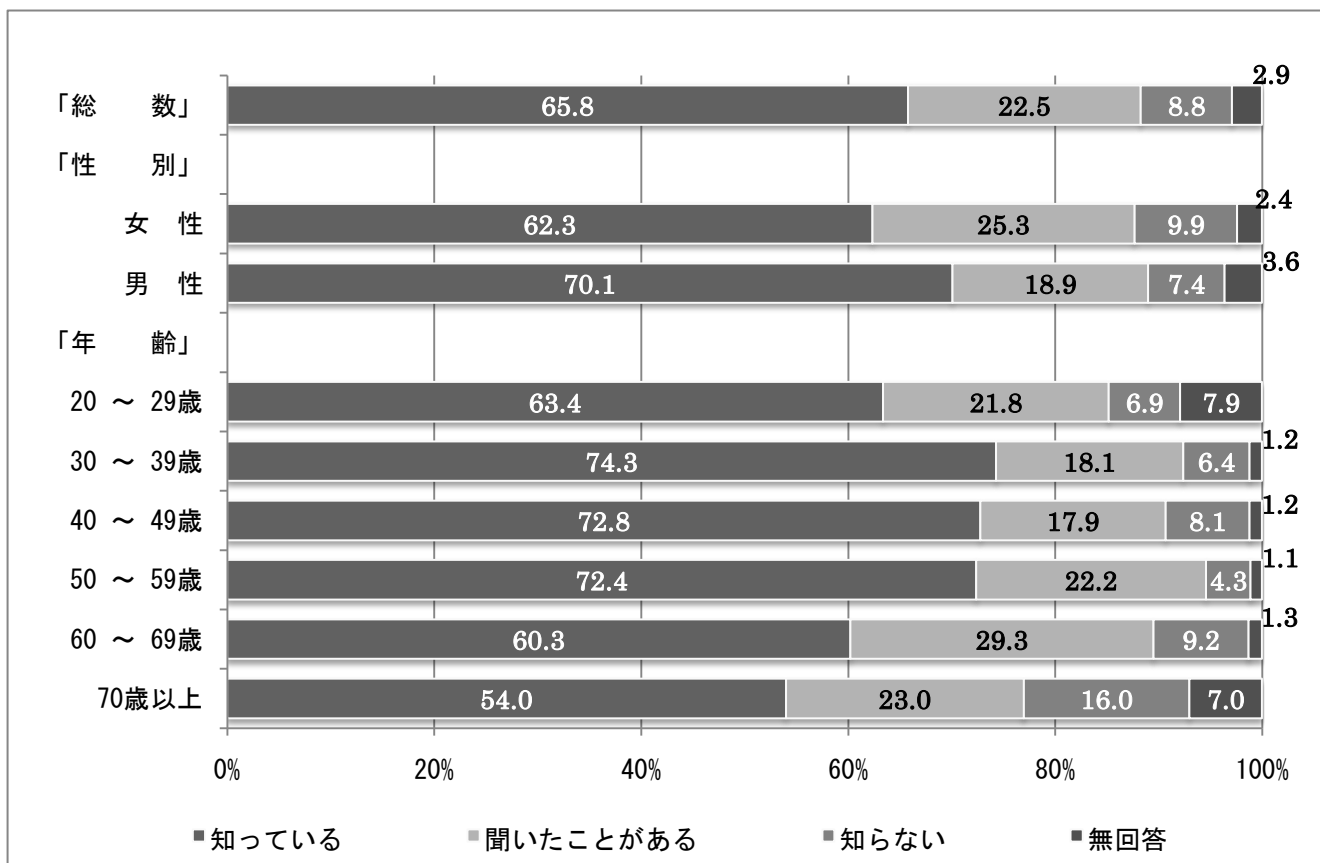
(3) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）



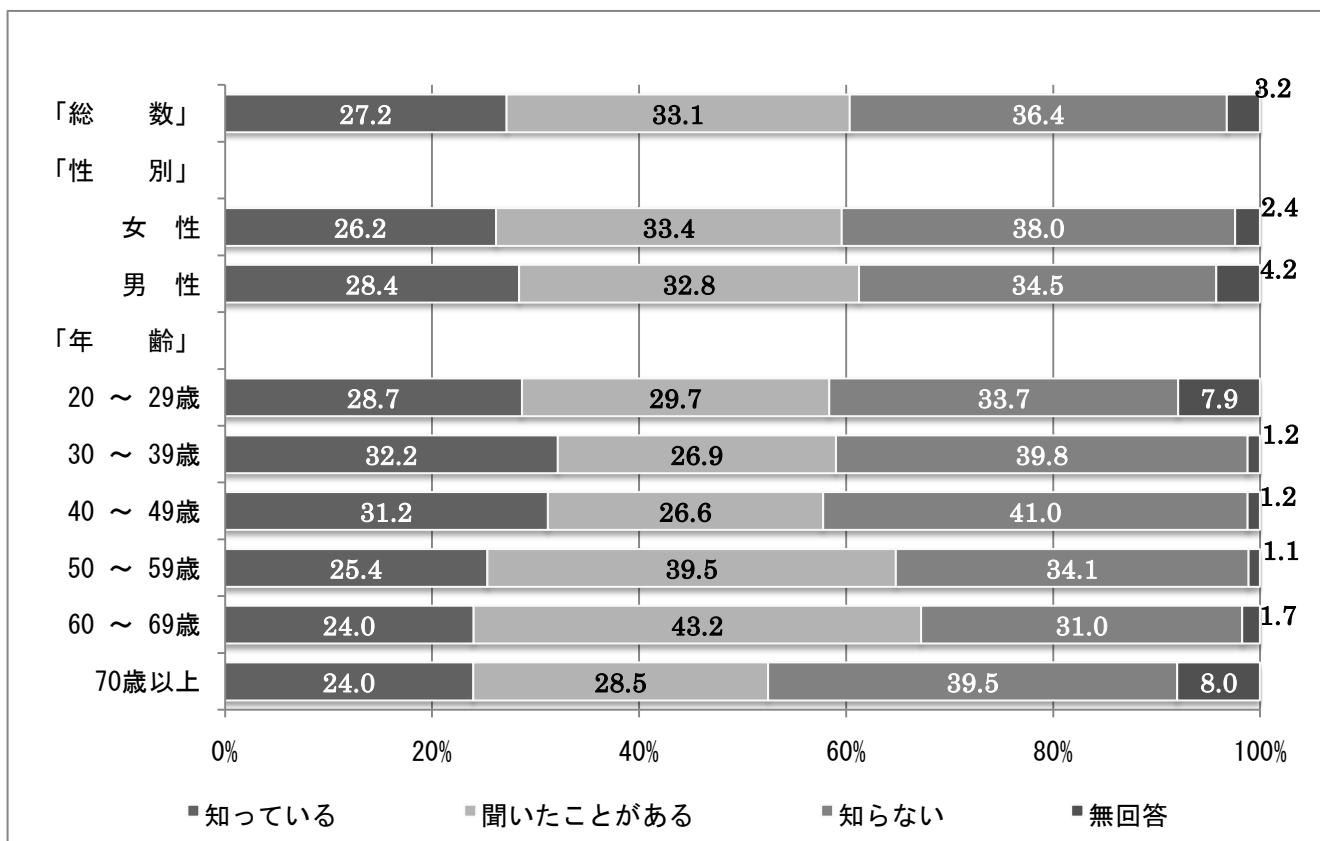
(4) ジェンダー（社会的差別）



(5) 男女雇用機会均等法

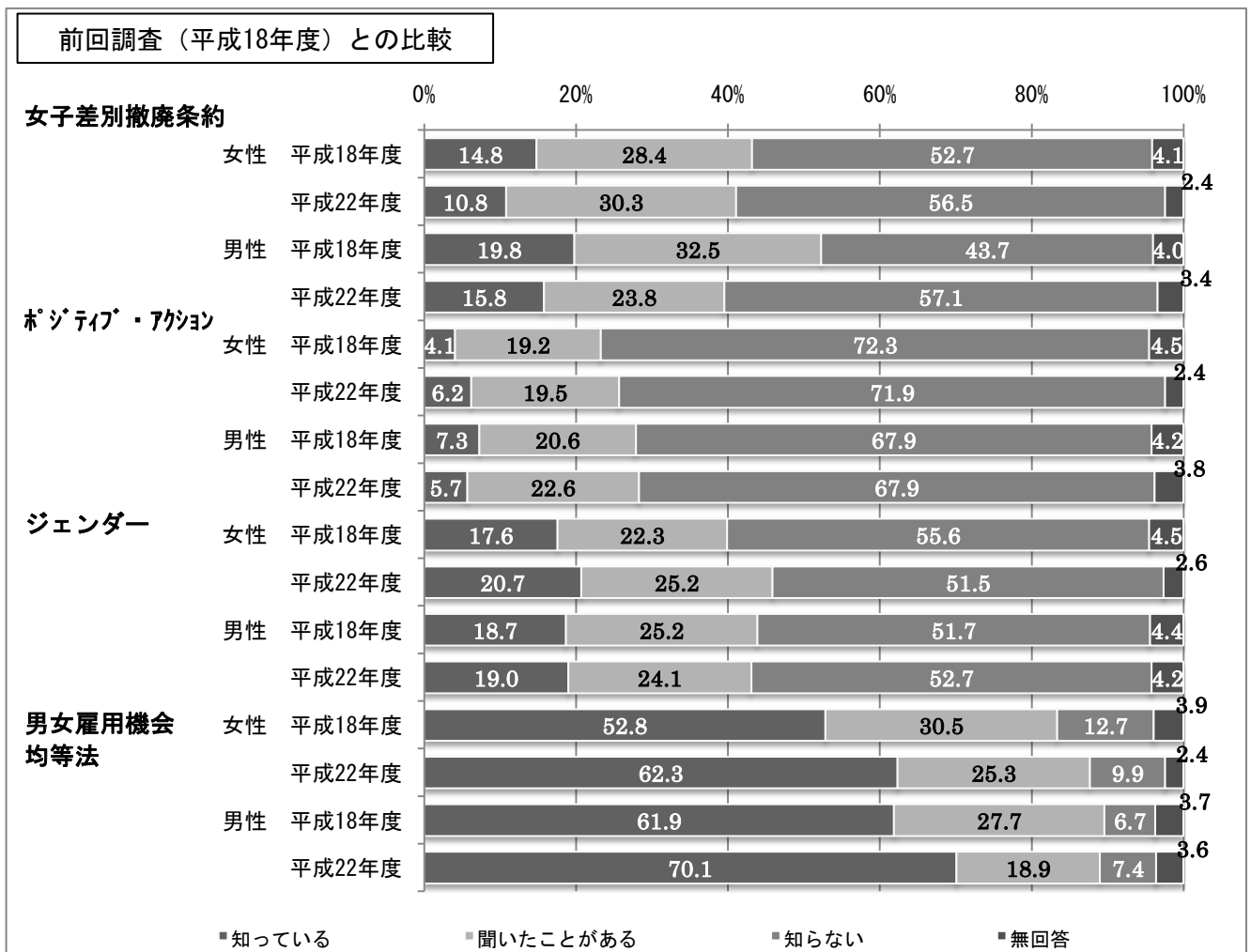
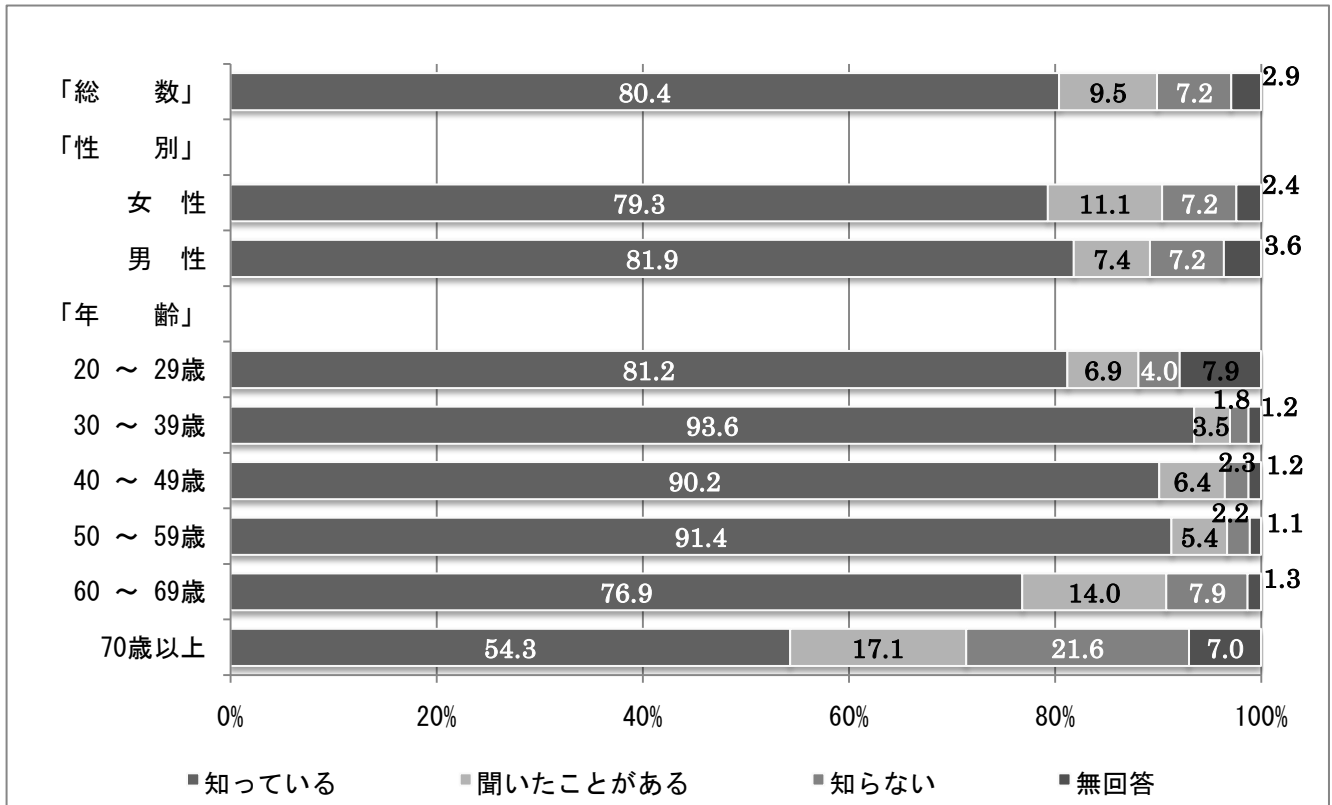


(6) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



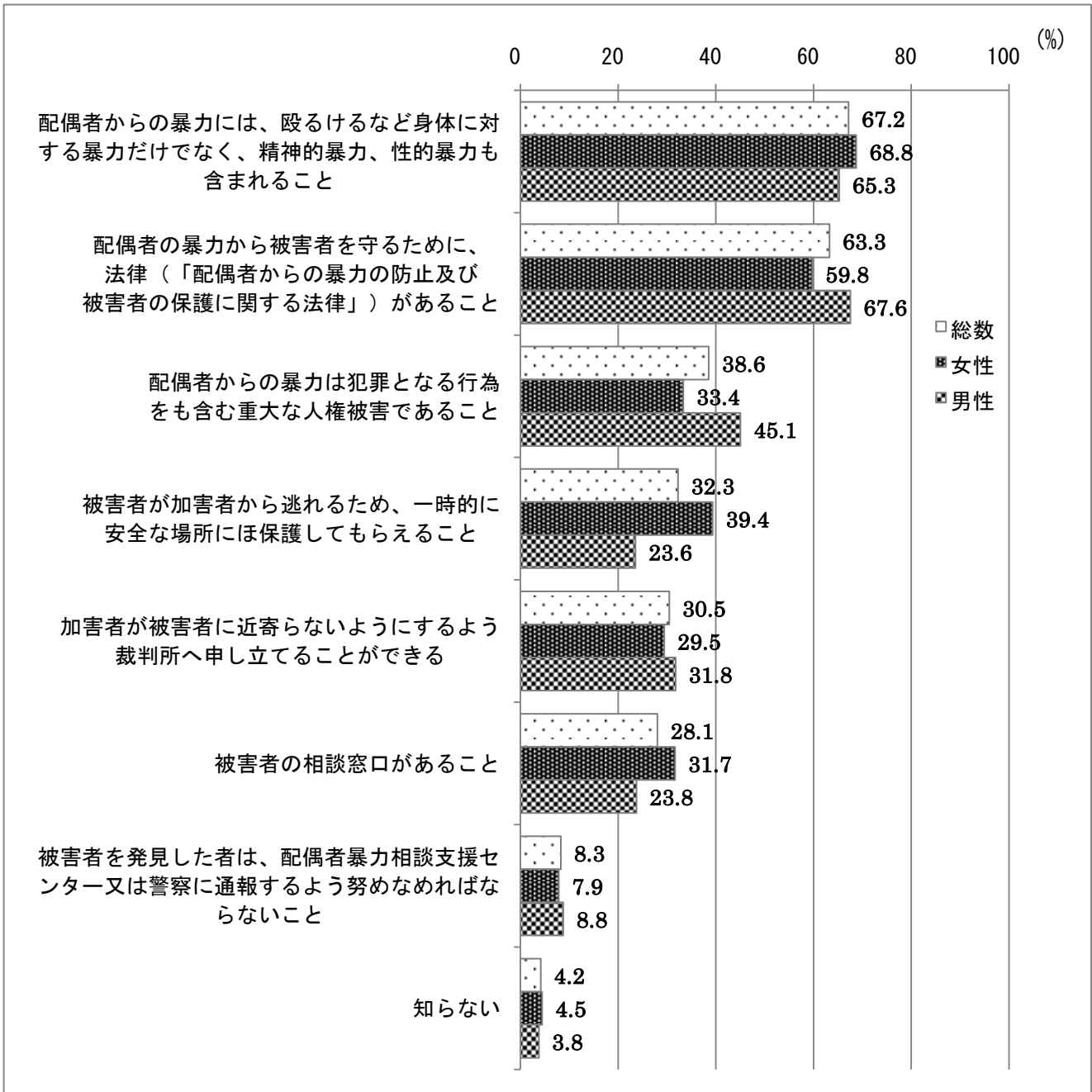


(7) ドメスティックバイオレンス (DV・配偶者からの暴力)



## 男女間における暴力等について

問 25 あなたは、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関して、次のことを知っていますか。  
 ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。  
 特によく知っているものを3つまで選んでください。



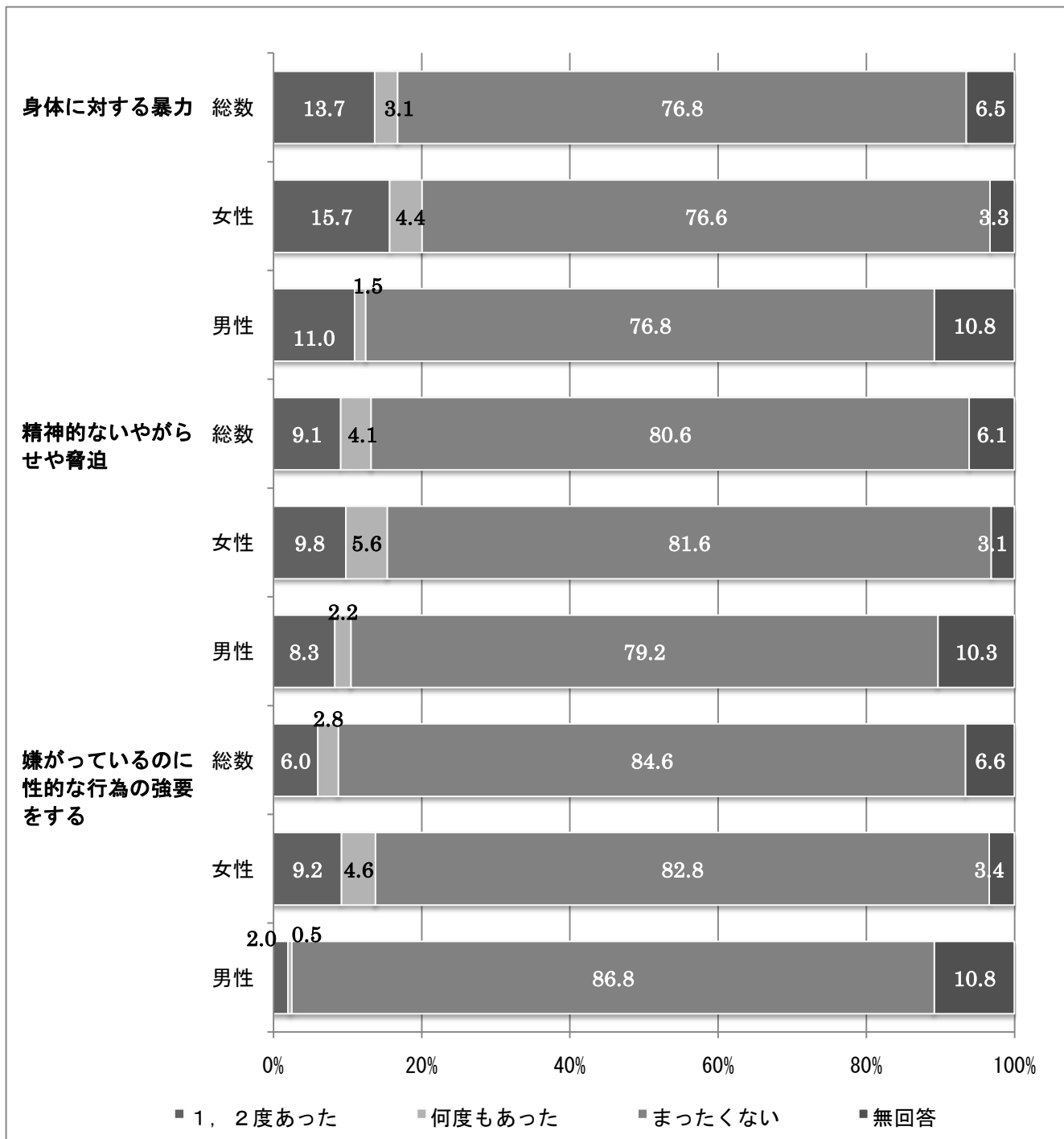
### 【全体】

暴力の防止および被害者の保護に関する事柄のうち、「知っている」と回答が多かったのは、「暴力には、殴るけるなど身体に対する暴力だけでなく、精神的暴力、性的暴力も含まれる」（67.2%）、「暴力から被害者を守るために法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」）がある」（63.3%）であることから、一定程度の認知度はあることが分かる。今後は、さらに各種啓発活動を行いながら、女性に対するあらゆる暴力の根絶に向け、官民一体となって取り組む必要がある。

一方、回答が少なかったのは、「被害者を発見した者は、配偶者暴力相談支援センター又は警察に通報するよう努めなければならない」（8.3%）、「被害者の相談窓口がある」（28.1%）であることから、だれにも相談できなかったケースがあることが推測される。今後は、被害者が相談しやすい体制づくりを通じて、被害の潜在化を防止する必要がある。

（ これまでに結婚したことのある方（内縁を含む）のみお答えください。その他の方は問 28 へ進んでください。）

問 26 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。次のそれぞれについて当てはまる数字を選んでください。

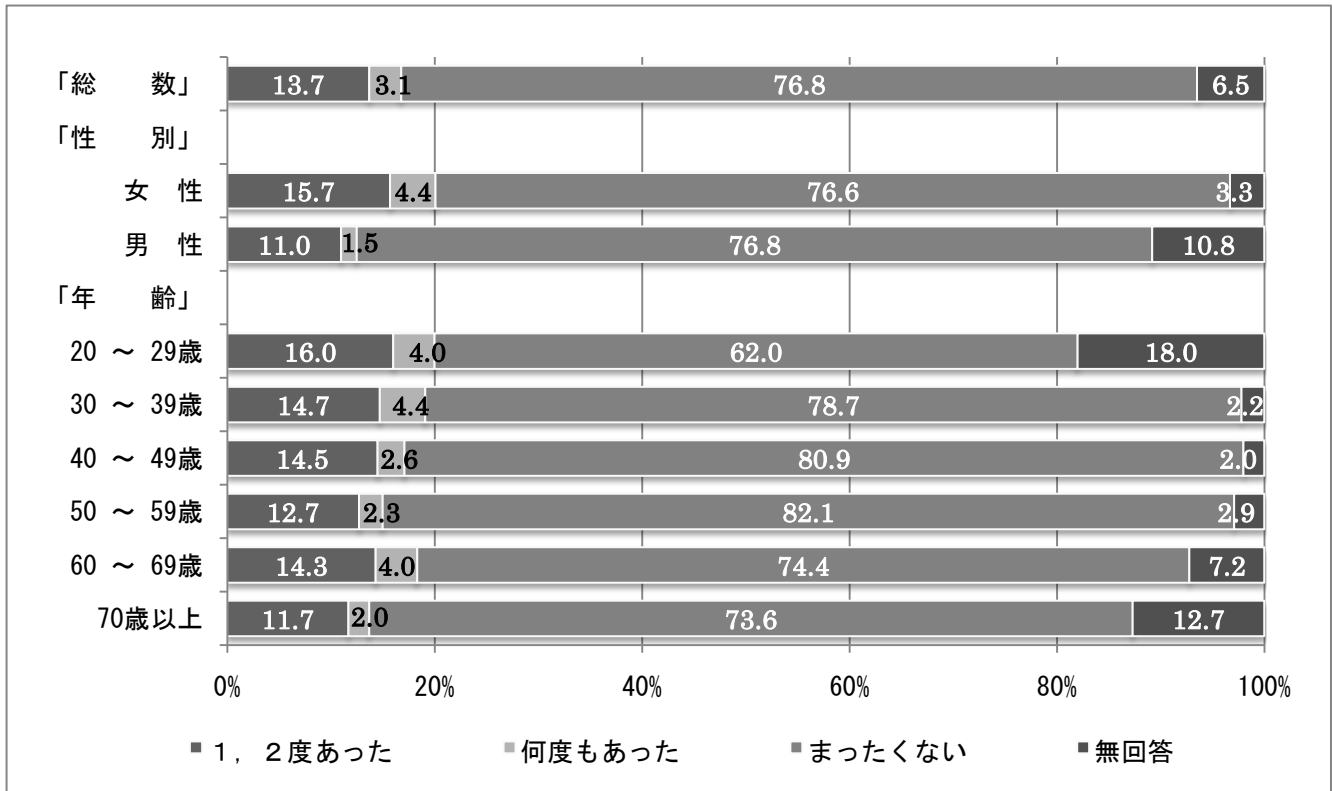


【全体】

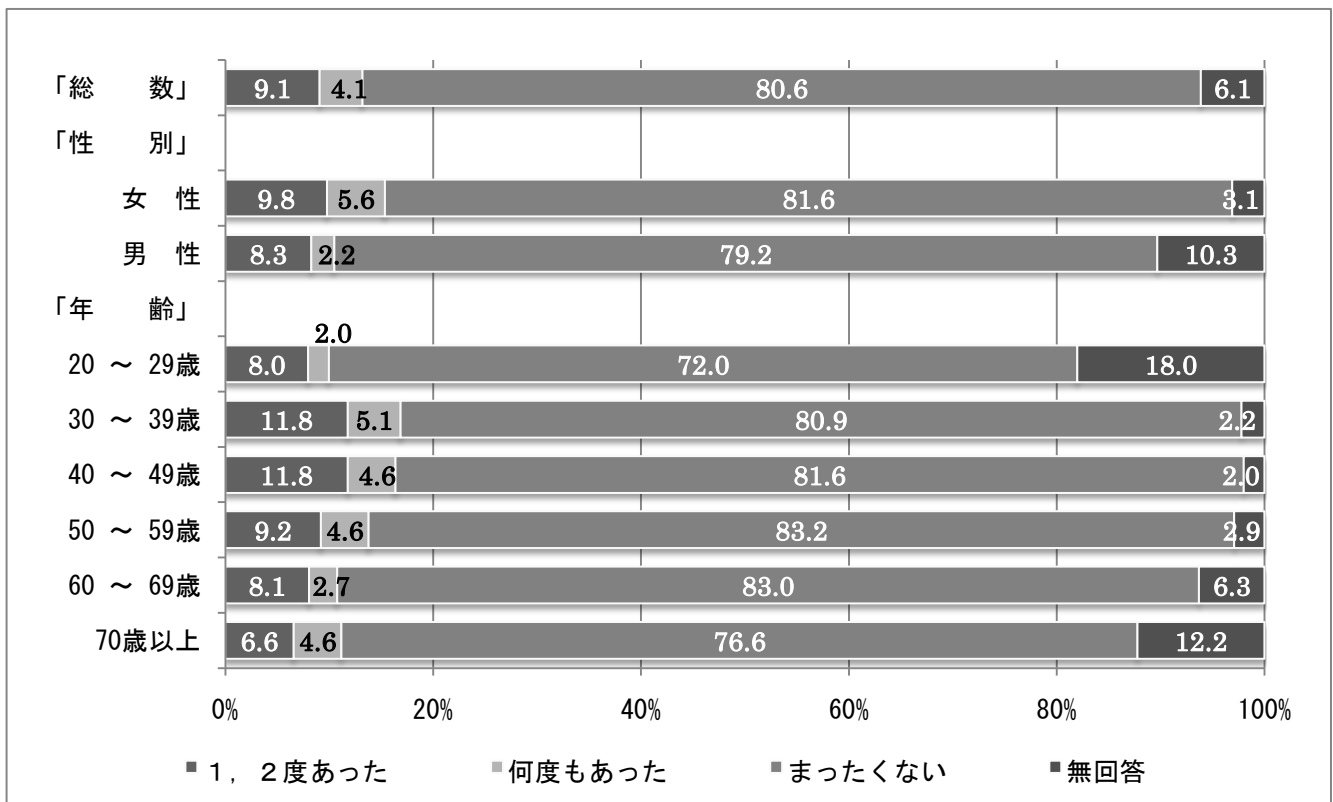
配偶者から受けた暴力について、性別ごとでは、すべての項目において、男性より女性が多く暴力を受けていることが分かる。特に差が大きいのは、「嫌がっているのに性的な行為の強要をする」（女性12.3%、男性2.1%）である。

また、県との比較においては、すべての項目で、暴力を受けた割合が、ほぼ同じとなっている。

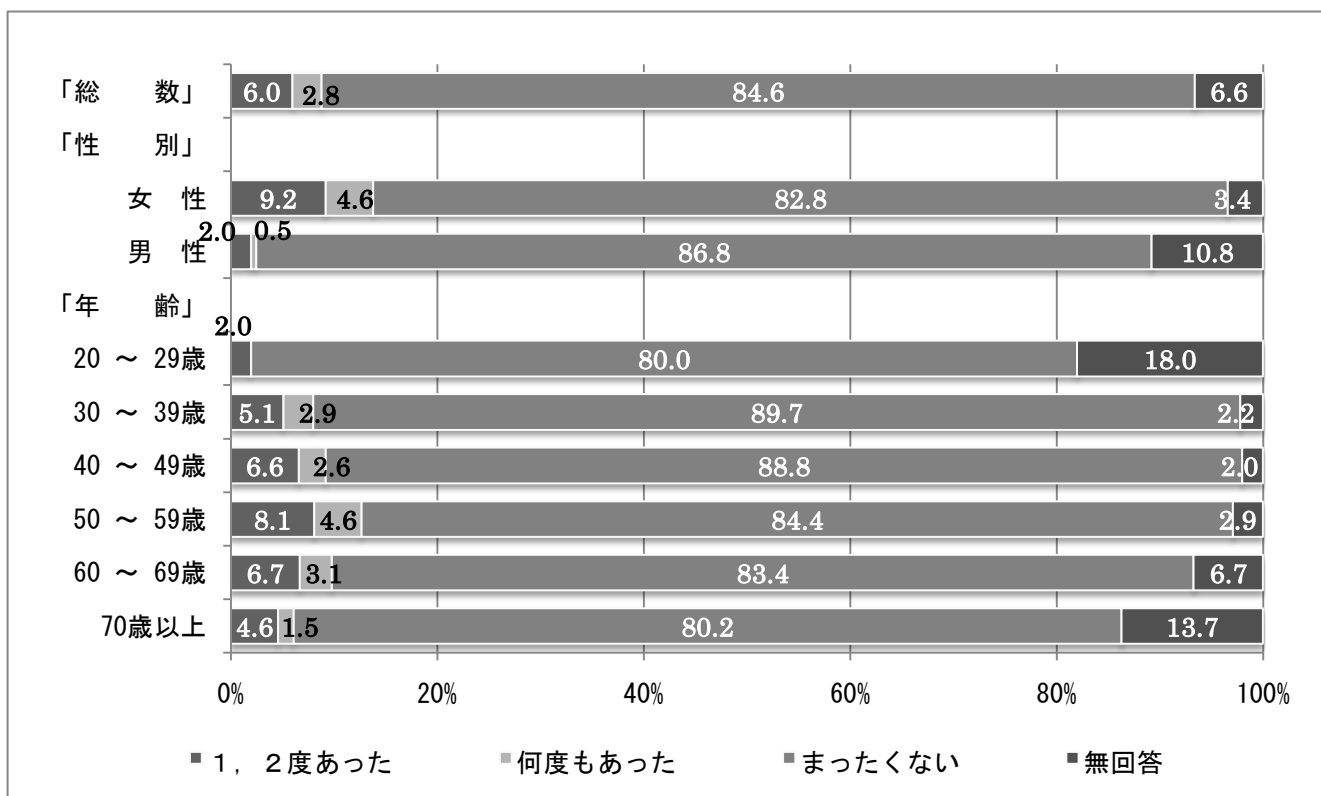
(1) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの、身体に対する暴力を受けた



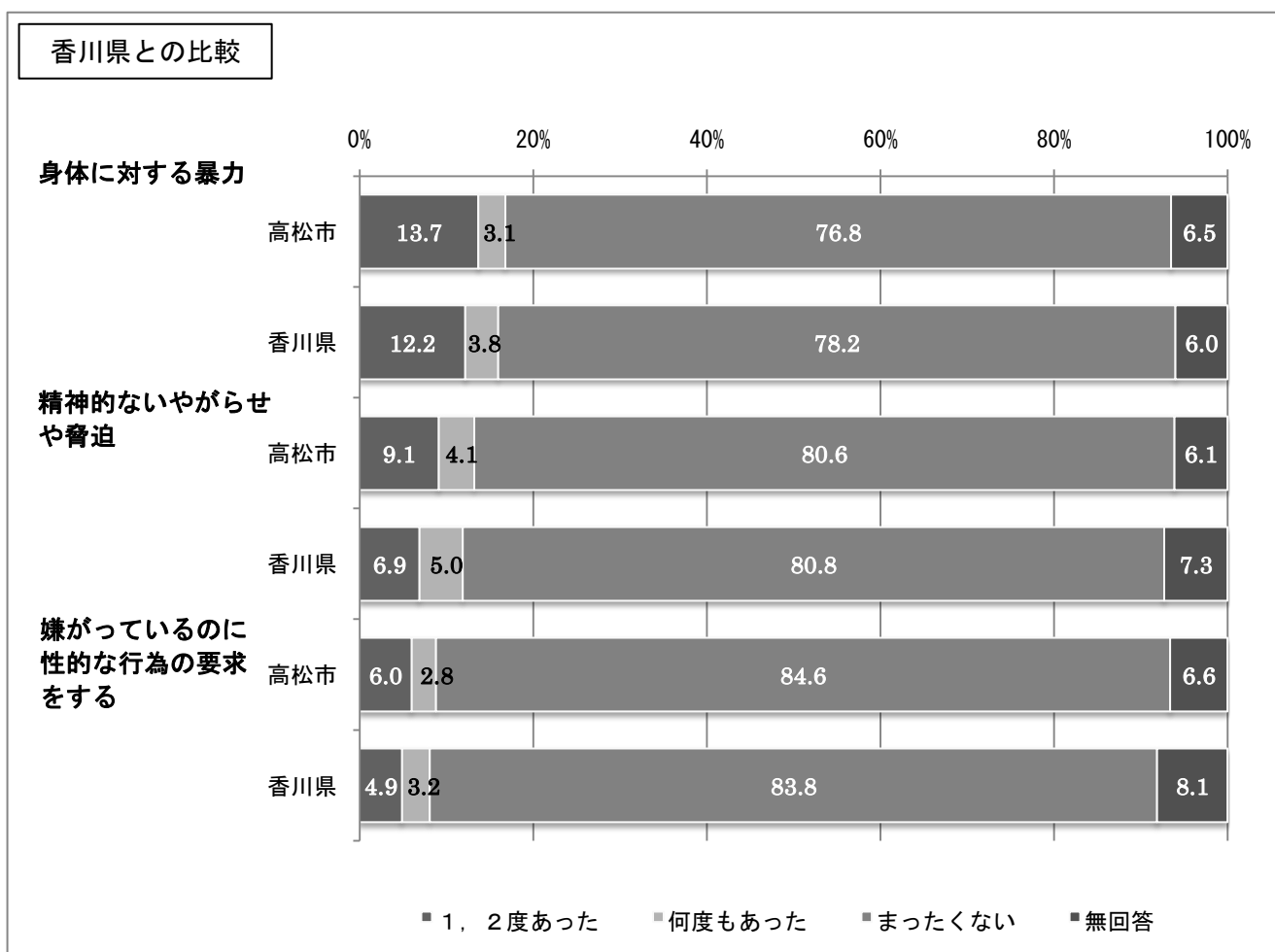
(2) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。



(3) いやがっているのに性的な行為を強要された



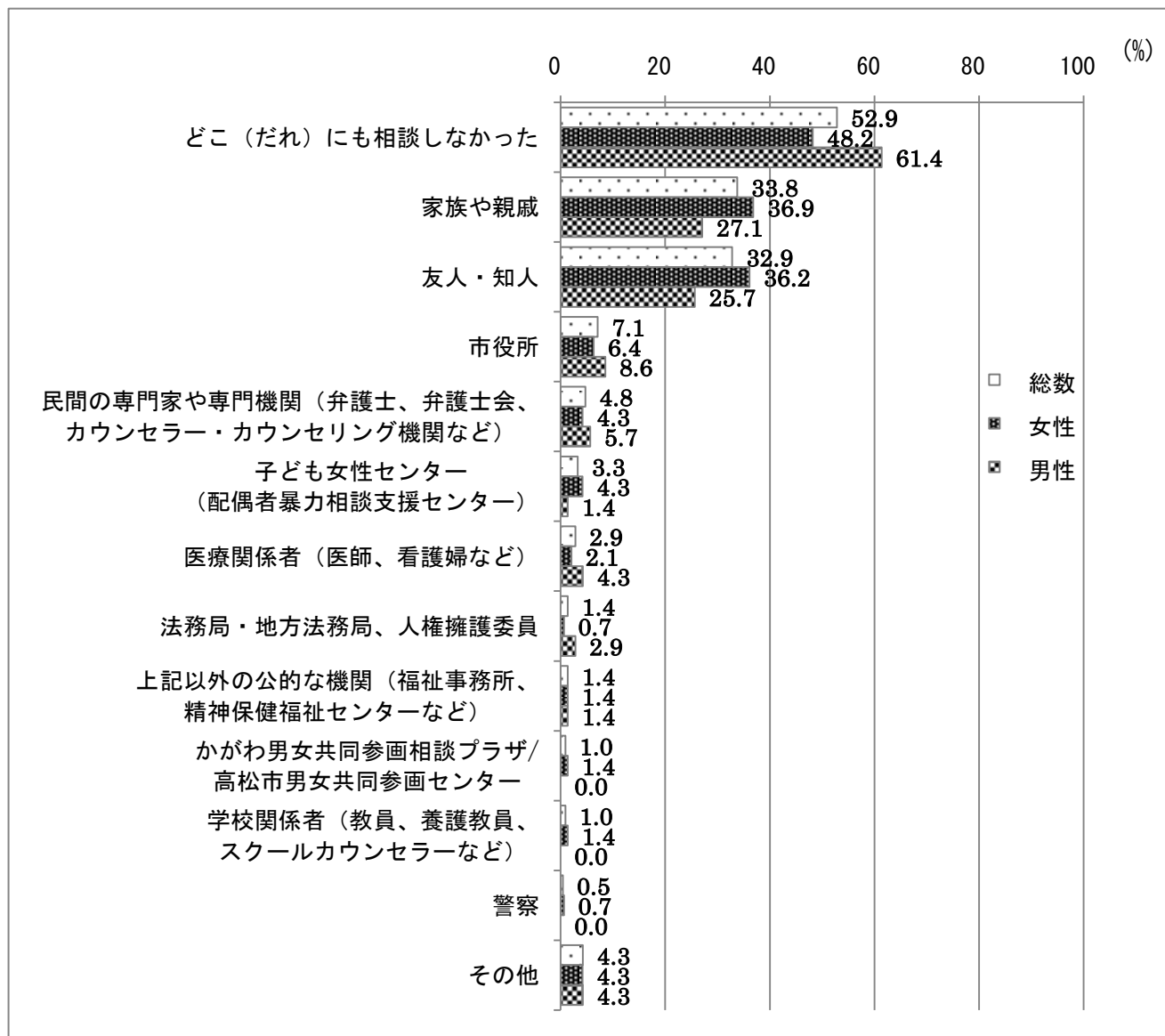
香川県との比較



問 26 のうち一つでも、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの、身体に対する暴力を受けた」または「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。」と選んだ方のみお答えください。

問 27 あなたは、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。

(1) どこ（だれ）に相談しましたか。



○ その他

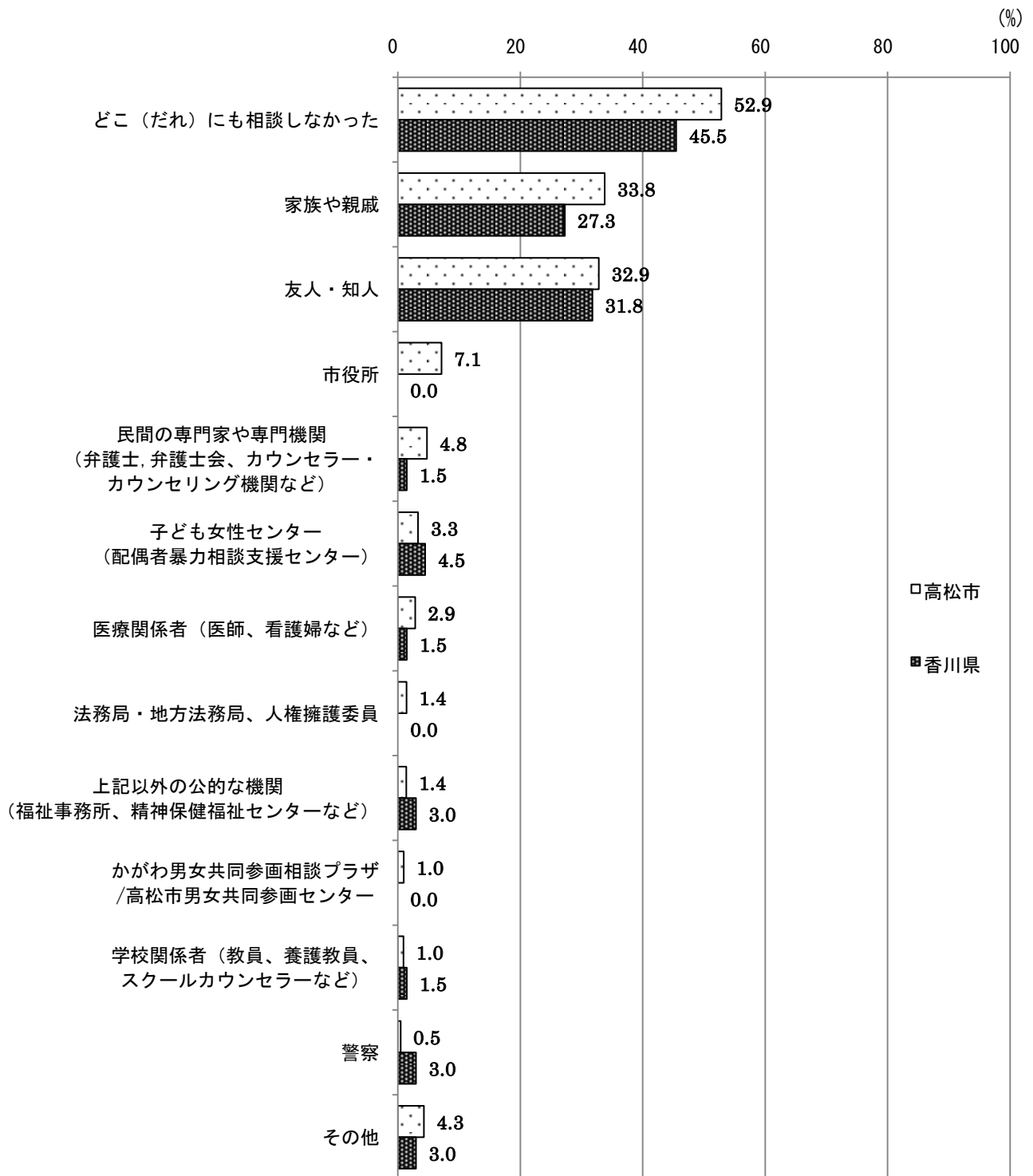
ツイッター上で知り合ったフェミニストの方

【全体】

配偶者から受けた暴力に関する相談先のうち、回答が多かったのは、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（52.9%）、「家族や親戚」（33.8%）、「友人・知人」（32.9%）であったことから、先の間25で分かったように、被害者が相談窓口のあること知らないのが要因だと考えられる。

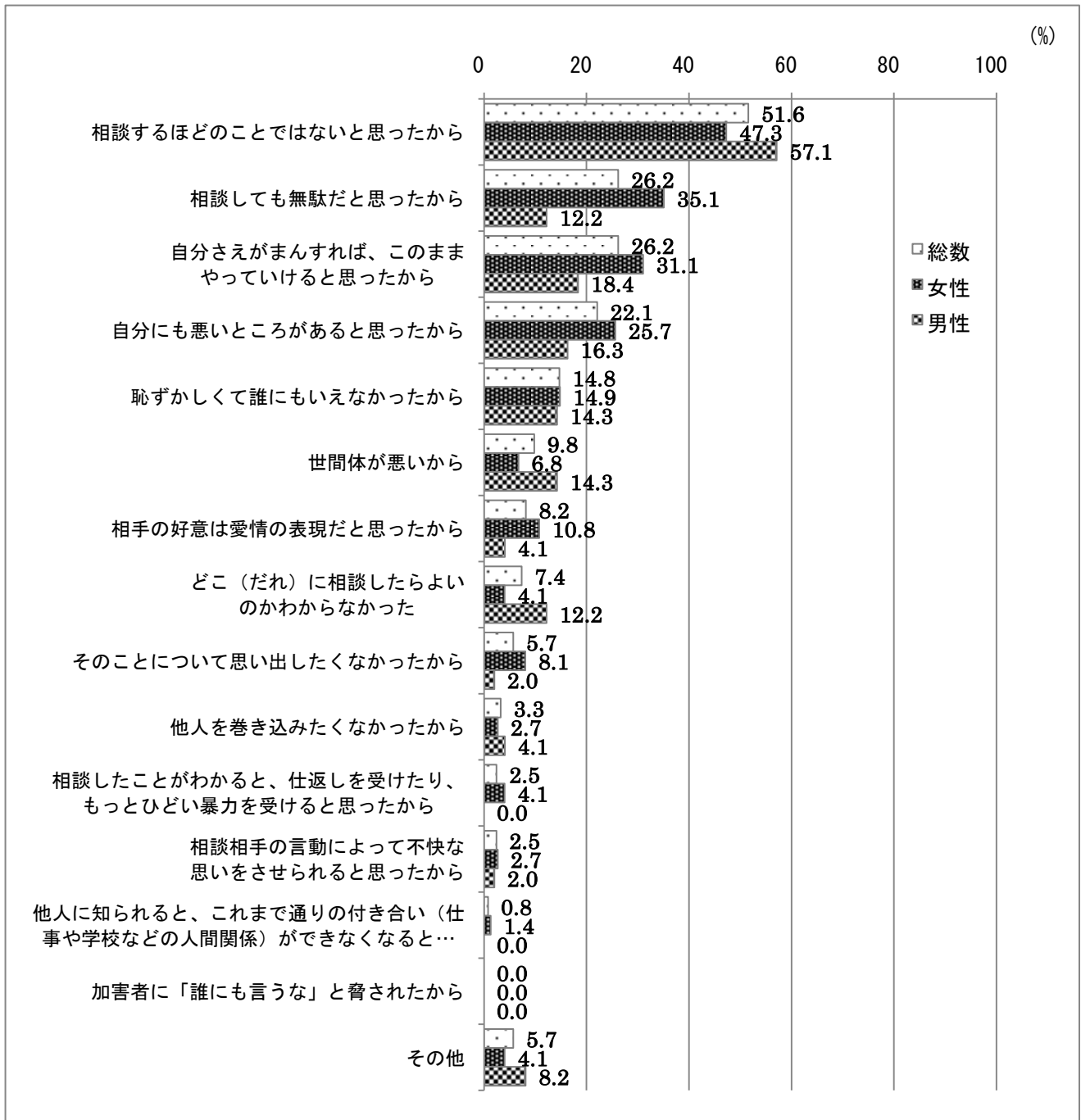
被害者がだれにも相談できなかったケースがあるため、今後は、被害者が相談しやすい体制づくりを通じて、被害の潜在化を防止する必要がある。

香川県との比較



〔問27で「どこ（だれ）にも相談しなかった」を選んだ方のみお答えください。〕

(2) なぜ、どこ（だれ）にも相談しなかったのですか。



○ その他

- 1 人に相談するような問題ではない（程度の軽い場合）
- 2 その程度の人だと思ふことにした

【全体】

相談しなかった理由のうち、回答が多かったのは、「相談するほどのことではないと思った」（51.6%）、「相談しても無駄だと思った」（26.2%）、「自分さえがまんすれば、このままやっていけると思った」（26.2%）であることから、被害者の多くは、我慢したり、あきらめたりしていることが分かる。

一方、回答が少なかったのは、「他人に知られると、これまで通りの付き合いができなくなる」（0.8%）、「相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った」（2.5%）、「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った」（2.5%）である。

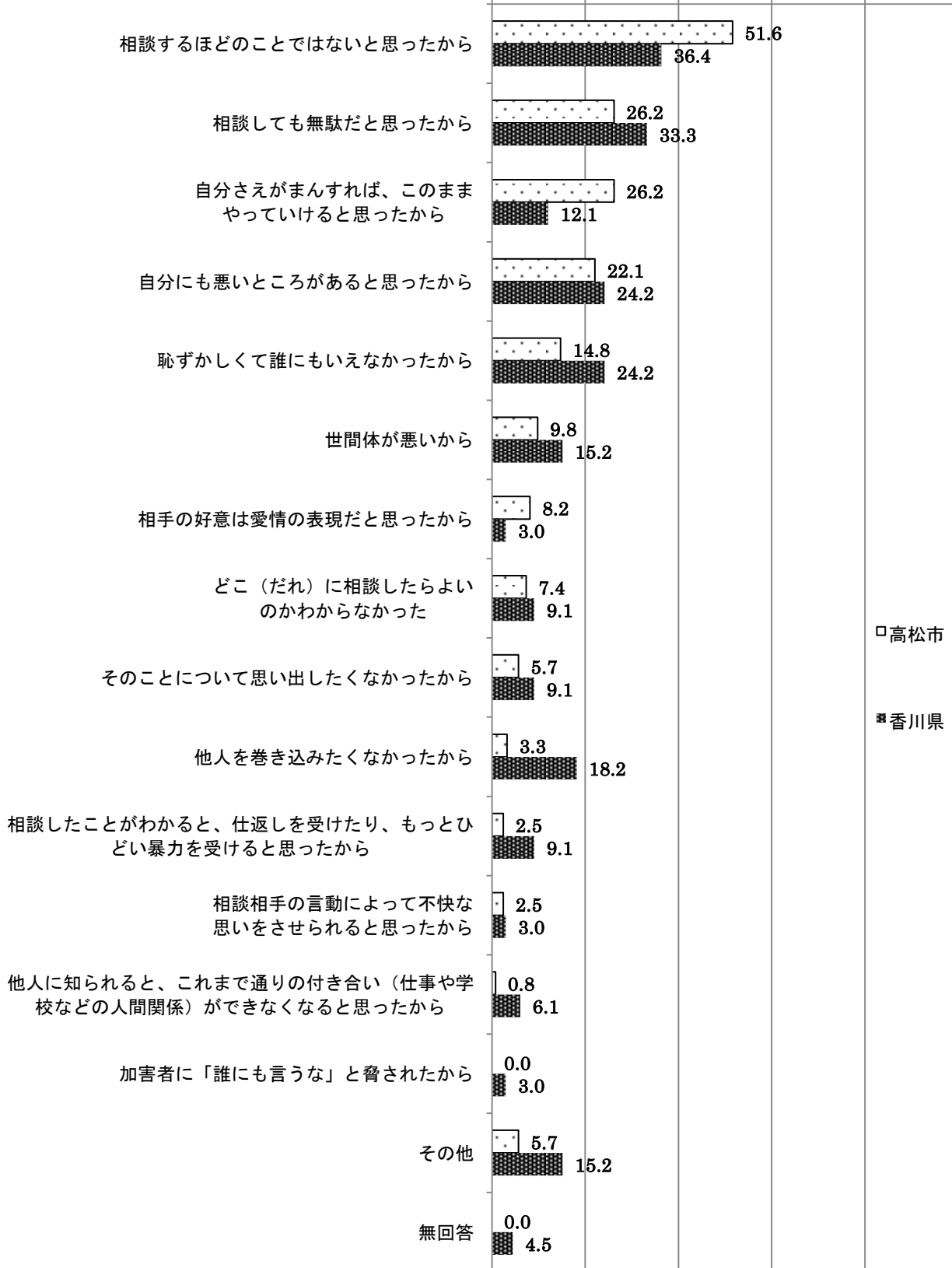
このような結果から、実際の配偶者の暴力相談件数は、もっと多いことが推測される。今後は、被害者が相談しやすい体制づくりを通じて、被害の潜在化を防止する必要がある。



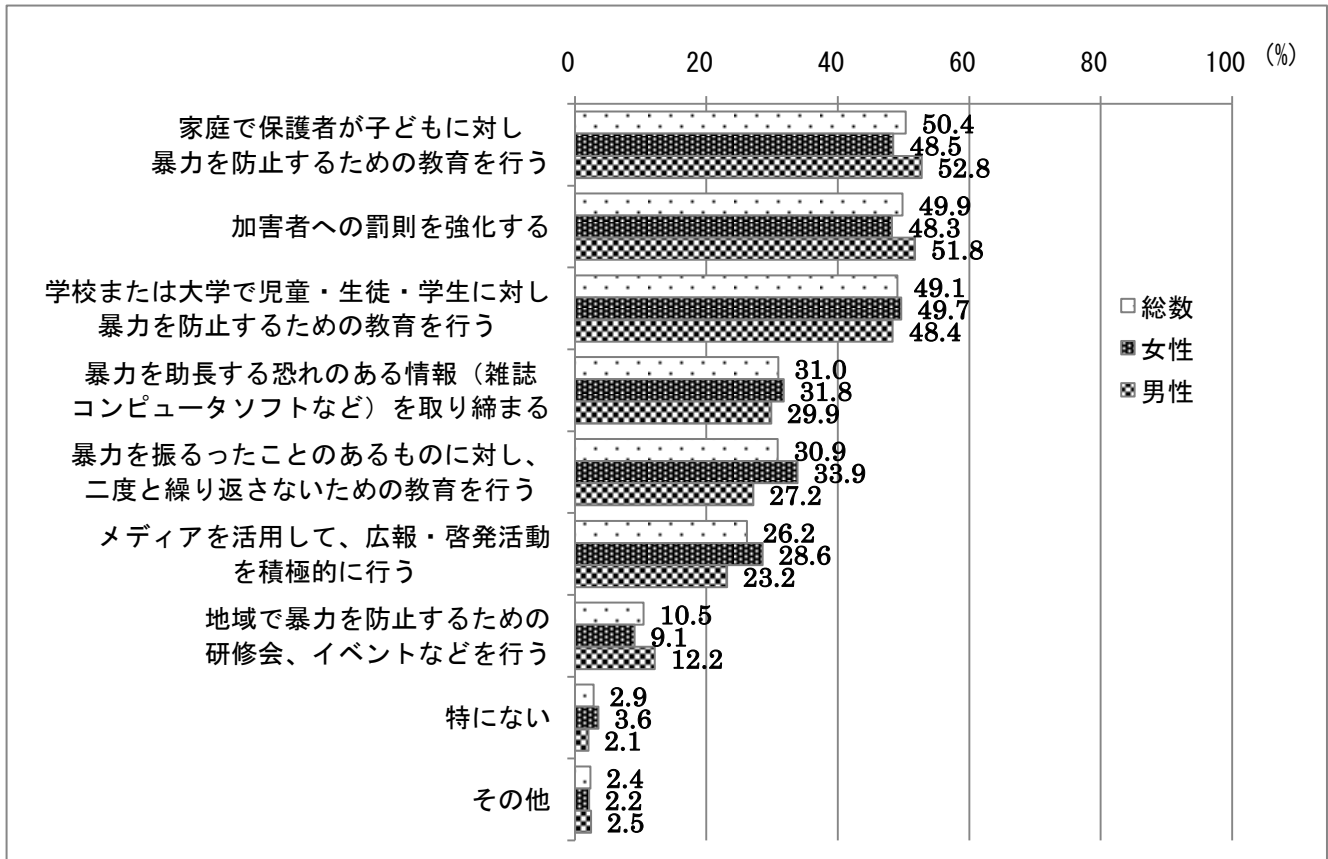
香川県との比較

(%)

0 20 40 60 80 100



問 28 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



○ その他

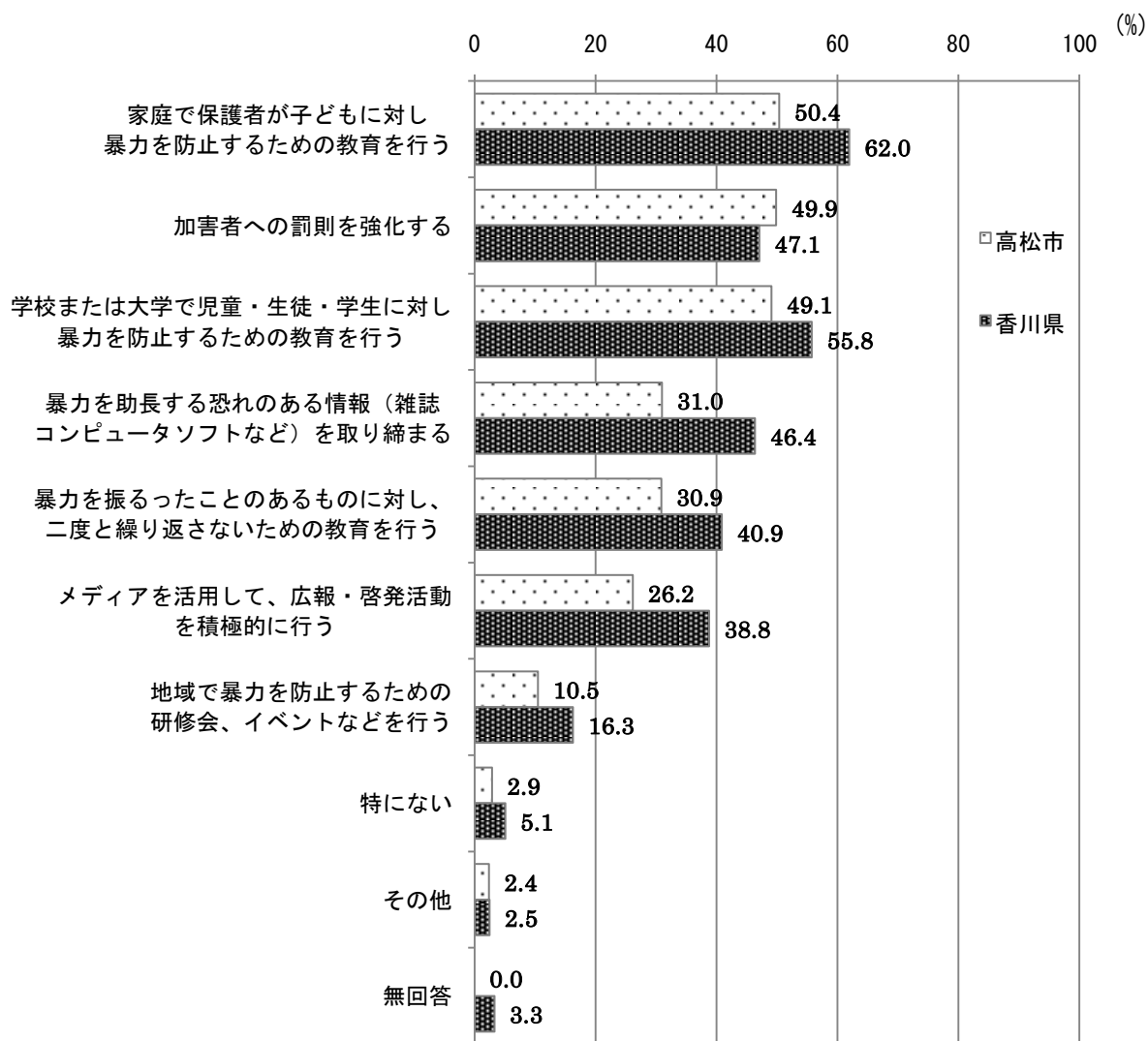
- 1 女性が暴力を振るわれることが当たり前になっている現状を一人一人が認識し、女性も同じ人間なのだということを誰もが理解すること
- 2 暴力を振るう人の精神的未熟さがあり、自分中心的感情を抑える力が育っていない子育てにも遠因があると思う
- 3 子どもの親になる資格がない。人間として失格ですから教育方法がありません。
- 4 大家族に戻れないだろうか。道徳教育を復活できないか。親ももっと勉強すれば…。経済を安定させストレスの少ない世の中に。
- 5 両者が尊敬するに足る存在であることを理解すること
- 6 当事者に任せる
- 7 日常の会話
- 8 同じ事を本人に行う
- 9 暴力をする人に教育しても直らないから家庭裁判所へ相談する（証拠として肉声テープや防犯カメラを用意する）

【全体】

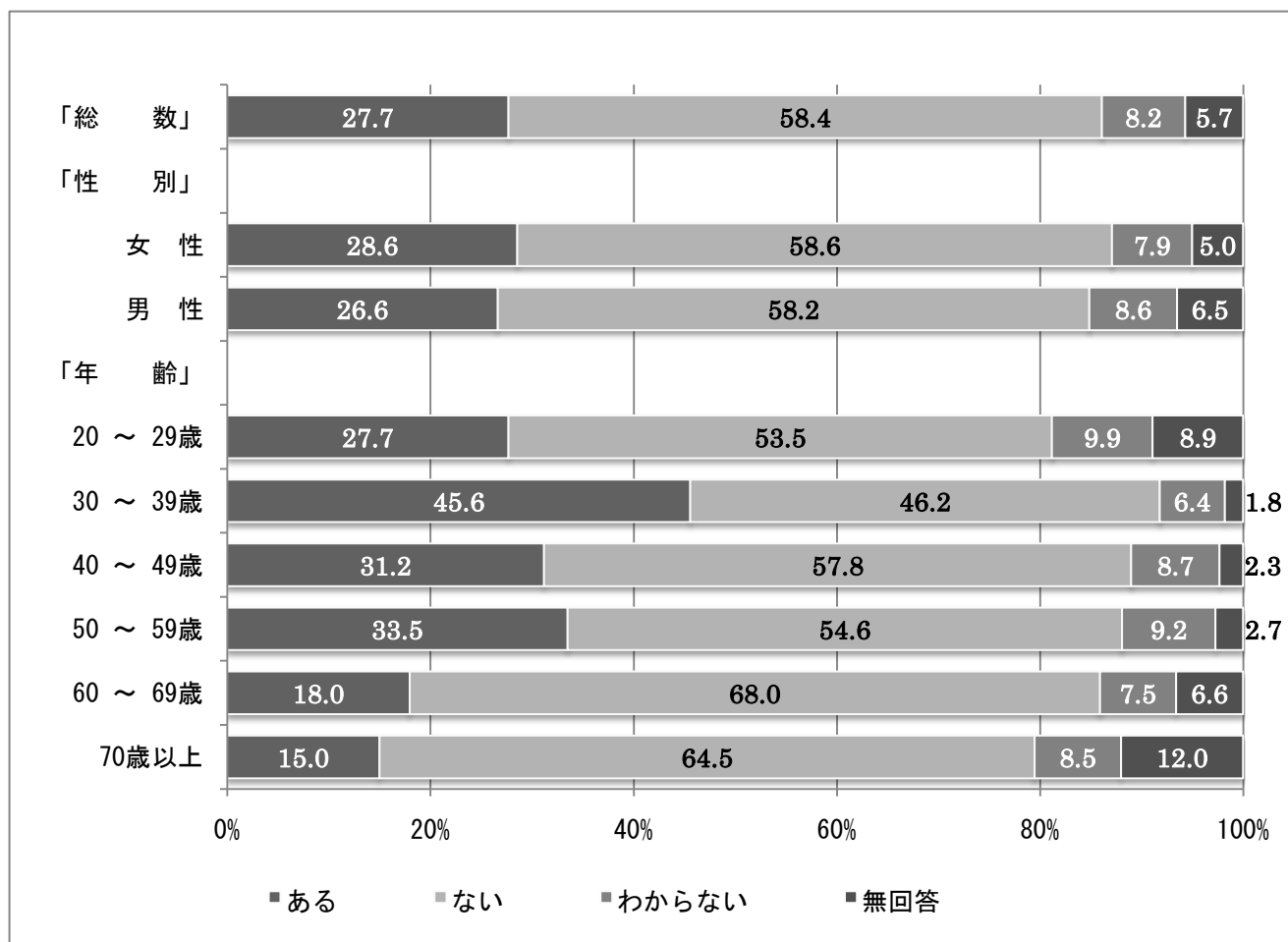
男女間における暴力の防止に関する事柄のうち、回答が多かったのは、家庭で保護者が子どもに対し暴力を防止するための教育を行う（50.4%）と、加害者への罰則を強化する（49.9%）と、学校または大学で児童・生徒・学生に対し暴力を防止するための教育を行う（49.1%）であることから、今後は、官民が連携した広報啓発を実施するとともに、若年層を対象とする予防啓発の拡充、教育・学習の充実を図る必要がある。

また、県との比較において、暴力を助長する恐れのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を取り締まる（高松市31%、香川県46.4%）が、最も差が大きく、県の割合が高い。

香川県との比較



問 29 男女間におけるセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）について、あなたは、今までに性的嫌がらせを受けた、または見聞きしたことがありますか。当てはまるものを1つ選んでください。



【全体】

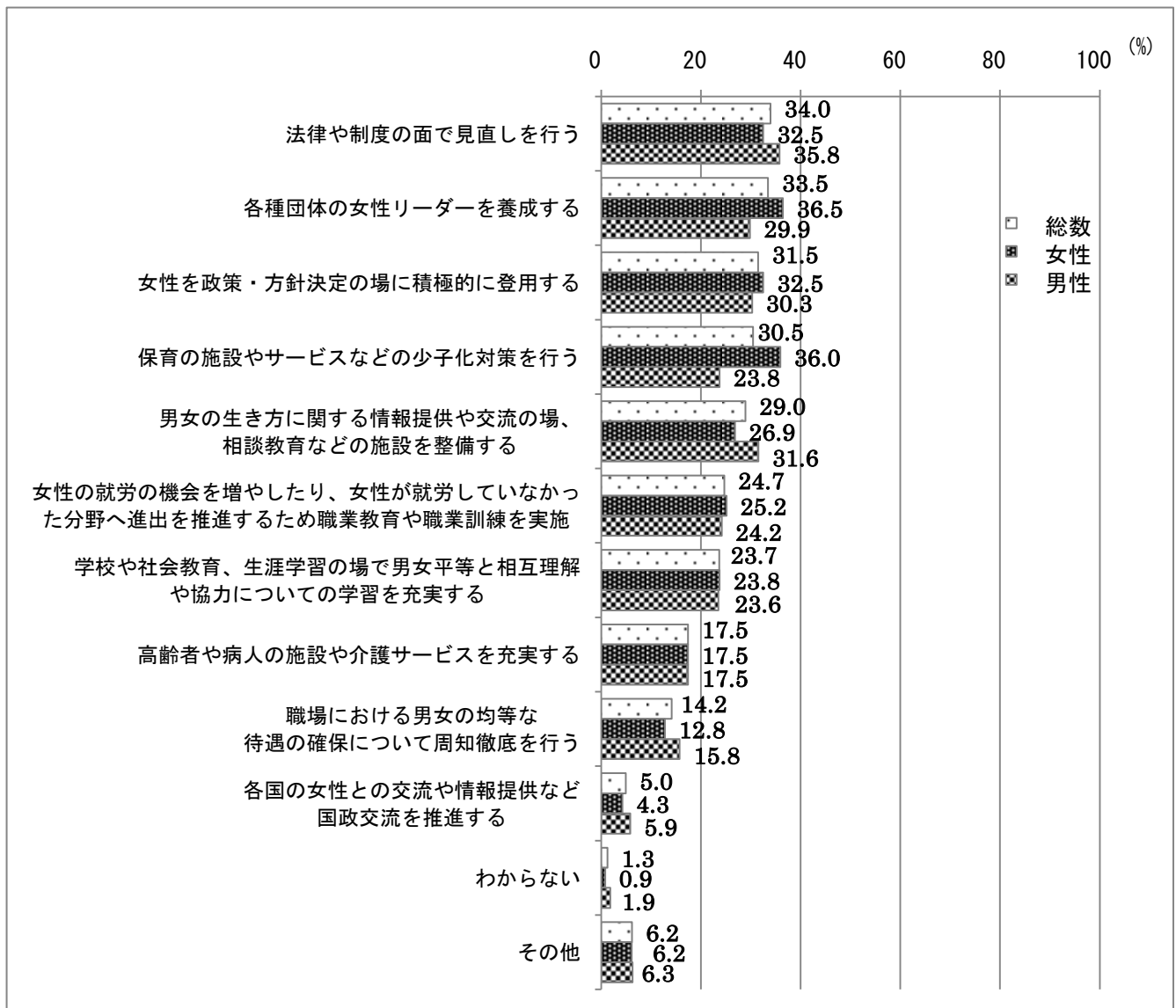
セクシャル・ハラスメントに関して、「を受けた、または見聞きしたことがある」という回答は、全体の27.7%を占める。

年齢階層別では、20～59歳までが多く、特に30～39歳（45.6%）の若者の世代が最も多くなっている。

職場でのセクハラは、男女が対等な仕事の仲間としてではなく、性的対象として意識されるところから起こるものであり、男女雇用機会均等法では、女性はその能力を発揮して対等に働けるよう事業主に労働契約上、セクハラ防止を義務づけていることから、今後も引き続き、官民一体となって、セクハラ防止に向けた取組を推進する必要がある。

## 男女共同参画社会に関する行政への要望について

問 30 あなたは、男女共同参画社会を形成していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



### ○ その他

- フェミニストの方などを積極的に招いたりして、女性の抱える問題や差別について、多くの市民が知る機会を増やす
- 最近では女性優先の傾向があるため、男性の人権を考える機会を増やす
- 女性に対する意識高揚
- 女性に対する特別な対応をなくす（法律を作るなど）
- 日本の雇用環境改善、景気改善
- 考え方・行動がしっかりした女性であれば、人はついていくので、「できる女性」を育てる組織をつくる
- 男女の差（体格等）があるのは事実。男女平等ということの本当の意味を理解しやすいように社会に広めていくことが大切なのではないか。  
お互いを助け合う気持ちが必要だと思う。  
職場でも家庭でも、相手が（仕事や家事）スムーズにいくよう、その場の状況に応じて手伝うことで、男女にこだわらない社会になるのではないか。

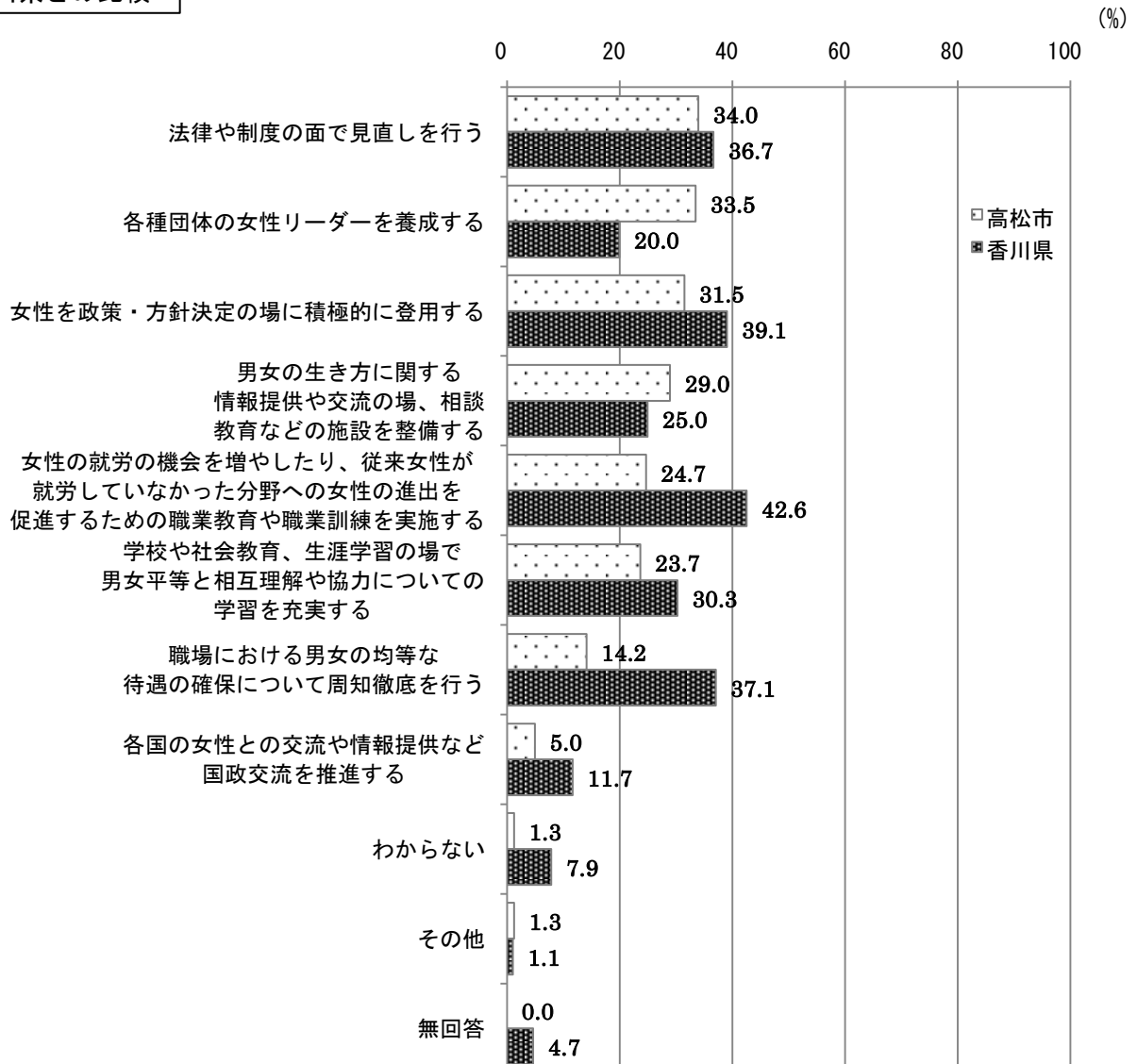
【全体】

行政が力を入れるべき事柄のうち、回答が多かったのは、「法律や制度の面で見直しを行う」（34%）、「各種団体の女性リーダーを養成する」（33.5%）、「女性を政策・方針決定の場に積極的に登用する」（31.5%）である。

特に、第3章の市民団体等意識調査の問11「高松市が力を入れていくべき施策」では、「男女共同参画推進に関する人材育成やリーダー養成の機会の提供」が最も回答が多いことから、高松市の施策として重点的に取り組む必要がある。

また、先の間23「政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由」のうち、回答が多かったのは、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」、「男性優位の組織運営」であることから、女性の参画促進の重要性・必要性についての理解の促進と固定的性別役割分担意識にとらわれることなく、仕事と生活の調和を推進する必要がある。

香川県との比較



問 31 男女共同参画社会や男女間の暴力についてご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

- 1 (1) 男女共同参画社会については、夫婦や家族間でよく話し合いをすることが大切だと思う。今までの古い習慣や考え方を押しつけるのではなく、お互いの意見を尊重し思いやることができればよいと思う。  
(2) 男女間の暴力については、幼い頃からの躾や教育が大切だと思う。「わがママを言えばなんでも通る」というようなことを続けているから、大きくなったとき、そのわがママを暴力で通そうとするのではないか。
- 2 (1) 妻が専業主婦であっても、もっと積極的に夫が家事、育児、介護などを手伝ってもらえるようになってほしい  
(2) 女性が働きやすい職場や、正社員になれるように企業にも努力してほしい
- 3 基本的に男女は平等であり、共同参画のできる社会は必要（理想）であるが、実質的には女性は子どもを産み育てるといふ自然の営みがある以上、まったく平等に男女の生き方や社会を築いていくことは困難だと思う。
- 4 男女共同参画社会の発展により、女性の社会進出が進んだが、それにより晩婚化となり、結果、少子化が進む形となってしまったので、男女共同参画社会はじっくり検討していくべきである
- 5 現時点では、育児・介護は主として女性が行っているが、保育所や介護サービスを充実させることで、女性がもっと働けるようになると思う。
- 6 家庭力（家庭内のコミュニケーション etc.）の低下が問題の根源だと思う。  
すべてが、教育の在り方ではないか。
- 7 基本的に女性を社会参加させない組織がありますが、女性ならではの感性や、ものやわかさを取り入れられていないので、社会的損をしていると思う。
- 8 暴力については、男女間はもちろん親子でも注意したい。親は子に対し、しつけという言い分がある。暴力もその内容によっては傷つき方がいろいろあると思う。
- 9 男女より先に、人間教育が必要。それぞれの特性を生かすことが大切だと思う。
- 10 家庭での教育が大事だと思う（父親と母親が、人間として尊重しあって家庭生活を営んでいる姿を見せることが、一番良い教育）
- 11 子どもの頃からの教育をしっかりとし、「悪いことは悪い」という考え方を植えつける。その教育では、男女を分けるよりも「人として」と考える必要があると思う。
- 12 相手になる人の人権を尊重すること。気長く対話すること。
- 13 相談があればスピーディーに対応できる窓口を、今以上に増やすこと
- 14 男女共同参画社会を形成したり、男女間の暴力をなくしたりするための基本施策は、家庭での教育や学校教育がベースとなると思う。
- 15 議会の定数に男女比を決めて、男女の意見が平等に出せる環境にする
- 16 相手を思いやり、気配りや目配り等ができるような教育の必要性を感じる。
- 17 (1) 時代と共に社会環境は変化していると思う。自分の若い頃にもっとこのような取り組みがあれば、また違った職業を選んでいただけたかもしれない。  
(2) 夫の暴力に対しても、話すことが相手は誰であってもいけないと考えて、耐えることを選びました。幸い何十年も続かなかったので、今の自分がある。
- 18 最近は自分さえよければという人が多い。相手を思いやる心が大切だと思う。

- 19 公共での内職仲介等，子育てをしながら，また介護しながらできる仕事を増やしたり，短時間でのパート等働きやすい場を増やし主婦でも学校で資格を取れるように低授業料の学校を作る等，再チャレンジできる環境づくりが大切だと思う。
- また，出産可能な年齢で子を産み，愛情をかけて育てることも必要だと思う。
- 20 (1) 「男女共同参画」というと，なぜか女性が社会（職場）に進出することに重点が置かれがちだが，本当に大事なのは男性が家庭（家事・育児）に進出することだと思う。
- (2) 暴力については，凶悪な性犯罪事件の犯人が特別に悪い人と思われがちだが，男性たちの日頃の行動や女性に対する言動などがすでに女性にとって暴力になっていることがある。女性も同じ人間なのだという事を男性たちが認識すればそうしたことはなくなるはずだ。
- 21 まだまだ女性の側に仕事に対する甘え，認識の甘さが見られる。
- 22 権力や暴力で何かを支配しようとしたりする人は，幼い頃に心に悲しい傷を持っていたり，きちんとした道徳や愛情を学べる環境になかったりする人が多い（小さい頃から，家庭もしくは学校で命の尊さや，助け合いの心等を勉強させるべき）
- 23 とにかく子どもを預かってくれる保育所，学童保育が少なすぎる（病児についてはそれ以上）
- 24 家庭内での子どもの教育，そして，義務教育期間での学校での教育が重要だと思う
- 25 子育てや介護をするにあたり，就労状態の維持を保障する必要がある（女性は子どもができればキャリアを捨てなくてははいけないのか）
- 26 女性自身も意識改革が必要
- 27 特に小・中学校における教育（道徳）が重要
- 28 男女の平等の意味を間違えず進めてください
- 29 職場で役職者を決めるとき，子育て中の女性は，子どもの体調などで突発的に休むことがあり，残業できないなどの理由ではずされる。未婚の者が役職につくと仕事，残業に追われ結婚できない。保育などのサービスを充実させることと併行して，残業しなくてすむような労働環境を整えることも必要なのではないか。
- 30 家庭内の暴力にも警察の介入をもう少し強化すべきだと思う
- 31 行政の担当者に実態の解明に必要な法的根拠を与え，早期に事実関係を明らかにする必要がある
- 32 男女共同参画というフレーズをいちいち出さなくてもすむようになるとよいと思う
- 33 男女共同参画社会を言葉として意識しすぎ（女性が積極的に参加する意識を持つこと）
- 34 小学3年生の息子が一人いるが，今年は学校の学童保育に入れず，夏休みや学校の休校日は，一人で家で過ごしている。仕事を辞めようか，パートにしようか，何度も考えたが，話し合いの上，がんばれるところまでやってみようということになった。子どもを安心して預けられる施設が充実していれば，女性は働きやすくなり，子どもを産もうという意識も出てくるのではないかと思う。
- 35 (1) 精神的，肉体的な違いがあるので，全てが同じわけにはいかなくてあたりまえだが，違いを認めた上でお互いを尊敬できる社会になればいいと思う
- (2) 暴力などは，無知や未熟さからくるものだと思うので，教育をしっかりするべき（先生の質を上げて欲しい）
- 36 相談場所や電話番号が書かれたチラシをすぐ手元に置く（スーパーやコンビニ，駅，レストラン等）
- 37 男性だけが暴力を振るう時代でもなくなってきた現在の現在，もう少し，夫婦間のコミュニケーションが必要だと思う。話し合いをする前に暴力，暴言といった習慣ができるとそれを見て育つ子どもはまねをして，いじめにも少なからずつながるのではないかと思う。コミュニケーションを学ぶ教育が必要である。



- 38 暴力では何も解決できない
- 39 昔みたいに近所付き合いができる社会にすることが、防犯にもつながるし、また子どもも安心して遊べる場所ができるし、さらにコミュニケーションも取れると思う
- 40 女性が働きやすい社会を作る必要がある
- 41 (1) 女の人には働くのもいいけれど、家の主となる男の人がしっかりと働いて収入が得られるような社会になればいいと思う。そして母親は子どもが小さいときは子どもにしっかりと愛情を注ぎ、子どもの躰をしてあげてほしいと思う。もちろん、父親もしっかりと協力して両親の愛情で社会に出て自分中心な人間ではなく人を思いやれる、年寄りをいたわれる子どもを育てていただきたいと思う。親を施設任せにせず家で親を大切にする、そのような社会や家庭を作っていただきたい。
- (2) 男の暴力は、絶対にいけないことだが、女の人にも暴力を振るわすような言葉使いは慎むようにしないと喧嘩をして別れて傷つくのは子どもだと思う。この子どもたちが大きくなったときが心配。今の社会はどこか間違っていないだろうか。
- 42 男女間の暴力は、幼少期の家庭における躰が重要だと思う。愛情を受けていないと、気持ちをどの様に表現すれば良いかわからず、かえって迷惑な行為に及ぶのではないか。自分を相手の立場に置き換えたコミュニケーションのとり方を家庭で推し進めることが大切だと思う。
- 43 (1) 教育費、医療費、居住費の経済的支援  
(2) 男女間の暴力は、警察の介入が必要だと思う
- 44 家庭内教育が最重要と思う
- 45 男女共同参画社会を実現するためには、もちろん法整備や自治体の取り組みも大切だと思うが、本当に根付かせるためには、地域住民一人一人の心に抵抗をなくすことが最も大切だと思う。私は、男女平等を無理やり推し進めていくという考え方よりも、個人の能力を男女関係なく評価することができるという世の中になっていくという考え方が好きだ。高松市が全国に先駆けてフレキシブルな柔軟性を持った自治体になっていってもらえるとうれしい。
- 46 地域の保育施設では、午後6時までしか見てもらえないが、職場が夫婦ともに午後6時までなので、迎えにいくとどうしても午後6時を過ぎてしまい、早く迎えに来るように言われる。このままでは、どちらかが仕事を辞めるしかなく、収入や役職からしても妻が辞めざるをえない。まわりにも同じような境遇の家族がいるが、数十分の延長で働き続けられる女性が多いと思う。行政のがんばりに期待する。
- 47 (1) DV防止のため、学生期間だけでなく社会に出てから企業セミナー等で行う  
(2) 保育園や幼稚園の時間帯と仕事の勤務時間があわないので働きづらい
- 48 道徳教育の充実が第一である(家族制度の復活、宗教教育(慈悲の心))
- 49 女性が守られた平等は本当の平等ではない
- 50 (1) DVについては、特に幼い頃からの家庭環境や人との出会いの中で人格が形成されると思うので、小・中・高での学校教育の中での充実した教育が必要ではないか  
(2) 家庭内暴力について、もっと行政のサポートや地域の人々のコミュニケーションをできるような仕組みが必要
- 51 (1) 男の場合、女性に暴力を振るうことは、本人の子ども時期の学校の教育にもよるが、それと重要なのは、その両親の教育・しつけがものすごく影響すると思われる  
(2) 子どもは、親の背中を見て育つというが、弱者は守ってやるんだという意識を植え付けて育ててほしいと思う(細い針金は自由に動かせるが、太い鉄のほうはそうはいかない)

- 52 (1) アニメなど小さい頃から暴力的な言葉を知る機会が増えており、悪気なく子どもたちが使っているのを見ると将来が不安になる  
(2) 若い親の教育の場をもう少し増やし、子どもに責任をもてる人を増やしていくべき
- 53 (1) 私は、将来子どもが欲しいと思っているが、職場で制度（産休・育休）はあるものの、出産後、復帰しにくい雰囲気があり、また、逆に子どものいない人に仕事の負担が多くなる傾向もある  
(2) 企業の総務や管理職に教育をしっかりとしてほしい
- 54 駆け込み寺のような窓口を積極的に周知して開放する
- 55 学校教育で、男女を問わず人を尊敬したり、敬愛する精神を育てることが、そういうことを考えていくことの模範になっているような気がする
- 56 正直なことを言えば、法律の整備など形を考えるのではなく、各人の意識次第だと思う
- 57 男性側も女性側も得て不得手はあるので、きっちり平等という方向に推し進めなくてもよいのではないかと思う
- 58 暴力は絶対に許してはいけない
- 59 啓蒙セミナーや講演会などは、民間団体にお任せして、行政はインフラ整備を充実していただきたい（例えば、保育料や教育費を下げるためにはどうすればいいかなどを常に考えて対策を講じてほしい）
- 60 警察へ相談しても、事件にならなければ本当に相談に乗ってもらえないと言っていました（毎日、毎日、事件のない日はない）
- 61 なんでも平等というのではなく、女性男性それぞれ本来身につけている特性を生かした上での取り組みが必要だと思う（短絡的になりすぎてはいけない）
- 62 男と女は、思考や体力とか完全な平等ではないので、一般的に平等とはいわず、各人の能力をいかせる平等を目指してほしい（例えば、子育ては女性に向いているし、なくてはならないので、女性が働かなくても子育てできる環境など）
- 63 (1) 暴力を振るうことは、人間として最低だということを小さい頃から教育してほしい  
(2) 人は誰でも人格のある人間なので、考え方とか違ってそれを尊敬するような社会を特に教育者の人が持ってほしい（型に入った人を作らないためにも）
- 64 自己中心的な考え方が多くなっているが、家庭や学校の教育を考え直す方向で考えてほしい
- 65 学校教育において、男女共同参画社会ということがどういうことなのかを知ることや、具体的にどのようにしていくことが大事なのかなどを話し合う時間などを取り入れる
- 66 女性が働くことにより総生産量も増え、国も繁栄していくと思うが、子どもにも親が働く姿を見せ、地域で子育てができる社会になってほしい（子は宝、正しい教育をお願いしたい）
- 67 やはり、一般的に女性は家事、男性は仕事という考え方が根深くあり、いくら表面的に男女平等といっても、実際はまったく違うと思う。
- 68 暗黙の了解ではなく、幼少期からの教育内容に、男も女も暮らしやすい社会にするために必要だということをきちんと書き加える（男女共同参画社会という言葉があいまいすぎる）
- 69 (1) 女性の扱いがピックアップされているが、男性にとっても理不尽なことも起こっている  
(2) 男性だから女性だからというのではなく、共に成長していくためのパートナーとして大切な存在であるということを教育していくことが必要であると思う  
(3) われわれ若い世代に教育するベテランの方の考え方や、やり方を変えなければ何も変わらないし変えられないのではないか（「川上清めは川下清む」デメリットが言い訳の理由ばかりでなく、挑戦してほしい）

- 70 精神的な暴力は、どうやっても他の人に分からないし、こちら側も訴えることはできない（だから、できるだけ早く離婚できるシステムを作り、確実に生活費を女性が手にできるようにすべき）
- 71 ムリに女性を役職につけたり委員にしたりするのは、かえって女性差別であり、わざわざ女性に限定する社会はよくない、男性差別である
- 72 貧富の差、属する会社等によって個々の認識に格差があるが、この差をどうにかして縮めなければならないと思う
- 73 暴力は、されている側は「言うと後が怖い」など勇気をもって言える人が少ないので、被害者の様子を普段からよく周りの人が見ていく必要があると思う
- 74 虐待、育児放棄、DV、離婚多発化、モラルの低下、政治家への不信、思いやる心が失われ、自己中が多くなって難しい
- 75 理解して納得ができるまで話し合う
- 76 DVに対応する行政や県警の担当者の体制を強化すべきだと思う
- 77 地域の活動を密にしていけるべき
- 78 保育、医療、介護等のサービスや制度が整っていれば、おのずと女性は社会に出ていくようになると思う
- 79 大人になりきれていない大人が大勢いる（そんな中で結婚し、子どもを育てても…、個人個人が常識のある大人にならなければ、子どもも、また、常識のない子どもが育つ）
- 80 暴力は、許されるものではないと思う
- 81 現在の男性中心の社会から男女共同参画社会や男女間の暴力の無い社会にするためには、ゆっくり時間をかけて幼い頃からの教育が大切だと思う（男性が女性より優れているというのではなく、お互いの特性を認めて尊敬すべき関係を築くための教育が必要）
- 82 相手を思いやる心を育てる教育、これを家庭・学校・地域で行える法律を確立してほしい
- 83 転勤族と結婚したため、夫の転勤に伴い、当たり前のように私が退職した際には違和感を感じました。（子どもも小さく仕方ありませんでした。また、転勤先には親戚等頼れる人も無く、現実的に就労可能な職場があったとしても、仕事の内容や給料は退職前のものとは余りにも程遠く…）私個人としては、仕事を通して社会とつながり、評価を受け自己研鑽し続けたいので、いずれ就労したいと思っている（それを受け入れてくれる社会であってほしい）
- 84 自分の意見（言葉）には責任を持つことが第一で、前向きな姿勢は明るく、自信を持って楽しむことを忘れない
- 85 大家族で生活してきた昔とは違い、核家族化している今は、社会全体で子育てを支援していく必要があり、それが当たり前である社会になってほしい。そうすれば、自然と女性にできることが増えると思う
- 86 介護サービスに力を入れてください（これからの私たちのために）
- 87 (1) DV等是一種の病気だと思う、また、本当に一緒にいて互いが必要なのかどうか見極めなければ一生不幸になると思う
- (2) 子供女性相談センター等を知らない方もいると思うので、もっと広報で110番でもいいから悩んでいる人は相談するような周知をし続けなければならないと思う
- (3) 人間関係が希薄な現代、あらゆる面で格差社会から始まって男女平等・DVなどを解決することは難しいと思う

**問 32** 男女共同参画社会の実現に向けて、今後のキーワードとなるものは何だと思われますか。

- 1 古い慣習の見直し，新しい制度の制定
- 2 男性の家庭での協力と，女性の地位向上
- 3 意識の改革
- 4 世間体にとられないこと
- 5 賃金の平等化・能力に応じた昇進
- 6 将来を見据えた教育体制の抜本的改正
- 7 老人・子どもに対する思いやり
- 8 男女という社会的イメージの変更
- 9 地域や仲間で助け合う「ネットワークづくり」「コミュニケーション活性化」が社会や教育の基盤をつくると思う
- 10 男女が協力していく社会ではあるが，女性は男性を立てて，主であると思って欲しい
- 11 女性が女性らしさを失わずに参画できる社会づくり
- 12 男性，女性共にお互いに対する理解
- 13 女性自身の自覚，意識向上
- 14 人間としての常識
- 15 行政のサポート
- 16 歩み寄り
- 17 お互いの人権を尊重すること
- 18 社会の安定が一番だと思う
- 19 地域・職場・家庭による男女差別をなくすこと
- 20 組織形態を問わず，トップの考え方次第によると思う
- 21 各種団体における女性グループの養成が必要だと思う
- 22 余裕をもって子どもを育てることについて，企業・地域等が寛容になってほしい（どうすれば，仕事と育児の両立ができるのか）
- 23 日本型ジェンダーフリー
- 24 相手の話にまず耳を傾ける
- 25 女だからといって侮らず，能力を買ってあげ，もっともっと女性が前に出られるようになればこの世の中も変わると思う
- 26 個々の確立
- 27 労働時間の短縮
- 28 古きよき時代の男はたくましく，女は優しくといった考え方はベースとして取り入れるべき
- 29 まず会合に参加してもらう
- 30 リーダー養成すること
- 31 女性の積極性が必要
- 32 思いやりと正義感
- 33 雇用環境の整備
- 34 これからの若い世代のために
- 35 「お金」より「人間性」価値が認められる社会
- 36 子育てが終わってからの40代，50代の再チャレンジ
- 37 女性のチャレンジ

- 38 女性が働きやすい環境づくりと周りの人の理解
- 39 政策意思決定過程への女性参画
- 40 家族の輪，地域の輪，社会の輪
- 41 仕事と子育ての両立
- 42 少子化対策
- 43 能力を生かす
- 44 信頼，補完，理解
- 45 夫の育児休暇取得の実現
- 46 子どもの頃からの教育と実社会での法律・行政などによるサポートの充実
- 47 リセット&チャレンジ
- 48 学生時代（中・高生）から夏休みの宿題などで，介護センター等のボランティアに参加させたり，子どもと一緒に育児や介護を行う
- 49 環境づくり
- 50 全員参加
- 51 真の意味での「平等」
- 52 男と女は違うのだということを理解したうえでの意識改革
- 53 男性の意識改革
- 54 男らしさ，女らしさ，日本人らしさ
- 55 中小企業，個人企業等には，未だ出産退社という現状があり，大企業との格差がある
- 56 保育サービス（学童保育・病児保育など）の充実
- 57 ワーク・ライフ・バランス
- 58 多様性のある社会システム
- 59 機会の平等
- 60 「夫婦別姓」になれば，男女共に新しい概念が生まれ実現が早まると思う
- 61 「選択の自由」を可能にする環境づくり
- 62 女性を積極的に登用する
- 63 大人社会（成熟）
- 64 誠意
- 65 会社ごとに，男性向けの講座を設ける（料理や家事を実体験する機会を強制的につくる）
- 66 被害者の心の傷の深さや痛みをもっと表面化してください
- 67 We are 親戚
- 68 男女共同を「女男共同」とすること
- 69 男性に対しての教育
- 70 男女と区別せずにヒューマンとして考えるべきだ
- 71 家庭から社会へ
- 72 子育て支援
- 73 個性を伸ばす教育
- 74 総収入の確保
- 75 精神的自立
- 76 女性も，すべてにおいて実力をつけてもらいたい
- 77 実現する（させる）ための“やるき”

- 78 女性も男性と同様，仕事で残業をこなすこと
- 79 適材適所（最もふさわしい人が男女差の問題で登用されないのは，大きな損失である）
- 80 国会・県議会・市町村会議等に男性と女性を同数程度登用すること
- 81 少子化と雇用の安定（正社員）
- 82 夫婦子どもともに輪をつくって，よい社会にしてほしい
- 83 公務員の改革
- 84 勇気ある有言実行
- 85 自立（自律）
- 86 経済的な自律
- 87 信頼と絆
- 88 人と人とのコミュニケーション（許すことのできる心の広さ）
- 89 普通に接する
- 90 女性の責任感
- 91 労働と生活に多様性を認める
- 92 自分自身が色々なことに対して差別しているか，していないかの自覚
- 93 人を愛する心と感謝の気持ち
- 94 香川県の県民性を把握し，明確なテーマを決めること
- 95 世界標準
- 96 性別による役割分担や性差別の意識を改善する
- 97 男は優しく女は強く
- 98 出産後はもちろん，正社員で努めることのできる社会保育設備の完備
- 99 人間としての能力で職場をつくる
- 100 女性の積極的参加
- 101 「差別」と「区別」を穿き違えることがないように
- 102 思いやりのある社会
- 103 愛の表現
- 104 人間尊重・人格尊重
- 105 行動力
- 106 家のことを気にせずに出かけられる
- 107 男女均等な待遇
- 108 助け合い（お互い得意なことは率先してやること）
- 109 自分自身でやりとげること
- 110 職場のチームワーク
- 111 年齢や性別に関係なく暖かみのある挨拶から始まり，周囲への思いやり・やさしさの心を養うこと
- 112 安心して住みやすい環境
- 113 女性の指導者が少ない
- 114 差別なき平等
- 115 病人に優しい思いやりの施設
- 116 介護
- 117 男の方も生きやすい社会になるように